

宿久庄遺跡 2

令和5年（2023年）3月



茨木市教育委員会

宿久庄遺跡 2

令和5年（2023年）3月



茨木市教育委員会

序 文

茨木市は大阪の北部に位置し、北は北摂山地を介して京都府亀岡市と接します。北部地域は広大な森林をもつ山々が連なり、そこから流れる安威川、佐保川、茨木川、勝尾寺川などにより、市域南部の平野に豊かな水をもたらしています。

古くから、北部地域では竜王山をはじめとした山々への信仰とともに人々が暮らし、南部の各河川流域では、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、多くの人々が生活を営んできました。その先人たちの足跡の多くが埋蔵文化財として今も土中に残されています。

ここで報告する宿久庄遺跡は茨木市の中央部西寄りに位置します。遺跡の南に通る古代の「山陽道」をなぞった西国街道は、神戸方面へ抜ける主要幹線道路としての役割を担っていました。現在は、西国街道に沿うように国道171号が通っており、周辺の開発が進んでいます。

今回取り上げました調査地では、平安時代から鎌倉時代を中心とした建物跡や土坑など数多くの遺構が見つかりました。このことは、この地に人びとが暮らし始めた時期を物語っています。あらためて茨木市の古代の様相を明らかにするうえで新たな知見となる貴重な成果を得ることができました。

最後に、今回の調査を実施するにあたりまして、多大なご協力とご配慮をいただきました土地所有者、近隣の皆様をはじめとする関係各位に対し、深く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月31日
茨市教育委員会
教育長 岡田祐一

例　　言

1. 本書は昭和57年度から平成23年度にかけて実施した茨木市藤の里一丁目・藤の里二丁目・豊原町・宿久庄二丁目に所在する宿久庄遺跡の発掘調査報告書である。
2. 取り扱ったすべての発掘調査は、事業者からの届出・依頼等を受け、茨市教育委員会が行ったものである。
3. 各発掘調査の担当者については、第Ⅰ章表Ⅰに記載している。報告書作成・刊行に係る令和4年度の整理体制は、茨市教育委員会教育総務部歴史文化財課長 木下典子・同課長代理 前田聰志のもと、下記の職員が従事した。
4. 本書の執筆・編集は、坂田典彦（第Ⅰ章）・木村健明（第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ章）・富田卓見（第Ⅲ章第10節の一部）が行い、すべての調査地点の基礎整理および遺物整理を川村和子（平成26年4月～令和2年3月まで）が行った。
5. 出土遺物の整理作業については、一部を国際文化財株式会社西日本支店に委託した。
6. 本書で用いた現地写真は、各調査担当者が撮影した。また、遺物写真の撮影は、坂田・木村が行った。
7. 本書作成および校正にあたっては上記職員のほか、阿部ともよ・岡 篤史・川西宏実・川畑康雄・高村勇士・正岡大実・宮西貴史・米山真菜が従事した。
8. 各発掘調査に係る記録類や出土遺物は、茨木市立文化財資料館〔〒567-0861 大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号 電話（072）634-3433〕において保管している。広く活用されることを希望する。
9. 現地調査、報告書の作成にあたっては以下の諸機関より、様々なご協力・ご指導を賜った。
記して感謝申し上げます。（敬称略、五十音順）
アバ建設株式会社・大阪北生活協同組合・株式会社グラセル・グンゼ株式会社・
京阪神産業株式会社・新大阪造機株式会社・三菱倉庫株式会社

凡　例

1. 本書に記載された測量成果については、平面直角座標系第VI系（世界測地系）に基づいている。図中のX・Y座標は、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示している。
2. 標高は東京湾平均海面（T.P.+）値で示した。単位は全てmである。
3. 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行（1/25,000地形図）を拡大、縮小、加筆して使用したものである。
4. 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。地層観察用畦の観察面はシートで被覆するなどして、湿った状態を保つように留意した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworthの粒径区分を使用した。なお、同一地層内に異なる粒径の粒度が幅をもって認められるときは、基本的に細粒の粒径を先にして、「シルト～粗砂」のように記載した。ただし、場合によっては主体を占めるものを後にして「極粗砂混じりシルト」のように記載したものもある。また、一部の調査においては、調査担当者の視認色で表記した。
5. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、瓦器はアミ掛け、石製品を斜線、それ以外のものは白抜きで示した。
6. 遺物観察表の法量記載における（　）は推定復元値、△は残存値を示す。
7. 本書における遺構面の表記については、当時の遺物カード、登録台帳の記載を考慮し、あえて統一していない。
8. 本書における遺構、遺物の時期決定は多くの文献を参考にした。参考とした文献はP.97～100に一覧にして提示している。

目 次

序文

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 本書作成の経緯

第1節 既往調査の概要と本書掲載地点	1
第2節 既刊概報と本書の位置づけ	1
第3節 本書作成体制と編集方針	2

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 82-2調査	7
第2節 85-1調査	9
第3節 85-2調査	10
第4節 1987年度確認調査	11
第5節 91-1調査	12
第6節 99-1調査	24
第7節 99-4調査	28
第8節 06-1調査	57
第9節 11-1調査	63
第10節 11-2調査	86

第Ⅳ章 総括

第1節 はじめに	93
第2節 各時代の成果	93
第3節 宿久庄遺跡の動態	93

引用・参考文献	97
---------	----

遺物観察表	101
-------	-----

写真図版

報告書抄録

挿図目次

- | | |
|--------------------------------|--|
| 図1 調査区位置図 | 図34 99-4調査 挖立柱建物7・8
平面・断面図 |
| 図2 茨木市地質図 | 図35 99-4調査 S K 9 遺物出土状況図 |
| 図3 周辺遺跡分布図 | 図36 99-4調査 S E 2 平面・立面図 |
| 図4 82-2調査 調査区位置図 | 図37 99-4調査 S X 1 平面・断面図 |
| 図5 82-2調査 A区平面・SD1断面図 | 図38 99-4調査 ピット出土遺物実測図 |
| 図6 82-2調査 SD1出土遺物実測図(1) | 図39 99-4調査 溝出土遺物実測図 |
| 図7 82-2調査 SD1出土遺物実測図(2) | 図40 99-4調査 S E 2 出土遺物実測図 |
| 図8 85-1調査 調査区平面図 | 図41 99-4調査 土坑出土遺物実測図 |
| 図9 85-2調査 調査区配置図 | 図42 99-4調査 S K 9 出土遺物実測図 |
| 図10 1987年度確認調査 出土遺物実測図 | 図43 99-4調査 S X 1 出土遺物実測図(1) |
| 図11 91-1調査 調査区東壁土層断面図 | 図44 99-4調査 S X 1 出土遺物実測図(2) |
| 図12 91-1調査 第1遺構平面図 | 図45 99-4調査 S X 1 出土遺物実測図(3) |
| 図13 91-1調査 挖立柱建物1平面・断面図 | 図46 99-4調査 S X 1 出土遺物実測図(4) |
| 図14 91-1調査 挖立柱建物2平面・断面図 | 図47 99-4調査 S X 3 出土遺物実測図(1) |
| 図15 91-1調査 挖立柱建物3平面・断面図 | 図48 99-4調査 S X 3 出土遺物実測図(2) |
| 図16 91-1調査 挖立柱建物4平面・断面図 | 図49 99-4調査 包含層出土遺物実測図 |
| 図17 91-1調査 挖立柱建物5平面・断面図 | 図50 06-1調査 北壁土層断面図 |
| 図18 91-1調査 第2遺構平面図 | 図51 06-1調査 第1面平面図 |
| 図19 91-1調査 SD1遺物出土状況・
断面図 | 図52 06-1調査 竪穴建物跡1・2
平面・断面図 |
| 図20 91-1調査 遺構出土遺物実測図 | 図53 06-1調査 第2面平面図 |
| 図21 91-1調査 包含層出土遺物実測図 | 図54 06-1調査 出土遺物実測図 |
| 図22 99-1調査 第1面平面図・
調査区土層断面図 | 図55 11-1調査 東壁土層断面図(1) |
| 図23 99-1調査 第2面平面図 | 図56 11-1調査 東壁土層断面図(2) |
| 図24 99-1調査 出土遺物実測図 | 図57 11-1調査 第1面平面図 |
| 図25 99-4調査 南壁土層断面図 | 図58 11-1調査 S E 1・S P 45・S P 51
平面・断面図 |
| 図26 99-4調査 調査区平面図 | 図59 11-1調査 第2面平面図 |
| 図27 99-4調査 第3調査区拡大図 | 図60 11-1調査 I区第2面北側平面図 |
| 図28 99-4調査 挖立柱建物1平面・断面図 | 図61 11-1調査 S P 45出土遺物実測図 |
| 図29 99-4調査 挖立柱建物2平面・断面図 | 図62 11-1調査 各遺構出土遺物実測図(1) |
| 図30 99-4調査 挖立柱建物3平面・断面図 | 図63 11-1調査 各遺構出土遺物実測図(2) |
| 図31 99-4調査 挖立柱建物4平面・断面図 | 図64 11-1調査 自然流路出土遺物
実測図(1) |
| 図32 99-4調査 挖立柱建物5平面・断面図 | |
| 図33 99-4調査 挖立柱建物6平面・断面図 | |

図65	11-1調査	自然流路出土遺物実測図(2)	図73	11-2調査	北壁・西壁土層断面図
図66	11-1調査	自然流路出土遺物実測図(3)	図74	11-2調査	第1面平面図
図67	11-1調査	自然流路出土遺物実測図(4)	図75	11-2調査	竪穴建物跡1・2 平面・断面図
図68	11-1調査	包含層出土遺物実測図(1)	図76	11-2調査	第2面平面図
図69	11-1調査	包含層出土遺物実測図(2)	図77	11-2調査	出土遺物実測図
図70	11-1調査	包含層出土遺物実測図(3)	図78	宿久庄遺跡内各時期遺物出土地点(1)	
図71	11-1調査	包含層出土遺物実測図(4)	図79	宿久庄遺跡内各時期遺物出土地点(2)	
図72	11-2調査	1・2区 北壁土層断面図			

表目次

表1 宿久庄遺跡 既往の調査一覧表
表2 99-4調査 検出遺構一覧表

表3 06-1調査 検出遺構一覧表
表4 出土遺物観察表(1~20)

写真図版目次

PL.1	82-2調査・85-1調査	遺構	2.	第2遺構面	西側調査区完掘状況(東から)
1.	82-2調査	A区完掘状況(南から)	PL.8	99-4調査	遺構
2.	82-2調査	B区完掘状況(南から)	1.	第1調査区完掘状況(南から)	
3.	85-1調査	完掘状況(西から)	2.	第1・2調査区完掘状況(南東から)	
PL.2	85-2調査	遺構	PL.9	99-4調査	遺構
1.	85-2調査	A区完掘状況	1.	第3調査区完掘状況(西から)	
2.	85-2調査	B区完掘状況	2.	第2調査区S X 1完掘状況(西から)	
3.	85-2調査	C区完掘状況	PL.10	99-4調査	遺構
PL.3	91-1調査	遺構	1.	S E 2完掘状況(西から)	
1.	第1遺構面	掘立柱建物5完掘状況(北から)	2.	S E 2断削状況(南から)	
2.	第1遺構面	掘立柱建物2・3・4完掘状況 (北から)	3.	S P 3遺物出土状況(北から)	
PL.4	91-1調査	遺構	PL.11	06-1調査	遺構
1.	第1遺構面	掘立柱建物4完掘状況(北から)	1.	第1遺構面 東側完掘状況(南から)	
2.	第1遺構面	掘立柱建物1完掘状況(東から)	2.	第1遺構面 西側完掘状況(東から)	
PL.5	91-1調査	遺構	PL.12	06-1調査	遺構
1.	第2遺構面	完掘状況(北から)	1.	第2遺構面 東側完掘状況(北から)	
2.	第2遺構面	S D 1遺物出土状況(東から)	2.	第2遺構面 西側完掘状況(東から)	
PL.6	99-1調査	遺構	PL.13	11-1調査	遺構
1.	第1遺構面	東側調査区完掘状況(北から)	1.	I区第1遺構面 東側完掘状況(北から)	
2.	第1遺構面	西側調査区完掘状況(東から)	2.	I区第1遺構面 西側完掘状況(北から)	
PL.7	99-1調査	遺構	PL.14	11-1調査	遺構
1.	第2遺構面	東側調査区完掘状況(南から)	1.	S P 45 磁出土状況(東から)	
			2.	S P 45 磁出土状況(北から)	

3. S P 45 完掘状況（北から）	PL28 99-4調査 遺物
PL15 11-1調査 遺構	1. 溝出土遺物
1. S E 1 完掘状況（南から）	2. 溝出土遺物
2. II区第2遺構面 完掘状況（南から）	PL29 99-4調査 遺物
PL16 11-1調査 遺構	1. S E 3出土遺物
1. I区第2遺構面 東側完掘状況（北から）	2. 土坑出土遺物
2. I区第2遺構面 西側完掘状況（北から）	PL30 99-4調査 遺物
PL17 11-2調査 遺構	1. S E 2・S K 8・S K 9・S X 1 出土遺物
1. 1区第1遺構面 完掘状況（東から）	PL31 99-4調査 遺物
2. 1区第1遺構面 積穴建物1・2 完掘状況（東から）	1. S K 9出土遺物
PL18 11-2調査 遺構	2. S K 9出土遺物
1. 2区第1遺構面 完掘状況（東から）	PL32 99-4調査 遺物
2. 3区第1遺構面 完掘状況（南から）	1. S X 1出土遺物
PL19 11-2調査 遺構	PL33 99-4調査 遺物
1. 1区第2遺構面 完掘状況（東から）	1. S X 1出土遺物
2. 2区第2遺構面 完掘状況（東から）	2. S X 1出土遺物
PL20 82-2調査 遺物	PL34 99-4調査 遺物
1. S D 1出土遺物	1. S X 1出土遺物
PL21 1987年度確認調査・91-1調査 遺物	2. S X 1出土遺物
1. 1987年度確認調査 出土遺物	PL35 99-4調査 遺物
2. 91-1調査 挖立柱建物1出土遺物	1. S X 3出土遺物
PL22 91-1調査 遺物	2. S X 3出土遺物
1. 挖立柱建物・土坑出土遺物	PL36 99-4調査 遺物
2. 3層出土遺物	1. S X 3出土遺物
PL23 91-1調査 遺物	2. 包含層出土遺物
1. 4層出土遺物	PL37 99-4調査・06-1調査 遺物
2. S D 1・落ち込み出土遺物	1. 99-4調査 S X 1・S X 3・包含層 出土遺物、06-1調査 包含層出土遺物
PL24 91-1調査・99-1調査 遺物	PL38 99-4調査・06-1調査 遺物
1. 91-1調査出土遺物、99-1調査出土遺物	1. 99-4調査 包含層出土遺物
PL25 99-1調査 遺物	2. 06-1調査 出土遺物
1. 積穴建物跡1出土遺物	PL39 11-1調査 遺物
2. S K 3出土遺物	1. S P 45出土遺物
PL26 99-4調査 遺物	2. S P 45出土遺物
1. ピット出土遺物	PL40 11-1調査 遺物
2. ピット出土遺物	1. S P 43・45・56、S D 1出土遺物
PL27 99-4調査 遺物	
1. ピット・溝出土遺物	

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| PL.41 11-1調査 遺物 | PL.48 11-1調査 遺物 |
| 1. S P 43、S D 1、S K 1 出土遺物 | 1. 包含層出土遺物 |
| 2. S P 51・60・70、S E 1 出土遺物 | PL.49 11-1調査 遺物 |
| PL.42 11-1調査 遺物 | 1. 包含層出土遺物 |
| 1. S P 103・120・128 出土遺物 | 2. 包含層出土遺物 |
| 2. 自然流路出土遺物 | PL.50 11-1調査 遺物 |
| PL.43 11-1調査 遺物 | 1. 包含層出土遺物 |
| 1. 自然流路出土遺物 | 2. 包含層出土遺物 |
| 2. 自然流路出土遺物 | PL.51 11-1調査 遺物 |
| PL.44 11-1調査 遺物 | 1. 包含層出土遺物 |
| 1. 自然流路出土遺物 | 2. 自然流路・包含層出土遺物 |
| PL.45 11-1調査 遺物 | PL.52 11-1調査・11-2調査 遺物 |
| 1. 自然流路出土遺物 | 1. 11-1 調査 包含層出土遺物、 |
| 2. 自然流路出土遺物 | 11-2 調査 S D 5 出土遺物 |
| PL.46 11-1調査 遺物 | 2. 11-2 調査 出土遺物 |
| 1. 自然流路出土遺物 | |
| 2. 自然流路出土遺物 | |
| PL.47 11-1調査 遺物 | |
| 1. 自然流路出土遺物 | |
| 2. 包含層出土遺物 | |

第Ⅰ章 本書作成の経緯

第1節 既往調査の概要と本書掲載地点

宿久庄遺跡は清水一丁目・藤の里一丁目・二丁目、宿久庄一丁目・二丁目・三丁目・四丁目、豊原町・豊川一丁目・宿川原町にかけて所在する。昭和51年度の府道の拡幅に伴って埋蔵文化財包蔵地として周知され、令和2年度時点まで東西1.1km、南北0.75kmの範囲に及ぶ。

遺跡内における本調査は、規模の大小を問わなければ24件実施されている。ただし、図1に示したように、本調査を実施している地点には偏りがあり、包蔵地範囲の南西部～中央部にあたる藤の里二丁目地内の調査件数が突出し、東側及び北側はほとんど調査が行われていない状況である。これは、調査原因の大半が国道171号に面した倉庫等の大型建物の建築によるものであり、現在においても物流の拠点となっている周辺の環境が影響しているといえる。また、倉庫は建物自体が大きく、それに伴って埋蔵文化財に影響を与える範囲も大きくなるため、調査に至ったものが多い。したがって、既往調査データのない北半部や東部においては、埋蔵文化財が希薄ということではなく、今後の開発次第で遺跡の様相が明確になってくる可能性が大きい。

第2節 既刊概報と本書の位置づけ

これまでに刊行された各年度の『発掘調査概報』には速報的に概要が報告されているが、概報の性格上、出土遺物にまで整理が及んでいない段階での報告が多いうえに、主要遺構面のみを取り上げている

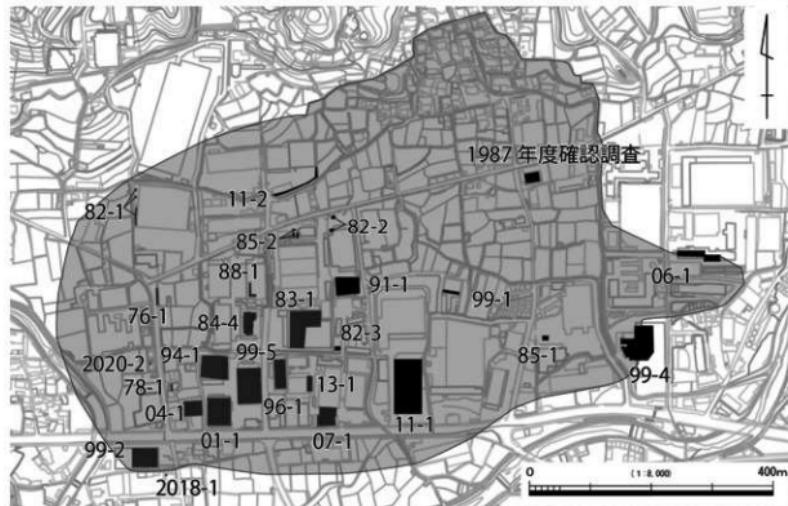


図1 調査区位置図

第1章 本書作成の経緯

表1 宿久庄遺跡 現往の調査一覧表 〈アミフセ部分は本書掲載分〉

調査年度	調査番号	所在地	調査原因	調査面積 (m ²)	調査期間	調査担当者	既刊報告書等
1976	76-1	藤の里二丁目	道路拡幅	131	1976	奥井哲秀	宿久庄遺跡1
1978	78-1	藤の里二丁目	病院建設	50	1978.4.3~4.14	奥井哲秀	宿久庄遺跡1
1982	82-1	宿久庄二丁目	配達センター建設	75	1982.6.22~7.5	宮脇 喜	宿久庄遺跡1
1982	82-2	藤の里二丁目	倉庫建設	102	1982.8.4~9.2	宮脇 喜	
1982	82-3	藤の里二丁目	食堂建設	12	1982.8.20~8.27	奥井哲秀	宿久庄遺跡1
1983	83-1	藤の里二丁目	倉庫建設	2,204	1983.12.1~1984.1.31	宮脇 喜	宿久庄遺跡1
1984	84-1	藤の里二丁目	倉庫建設	750	1984.12.25~1985.2.10	宮脇 喜	宿久庄遺跡1 宿久庄遺跡調査要
1985	85-1	藤の里一丁目	配達センター建設	68	1985.11.1~11.10	宮脇 喜	昭和60年度発掘調査概報
1985	85-2	藤の里二丁目	倉庫建設	50.4	1985.12.9~12.28	宮脇 喜	昭和60年度発掘調査報
1987	-	藤の里一丁目	事務所建設	-	1988.1.12	井上直樹	
1988	88-1	藤の里二丁目	倉庫建設	350	1988.4.1~6.8	宮脇 喜	宿久庄遺跡1
1991	91-1	藤の里二丁目	倉庫建設	542	1991.5.10~7.1	酒野義一・中東正之	平成3年度発掘調査概報
1994	94-1	藤の里二丁目	倉庫建設	1,880	1994.5.23~8.11	宮脇 喜	宿久庄遺跡1
1996	96-1	藤の里二丁目	倉庫建設	794	1997.1	宮脇 喜	宿久庄遺跡調査1
1999	99-1	藤の里一丁目	倉庫増築	120	1999.5.28~6.7	酒野義一	平成11年度発掘調査概報
1999	99-2	費用一丁目	研究施設建設	972	1999.6.10~8.4	宮脇 喜	平成11年度発掘調査概報
1999	99-4	費用町	商業施設建設	2,100	1999.10.14~12.18	酒野義一	平成12年度発掘調査概報
1999	99-5	藤の里二丁目	倉庫建設	2,146	2000.2.21~2001.3.31	宮脇 喜	平成12年度発掘調査報
2001	01-1	藤の里二丁目	倉庫建設	1,575	2001.5.15~7.20	宮脇 喜	平成13年度発掘調査概報
2004	04-1	藤の里二丁目	コミュニティセンター建設	502	2004.9.6~11.15	宮脇 喜	平成16年度発掘調査概報
2006	06-1	費用町	片山住宅建設	330	2006.12.18~2007.2.1	宮本賢治	平成19年度発掘調査概報
2007	07-1	藤の里二丁目	工場建設	1,029	2007.11.8~2008.1.23	宮本賢治	平成20年度発掘調査概報
2011	11-1	藤の里二丁目	倉庫建設	4,930	2011.4.4~9.20	岡 梓	
2011	11-2	宿久庄二丁目	廻避建設	304	2011.5.9~6.7	高田由見	
2013	13-1	藤の里二丁目	工場建設	132	2013.6.13~7.19	中東正之	宿久庄遺跡1
2018	2018-1	費用一丁目	個人住宅建築	6	2018.8.29	木村健明	平成30年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報
2020	2020-2	宿久庄三丁目	個人住宅建築	6	2020.12.21	木村健明	令和2年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報

場合がみられた。そこで、今回改めて未報告の調査と合わせて報告済の調査においても再整理の成果を加えて正報告書を作成することとなった。

報告書の編集に際しては、2分冊で刊行することとし、本書はその2冊目である。各調査の面積や期間などの情報及び、本書に所収した調査一覧は、表1にまとめて掲載している。

ただし、本書で扱った調査の内、古いものでは1980年代の記録を対象としており、40年近くが経とうとしている。そのため、写真等の記録類も少なからず劣化が進行しており、記録保存の精度や水準・方法が異なることから、本書編集担当者が当時の記録情報を汲み取りきれていない可能性のあることを記しておく。

第3節 本書作成体制と編集方針

本書の作成は、平成26年度から一部の遺物実測を業務委託し、あわせて本市教育委員会において川村和子（平成26年4月～令和2年3月まで）を主担当として各調査の実測原図・写真資料の抽出と再整理をはじめた。

本書の編集にあたって、実測原図・写真・日誌・遺物からメモに至るまで、可能な限り元データにあるよう心掛けた。しかし、各年代および調査担当者によって遺構表記や記録保存の方法が異なり、本報告では原図や遺物との離隔を防ぐため名称等の表記は、一部を除きあえて変更せず、本書の中では統一を図らなかった。さらに原図にあたることができたものについては、当時の記録情報を可能な限りそのまま転載し、付加情報として本書編者が追記するかたちで記載するよう努めた。これらのことから、凡例に記すべき遺構名称等の表記方法も画一的に進めることができず、地点毎に記載することとした。

第Ⅱ章 位置と環境

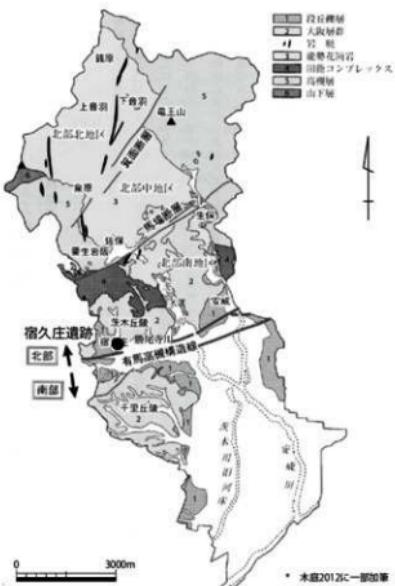
第1節 地理的環境

宿久庄遺跡の所在する茨木市域は、北東—南西方向に走る有馬—高槻構造線によって、大きく南北二つに区分される。北部は更に馬場断層と箕面断層によって三つに区分されるが、概ね標高300m前後の秩父古生層系の岩石により構成される北摂山地と、そこから派生する丘陵部からなっている。

当遺跡は市域のほぼ西端、箕面市との市境付近に位置する。

当遺跡の西側から南側を流れる勝尾寺川は、北摂山地を源流とし、当遺跡周辺で大きく蛇行しながら東へ向きを変え、両岸に河岸段丘を形成している。

この河岸段丘の東側に宿久庄遺跡、西側に宿久庄西遺跡・庄田遺跡などが立地する。また、当遺跡の南側には西国街道が千里丘陵と北摂山地の地峡部を東西方向に通っており、交通の要衝に位置していたことが窺われる。



第2節 歴史的環境

茨木市西部の宿久庄遺跡周辺の人々の活動痕跡は旧石器時代から認められている。

旧石器時代には、粟生間谷遺跡で7箇所の石器製作址が検出されている。また、庄田遺跡などで石器が出土している（註1）。

縄文時代には、粟生間谷遺跡で中期前葉と後期中葉の遺構が確認されており、徳大寺遺跡で晚期の竪穴住居跡が確認されている。また、草創期の有舌尖頭器が粟生間谷遺跡・庄田遺跡で、宿久庄北遺跡で早期の土器、粟生間谷遺跡で中期から晩期にかけての土器がそれぞれ出土している。

弥生時代には西福井遺跡で前期・後期の遺構・遺物が確認されているのが目立つ。後期になると福井遺跡で竪穴住居跡が確認されている。その他、宿久庄遺跡で前期～後期の土器、庄田遺跡で後期の土器が出土している。現時点では、遺構の検出は少ないが、今後確認される可能性が高い。

古墳時代には、多くの古墳が築造されており、前期は紫金山古墳、中期は西福井遺跡で11基からなる古墳群が確認されている。後期には、単独墳である南塚古墳・青松塚古墳・海北塚古墳・福井遺跡で確認された古墳、群集墳である新屋古墳群などがある。また、紫金山古墳の周囲でも後期古墳の石室と推定されるものが確認されている。

集落としては、宿久庄遺跡で前期、福井遺跡で後期後半の集落がそれぞれ確認されている。その他、

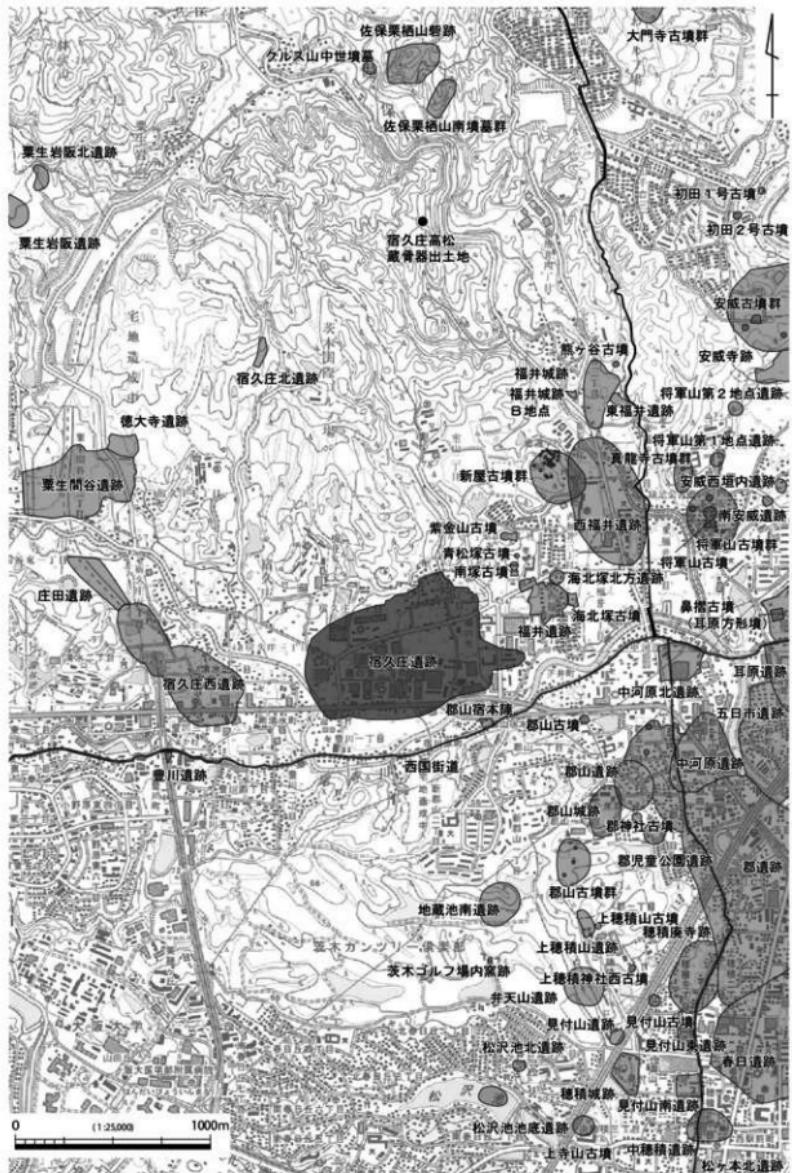


図3 周辺遺跡分布図

西福井遺跡で前期の遺物、宿久庄遺跡において中期・後期の遺物が出土している。

飛鳥時代には、宿久庄遺跡・宿久庄西遺跡・西福井遺跡で竪穴建物が検出されている。宿久庄西遺跡では掘立柱建物も多数検出されている。また、佐保栗柄山南墳墓群で終末期古墳が6基確認されている。

奈良時代には、宿久庄西遺跡から庄田遺跡にかけて掘立柱建物が多数検出されており、陶硯・土馬・製塙土器なども出土している。このことから、公的な施設もしくは有力氏族の居住地の可能性が考えられている。粟生間谷遺跡では、三彩陶器にガラス小玉を納めた地鎮遺構や掘立柱建物が検出されている。西福井遺跡においても掘立柱建物や墨書き土器が確認されている。

佐保栗柄山南墳墓群では古代の火葬墓、宿久庄遺跡の約2km北方の山中（大字宿久庄高松）で土取工事中に火葬骨器が発見されている。さらに「安威大鐵冠山」出土と伝えられる三彩有蓋壺も、石櫃を伴う火葬墓の藏骨器である。周辺の山地には現在把握されている以上の火葬墓が営まれていた可能性もある。宿久庄北遺跡では、灯明器が多数出土しており、何らかの燃灯行為が行われていたようである。

なお、律令制下では、現在の茨木市は島下郡に属し、新屋・宿久・安威・穂積の4郷の存在が知られている（註2）。当地域は宿久郷に属すると考えられる。延喜式神名帳には島下郡に十三神社十七座が挙げられている。この内、「須久久神社二座」は宿久郷に所在したと比定される（註3）。

また、島下郡の条里が勝尾寺文書などから復元されている。宿久庄周辺では勝尾寺文書に宿久村の田畠が8条2里9坪、10条2里23坪、11条2里25坪などの地点が記されている。

平安時代には、徳大寺遺跡で梵鐘鑄造遺構、粟生間谷遺跡・宿久庄西遺跡・福井遺跡で集落、豊川遺跡で掘立柱建物が確認されている。また文献上では、安和二年（969年）の『仁和寺文書』に「法勝院領宿久庄」（註4）、『小右記』の寛仁二年（1018年）5月30日条に「中宮領宿御庄」、天永三年（1112年）の「中宮職請奏」に「中宮職領宿久御園」（註5）が認められる。宿久庄遺跡で確認されている遺構がこれらの莊園と関連する可能性が考えられる。

鎌倉時代から室町時代にかけては、粟生間谷遺跡・福井遺跡・宿久庄遺跡で引き続き集落が確認されている。西福井遺跡では、居館跡が検出されている。また、佐保栗柄山南墳墓群では石造物を伴う墓地群が検出されている。

この時期には、有馬温泉への湯治などで多くの人々が「山陽道」（大道）を東西に移動している記録が残されている。この「大道」は勝尾寺文書（註6）において「宿久村サイク田」の四至を「限南河限北大道」と記されていることから、勝尾寺川の北側を通っていたことが窺え、現在の西国街道の道筋とは異なっていたと考えられる（註7）。

また宿久を姓とする人物が永仁二年（1294年・註8）、文和元年（1352年・註9）、永享五年（1433年・註10）、宝徳三年（1451年・註11）などの文書に見え（註12）、当地は鎌倉幕府御家人、国人領主であった宿久氏の根拠地であったと考えられる。後述する宿久城はこの宿久氏と関連するものかもしれない。

ほぼ同時期に、宿久村には、猿楽座が所在していた。応永七年（1400年）に著された『風姿花伝』において「法勝寺御修正參勤申学三座 新座 本座 法成寺」と挙げられている（註13）。この内、法成寺に「シユク」の傍注が認められる写本があり、宿久村に比定されている。法成寺座については、建長元年（1249年）正月十五日（註14）、永享八年（1436年）三月（註15）及び、住吉大社の四月の御田植神事の前日に猿楽を奉納している（註16）。

また、弘安五年（1282年）の奥書をもつ大門寺一切経には、その書写が宿久村で行われたことが記されている（註17）。

室町時代末期には各地で戦乱が相次ぎ、当地周辺でも多くの城郭が築かれるようになる。元亀二年（1571年）に起こった郡山合戦時には「高ツキ、イハラキ、シユク城、里城」の4城が落城しており、宿久庄遺跡周辺も合戦の舞台となっていたことが窺える（註18）。城跡の多くは未だ発掘調査の手が及

んでいないが、数少ない調査事例として、佐保来栖山跡があり、当時の山城の構築状況の詳細が判明している。

また、宿久庄遺跡の南東側に位置する郡山には天文十七年（1548年）に「郡山堂」が建てられ（註19）、寺内町を形成していたが、永禄十一年（1568年）に織田信長軍が足利義昭に従って上洛した際に郡山道場は破却されている（註20）。

江戸時代には、現在の西国街道沿いに郡山宿が設けられ、郡山宿本陣が国史跡として現存する。

宿久庄周辺は17世紀前半には幕府領であったが、17世紀中頃には高槻藩永井氏領となり、その後分家の永井氏領となる（下野国烏山→播磨国赤穂→信濃国飯山→武藏国岩槻→美濃国加納と移封し、幕末まで加納藩領）。明治二十二年（1889年）には道祖本、宿久庄、清水、栗生、小野原の各村が合併し、豊川村となり、昭和三十一年（1956年）に茨木市と箕面市に分かれて編入され現在に至っている。

註

註1 『新修 茨木市史』第七巻に宿久庄遺跡出土として旧石器時代の石器1点が掲載されている。これは、〔辻本1977〕で報告されているものである。しかし、この資料は茨木蓋園北側の土取り場跡の崖面から採集されたものであり、現在の宿久庄遺跡の範囲には含まれていない地点である。

註2 『和名類聚抄』国都部

註3 『延喜式』卷九 神名帳上 9 「攝津国条」島下郡の項

『神宮雜例集』卷第一 「中臣氏祖神」の項

註4 『平安遺文』第二巻 302 「法勝院領目録」

註5 『朝野群載』新訂増補国史大系 第二十九巻上 「中宮職請奏」

註6 『箕面市史』史料編二 勝尾寺文書590・591「全石女田地売券」、また666「沙弥淨清田地売券」も「限南河限北大道」と記されている。

註7 従来、現在の西国街道沿いに遺跡の分布が認められないことが注意されてきた〔財團法人 大阪府文化財センター2002など〕。しかし、街道が勝尾寺川の北に位置するならば、宿久庄遺跡、宿久庄西遺跡内を通っていた可能性が考えられるようになる。なお、この点は、福留照尚氏が指摘されている〔福留2012〕。一方、木下良氏は「大道」は「その地方での幹線道路をいうことが多く、必ずしも古代の駅路のように全国的な大道とは限らない」と指摘されている〔木下2013〕。

註8 『箕面市史』史料編一 勝尾寺文書359「勝尾寺住僧等中状案」「当国御家人宿久六郎」が認められる。

註9 『大日本史料』第六編之十九 「摂津國真正虎才丸所領保証契約状写」文和三年雜載「宿久信光」が認められる。

註10 『箕面市史』史料編2 865「勝尾寺常行堂敷在秋所當米上帳」「宿久北殿」が認められる。

註11 『箕面市史』史料編2 940「歳末卷數賦日記」「宿久殿」が認められる。

註12 『箕面市史』史料編2 1154「宿久長俊書狀」年期不詳であるが「宿久丹波守長俊」とある。

註13 『風姿花伝』第四 神儀伝

註14 『岡屋閑白記』建長元年正月条

註15 『住吉太神宮諸神事次第』3月20日条

註16 『看聞日記』永享8年3月10日条

註17 『大和郡山市西方寺所藏一切經調査報告書』2144「十門經惑論卷中」

註18 『大日本史料』第十編之六 「尋憲記」元亀2年8月29日条

註19 『天文日記』天文17年3月22日条

註20 『言継脚記』永祿11年9月30日条

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 82-2調査

(1) はじめに

藤の里二丁目で計画された配送センターの建築に伴う発掘調査である。調査は防火水槽（A区・約32.7m³）及びポンプ室（B区・約70m³）を対象として行った。（図4）

図面から読み取りきれない点は、調査終了報告に記載された内容を基に記述する。

(2) 基本層序

土層断面図はSD1の部分のみが作成されていた。基本層序については図面が確認できなかったため、調査終了報告の記述内容に基づく。

基本層序は両調査区でほぼ共通する。1. 耕土（層厚0.25m）、2. 床土（層厚約0.1m）、3. 茶褐色土である。茶褐色土はA区では層厚約0.1m、B区では層厚約0.25mを測る。B区では茶褐色土の下に暗灰色砂泥層が北側で約0.15～南側0.3mと南に向かって厚く堆積する。

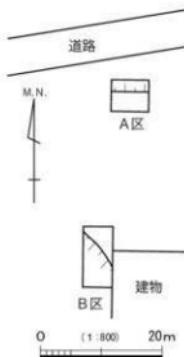


図4 82-2調査 調査区位置図

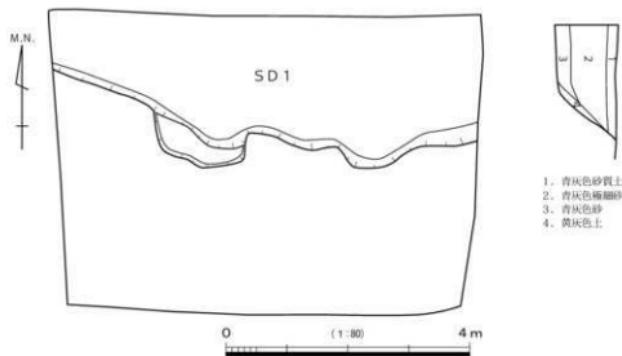


図5 82-2調査 A区平面・SD1断面図



図6 82-2調査 SD1出土遺物実測図(1)

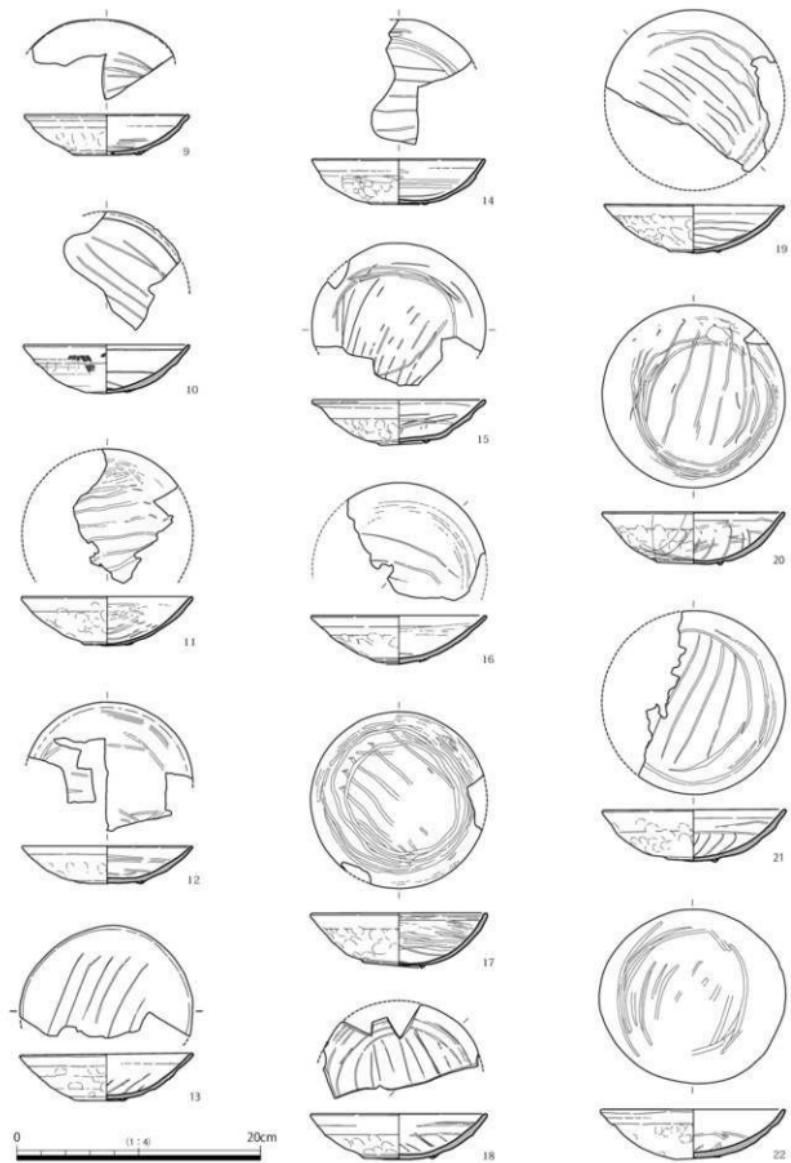


図7 82-2調査 SD 1出土遺物実測図(2)

(3) 遺構

A区 南北約4.8m×東西6.8mの範囲で調査を行った。調査区の北半分で東西方向の溝1条（S D 1）を検出した。

S D 1（図5） 検出幅2.3m、深さ0.85mを測る。埋土は青灰色砂質土、青灰色極細砂、青灰色砂となる。標高は原図に記載されていなかったために不明である。遺物は土師器・瓦器が出土している。

B区 約11.6m×6.0mの範囲で調査を行った。明瞭な遺構は検出されなかつたが、南側へ落ち込む暗灰色砂泥層から近世の陶磁器や石仏2体が出土した。北側50m地点に位置する11-2調査（本書第10節）でも石仏1体が出土している（図77-531）。11-2調査で出土した石仏は15～16世紀のものと考えられ、北側が高くなるという地形から推察するならば、11-2調査区の北側に石仏を伴った墓地が存在する可能性が考えられる。

(4) 遺物（図6・7）

図示した遺物はいずれもA区 S D 1出土である。1～8は土師器皿である。いずれも底部から口縁部が直線的に延びる。2・5は口縁部に強いヨコナデを施す。3は口縁端部が直立気味である。3以外は口縁端部に面取りを施す。8は内面の底部と口縁部との境がナデによりくぼむ。2・3・5・6は底部に指頭圧痕が認められる。

9～22は瓦器椀である。和泉型III-3～IV-1期である。器形は体部下半が外側へ張るために丸みを帯びるものと直線的に延びるものとが認められる。高台は貼り付け高台であるが、ほぼ痕跡程度のものである。外面は指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。20は重ね焼きの痕跡が認められる。

(5) 小結

当調査区は小規模な調査であったが、A区で検出した溝（S D 1）から多くの遺物が出土した。瓦器椀の年代から、13世紀中頃に埋没したと考えられる。当調査区の位置する宿久庄遺跡北側は、調査例の少ない地域であり、検出された溝の性格は不明であるが、埋土が砂層を主体としていることから、東西方向に流れる流路と考えられる。

第2節 85-1 調査

(1) はじめに

藤の里一丁目で計画された倉庫の建築に伴って行われた発掘調査である。浄化槽部分（東西10.5m×南北6.3m）について調査を行った（調査面積68m²）。『昭和60年度発掘調査略報』〔茨木市教育委員会 1986〕（以下『S 60 略報』と記述）で簡略な報告をしており、それを基にして記述する。

(2) 基本層序

基本層序については『S 60 略報』の記述に基づく。基本層序は、1. 盛土、2. 耕土、3. 床土、4. 暗褐色礫層（中世の遺物包含層）、5. 無遺物層（厚さ0.3m）、6. 淡褐色土（弥生時代の遺物包含層）、7. 黄色礫層（地山）である。5以外の層厚は不明である。

(3) 遺構と遺物

遺構は地山面において幅3.0m、深さ0.7～0.8mの東西方向に延びる溝1条を検出した（図8）。地山面直上の包含層には弥生土器を含んでおり、溝は弥生時代ないしそれ以前の所産と考えられる。溝

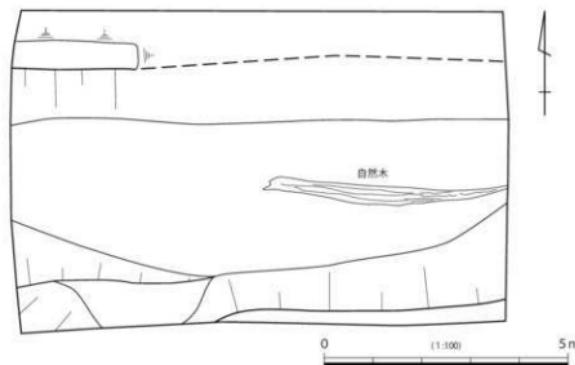


図8 85-1調査 調査区平面図

内からは自然木（『S 60略報』ではカシと考えている）が出土したのみである。溝内の堆積状況は記録が無いため不明である。

その他に暗褐色礫層から中世の瓦器・土師器、淡褐色土から弥生土器が出土している。いずれも小片であるため、図化できる遺物は無かった。

（4）小結

当調査区では、溝1条を検出した。溝内からは遺物が出土していないが、弥生時代ないしそれ以前の可能性がある。ただし、この溝が人為的なものかは判断する根拠が無く不明である。当調査区周辺は、既往の調査がほとんど行われておらず、今後、周辺の調査が進めば、弥生時代や中世の遺構が検出される可能性がある。

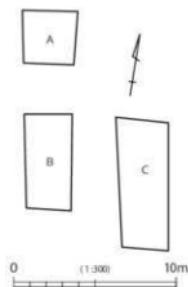
第3節 85-2調査

（1）はじめに

藤の里二丁目で計画された倉庫の増築に伴って行われた発掘調査である。南北15m、東西9mの範囲を3区に分けて調査を行った。それぞれの規模は、東西3.3m×南北3.3m（A・面積10.89m²）、東西3.0m×南北5.7m（B・面積17.1m²）、東西2.8m×南北8.0m（C・面積22.4m²）である（図9）。PL.2に各調査区の完掘状況写真を掲載しているが、撮影方向を特定できなかった。『昭和60年度発掘調査略報』（茨木市教育委員会 1986）（以下『S 60略報』と記述）で簡略な報告をしており、それを基に記述する。

（2）基本層序

基本層序については『S 60略報』の記述に基く。大別6層に分けられる。
1. 盛土、2. 耕土、3. 床土、4. 黄灰色粘土（層厚0.3m）、5. 黒色粘土、6. 黄色礫層（地山）である。黄色礫層は北から南へ下がっており、黒色粘土は南へ向かうにつれて厚く堆積する。4以外の層厚は不明である。

図9 85-2調査
調査区配置図

(3) 遺構と遺物

いずれの調査区においても遺構は検出されておらず、遺物は黒色粘土から時期不明の摩滅した土器片が僅かに出土したのみである。

(4) 小結

当調査区は、3区に分割して調査を行っているが、いずれにおいても遺構・遺物とともに検出されていない。周辺はほとんど調査が行われていない地域であり、遺跡内の様相も不明な点が多い。当調査区が丘陵部を耕作地として造成する際に削平された地点に位置している可能性もあり、今回の調査で遺構・遺物が検出されていないとはいっても、今後の周辺の調査に期待される。

第4節 1987年度確認調査

(1) 調査の経緯と結果

倉庫及び事務所の建築に伴って、昭和63年1月12日に行った確認調査である。本件は確認調査であるが、宿久庄遺跡では類例の少ない弥生時代中期の遺物が出土しているため、本報告書に掲載した。

建物計画範囲の東西2箇所に調査区を設定した。その結果、東側のトレンチ1では、現地表面（耕作土上面）から0.6～0.7m下において厚さ0.3～0.8mの茶褐色粘質砂礫及び茶褐色砂質土を確認した。この層中に弥生時代中期から古墳時代にかけての土器を含む。その下は遺構面と考えられる茶褐色粘質土が確認された。

西側のトレンチ2では、暗茶色砂質土が落ち込んでいることが確認されており、遺構埋土の可能性も考えられている。基礎掘削による損壊が埋蔵文化財には及ばないため、本発掘調査には至らなかった。

(2) 遺物（図10）

23～25は弥生土器である。23は壺体部である。櫛描直線文2帯とその間に櫛描波状文を施す。弥生時代中期中葉から後半である。24は甕底部である。平底で、底部中央はわずかに窪む。底面に線刻が認められる。体部外面にタタキを施す。25は鉢である。平底の底部から斜めに立ち上がる体部をもち、口縁部は外反する。体部外面にタタキ、体部内面に工具によるナデを施す。24・25は弥生時代後期である。

(3) 小結

当調査では、一片ではあるが、弥生時代中期の土器が出土した。既刊の『宿久庄遺跡1』及び本書で報告する各調査において、弥生時代中期中葉～後半の遺物は11-1調査（本書第9節）の包含層出土土器が認められるのみである。当調査区では、遺構の可能性がある土層の存在が指摘されており、本発掘調査例の無い宿久庄遺跡北東部に弥生時代中期～後期の遺構が存在する可能性を窺わせるものである。これは宿久庄遺跡のみならず、周辺地域における弥生時代の様相を考える上でも重要な成果である。

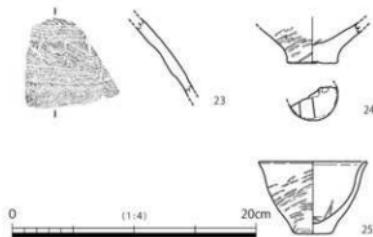


図10 1987年度確認調査 出土遺物実測図

第5節 91-1 調査

(1) はじめに

藤の里二丁目で計画された倉庫の建築に伴って行われた発掘調査である。当初は、東西28m、南北19mの範囲で調査区を設定した。調査途中で、掘立柱建物1と溝(S D 1)の続きを確認するために北西部を部分的に拡張している。最終的な調査面積は542m²である。

『平成3年度発掘調査概報』(茨木市教育委員会 1992) (以下『H 3 概報』と記述)において、調査の概要を報告している。本節の記述は基本的には『H 3 概報』によっている。ただし、今回改めて平面図を確認した結果、掘立柱建物は変更した結果を提示している。

(2) 基本層序 (図11)

基本層序は、大別6層を確認した。0. 盛土(層厚1.0m)、1. 旧耕作土・床土(層厚0.3m)、2. 明黄色砂質土～黄灰色砂質土(層厚0.2m)、3. 黄灰色砂質土～暗黄色粘質土(層厚0.2m・遺物包含層)、4. 淡茶褐色砂質土～暗黒褐色砂質土(層厚0.2m・第1遺構面ベース層・遺物包含層)、5. 暗褐色砂礫混じり土(層厚0.3m以上・第2遺構面ベース層)である。

(3) 遺構

第1遺構面(図12) 3層下面において、第1遺構面を検出した。検出面の標高は約41.3mを測るが、北西から南東に向かって下がる地形である。ピット162基、溝5条、土坑6基を検出した。掘立柱建物

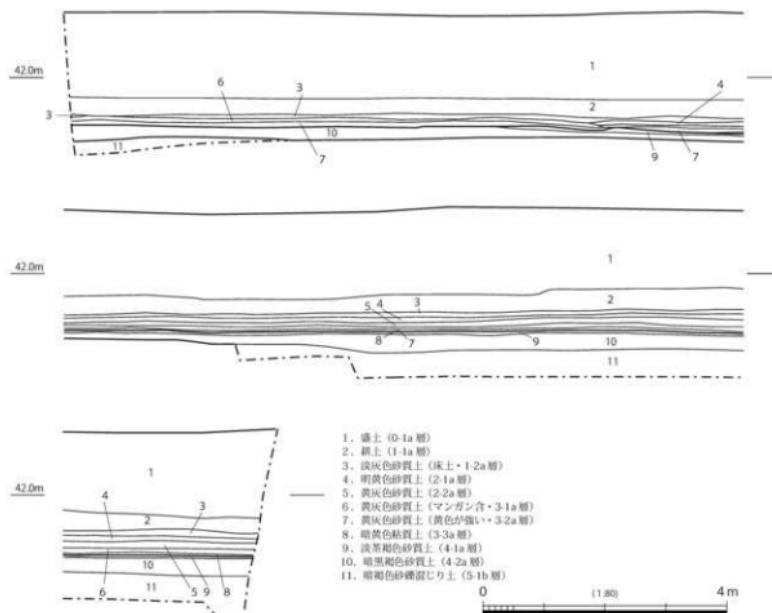


図11 91-1 調査 調査区東壁土層断面図

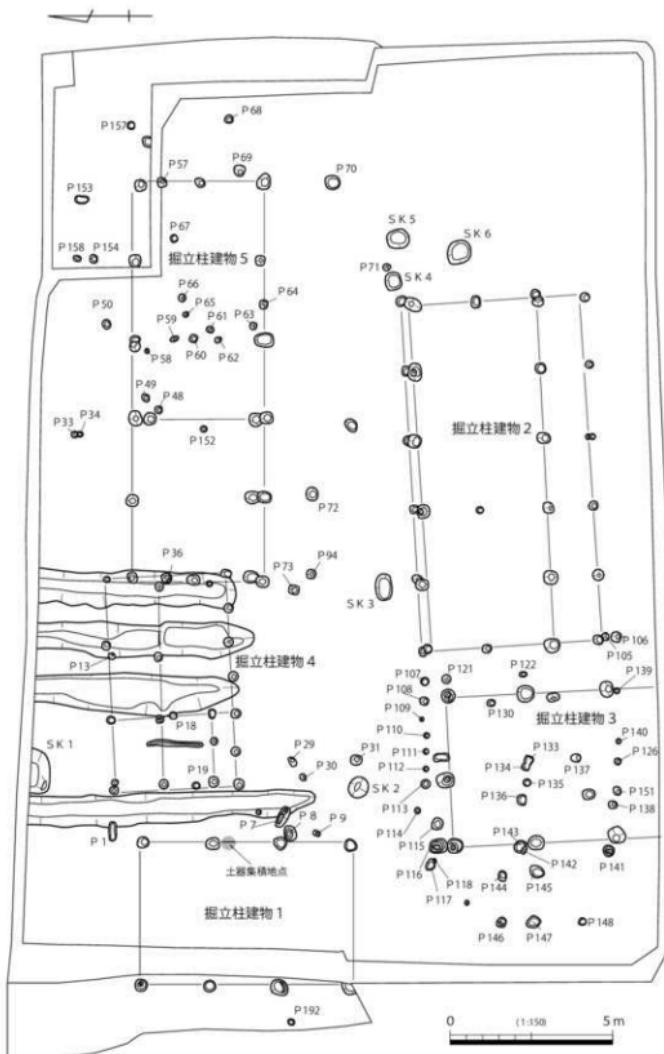


図 12 91-1 調査 第1遺構面平面図

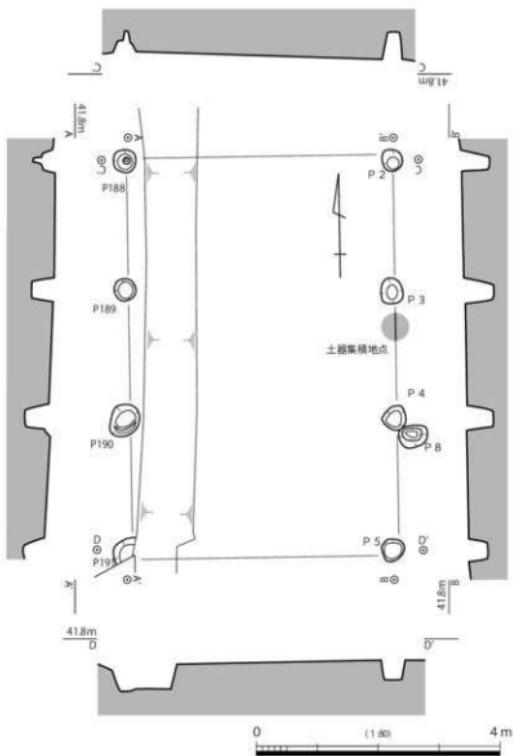


図13 91-1調査 挖立柱建物1平面・断面図

5棟を検出している。なお、掘立柱建物4と重複する南北方向の溝4条は近世の耕作溝である。

掘立柱建物1(図13) 調査地西部で検出した南北3間×東西1間の側柱建物である。建物の主軸はN-5°-Eをとる。柱穴の芯々距離は、南北方向2.0m、東西方向4.4mを測る。東西方向の柱間がかなり広く『H3概報』では、通常の住居とは異なった用途の建物の可能性を考えている。柱穴は直径0.3~0.5m、深さ0.3~0.5mを測る。柱痕は識別できなかった。

東側の柱列(P3の南側)で、土師器皿や瓦器皿が置かれた状態(出土時は破片の状態)で出土している。『H3概報』では、「建物に関連した地鎮遺構」と考えている。

遺物は各柱穴から、13世紀中頃～後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

掘立柱建物2(図14) 調査地南東部で検出した掘立柱建物である。原図を再確認した結果、『H3概報』掲載の図面は西側の柱穴2列分が南側にずれていたことが判明した。そのため、改めて南北3間×東西5間の側柱建物としている。南側の柱列は柱穴の規模が小さいことから、庇と考えられる。また、北側の柱列では、各柱穴と重複する柱穴(P92~97、『H3概報』では柵列3としている)が検出されている。北側の柱穴全てに伴っていることから、掘立柱建物2と関連する柱穴の可能性がある。

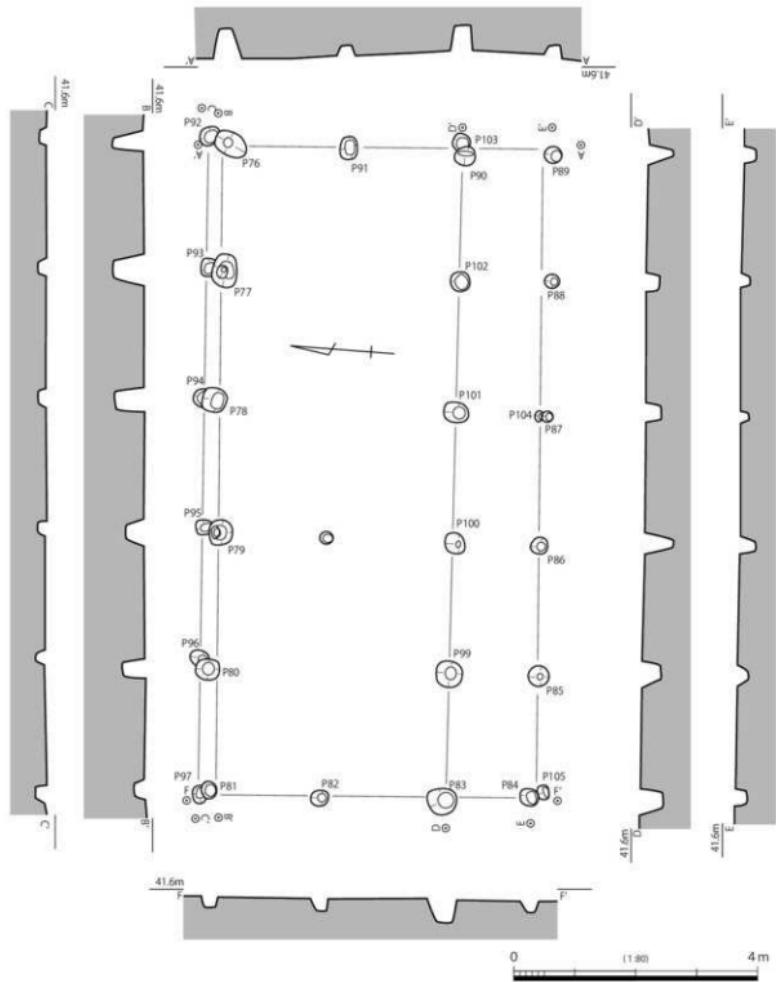


図14 91-1調査 挖立柱建物2平面・断面図

建物の主軸はN-4°-Wをとる。柱穴の芯々距離は2.0mを測る。柱穴は直径0.2~0.5m、深さ0.1~0.4mを測る。柱痕は識別できなかった。

遺物は各柱穴から、13世紀中頃～後半の土師器・須恵器・瓦器・白磁・鉄釘が出土している。

掘立柱建物3(図15) 調査地南西部、掘立柱建物2の西側で検出した。南北3間以上×東西2間の側柱建物である。『H3概報』では東西1間×南北2間としていたが、北辺は2間であることから、南北も2間と考えられ、図15のように図示している。建物の主軸はN-2.5°-Wをとる。柱穴の芯々距離は

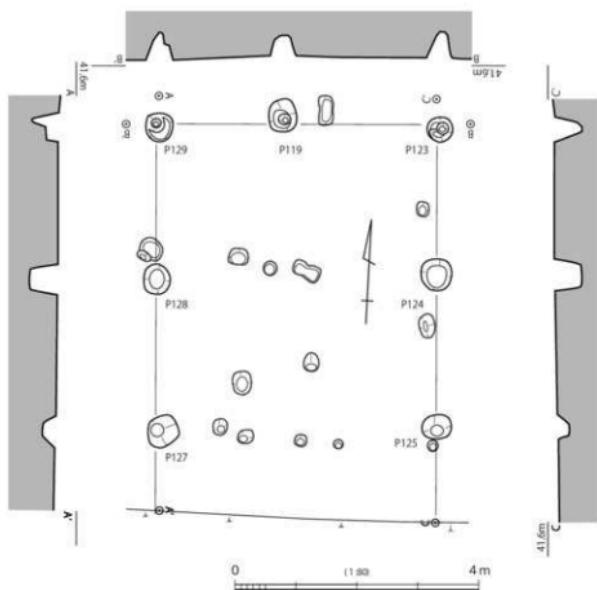


図15 91-1調査 掘立柱建物3平面・断面図

2.2mを測る。柱穴は直径0.35~0.5m、深さ0.3~0.5mを測る。柱痕は識別できなかった。

遺物は各柱穴から、13世紀中頃~後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

掘立柱建物4(図16) 調査区北西部、掘立柱建物1と掘立柱建物5の間に位置する。東側の柱列は掘立柱建物5と重複している。南北方向の近世耕作溝3条に一部を切られる。『H3概報』では南側の柱列を「柵列1」としていたが、柱穴の深さが一定しておらず、深いものと浅いものが交互に並んでいたため、今回の報告では柵列ではなく、掘立柱建物1に取り込み、東西3間×南北3間の建物として図示した。

南辺は6間であるが、P23・25・27は深さが0.1~0.2mと浅いため、掘立柱建物に関わらない可能性もある。また、P16は東西の柱筋は通るが、南北方向ではP14~P26の柱筋から西へずれている。更に、P20・21・150の位置で東西方向に柱筋が通っており、単純な側柱建物ではなく内部を細かく区画した建物の可能性がある。建物の主軸はN-2.5°-Wをとる。柱穴の芯々距離は東西2.0m、南北1.5mを測る。柱穴は直径0.2~0.35m、深さ0.2~0.4mを測る。柱痕は識別できなかった。

遺物は各柱穴から、13世紀中頃~後半の土師器・須恵器が出土している。

掘立柱建物5(図17) 調査区北東部で検出した側柱建物である。『H3概報』では2棟に分けていたが、柱穴間の距離が等しいため、1棟に統合して図示した。建物の西側では、P40・45・46・47の内側に柱穴が存在しており、これらも建物に関連する可能性がある。建物の主軸はほぼ真北をとる。柱穴の芯々距離は南北2.0m、東西2.5mを測る。柱穴は直径0.3~0.5m、深さ0.3~0.4mを測る。柱痕は識別できなかった。遺物は各柱穴から、10世紀後半の土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

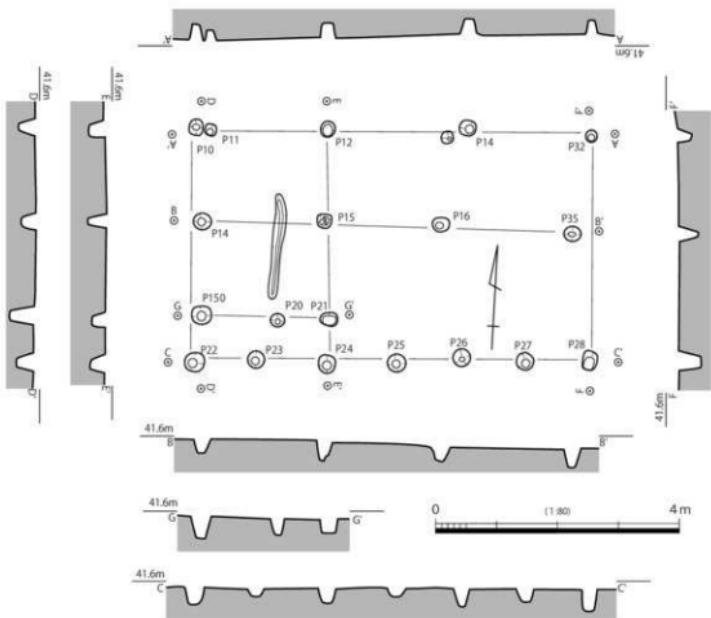


図 16 91-1 調査 挖立柱建物 4 平面・断面図

S K 1 挖立柱建物 1 の北側に位置する。北側は調査区外に延びる。東西1.5m、南北0.65m以上、深さ0.3mを測る。埋土は黄灰色～茶褐色の砂質土が堆積する。遺物は土師器が出土している。

S K 2 挖立柱建物 3 の北側に位置する。平面形状は円形を呈する。長径0.66m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は4層に分かれ、上層の黄灰色砂質土から須恵器が出土している。

S K 3 挖立柱建物 2 の北西側に位置する。平面形状は長楕円形を呈する。長径0.85m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は黄灰色砂質土である。遺物は出土していない。

S K 4 挖立柱建物 2 の北東に位置する。平面形状は隅丸方形を呈する。直径0.55m、深さ0.4mを測る。埋土は6層に分かれ、下層の茶灰色砂質土から土師器が出土している。

S K 5 S K 4 の東側に位置する。平面形状は不整円形を呈する。長径0.7m、短径0.58m、深さ0.7mを測る。埋土は7層に分かれ、上層の暗褐色礫混じり粘質土から土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S K 6 挖立柱建物 2 の東側に位置する。平面形状は不整円形を呈する。長径0.8m、短径0.6m、深さ0.38mを測る。埋土は6層に分かれ、下層の暗灰色砂質土から土師器・瓦器が出土している。

第2遺構面(図18) 4層下面において第2遺構面を検出した。検出面の標高は約41.0m付近を測る。ピット47基、土坑5基、溝1条、落ち込み1基を検出した。『H 3概報』では北東部のピットが集中する地点に挖立柱建物1棟を示していたが、1間×1間の挖立柱建物であるため、本書では図示していない。

S D 1 (図18・19) 調査区西部で検出した北西—南東方向に延びる溝である。溝の方向はN-20°-Wをとる。調査区南部で一度途切れるが、1mの間隔をあけて南に延びる。溝の南北両端は調査区外に延びる。幅0.5~0.9m、深さ0.32mを測る。断面形状は逆台形状を呈する。溝底は北側が高く、南側が低くなっているが、途切れているため排水目的の溝ではなかったと考えられる。区画溝であろうか。埋土は2層に分かれ、上層より破碎された状態の須恵器甕(図20-39)が出土している。

S K 7 落ち込みの北側に位置する不定形な土坑である。長径4.5m、短径2.1m、深さ0.9mを測る。遺物は出土していない。

S K 8 落ち込みの西側に位置する不定形な土坑である。東側を落ち込みに切られる。長径3.7m、短径1.4m、深さ0.03mを測る。遺物は出土していない。

S K 9 調査区南西部に位置する土坑である。平面形状は方形を呈する。南側は調査区外に延びる。長さ3.2m以上、幅1.7m、深さ0.4mを測る。遺物は出土していない。

S K 10 S K 9の西側に重複して位置する。南端は調査区外に延びる。長さ2.5m以上、幅0.25m以上、深さ0.26mを測る。遺物は出土していない。

S K 11 S K 9の北側に位置する。平面形状は四角形状を呈する。長径1.7m、短径1.2m、深さ

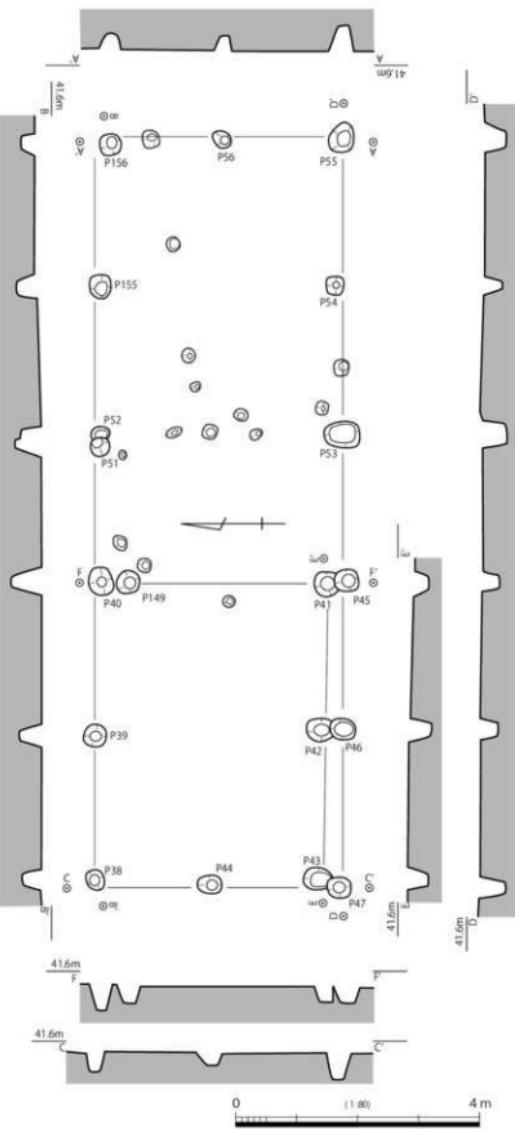


図17 91-1調査 掘立柱建物5平面・断面図

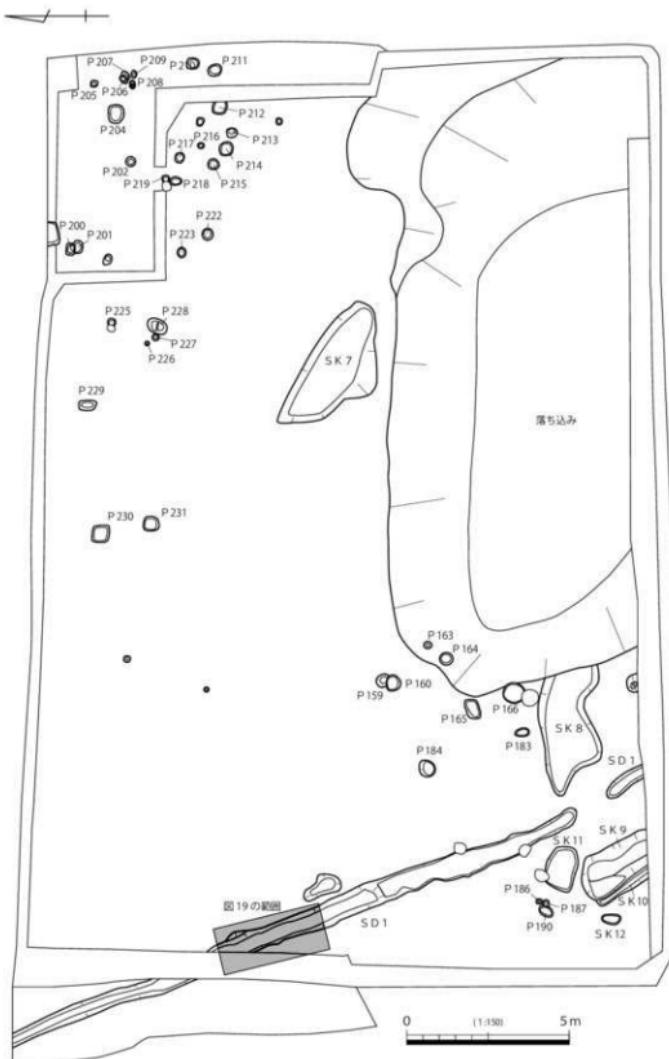


図18 91-1調査 第2遺構面平面図

0.1mを測る。遺物は出土していない。
落ち込み 調査区南東部に位置する。調査区中央部から南に向かって緩やかに落ち込んで、調査区外に延びる。東西17m以上、南北9.5m以上、深さ0.15~0.5mを測る。埋土は5層に分かれ、上層の暗褐色砂質土から躰(図20-40・41)が出土している。明確な掘方を持たないこと、古墳の周溝とするにはそれを裏付ける明確な遺物が出土していないことから、落ち込みと判断した。

(4) 出土遺物(図20・21)

掘立柱建物1出土遺物(図20-26~32)

26~28は掘立柱建物東側の柱筋、S P 3の南側で検出した土器集積地点の出土である。

26は瓦器皿である。口縁部下がヨコナデによりわずかにくぼむ。底部に指頭圧痕が認められる。27・28は土師器皿である。27は面取りが弱い。底面に指頭圧痕が認められる。

29・31はS P 4出土の土師器皿である。29はヨコナデにより口縁部が外側へひらく。31は口縁端部をやや上方に摘み上げる。

30はS P 5出土の土師器皿である。口縁端部は面取りを施す。底部に指頭圧痕が認められる。

32はS P 190出土の瓦器椀である。ほぼ痕跡となっている低い高台をもち、口縁部に強いヨコナデを施す。外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。口径は15.55cmを測るが、歪みが認められ、扁平に復元されていることや、内面見込みの暗文の存在などから、和泉形IV-1~IV-2期と考えられる。

掘立柱建物2出土遺物(図20-33)

33はS P 102出土の土師器皿である。口縁部は直立気味で口縁端部は丸く收める。底部に指頭圧痕が認められる。

掘立柱建物3出土遺物(図20-34・35) 34はS P 124出土の土師器皿である。口縁部は直立気味で口縁端部は丸く收める。底部に指頭圧痕が認められる。

35はS P 123出土の瓦器椀である。断面三角形状を呈する高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認め

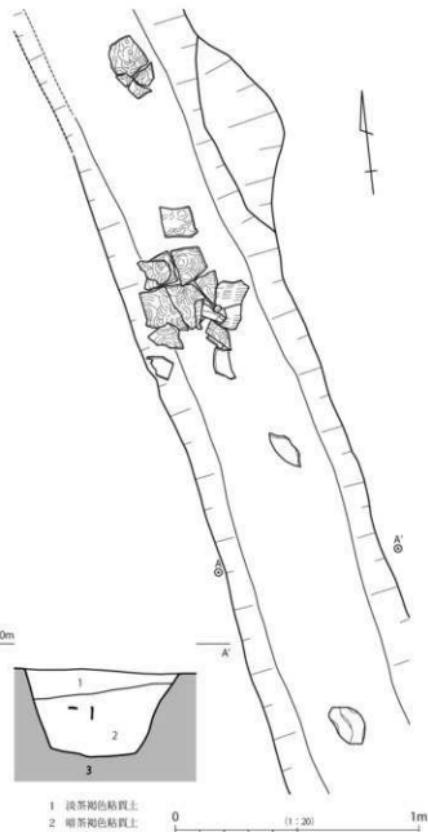


図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

0 (1 : 20) 1m

図19 91-1 調査 SD 1 遺物出土状況・断面図

(1 : 20)

1 淡茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土
3 墓灰土

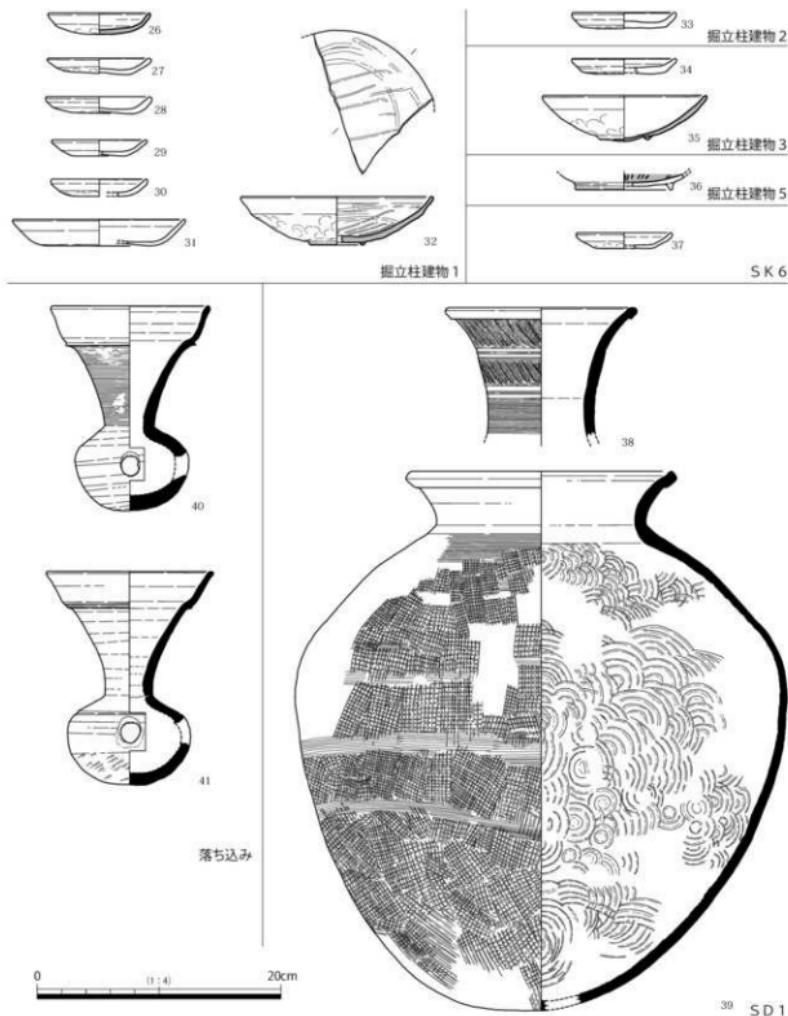


図20 91-1 調査 遺構出土遺物実測図

られる。内面にミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型IV-1期である。

掘立柱建物5出土遺物（図20-36） 36は黒色土器A類椀である。断面三角形状の高台をもつ。内面にミガキを施す。

SK 6出土遺物（図20-37） 37は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。底面に指頭圧痕が認め

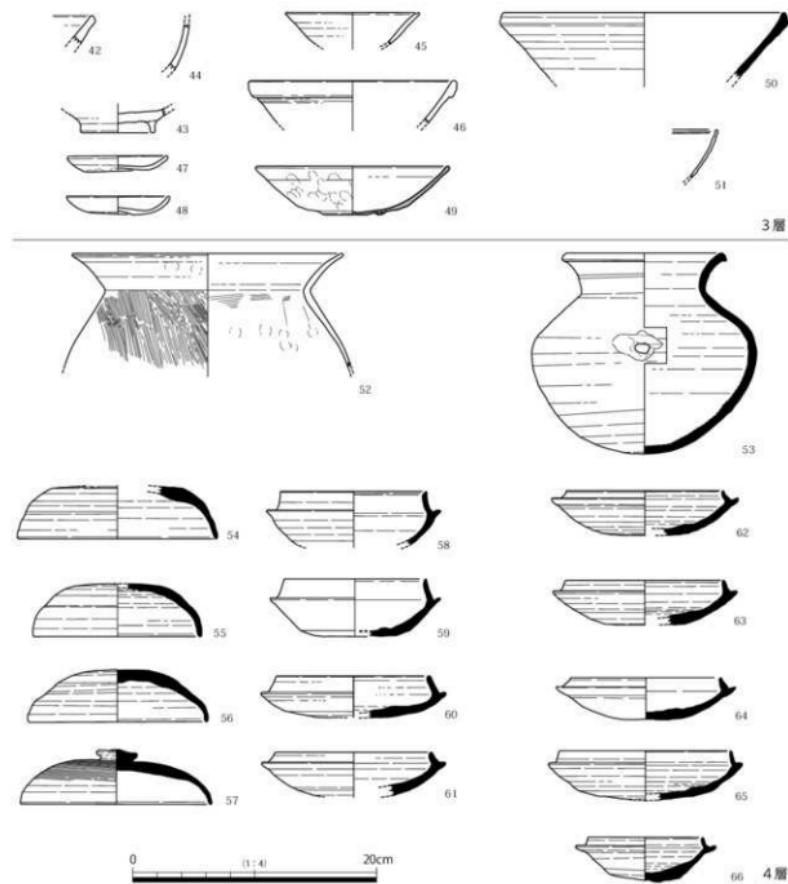


図21 91-1調査 包含層出土遺物実測図

られる。

第2面遺構出土遺物

S D 1 出土遺物（図20-38・39） 38は須恵器壺である。口縁端部は外方に拡張する。頸部に凹線2条を施し、凹線の間に櫛描波状文2帯、凹線の下にカキメを施す。内面に自然釉がかかる。一部火ぶくれが認められる。39は須恵器甕である。口縁外面及び端部に面をもつ。体部外面に格子状タタキ後部分的にカキメを施し、内面に同心円當て具痕が認められる。38・39共にT K 10～T K 43型式である。

落ち込み出土遺物（図20-40・41） 40・41は須恵器甕である。40は球状を呈する体部をもつ。体部最大径を測る位置に直径1.4cmの円孔を穿つ。頸部にカキメを施し、口縁部は上方に拡張する。41はやや扁平な球状を呈する体部をもつ。外面底部に成形時のタタキを残す。体部最大径を測る位置に直径

1.6cmの円孔を穿ち、直上に沈線を施す。口縁部は上方に拡張する。40・41共に内面に自然釉がかかる。TK43型式である。

3層出土遺物（図21-42～51） 10～13世紀までの遺物を含む。42・43は灰釉陶器碗である。42は内外に薄く釉がかかる。43は内面のみ釉薬がかかる。45は白磁皿である。器壁は薄く、口縁部は僅かに外反する。口縁端部は露胎である。太宰府分類の白磁皿V類（11世紀後半～12世紀初頭）である。44・46は白磁碗である。44は体部片である。46は口縁部外面に玉縁をもつ。太宰府分類の白磁碗IV類（11世紀後半～12世紀初頭）である。

47・48は土師器皿である。47は口縁端部に面取りを施す。49は瓦器椀である。断面半円状の低い高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認められる。内面の暗文は摩滅のため定かではないが、高台の形状から判断して和泉型IV-1期と考えられる。50は東播系須恵器鉢である。口縁端部は上方に拡張する。口縁部外面に施釉する。13世紀初頭である。51は黒色土器A類椀である。口縁端部内面に沈線一条を施す。内外面共にミガキを施す。

4層出土遺物（図21-52～66） 古墳時代中期から飛鳥時代までの遺物を含む。52は土師器壺である。体部外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。体部内面に指頭圧痕が認められる。口縁部は外方へひらく。53は須恵器壺である。口縁端部は下方に拡張し面を成す。頸部に沈線を施す。体部から肩部の変換点に焼成後の打ち欠き穿孔が認められる。飛鳥I期である。

54～56は須恵器杯蓋である。54は天井部と口縁部の境に沈線をもつ。TK10型式である。55・56は天井部と口縁部の境に段をもつ。TK43型式である。57は有蓋高杯蓋である。扁平な宝珠形つまみをもつ。天井部にカキメを施す。TK43～TK209型式である。

58～66は須恵器杯身である。58・59はたちあがりが内傾して延びる。58は口縁端部が内傾する段を成し、59は口縁端部が内傾する面を成す。TK10型式である。60はたちあがりが比較的長く、口縁端部が内傾する。扁平な器形である。TK43型式である。61～65はたちあがりが斜め上方に短く延び、口縁端部は丸く収める。TK209型式である。66はたちあがりが短く、内傾して立ち上がる。平底を呈する。飛鳥I期である。

（5）小結

当調査区では、第1遺構面において、10世紀後半の掘立柱建物1棟（掘立柱建物5）と13世紀中頃～後半の掘立柱建物4棟（掘立柱建物1～4）を検出することができた。掘立柱建物5は『宿久庄遺跡1』において報告した時期の判断できる掘立柱建物よりも古いものであり、宿久庄遺跡内の空白期を埋めるものである。

第2遺構面において、古墳時代後期の落ち込みや溝などを検出した。集落と直接結びつくものではないが、該期の遺構の広がりを考える上で重要である。

第6節 99-1 調査

(1) はじめに

藤の里二丁目で計画された倉庫の増築に伴って行われた発掘調査である。建物の南側に東西20m×南北4m(80m²)の調査区が設定されたが、擾乱の影響が大きく、西側(東西5m×南北1.5m・以下A区と記述)と東側(東西3.5m×南北1.5m・以下B区と記述)の2箇所のみで遺構を検出している。

『平成11年度発掘調査概報』(茨木市教育委員会2000)(以下H11概報と記述)で調査の概要を報告しており、本節はH11概報を基に記述する。

(2) 基本層序(図22)

現地表面は標高35.2m前後を測る。基本層序は大別5層からなる。0層はコンクリート及び、造成前の床土層(層厚0.3m)、1層は近世と考えられる耕作土(層厚0.1m)、2層は中近世の遺物包含層(層厚0.1m)、3層は古墳時代～中世の遺物包含層(層厚0.3m)、4層は地山層である。

第1遺構面は2層下面(標高34.6m前後)、第2遺構面は3層下面(標高34.4m前後)でそれぞれ検出した。

(3) 遺構

第1遺構面(図22) 中世末から近世初頭の遺構を検出した。A区でピット2基と溝1条、B区でピット3基と土坑2基を検出した。

原図で遺構番号を付与していないものには、新たな番号は付与していない。ピットA区の2基(SP1・2)は共に直径約20cm、深さ0.2mを測

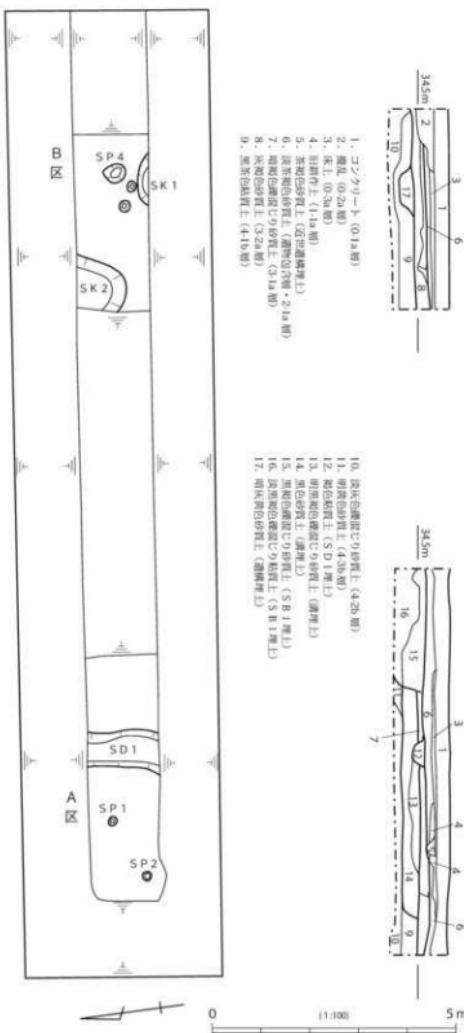


図22 99-1調査 第1面平面図・調査区土層断面図

る。遺物は土師器が出土している。

B区の3基の内、SP 4は長径0.4m、短径0.35m、深さ0.2mを測る。遺物は土師器が出土している。他の2基は直径0.2m、深さ0.1mを測る。遺物は出土していない。

SD 1 A区で検出した。南北方向に延び、幅0.75m、深さ0.05mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK 1 B区で検出した。南側が調査区外へ延び、検出長1.0m、検出幅0.2m、深さ0.25mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK 2 B区で検出した。西側が調査区外に延び、北側が攪乱に切られる。検出長1.0m、検出幅0.95m、深さ0.2mを測る。遺物は近世の施釉陶器が出土している。

第2遺構面(図23) 古墳時代前期初頭から古墳時代後期及び古代の遺構を検出した。A区でピット2基、土坑1基、竪穴建物跡1棟、溝1条、B区でピット11基、土坑6基を検出した。

ピット A区のSP 3は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.15mを測る。遺物は土師器が出土している。もう1基は直径0.25m、深さ0.25mを測る。遺物は出土していない。

B区のピット11基は直径0.15m~0.4m、深さ0.15~0.2mを測る。遺物は出土していない。

SK 3 B区で検出した。平面形状が楕円形を呈する大型土坑である。長径2.1m、短径1.7m、深さ0.9mを測る。遺物は古墳時代中期から飛鳥時代までの土師器・須恵器が出土している。

SK 4 B区で検出した。平面形状は楕円形を呈する。北側は攪乱に切られる。長径1.5m、短径1.0m、深さ0.5mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK 5 B区で検出した。南側が調査区外に延びる。検出長3.0m、検出幅0.4m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK 6 A区で検出した。南西部は竪穴建物跡1に切られる。長さ0.75m、検出幅0.5m、深さ0.2mを測る。遺物は出土していない。

竪穴建物跡1 A区で検出した方形を呈すると考えられる竪穴建物跡(調査時の名称はSB 1)である。南北を攪乱に切られるため全体像は不明である。周壁溝の検出長は北西側が1.7m、北東側が2.0mを測る。周壁溝の外側と床面との高低差は0.3mを測る。建物跡の内部から柱穴は検出されなかった。遺物は古墳時代前期の土師器が出土している。

溝 A区で溝の西脇を検出した。深さ0.6mを測る。遺物は出土していない。

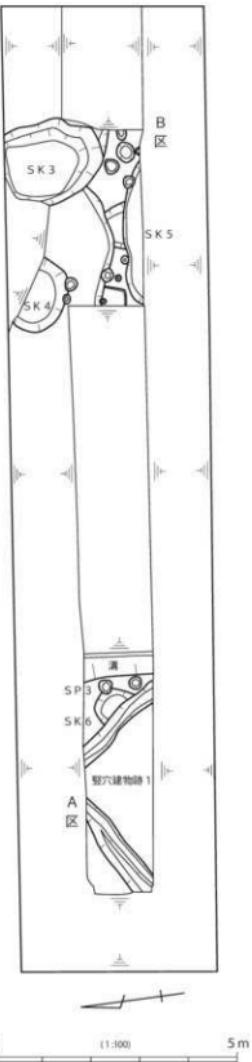


図23 99-1調査 第2面平面図

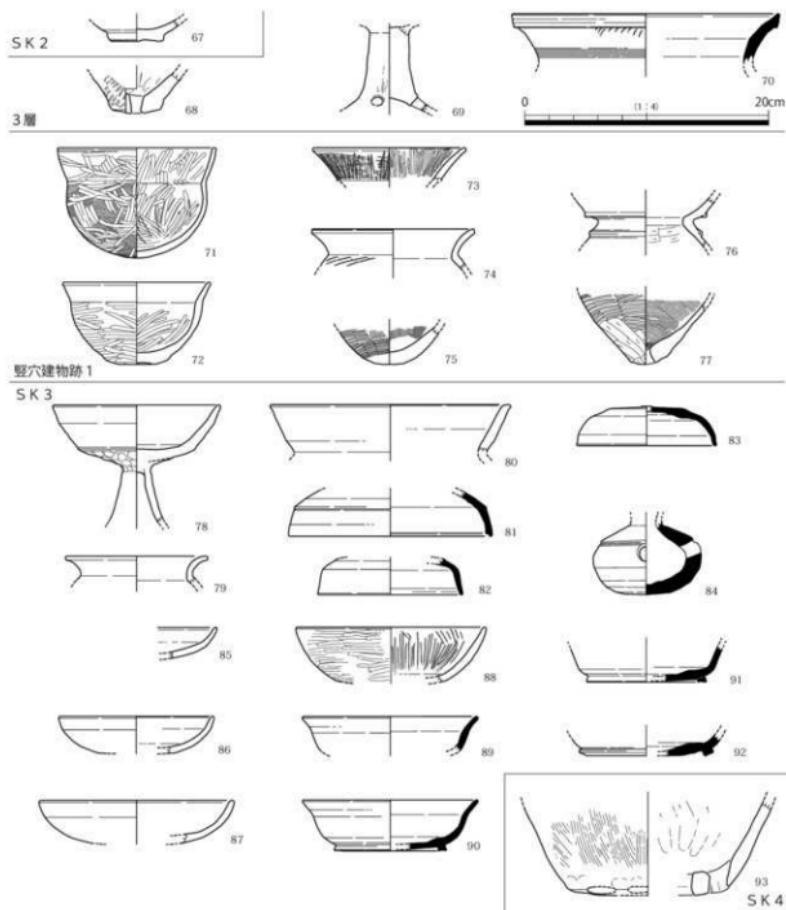


図24 99-1調査 出土遺物実測図

(4) 出土遺物 (図24)

第1造構面

SK 2 出土遺物 (67) 67は施釉陶器碗である。高台部分のみ残存する。削り出し高台で、内面に施釉する。内面見込みに4箇所、外面高台に3箇所それぞれ砂目が認められる。17~18世紀の唐津焼である。

3層出土遺物 (68~70) 弥生土器・須恵器を図示した。

68・69は弥生土器である。68は有孔鉢の底部である。底部中央に直径1cmの円孔を穿つ。外面にタタキを施し、内面に指頭圧痕が認められる。69は高杯脚柱部である。中実の脚柱部で、脚柱部と裾

部の境に円形透かし孔を3方向に穿つ。外面にハケを施す。共に弥生時代後期である。

70は須恵器甕である。口縁端部を上方に拡張し、外側は面を成す。端面は凹線状にくぼむ仕上がりである。頸部にタタキ後カキメを施す。

第2遺構面出土遺物

竪穴建物跡1出土遺物（71～77） 71～75は床面直上、76・77は床面覆土出土である。いずれも古墳時代前期の土師器である。

71は小型丸底壺である。頸部のくびれは強くない。口縁部外面及び内面にミガキ、体部外面にハケ後ミガキを施す。72は小型鉢である。平底で底部中央が僅かに窪む。口縁部が外方へ開く。体部外面及び内面にミガキを施す。73は小型壺である。口縁部のみ残存する。口縁部外面にミガキ後、ジグザグ状の線刻、内面にミガキを施す。

74・75は甕である。74は口縁端部が面を成す。体部外面にタタキを施す。外面に煤が付着する。75は丸底の底部で、外面にタタキ、内面にハケを施す。76は山陰系の鼓形器台である。頸部はくびれ、裾部及び口縁部に突帯をそれぞれ一条もつ。台部内面にケズリを施す。胎土は在地のものである。77は有孔鉢底部である。外面にタタキ後ケズリ、内面にハケを施す。底部は尖底で中央に直径0.6cmの円孔を穿つ。

S K 3出土遺物（78～92） 78は土師器有稜椀形高杯である。杯部は底部と口縁部の境に稜をもつ。杯底部外面と脚柱部との接合部に指頭圧痕が認められる。緩やかに聞く中空の脚柱部をもつ。杯部との接合技法は不明である。79・80は土師器甕である。79は外反して聞く口縁部をもつ。80は口縁部上端が面を成す。78～80は辻編年の4～5段階か〔辻1999〕。

81は須恵器杯蓋である。天井部から口縁部の境に稜をもち、口縁端部内面に内傾する段をもつ。82・83は須恵器短頸蓋である。82は天井部から口縁部が屈曲して延び、口縁端部は内側に面を成す。83は口縁端部を丸く収める。81～83はTK 10～TK 43型式か。84は須恵器甕である。扁平な球状を呈する体部をもつ。体部最大径を測る位置に直径0.7cmの円孔を穿ち、直上に沈線一条を施す。TK 43型式である。

85～87は土師器楕Dである。いずれも口縁部がヨコナデにより屈曲して立ち上がる。平城宮Ⅲ期頃である。88は杯Aである。体部外面に密なミガキ、内面に放射状暗文を施す。平城宮Ⅰ期頃である。

89～92は須恵器杯Bである。90～92は断面四角形状を呈する高台をもつ。89・90は口縁部が外方へ屈曲してひらく。いずれも平城宮Ⅰ期頃である。

S K 4出土遺物（93） 93は土師器甕である。底面中央に1個、周囲に3個の蒸気孔が残存する。本来は8個の蒸気孔が周囲にあったと考えられる。外面にハケを施し、内面にユビナデが認められる。

（5）小結

当調査区では、攪乱に破壊されていたため部分的ではあったが、古墳時代前期の竪穴建物跡を検出した。宿久庄遺跡内で確実な古墳時代前期の遺構は、当調査区のみである。06-1調査（本書第8節）の竪穴建物跡1・2もこの時期の可能性はあるが、明確な遺物が出土していないため判断し難い。周辺の調査例が少ない地区であるが、該期の集落が広がっていた可能性がある。また竪穴建物跡の埋土中から山陰系の鼓形器台が出土していることは、古墳時代前期における活発な交流の一端を窺わせる。

また、他の調査区と同様、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての遺物も出土しており、当調査区にも該期の遺構が広がっていることが想定できる。

第7節 99-4 調査

(1) はじめに

豊原町で計画された大型店舗の建築に伴って行われた発掘調査である。確認調査の結果を受けて、建物の西側部分が本調査の対象となっている。建物建築部分を第1調査区、駐車場出入口の南側部分を第2調査区、北側部分を第3調査区として調査を行った。調査面積は2,100m²である。

『平成12年度発掘調査概報』〔茨木市教育委員会2001〕(以下『H 12 概報』と記述)に調査の概要を報告している。

(2) 基本層序 (図25)

調査地は、中世以前には勝尾寺川の旧流路となっており、堆積状況は地点によって複雑に変化している。しかし、中世以降は集落や水田が営まれているように比較的安定した土地となっている。

基本層序は、大別7層を確認した。盛土層(0層)、近世耕作土層及び床土層(1層)、淡灰色～明黄色の砂質シルト層(2～3層)、明黄褐色粘質シルト層(4層)である。敷地の東側では、灰褐色砂質土を主体とする平均3層以上の中・近世水田層(5層)が、西側では暗茶褐色砂質土を主体とする中世遺物包含層(6層)がそれぞれ認められ、遺構面のベース層は粗砂～礫層を主体とする旧流路埋土(7層)である。

(3) 遺構 (図26・27)

近世の遺構 第1調査区を南北に縱断する大畦畔と、第1調査区北端で東西溝1条、井戸(S E 1)1基を検出した。

各遺構は、いずれも耕作に伴うものと考えられる。大畦畔は主軸をN-15°-Wにとり、溝は大畦畔に直交する。幅2.0m、深さ0.05mを測る。大畦畔は幅0.8m、高さ0.05mを測り、耕作地境の畦畔と考えられる。おそらく溝も耕作地の南北境界を示しているのであろう。S E 1は近世溝と切り合っているが、耕作地の端に設けた野井戸と考えられる。長径3m、短径2.6m、深さ1.2mを測る。井戸枠は検出されておらず、素掘りの井戸であったと考えられる。遺物は出土していない。

中世の遺構 中世の遺構は主として第2・第3調査区で検出している。ピット134基、土坑13基、溝35条、掘立柱建物8棟、井戸1基、その他の遺構3基を検出した。以下では、特徴的な遺構と、遺物を掲載した遺構について記述する。また、多数検出したピットで掘立柱建物8棟を復元した。

掘立柱建物

掘立柱建物1(図28) 第3調査区の東側で検出した東西1間×南北3間の側柱建物である。建物の主軸はN-6°-Wをとる。柱穴の芯々距離は南北2.2m、東西3.7mを測る。柱穴の平面形状は円形で、直径0.3～0.4m、深さ0.2～0.35mを測る。遺物は各柱穴より土師器・須恵器・瓦器が出土している。

掘立柱建物2(図29) 第3調査区、掘立柱建物1の西側で検出した東西1間×南北2間の側柱建物である。建物の主軸はN-6°-Wをとる。柱穴の芯々距離は南北2.0m、東西3.0mを測る。

柱穴の平面形状は円形で直径0.35m、深さ0.3～0.4mを測る。遺物は各柱穴より土師器・瓦器が出土している。

掘立柱建物3(図30) 第3調査区で検出した。掘立柱建物2と重複する。南北1間×東西2間の側柱建物である。建物の主軸はN-5°-Wをとる。柱穴の芯々距離は1.4mを測る。

柱穴の平面形状は円形で直径0.25～0.3m、深さ0.3～0.4mを測る。遺物は各柱穴より土師器・瓦器が

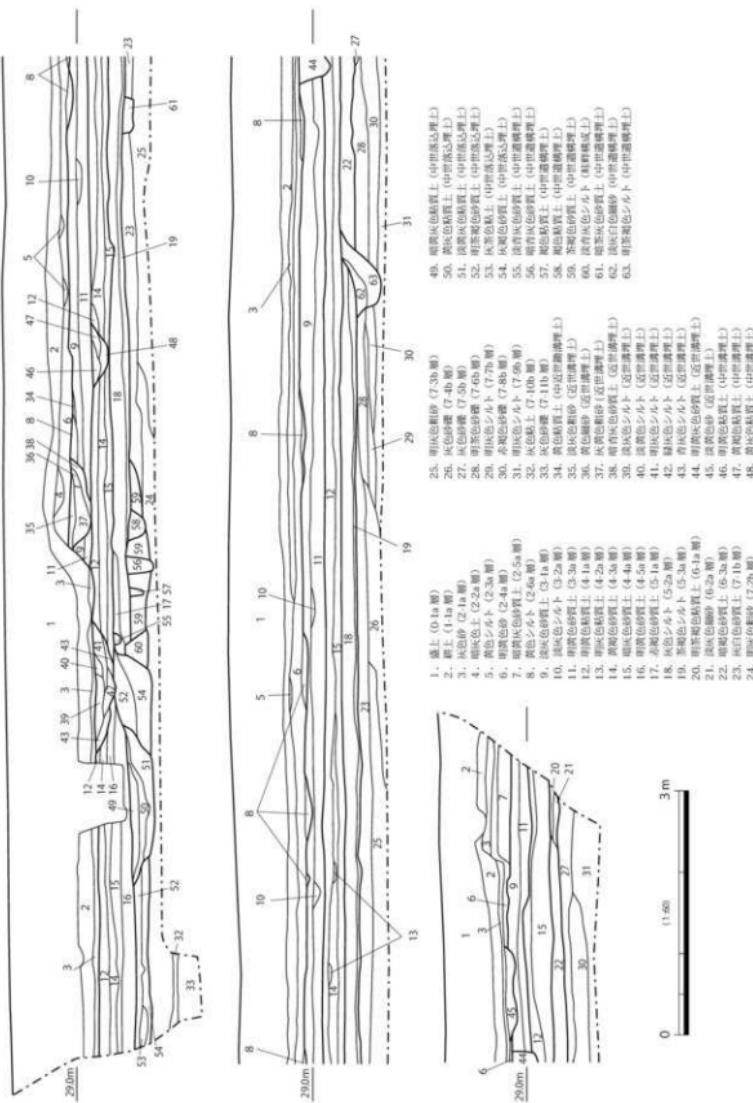


図 25 99-4 調査 南壁土層断面図

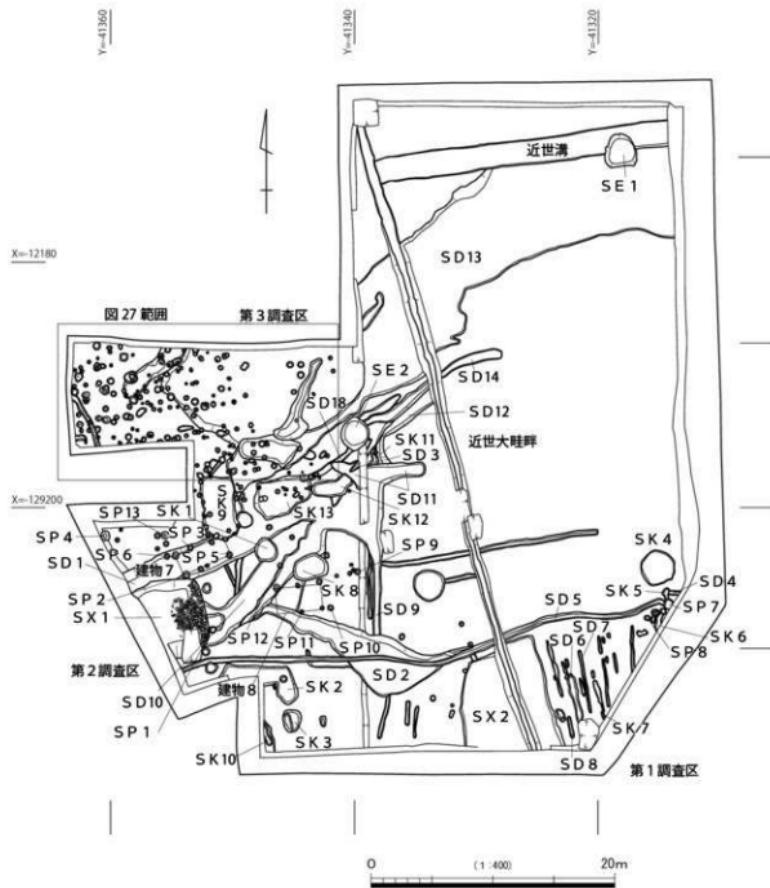


図 26 99-4 調査 調査区平面図

出土している。

掘立柱建物 4 (図31) 第3調査区、掘立柱建物1の西側、掘立柱建物2の南側で検出した。南北2間×東西4間の側柱建物である。建物の主軸はN-7°-Wをとる。柱穴の芯々距離は1.5~2.7mを測る。柱穴の平面形状は円形で直径0.3~0.4m、深さ0.3~0.5mを測る。遺物はSP57から土師器・須恵器・瓦器が出土している。

掘立柱建物 5 (図32) 第3調査区西側で検出した南北2間×東西4間の側柱建物である。建物の主軸はN-11°-Wをとる。柱穴の芯々距離は2.2~2.7mを測る。柱穴の平面形状は円形で直径0.5~0.7m、深さ0.5~0.6mを測る。遺物は各柱穴より土師器・須恵器・瓦器が出土している。

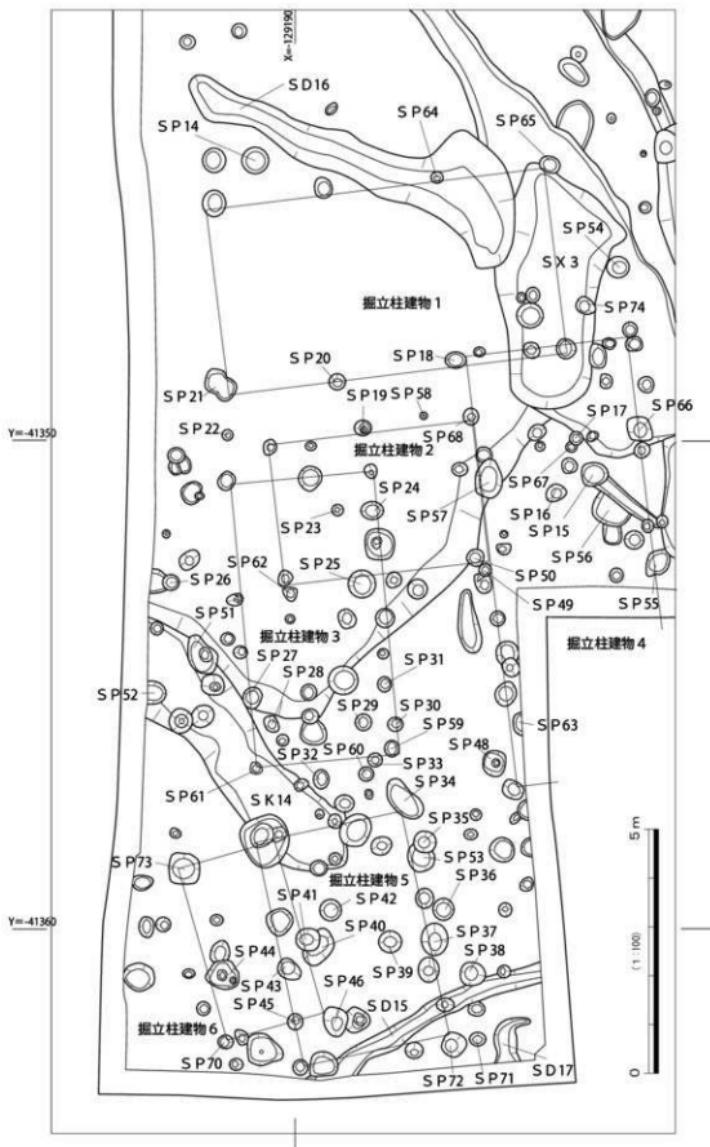


図 27 99-4 調査 第3調査区拡大図

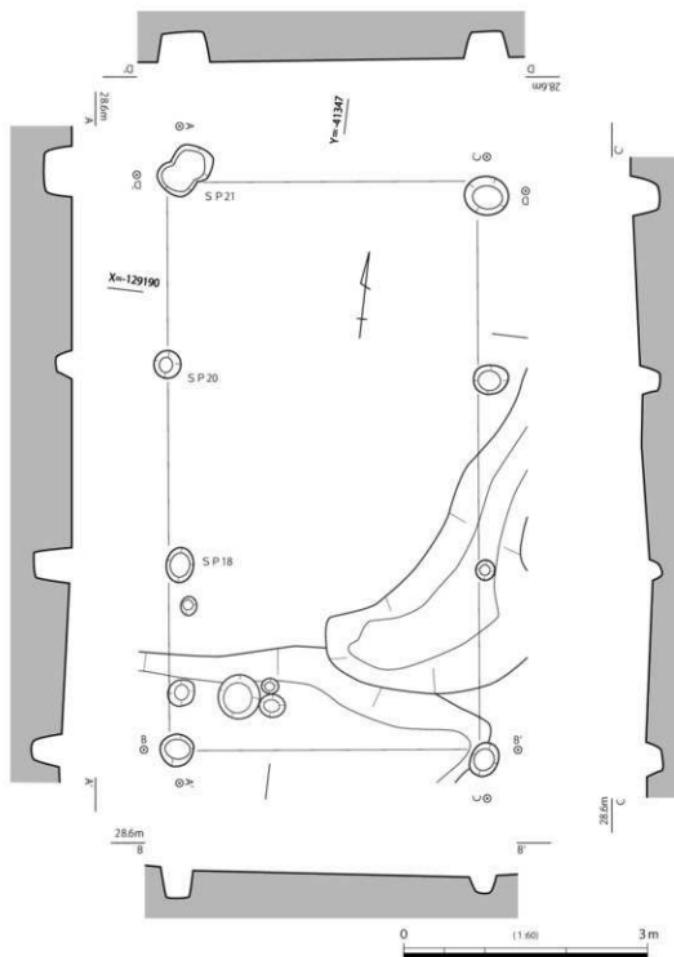


図28 99-4調査 挖立柱建物1平面・断面図

掘立柱建物6(図33) 第3調査区西側、掘立柱建物5の北側で検出した南北1間×東西2間の側柱建物である。建物の主軸はN-16°-Wをとる。柱穴の芯々距離は1.9~2.4mを測る。柱穴の平面形状は円形で直径0.5~0.6m、深さ0.3~0.6mを測る。遺物は各柱穴より土師器・瓦器が出土している。

掘立柱建物7(図34) 第2調査区西側で検出した南北1間×東西2間の側柱建物である。建物の主軸はN-22°-Wをとる。柱穴の芯々距離は東西1.7mと2.5m、南北1.8mを測る。柱穴の平面形状は円形で直径0.4~0.6m、深さ0.35~0.5mを測り、遺物はS P 2・3から土師器・瓦器が出土している。

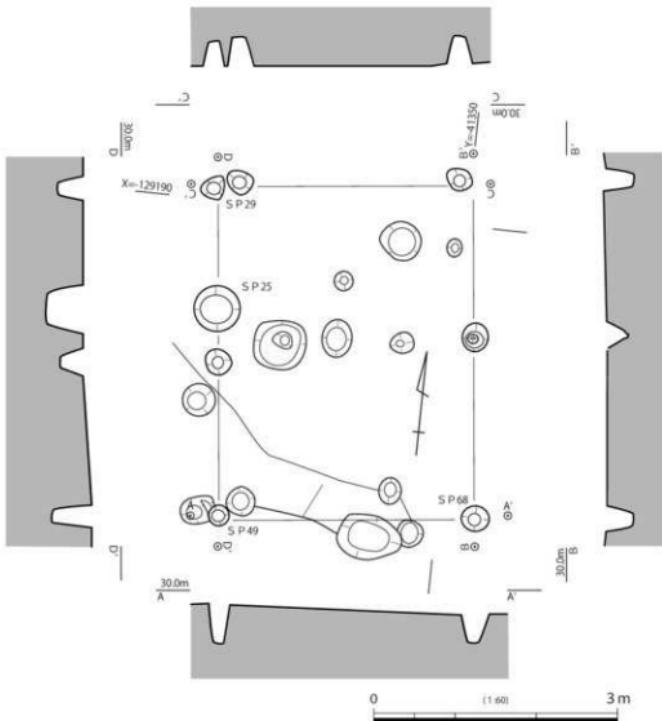


図29 99-4調査 挖立柱建物2平面・断面図

掘立柱建物8（図34） 第2調査区中央で検出した南北1間×東西2間の側柱建物である。建物の主軸はN-4°-Wをとる。柱穴の芯々距離は2.0mを測る。柱穴の平面形状は円形で直径0.3～0.5m、深さ0.2～0.4mを測る。遺物はS P 11から瓦器が出土している。

各掘立柱建物の柱穴からの出土遺物は、いずれも13世紀中頃から後半のものであり、明確な時期差を見出すことはできない。しかし、掘立柱建物7・8以外は互いに重複が認められるので、いくらかの時期差が存在すると考えられる。

ピット

S P 10 第2調査区の掘立柱建物8の東側で検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.35m、深さ0.3mを測る。遺物は13世紀後半の土師器・瓦器が出土している。

S P 12 第2調査区、掘立柱建物8の北側で検出した。S D 10と切り合う。平面形状は円形を呈する。直径0.4m、深さ0.14mを測る。遺物は土師質土器が出土している。

S P 14 第3調査区、掘立柱建物1の東側で検出した。平面形状は円形を呈する。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.13mを測る。遺物は13世紀後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S P 16 第3調査区、掘立柱建物4の内側で検出した。平面形状は円形を呈する。長径0.4m、短径

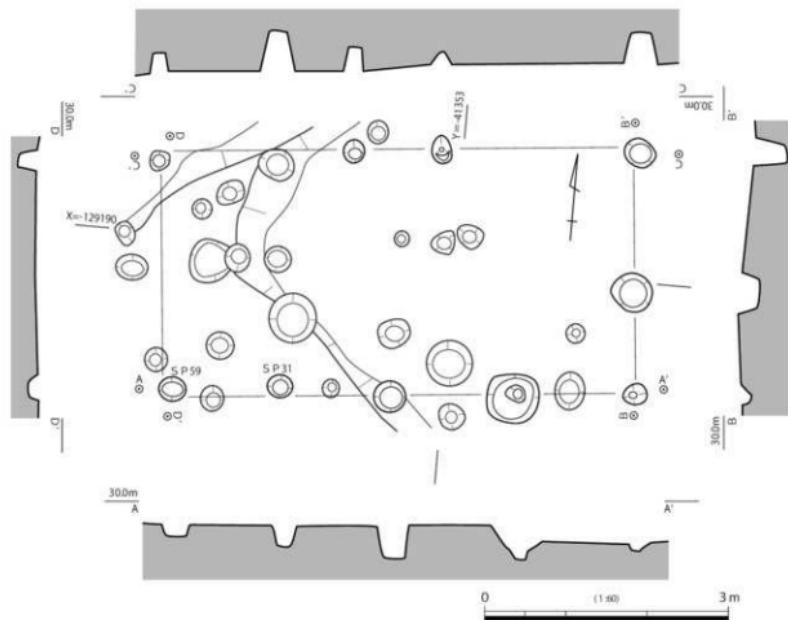


図30 99-4調査 挖立柱建物3平面・断面図

0.25m、深さ0.5mを測る。遺物は1世紀後半の土師器・瓦器が出土している。

SP 25 第3調査区、掘立柱建物2の西側柱筋と重複して検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.6m、深さ0.25mである。遺物は13世紀中頃の青磁が出土している。

SP 26 第3調査区、掘立柱建物3の北側で検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.25m、深さ0.6mを測る。遺物は土師器・石鍋が出土している。

SP 33 第3調査区、掘立柱建物3と掘立柱建物5の間で検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.3m、深さ0.2mを測る。遺物は13世紀前半の土師器・瓦器・青磁が出土している。

SP 51 第3調査区、掘立柱建物3の北側で検出した。平面形状は円形を呈する。長径0.9m、短径0.45m、深さ0.3mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・瓦器が出土している。

SP 52 第3調査区の北端で検出した。北側は調査区外に延びる。平面形状は円形を呈する。検出長0.5m、幅0.5m、深さ0.45mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

SP 55 第3調査区、掘立柱建物4の南側柱筋と重複して検出した。平面形状は不整な円形を呈する。長径0.7m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。遺物は12世紀後半～13世紀にかけての土師質土器が出土している。

SP 60 第3調査区、掘立柱建物3と掘立柱建物5の間で検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.3m、深さ0.14mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器が出土している。

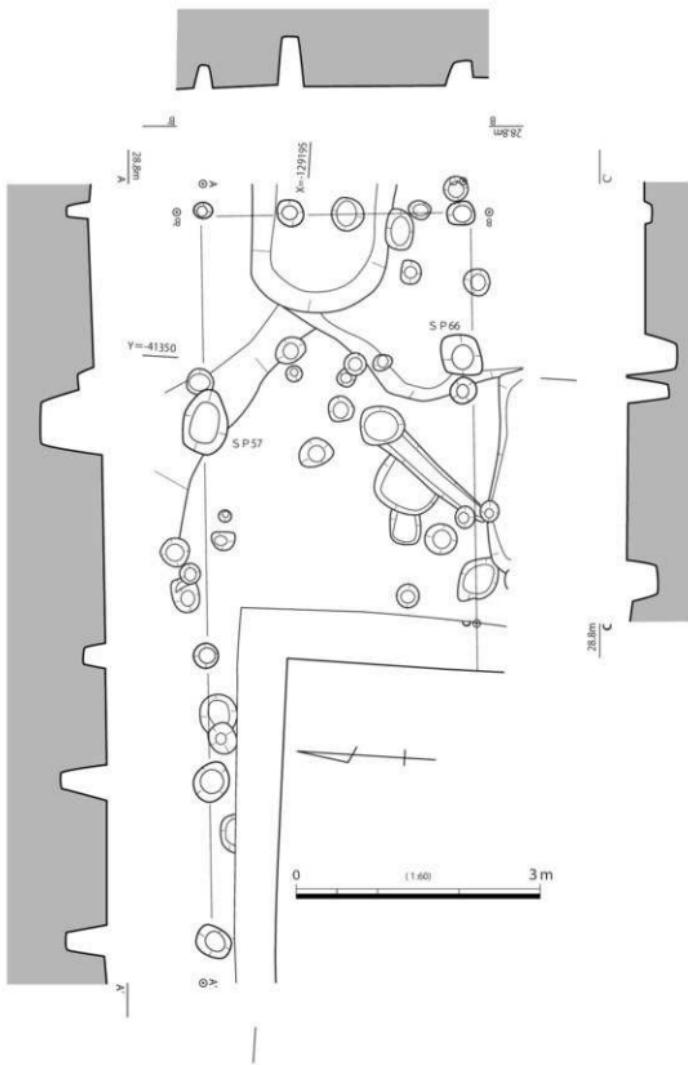


図 31 99-4 調査 掘立柱建物 4 平面・断面図

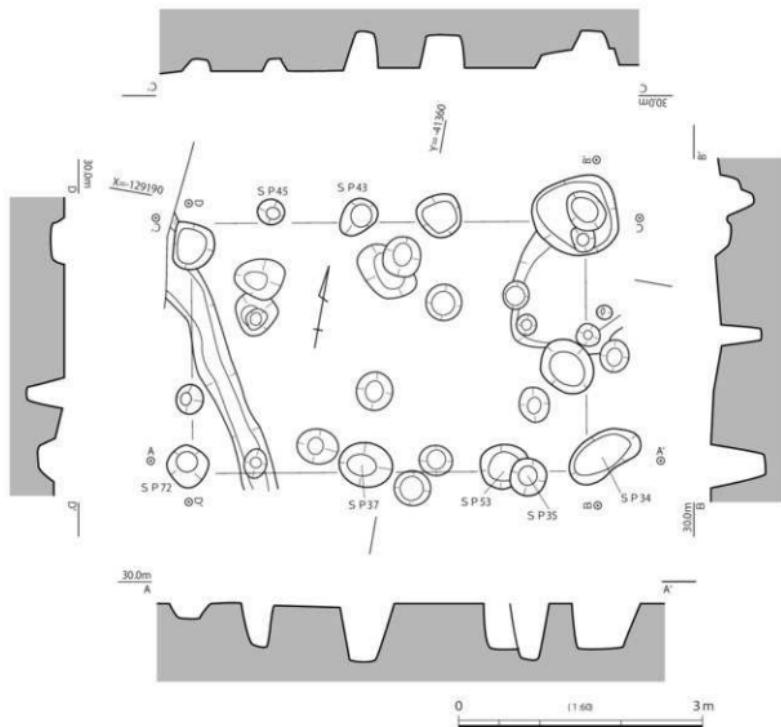


図32 99-4調査 挖立柱建物5平面・断面図

S P 71 第3調査区、掘立柱建物5の南側で検出した。平面形状は円形を呈する。直径0.3m、深さ0.18mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器が出土している。

溝 調査区南東隅から南部にかけて分布する南北方向の溝（S D 6～8など）は、中～近世の耕作溝と考えられる。出土している遺物は細片化した中世の土器であるが、大畦畔に区画された耕作地に伴う可能性もあり、その場合は近世の遺構となる。

第2調査区から第3調査区にかけて検出した溝は、多くが北東～南西方向に延びている。複雑に切り合っていることから、平面図からのみでは前後関係を判断しかねる部分もある。

S D 1 第2調査区を東西方向に横断する。検出長2.0m、幅2.4m、深さ0.32mを測る。東側でS D 9・S D 10と合流している。遺物は13世紀前半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S D 2 調査区南側の第1調査区から第2調査区にかけて検出した。北西～南東方向に延びる溝である。S D 5に切られ、西側はS D 10に切られる。検出長15m、幅3m、深さ0.14mを測る。遺物は13世紀前半の土師器・白磁が出土している。

S D 3 第3調査区、S E 2の南側で検出した。北東～南西方向に延びる溝である。検出長4m、幅0.4m、深さ0.13mを測る。遺物は13世紀前半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

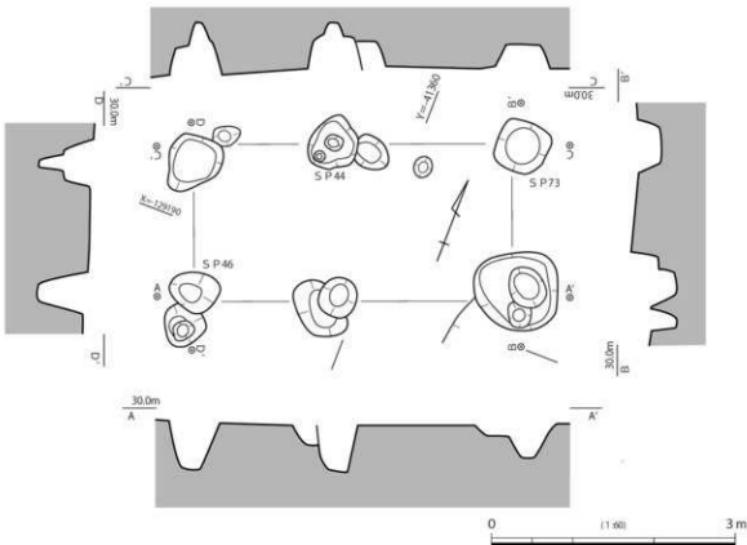


図33 99-4調査 据立柱建物6平面・断面図

S D 9 第1調査区、S D 2の北側で検出した南北方向の溝である。長さ12m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。遺物は13世紀初頭の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S D 10 第2調査区で検出した、北東—南西方向に延びる溝である。西側はS X 1、東側はS D 1に切られる。検出長12m、幅2 m、深さ0.17mを測る。遺物は13世紀中頃と考えられる土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S D 11 調査区中央部、第1調査区と第3調査区にまたがって検出した。長さ8 m、幅1.2m、深さ0.1mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・瓦器が出土している。

S D 16 第3調査区で検出した北東—南西方向に延びる溝である。長さ7.0m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

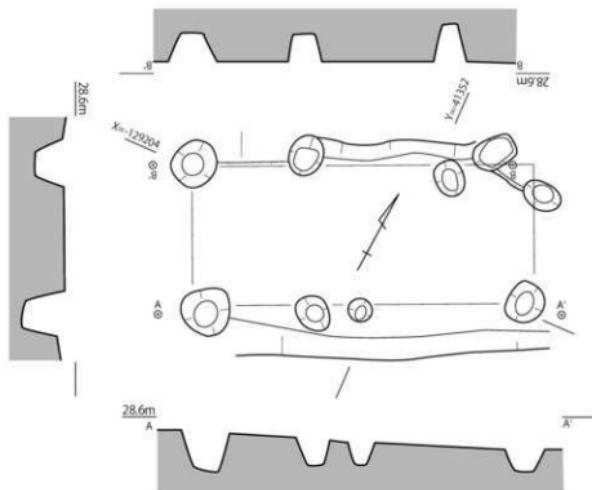
S D 17 第3調査区西端で検出した東西方向に延びる溝である。西側は調査区外に延びる。検出長0.9m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・瓦器が出土している。

S D 18 第3調査区、S E 2の西側で検出した北東—南西方向に延びる溝である。S D 14に切られる。検出長4.0m、幅0.6m、深さ0.03mを測る。遺物は13世紀中頃～後半の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

土坑

S K 1 第2調査区中央部で検出した。平面形状は円形を呈する。S D 1・S D 10を切る。長径2.0m、短径1.7m、深さ0.15mを測る。遺物は土師器・須恵器・瓦器が出土している。13世紀中頃か。

S K 4 第1調査区東側で検出した。平面形状は円形を呈する。直径3.0m、深さ0.1mを測る。遺物は13世紀前半の土師器・瓦器が出土している。



掘立柱建物 7

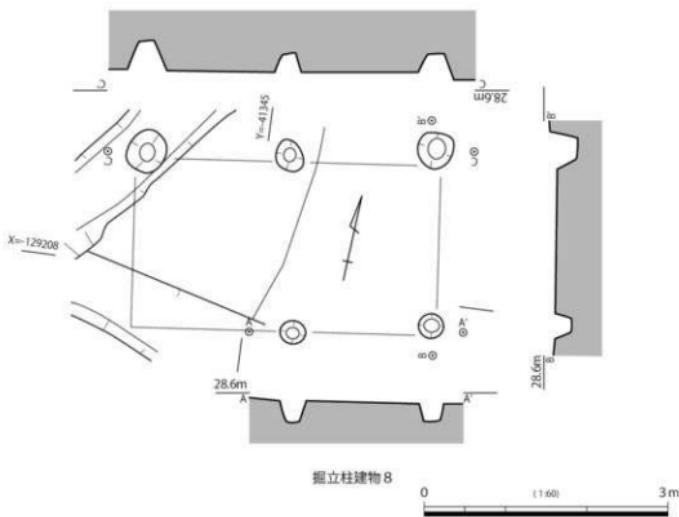


図 34 99-4 調査 掘立柱建物 7・8 平面・断面図

S K 8 第2調査区中央部、S K 1の東側で検出した。平面形状は長楕円形を呈する。長径2.75m、短径2.1m、深さ0.23mを測る。遺物は13世紀代の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S K 9 (図35) 第2調査区と第3調査区にまたがって検出した。平面形状は隅丸の長方形状を呈する。長径5.0m、短径2.6m、深さ0.2mを呈する。土坑の周囲に切り合う形でピットが十数基存在するが、これらが土坑に伴うものであるのかは不明である。遺構内からは多数の礫と13世紀中頃の土師器・須恵器・瓦器・青磁が出土している。

井戸

S E 2 (図36) 第1調査区と第3調査区にまたがって調査区中央で検出した。平面形状は円形を呈する。長径2.2m、短径1.4m、深さ1.7mを測る。検出面では礫が多く集積していた。井戸の廃絶時に入れたか井戸側の上層部の礫が崩落したものと考えられる。井戸側は礫を積むことで構築する石組円筒形井戸で、水溜に曲物を使用している。井戸側の内径はおよそ1.0mを測る。曲物は直径0.4m、高さ0.35mを測る。遺物は13世紀後半の土師器・須恵器・瓦器・磁器・木製品が出土している。

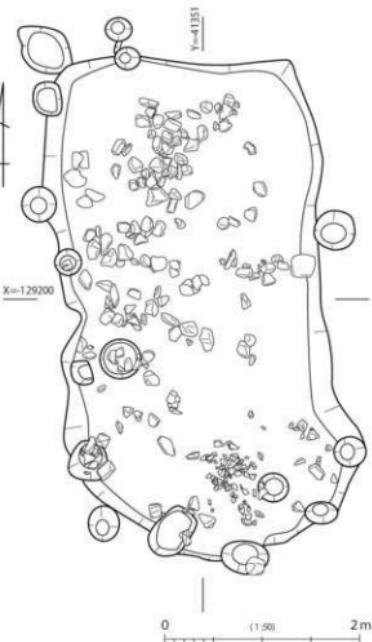


図35 99-4調査 SK 9遺物出土状況図

その他の遺構

S X 1 (図37) 第2調査区西端で検出した。西側は調査区外に延びる。検出長5.0m、幅5.0m、深さ0.9mを測る。東側の法面に人頭大の礫を丁寧に積んでいる。礫は南側を流れる勝尾寺川から採取されたと考えられる。土断面図の5層中にも多くの礫を含んでいることから、5層が堆積する時点で礫が崩落したと考えられる。『H12概報』では「石積み遺構」としており、園池または水田に伴う集水施設の可能性を考えている。遺物は13世紀中頃の土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・石製品・鉄製品・木製品など多様な遺物が出土している。

S X 2 調査区南端で検出した。中央を近世の大畦畔が縦断し、南側は調査区外に延びる。検出長8.0m、幅7.4m、深さ0.18mを測る。遺物は土師器・瓦器が出土している。

S X 3 挖立柱建物1と重複して検出した。長径5.0m、短径2.0m、深さ0.3mを測る。遺物は13世紀前半～中頃の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

(4) 出土遺物 (図38～49)

掘立柱建物5出土遺物 (図38-94～97) 94～97は掘立柱建物5の南西隅に位置するS P 72出土遺物である。

94～96は土師器皿である。いずれも強いヨコナデにより、口縁部と底部との境に段をもつ。95・96はユビオサエのため、底部が波打っている。97は瓦器榤である。ほぼ痕跡程度の低い高台をもつ。

外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型IV-2期である。

掘立柱建物7出土遺物（図38 98～101）

98・99は掘立柱建物7の南西隅に位置するS P 2出土遺物である。

98は瓦器椀である。器高は極めて低く、ほぼ痕跡となった断面三角形状の高台をもつ。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに溝巻き状暗文を施す。和泉型IV-2期である。99は瓦質土器羽釜である。鉢は短く水平に延びる。口縁部は内傾する。体部外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。外面に煤が付着する。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。

100・101は北辺中央に位置するS P 3出土遺物である。100は瓦器椀である。断面三角形状の低い高台をもつ。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。内面に煤が付着する。和泉型IV-2期である。101は土師質土器羽釜である。短い鉢が水平に延び、口縁部は内傾する。体部は球形を呈する。体部内面にハケを施す。体部外面に指頭圧痕が認められる。外面に煤が付着する。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。

掘立柱建物8出土遺物（図38-102）

102は掘立柱建物8の南辺中央に位置するS P 11出土である。断面三角形状の高台をもつ瓦器椀である。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に比較的密なミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-2期である。

S P 10出土遺物（図38-103・104）

103は土師器皿である。口縁部が屈曲して立ち上がる。104は瓦器皿である。口縁部に強いヨコナデを施す。底面に指頭圧痕が認められる。

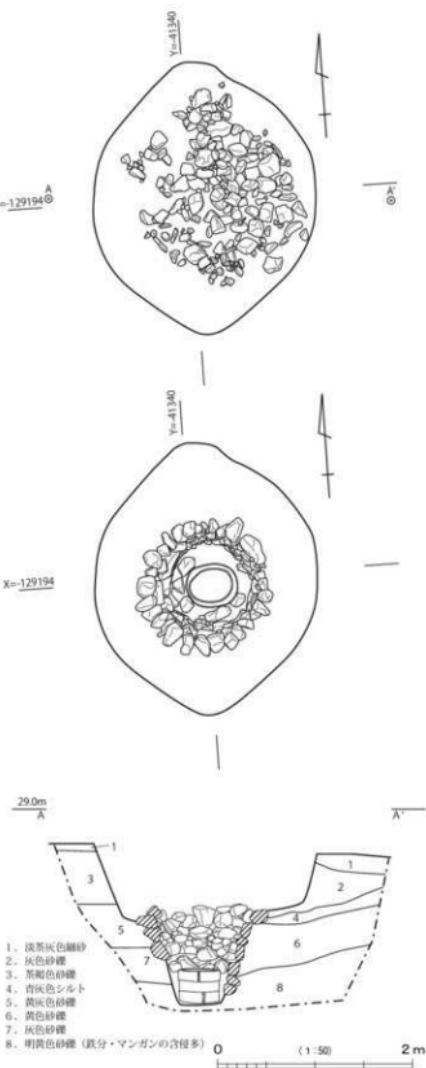


図36 99-4調査 S E 2平面・立面図

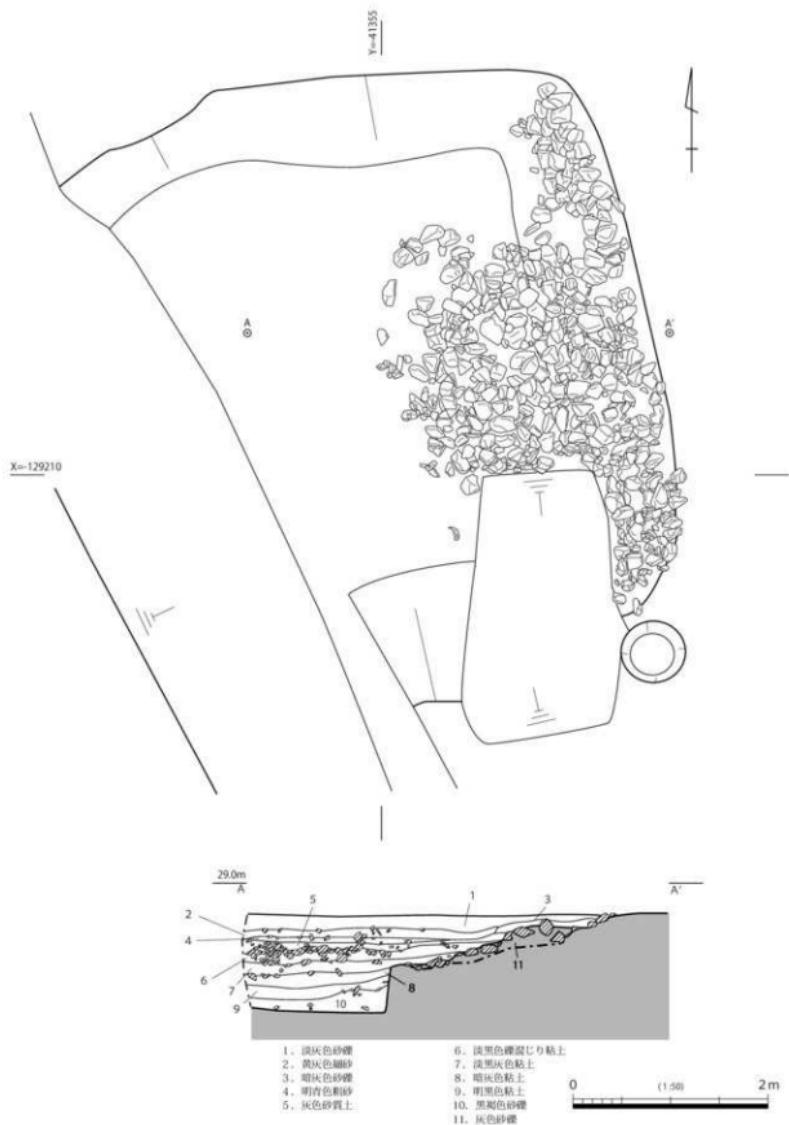


図37 99-4調査 SX1平面・断面図

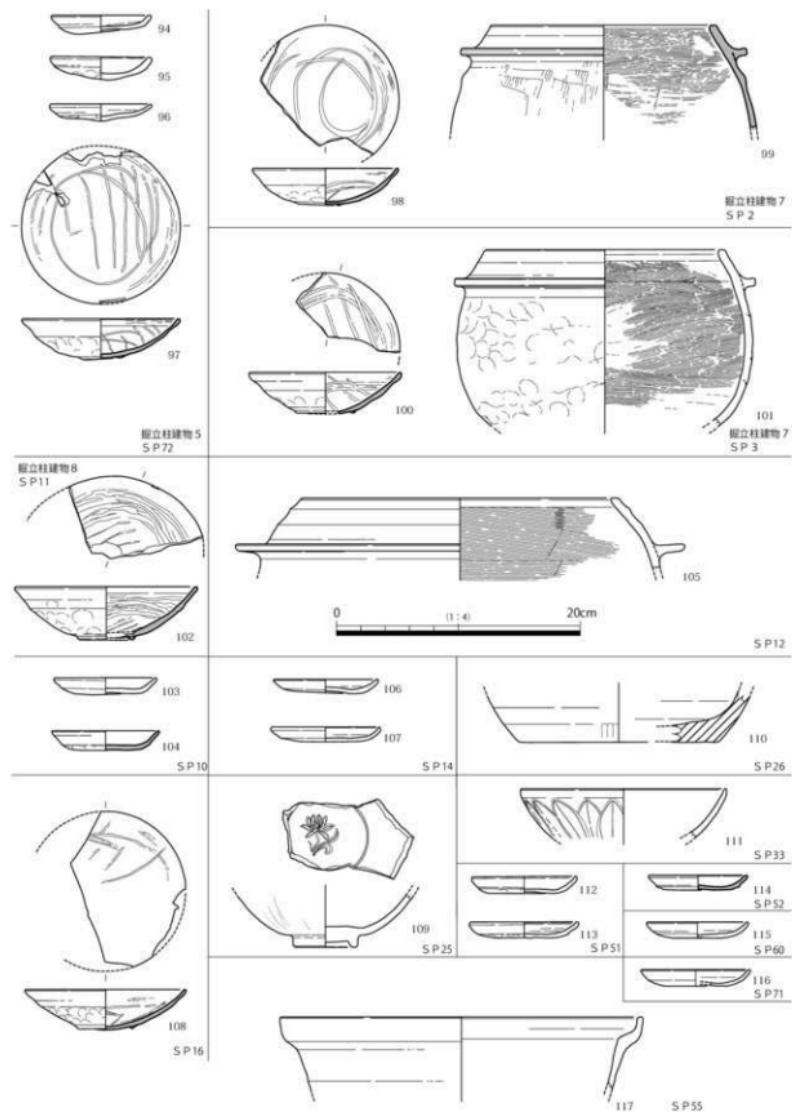


図38 99-4調査 ピット出土遺物実測図

S P 12出土遺物（図38-105） 105は土師質土器羽釜である。鍔は水平に延びる。口縁部は内傾し、外面にヨコナデによる段をもつ。内面に密なハケを施す。外面の鍔から下に煤が付着する。

S P 14出土遺物（図38-106・107）

106・107は土師器皿である。共に口縁端部に面取りを施す。

S P 16出土遺物（図38-108） 108は瓦器椀である。断面三角形状の低い高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状と思われる暗文を施す。和泉型IV-2期である。

S P 25出土遺物（図38-109） 109は青磁碗である。断面台形状の高台をもつ。内面見込みに花文をスタンプし、圓線一条が巡る。外面に蓮弁文を施す。高台内は露胎である。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-c類（13世紀前半）である。

S P 26出土遺物（図38-110） 110は滑石製石鍋の底部である。体部外面にケズリが認められる。外面に煤が付着する。

S P 33出土遺物（図38-111） 111は青磁碗である。外面に蓮弁文を施す。内外面に釉がかかる。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-b類（13世紀前半）である。

S P 51出土遺物（図38-112・113） 112・113は土師器皿である。共に強いヨコナデにより口縁部と底部の境に段が生じている。口縁端部に面取りを行う。

S P 52出土遺物（図38-114） 114は瓦器皿である。口縁端部は強いヨコナデで、段が生じている。

S P 55出土遺物（図38-117） 117は土師質土器鍋である。口縁部は受け口状を呈する。豊島型足鍋である。豊島型足鍋は、その分布に檜物座の活動範囲との関連が考えられている狭域流通品である〔橋本2004〕。これまでの分布の北限は玉櫛遺跡〔財団法人 大阪府文化財調査研究センター1998 第108図601〕であったが、本例が最も北に位置することとなる。

S P 60出土遺物（図38-115） 115は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。

S P 71出土遺物（図38-116） 116は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。

溝出土遺物（図39）

S D 1出土遺物（図39-118・119） 118は土師器皿である。強いヨコナデにより口縁部と底部の境に段が生じている。口縁端部に面取りを施す。119は瓦器椀である。断面三角形状の低い高台をもつ。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に比較的密なミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-3期である。

S D 2出土遺物（図39-120） 120は白磁碗である。体部下半の破片である。外面下部は露胎である。内面見込みに圓線を施す。

S D 3出土遺物（図39-121～126） 121・122は瓦器皿である。口縁部にヨコナデにより段が生じている。外面に指頭圧痕が認められる。123～126は瓦器椀である。高台の断面形は、123は台形状、124は扁平な台形状、125・126は三角形状をそれぞれ呈する。いずれも体部外面に指頭圧痕のみが認められる。124～126は内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-3期である。125はいぶしが不良で器表面の炭素吸着が弱い。

S D 9出土遺物（図39-127） 127は東播系須恵器鉢である。口縁端部は上方に摘み上げ、端部は丸く収める。口縁端部に薄く釉がかかる。13世紀初頭である。

S D 10出土遺物（図39-128） 128は東播系須恵器甕である。口縁端部は外反し、端部は面を成す。

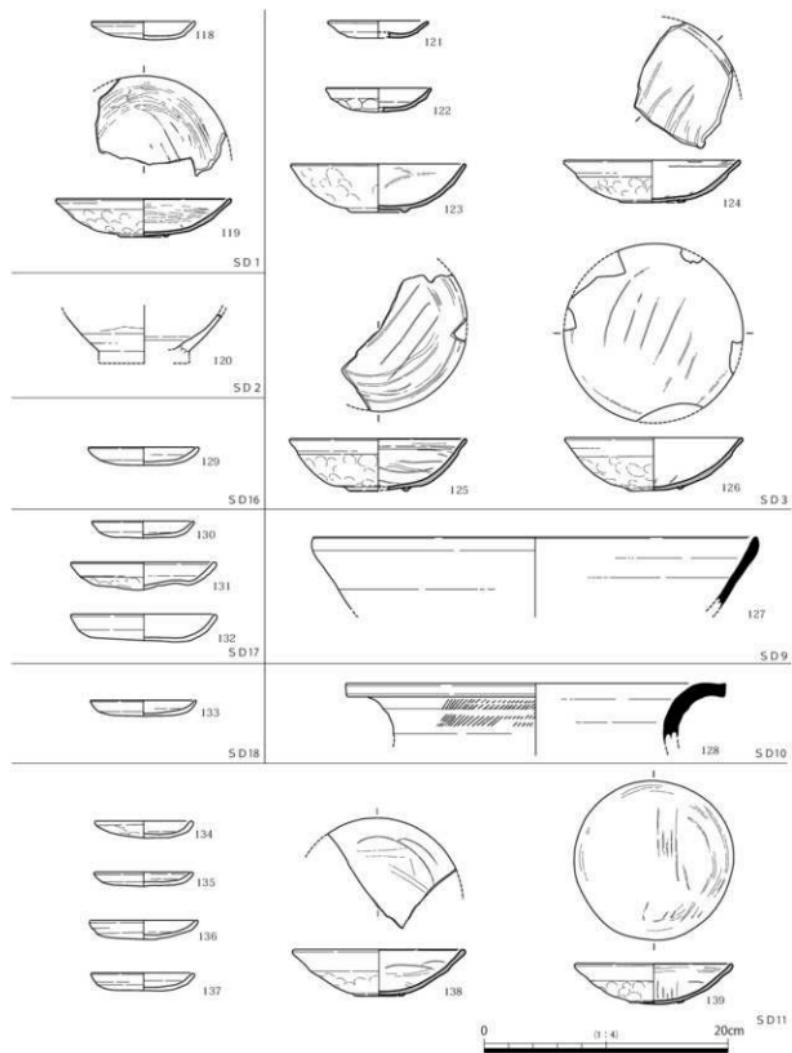


図39 99-4 調査 溝出土遺物実測図

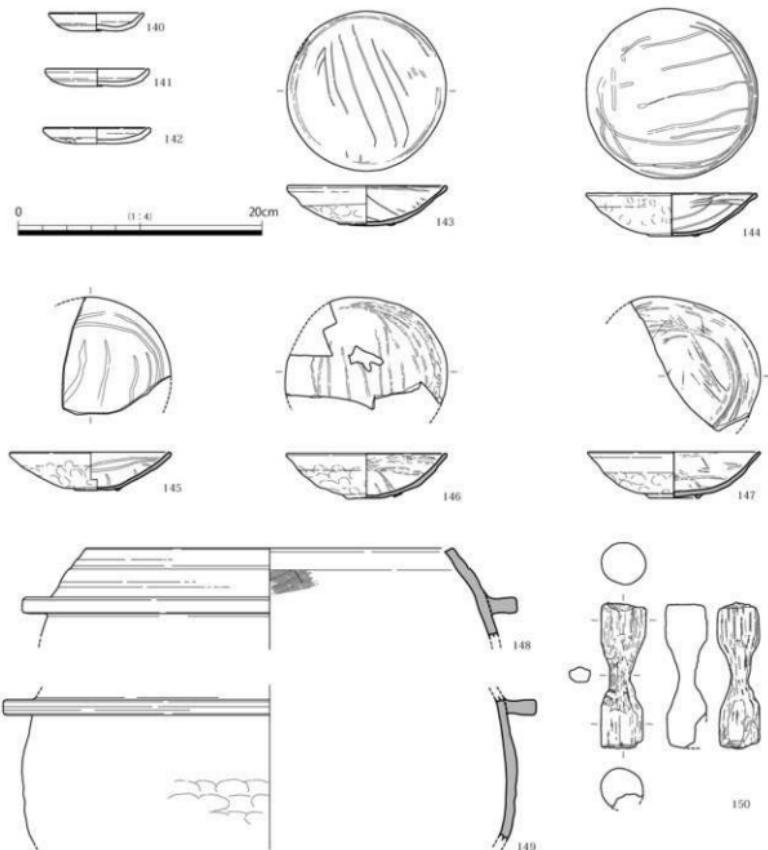


図40 99-4調査 SE 2出土遺物実測図

頸部外面にタタキを施す。

S D 11出土遺物（図39-134～139） 134～137は土師器皿である。いずれも口縁端部に面取りを施す。138・139は瓦器椀である。共に断面三角形状の低い高台をもつ。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型IV-1期である。

S D 16出土遺物（図39-129） 129は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。

S D 17出土遺物（図39-130～132） 130～132は土師器皿である。いずれも口縁端部に面取りを施す。131は底部のユビオサエが強く、底部が波打っている。

S D 18出土遺物（図39-133） 133は土師器皿である。一段ナデを施し、口縁端部はやや尖る。

井戸出土遺物

S E 2出土遺物（図40-140～150） 140～142は土師器皿である。140・141は強いヨコナデにより

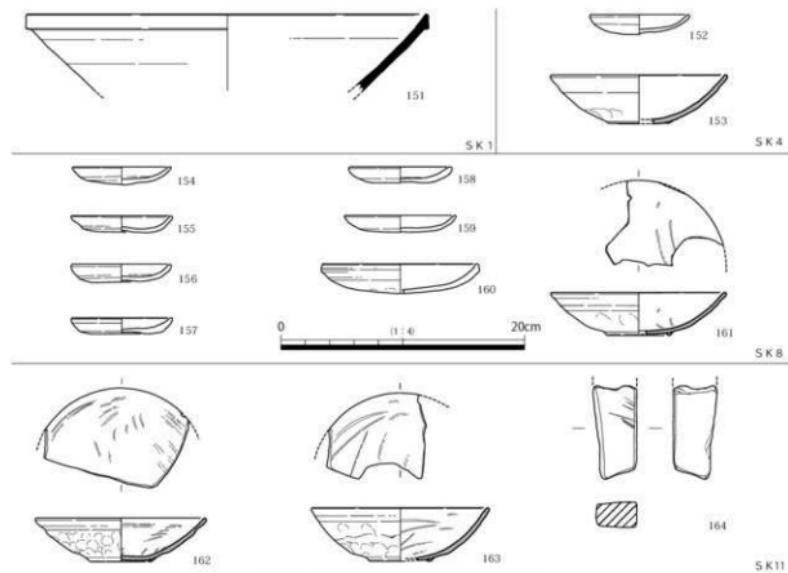


図41 99-4調査 土坑出土遺物実測図

段が生じている。142は底部に指頭圧痕が認められる。いずれも口縁端部に面取りを施す。143～147は瓦器椀である。体部外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-3～IV-2期である。143～146は断面三角形状～半円状の低い高台をもつ。147は断面台形状を呈する。144は内面に煤が付着する。

148・149は瓦質土器羽釜である。共に水平に延びる鉗をもつ。148は口縁部が内傾し、外面に凹線2条を施す。体部内面にハケを施す。149は体部外面に指頭圧痕が認められる。148は外面、149は内外面に煤が付着する。共に菅原分類の摂津E型（13世紀）である。150は木製品で編み具のツチノコである。長さ11.95cm、最大径3.65cm、直径3.6cmを測る。中央部がくびれる鼓形を呈し、ヨコ型で両端に旧丸太面を残さない形態である（渡辺1981のI Y g型）。後述する他遺跡例とも関わるが、表面に樹皮は残っていない。

井戸から出土している例として、奈良時代前半の加治神前畠中遺跡（貝塚市）や奈良時代末～平安時代初期の鬼塚遺跡（東大阪市）、鎌倉時代の九歳遺跡（南あわじ市）がある。加治神前畠中遺跡では、未使用のツチノコが出土している。樹皮の残る未使用の製品であるため、井戸の祭祀に関連する道具の可能性が指摘されている（貝塚市教育委員会1993）。鬼塚遺跡では2点が出土しているが未使用品かどうかは記載されていない（財團法人 東大阪市文化財協会1999）。九歳遺跡では5点が出土しており、2点に樹皮が残っている（南あわじ市教育委員会）。今回の例は、樹皮は確認できていないが、上記のように井戸内から出土している事例が確認できることから、単なる廃棄ではなく、井戸に関連する何らかの行為に伴う遺物の可能性が考えられよう。

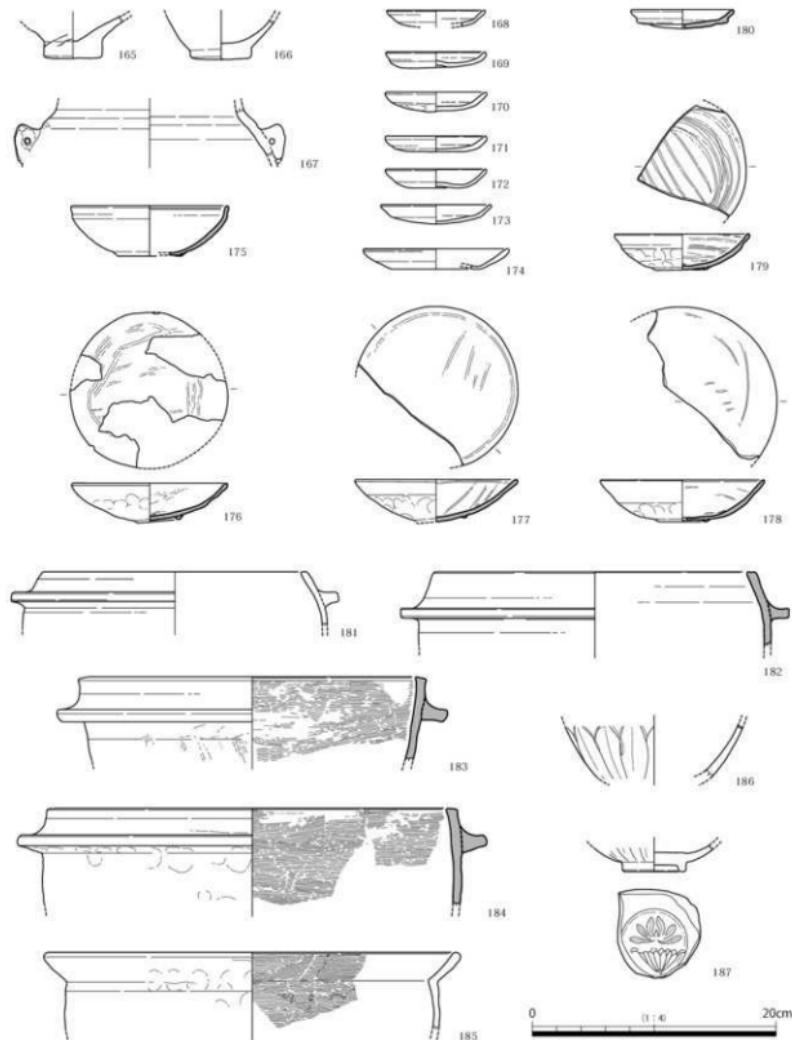


図42 99-4調査 SK 9出土遺物実測図

土坑出土遺物（図41・42）

SK 1出土遺物（図41-151） 151は東播系須恵器鉢である。口縁端部は下方に拡張し面を成す。口縁端部外面に軸がかかる。13世紀中頃である。

SK 4出土遺物（図41-152・153） 152は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。153は瓦器椀

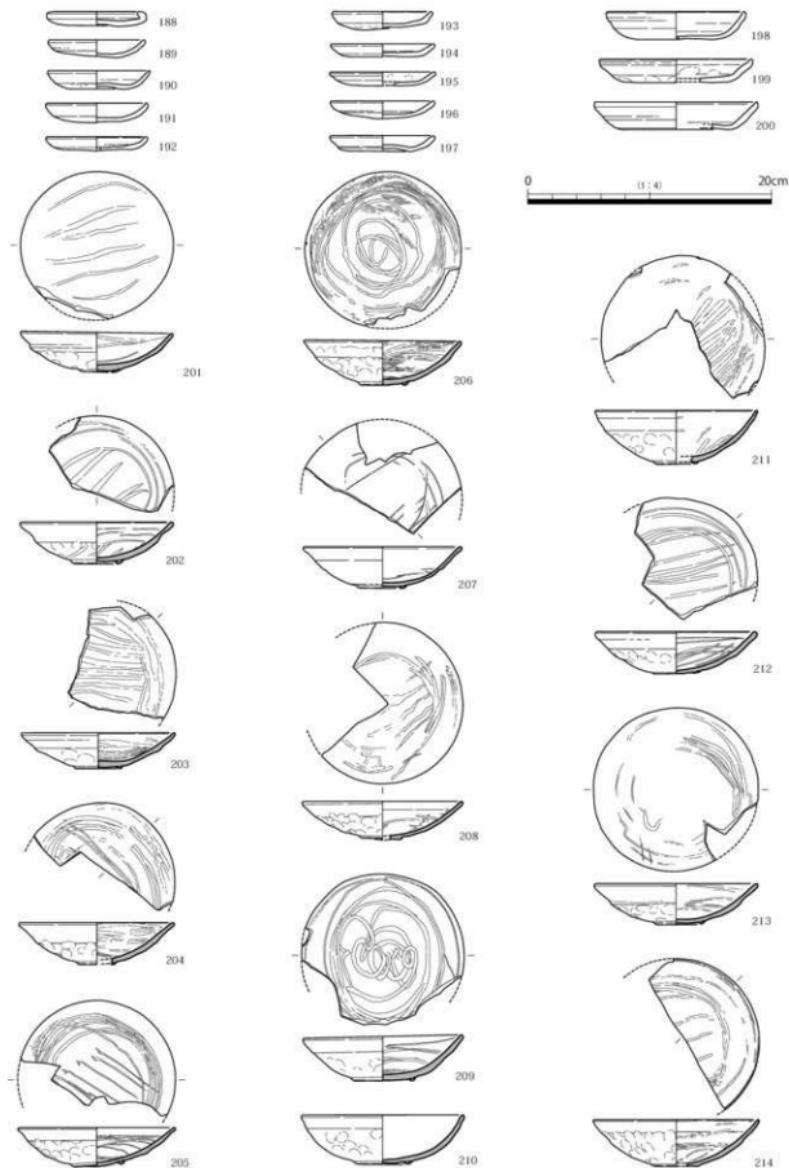


図43 99-4調査 SX1出土遺物実測図(1)

である。極めて低平な高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認められる。内面が磨滅しているため暗文は不明である。いぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。和泉型III-3期である。

S K 8 出土遺物（図41-151～161） 154～160は土師器皿である。154～159は程度の差はあるが、いずれも口縁端部に面取りを施す。160は口縁端部を上方に摘み上げて面を成し、端面は凹線状にくぼむ。底面に指頭圧痕が認められる。161は瓦器椀である。断面三角形状の低い高台をもつ。体部外間に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-3期である。

S K 9 出土遺物（図42-165～187） 165・166は弥生土器甕である。突出した平底の底部をもつ。165は外面にタタキを施す。弥生時代後期である。

166は陶器耳壺である。肩部に扁平な縱方向の耳をもつ。

168～174は土師器皿である。いずれも口縁端部に面取りを施す。175～179は瓦器椀である。175は口縁端部が角度を変えて立ち上がり、内面に沈線を施す。断面三角形状の低い高台をもつ。摩滅のため暗文は認められない。楠葉型III-3～IV-1期か。176～179は断面三角形状～半円状の低い高台をもつ。外面に指頭圧痕のみ認められ、内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。177はいぶしが不良で器表面に炭素吸着が弱い。和泉型IV-1期である。179は口径11.6cmと小型であるが、高台や暗文の様相から同時期と考える。180は瓦器皿である。180は底部と口縁部の境が突線状に段をもつ。

181は土師質土器羽釜である。鍔は短く水平に延び、端部は面を成す。口縁部は内傾する。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。182～184は瓦質土器羽釜である。182は鍔が短く水平に延び、端部は面を成す。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。183・184は鍔と口縁部が近接し、口縁部はほぼ直立する。183は外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。184は内面にヨコハケを施す。183・184とも鍔の接合部に指頭圧痕が認められる。183は鍔の下面に煤が付着する。共に菅原分類の摂津F型（13世紀代）である。185は土師質土器鍋である。口縁部は外方へひろがる。外面頸部に指頭圧痕が認められ、内面にハケを施す。外面に煤が付着する。

186・187は青磁碗である。186は外面に蓮弁を描く。内外面とも施釉する。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-b類（13世紀前後～前半）である。187は外面に蓮弁文を描き、内面見込みに花文のスタンプと團線を施す。高台内は露胎である。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-c類（13世紀前後～14世紀初頭前後）である。

S K 11 出土遺物（図41-162～164） 162・163は瓦器椀である。ともに断面三角形状の低い高台をもつ。口縁部はヨコナデにより段が生じる。外面に指頭圧痕のみが認められる。内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。和泉型III-3～IV-1期である。164は砥石である。残存長7.7cm、幅3.6cm、厚さ2.1cmを測る。重量は84gを量る。砥面は2面でそれぞれ使用痕が認められる。石材は砂岩である。

その他の遺構出土遺物

S X 1 出土遺物（図43～46-188～257） 188～200は土師器皿である。188は口縁部を内側に折り曲げる。いわゆる「コースター形」である。189～200はいずれも口縁端部に面取りを施す。口縁部の形状は、ヨコナデが強く段が生じているもの（189・190）、端部を摘み上げるもの（191・199・200）、底部と口縁部が明瞭に屈曲するもの（193・194）がある。193は外面に煤が付着する。

201～242は瓦器椀である。ほぼ全て断面三角形状～半円状を呈する低い高台をもつ。ほぼ痕跡程

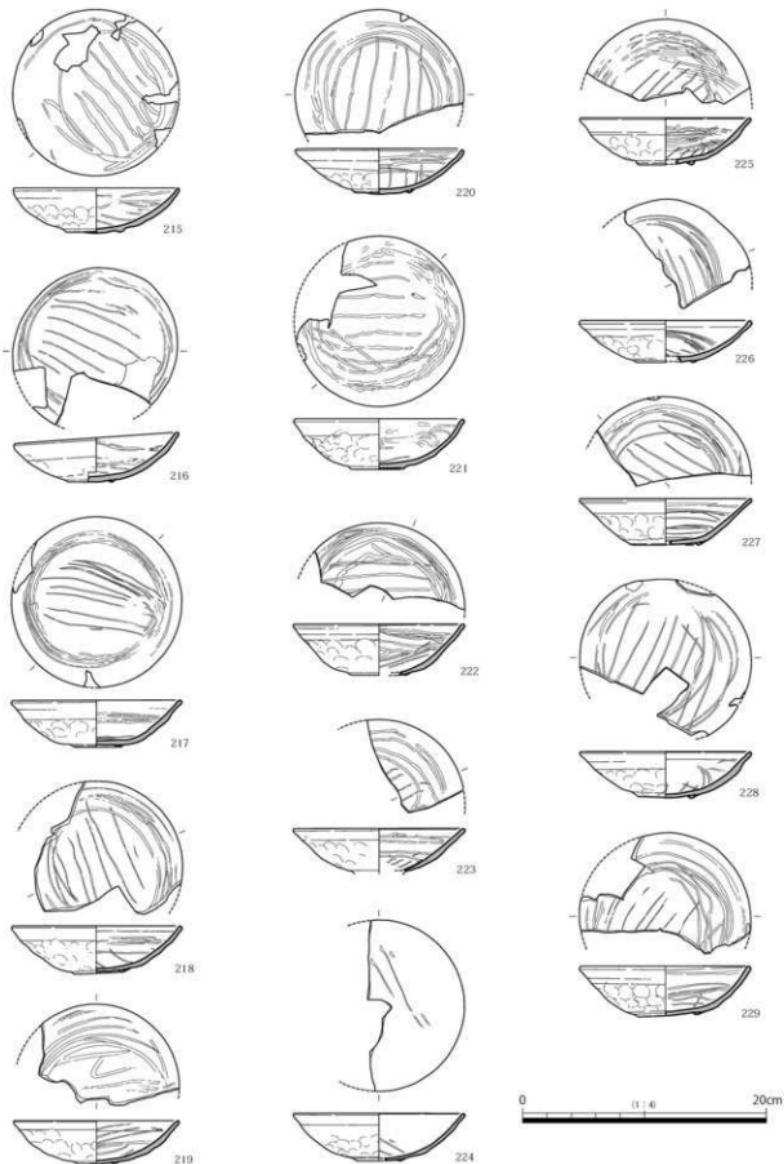


図44 99-4調査 SX1出土遺物実測図(2)

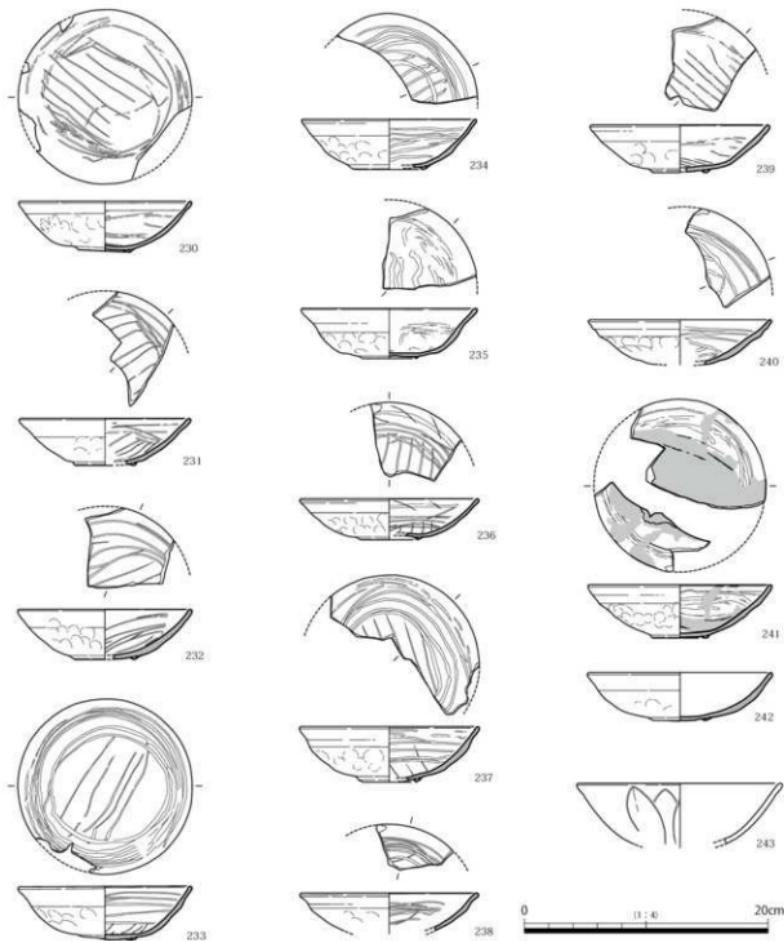


図45 99-4調査 SX1出土遺物実測図(3)

度になっているものも認められる。223は高台が剥離した痕跡が認められる。238は高台が残存していないため不明である。240は高台が認められないが、剥落したものか、当初から無かったのかは不明である。外面はいずれも指頭圧痕のみが認められ、内面は粗いミガキを施す。見込みの暗文は206・209・213は満巻き状暗文、その他は平行線状暗文を施す。207は内面に薄く、219・235は外面に、239は口縁端部に煤が付着する。241は内面に付着物が認められる。211・212・222・224・225・226・228・229・234・236はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。いずれも和泉型Ⅲ-3～Ⅳ-1期である。

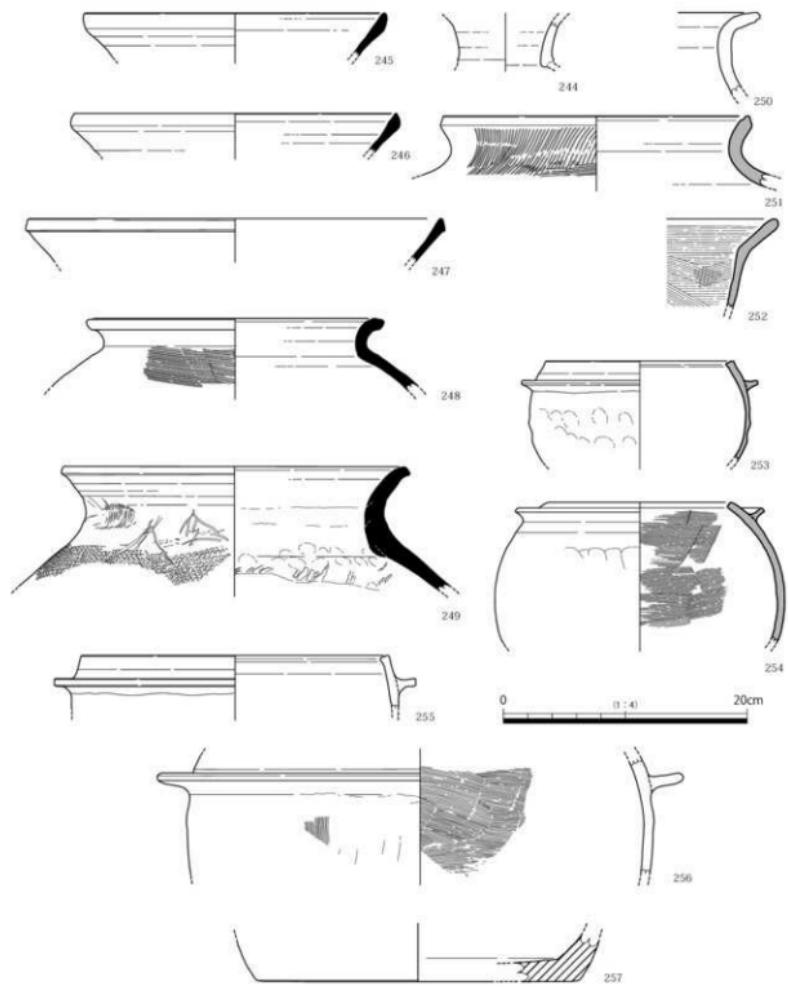


図46 99-4調査 SX1出土遺物実測図(4)

243は青磁碗である。外面に蓮弁文を描く。内外面に施釉する。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-b類である。244は白磁壺である。頸部片である。太宰府分類の白磁壺III類である。

245～247は東播系須恵器鉢である。いずれも口縁端部を上方に拡張し、外側が面を成す。口縁外面に釉がかかる。245は内面に煤が付着する。13世紀初頭である。246は東播系須恵器壺である。口縁部は外方へ屈曲し、端部は面を成す。体部外面にタタキを施す。内外面に煤が付着する。247は須恵器壺である。頸部は器壁が厚い。口縁部は外反し、端部は面を成す。体部外面に格子目タタキ、内面

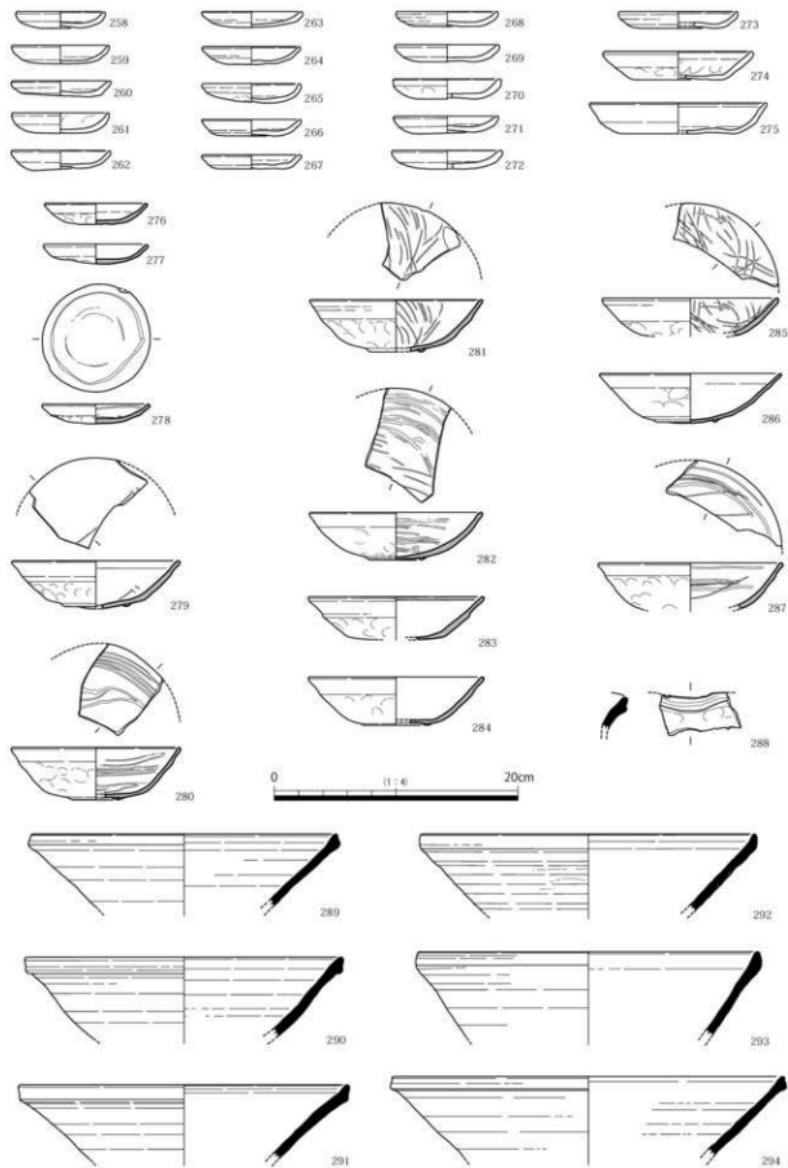


図47 99-4調査 SX3出土遺物実測図(1)

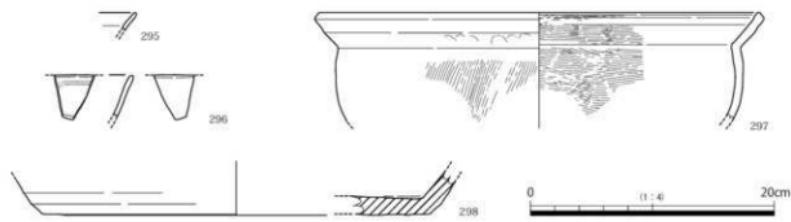


図48 99-4調査 SX3出土遺物実測図(2)

に無文の当て具痕が認められる。頸部にヘラによる線刻が認められる。外面の格子目タタキから龜山焼と考えられる。250は陶器甕である。口縁部は外反し、端部外面に沈線を施す。色調は褐灰色を呈し、内外面に釉がかかる。丹波焼である。

251は瓦質土器甕である。口縁部は外反し、端部内面に段をもつ。頸部にタタキを施す。252は瓦質土器鍋である。口縁部は外側に屈曲してひらく。内面にハケを施す。253は瓦質土器羽釜である。鍔は水平に延び、口縁部は内傾し、口縁端部上端は面を成す。外面井指頭圧痕が認められる。内外面に煤が付着する。菅原分類の摂津E型(13世紀代)である。254は瓦質土器三足釜である。球形の体部をもつ。鍔は斜め上方に短く延びる。外面にナデ、内面にハケを施す。内外面に煤が付着する。255・256は土師質土器羽釜である。255は鍔が水平に延び、端部が面を成す。口縁部は内傾し、端部上端が面を成す。菅原分類の摂津E型(13世紀代)である。256は口縁部を欠く。鍔は水平に延び、端部は丸く收める。外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。外面の鍔より下部に煤が付着し、内面の株にも薄く煤が付着する。菅原分類の摂津F型(13世紀代)である。257は滑石製石鍋の底部である。平底を呈する。外面に煤が付着する。

SX3出土遺物(図47・48-258~298) 258~275は土師器皿である。258~274は口縁端部に面取りを施す。265・270・274は外面に指頭圧痕が認められる。275は口縁端部内面に段をもつ。

276・277は瓦器皿である。共に外面に指頭圧痕が認められる。278は内面に圓線状のミガキを施す。279~287は瓦器楕である。いずれも外面に指頭圧痕が認められる。283・284は口縁部のヨコナデが強く段が生じている。279~282・284・286は断面三角形状~半円状を呈する低い高台をもつ。283は高台が剥離しているか、元々持たない。内面は279・287は粗いミガキ、280・282は比較的密なミガキ、281・285は内面と見込みの区別なく粗いミガキを施す。見込みには279・282・287は平行線状暗文、280は満巻き状暗文を施す。279・282・283・287はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。いずれも和泉型III-3期である。

288~294は東播系須恵器鉢である。288は片口部分の破片である。290・294は口縁部を下方に拡張し、その他のものは上方に拡張する。289・290・291・294は口縁部に釉がかかる。

295は白磁碗である。296は青磁碗である。内面に2条の櫛描文が認められる。太宰府分類のI-4類(12世紀中頃~後半)である。

297は土師質土器鍋である。口縁部は外方へひらいて延び、端部は面を成し、端面は凹線状にくぼむ。外面にナナメハケ、内面にヨコハケを施す。頸部に指頭圧痕が認められる。298は滑石製石鍋の底部である。平底を呈する。

包含層出土遺物(図49-299~328) 299~313は土師器皿である。299~305・312・313は口縁端部

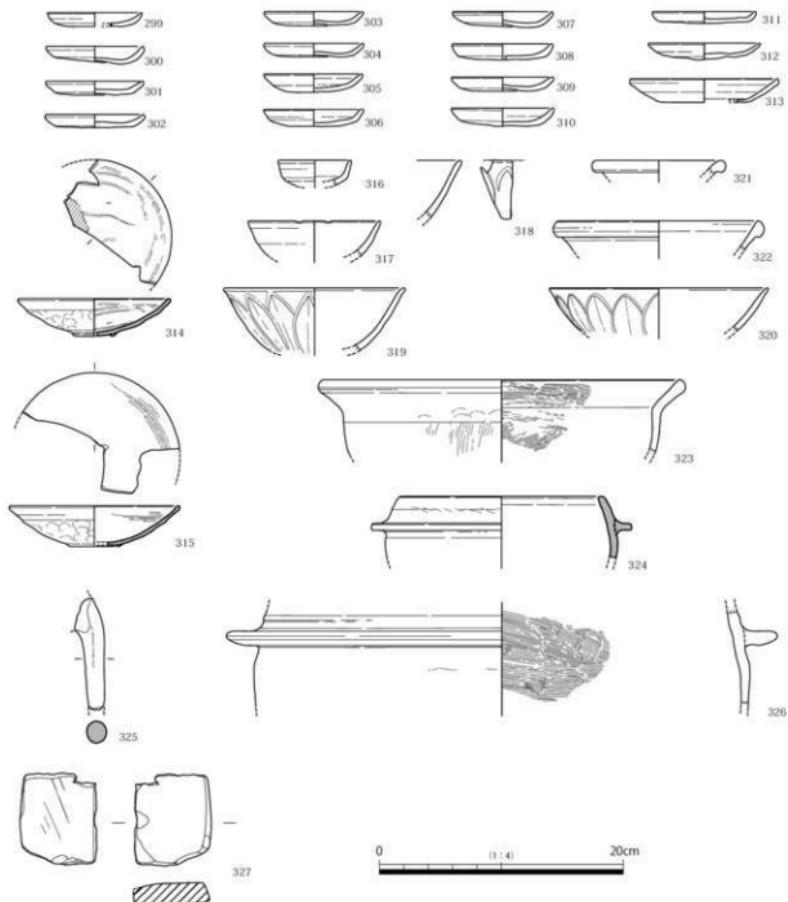


図49 99-4調査 包含層出土遺物実測図

に面取りを施す。306～310は面取りが簡略化されている。311は口縁部が短く立ち上がる。

314・315は瓦器椀である。共に断面三角形～半円状の低平な高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキを施す。314は見込みに平行線状暗文を施す。内面に煤が付着する。いぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。共に和泉型IV-1期である。

316は古瀬戸小杯である。『H 12 概報』では「古瀬戸合子蓋」としたが、古瀬戸に該当器種が無いため、検討の結果、小杯とした。古瀬戸後II期（14世紀前半）である。317は青磁小碗である。口縁部が輪花状を呈する。太宰府分類の龍泉窯青磁小碗I-1b類である。12世紀中頃～後半である。318～320は青磁碗である。いずれも口縁端部はわずかに外反する。318は外面に蓮弁を描く。太宰

第Ⅳ章 調査の成果

表2 99-4調査 検出遺構一覧表

地区	遺構番号	規模 (m)			出土遺物
		長さ	幅	深さ	
Z	S P 1	0.5	0.5	0.07	土師器
Z	S P 2	0.45	0.4	0.35	土師器・瓦器
Z	S P 3	0.3	0.3	0.4	土師器・瓦器
Z	S P 4	0.8	0.3	0.45	土師器・須恵器・瓦器
Z	S P 5	0.4	0.3	0.7	土師器・須恵器・瓦器
Z	S P 6	0.4	0.3	0.3	土師器・須恵器・瓦器
I	S P 7	0.9	0.8	0.05	土師器・須恵器
I	S P 8	0.5	0.4	0.05	須恵器
Z	S P 9	0.4	0.4	0.2	鉄製品
Z	S P 10	0.35	0.35	0.3	土師器・瓦器
Z	S P 11	0.3	0.25	0.2	瓦器
Z	S P 12	0.4	0.4	0.14	
Z	S P 13	0.5	0.5	0.28	
3	S P 14	1.0	0.8	0.13	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 15	0.5	0.5	0.5	土師器・瓦器
3	S P 16	0.4	0.25	0.5	土師器
3	S P 17	0.2	0.2	0.2	土師器
3	S P 18	0.5	0.4	0.4	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 19	0.5	0.5	0.13	土師器・瓦器
3	S P 20	0.4	0.4	0.4	土師器・瓦器
3	S P 21	0.54	0.54	0.4	土師器
3	S P 22	0.2	0.2	0.1	土師器
3	S P 23	0.2	0.2	0.2	土師器・須恵器
3	S P 24	0.5	0.4	0.4	土師器
3	S P 25	0.6	0.6	0.25	鐵器
3	S P 26	0.25	0.25	0.5	土師器
3	S P 27	0.4	0.4	0.5	土師器
3	S P 28	0.3	0.3	0.35	土師器
3	S P 29	0.35	0.3	0.3	瓦器
3	S P 30	0.34	0.2	0.24	土師器
3	S P 31	0.3	0.3	0.1	土師器
3	S P 32	0.4	0.3	0.22	土師器・瓦器
3	S P 33	0.3	0.3	0.2	土師器・瓦器・磁器
3	S P 34	1.0	0.5	0.4	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 35	0.5	0.6	0.6	土師器・須恵器
3	S P 36	0.4	0.4	0.44	土師器・須恵器・瓦器・磁器
3	S P 37	0.6	0.5	0.8	土師器・瓦器
3	S P 38	0.5	0.5	0.5	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 39	0.5	0.4	0.5	土師器・瓦器
3	S P 40	0.7	0.5	0.32	土師器・瓦器
3	S P 41	0.44	0.44	0.5	土師器・瓦器
3	S P 42	0.5	0.4	0.5	土師器・瓦器
3	S P 43	0.4	0.4	0.5	土師器・瓦器
3	S P 44	0.6	0.5	0.4	土師器・瓦器
3	S P 45	0.3	0.3	0.15	土師器
3	S P 46	0.4	0.3	0.6	土師器・瓦器
3	S P 48	0.45	0.4	0.35	土師器・瓦器
3	S P 49	0.3	0.2	0.5	土師器
3	S P 50	0.3	0.2	0.4	須恵器
3	S P 51	0.9	0.45	0.3	土師器・瓦器
3	S P 52	0.5	0.5	0.45	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 53	0.4	0.3	0.5	土師器・須恵器
3	S P 54	0.2	0.2	0.27	土師器・瓦器
3	S P 55	0.7	0.4	0.3	
3	S P 56	0.9	0.5	0.04	瓦器
3	S P 57	0.8	0.6	0.8	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 58	0.1	0.1	0.1	土師器
3	S P 59	0.34	0.3	0.15	土師器・瓦器
3	S P 60	0.3	0.3	0.14	土師器
3	S P 61	0.25	0.25	0.09	土師器
3	S P 62	0.3	0.25	0.3	土師器
3	S P 63	0.5	0.4	0.5	土師器・須恵器・瓦器
3	S P 64	0.3	0.3	0.07	須恵器・瓦器
3	S P 65	0.34	0.32	0.24	瓦器
3	S P 66	0.5	0.5	0.4	
3	S P 67	0.3	0.2	0.4	瓦器
3	S P 68	0.4	0.3	0.35	土師器
3	S P 69	0.5	0.2	0.1	土師器・瓦器

地区	遺構番号	規模 (m)			出土遺物
		長さ	幅	深さ	
3	S P 70	0.28	0.24	0.2	土師器
3	S P 71	0.3	0.3	0.18	土師器
3	S P 72	0.5	0.4	0.16	土師器・瓦器・磁器
3	S P 73	0.6	0.6	0.35	瓦器
3	S P 74	0.4	0.4	0.23	土師器
2	S K 1	2.0	1.7	0.15	土師器・須恵器・瓦器
2	S K 2	6.0	3.0	0.2	土師器・須恵器・瓦器
2	S K 3	1.7	1.5	0.38	土師器・須恵器・瓦器・陶器・磁器
1	S K 4	2.8	2.8	0.1	土師器・須恵器・瓦器
1	S K 5	0.9	0.6	0.1	土師器・須恵器
1	S K 6	1.5	0.5	0.08	土師器・須恵器
1	S K 7	0.8	0.2	0.09	須恵器・瓦器
2	S K 8	2.75	2.1	0.23	土師器・須恵器・瓦器
2	S K 9	5.0	2.8	0.2	土師器・須恵器・瓦器・鐵器
2	S K 10	2.6	0.8	0.25	須恵器
1	S K 11	1.0	0.2	0.06	土師器・瓦器
3	S K 12	3.4	1.3	0.1	土師器
2	S K 13	5.0	3.0	0.1	土師器・瓦器
3	S K 14	0.3	0.3	0.26	土師器
2	S D 1	20.0	2.4	0.32	土師器・須恵器・瓦器
1	S D 2	15.0	3.0	0.14	土師器・陶器
1	S D 3	4.0	0.4	0.14	土師器・須恵器・瓦器
1	S D 4	1.0	0.3	0.1	土師器・須恵器
1	S D 5	42.0	0.4	0.14	土師器・須恵器
1	S D 6	4.1	0.6	0.14	土師器・須恵器
1	S D 7	5.0	0.2	0.1	須恵器
1	S D 8	1.4	0.35	0.13	須恵器・瓦器
1	S D 9	12.0	0.6	0.1	土師器・須恵器・瓦器
2	S D 10	12.0	2.0	0.17	土師器・須恵器・瓦器
1	S D 11	8.0	1.2	0.1	土師器・瓦器
1	S D 12	5.0	1.0	0.13	土師器・須恵器
1	S D 13	40.0	6.0	0.2	須恵器
1	S D 14	12.0	1.0	0.06	土師器・瓦器
3	S D 15	4.5	0.5	0.15	鐵器
3	S D 16	7.0	1.0	0.1	土師器・須恵器・瓦器
3	S D 17	0.9	0.4	0.1	土師器・瓦器
3	S D 18	4.0	0.6	0.03	土師器・須恵器・瓦器
1	S E 1	3.0	2.6	1.2	
3	S E 2	2.2	1.4	1.7	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・木製品
2	S X 1	5.0	5.0	0.9	土師器・須恵器・瓦器・行呂製品・木製品
1	S X 2	8.0	7.4	0.18	土師器・瓦器
3	S X 3	5.0	2.0	0.3	土師器・須恵器・瓦器・石製品

府分類の龍泉窯青磁碗II類である。319・320は外面に錦蓮弁文を描く。太宰府分類の龍泉窯青磁碗II-b類である。318～320は13世紀前半である。321は白磁壺である。口縁端部は玉縁状を呈する。太宰府分類の白磁壺III類である。322は白磁碗である。口縁端部外面に玉縁をもつ。太宰府分類の白磁碗IV類（11世紀後半～12世紀前半）である。

323は土師質土器鍋である。口縁部は外方へひろがる。端部は面を成す。外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。頸部に指頭圧痕が認められる。外面に煤が付着する。324は瓦質土器羽釜である。鍔は水平に延び、端部は面を成す。口縁部は内傾する。菅原分類の摂津F型（13世紀代）である。325は瓦質土器三足釜である。脚部の破片で、断面は円形を呈する。326は土師質土器羽釜である。口縁部は欠損する。鍔は水平に延び、端部は丸く收める。内面にハケを施す。菅原分類の摂津F型（13世紀代）である。

327は砥石である。上下は欠損する。残存長6.3cm、幅7.5cm、厚さ1.8cmを測る。2面に使用痕跡が認められる。石材は砂岩である。重量は153gを量る。

（5）小結

現時点では、宿久庄遺跡の南東端に位置する調査区である。第2・第3調査区を中心として中世の遺構を多数検出した。遺物も多く出土しており、特にS X 1、S E 2、S K 9といった遺構から良好な状態のものが出土している。遺物の時期はほぼ13世紀の中頃～後半に集中しており、生活の場として利用されたのは、この時期に集中しているようである。出土遺物の内に、輸入磁器、滑石製石鍋、東播系須恵器などの広域流通品が多数認められることが注目される。また、このあたりでは稀少な龜山焼が出土しており、山陽道を介した流通が盛んであったことを窺わせる。宿久庄遺跡は文献上に表れる宿久村の推定地であり、これらとの関連も視野に入れる必要があろう。

第8節 06-1 調査

（1）はじめに

豊原町で計画された共同住宅の建築に伴って行われた発掘調査である。事前の確認調査の結果、遺物包含層を検出した敷地の南西部について、本調査を実施することとなった。調査区は、計画された建物の形状に従って、東西19m×南北10mと東西15m×南北10mの2つの長方形が屈折して繋がる形状を呈する。調査面積は330m²である。『平成19年度発掘調査概報』[茨木市教育委員会2008]で調査の概要を報告している。

（2）基本層序（図50）

基本層序は大別5層に分けられる。0層は擾乱・盛土層（層厚2.6m）、1層は耕土層（層厚0.2m）、2層は遺物包含層（層厚0.3m）、3層は遺物包含層（層厚0.2m）、4層は遺物包含層（層厚0.2m）、5層は地山層である。2層下面で第1遺構面、4層下面で第2遺構面を検出した。

（3）遺構

第1遺構面（図51） ピット128基、土坑11基、溝6条、井戸1基、竪穴建物2棟を検出した。各遺構からは土師器が出土しているが、一部に弥生土器が出土しているものも認められる。土師器は細片で図化できず、弥生土器のみを図示した。そのため、図示した遺物が遺構の時期を反映していない可能性もある。各遺構の規模などは表3にまとめており、以下では遺物を掲載した遺構を中心に記述する。

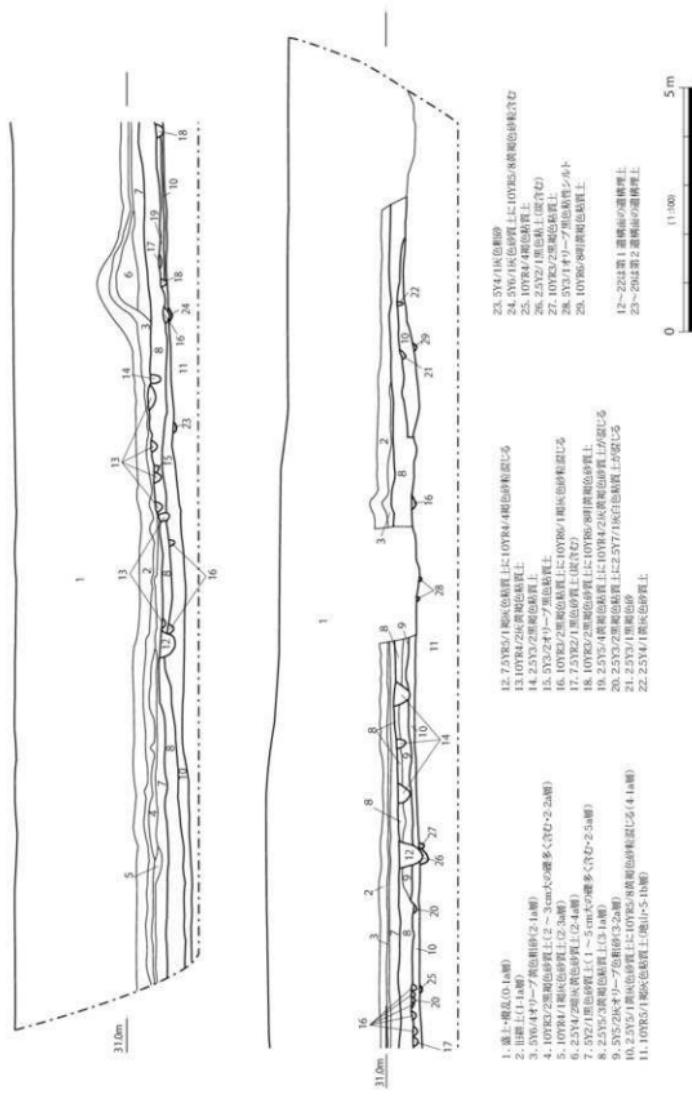


図 50 06-1 調査 北壁土層断面図

ピット 調査区全体に広がって多数検出しているが、掘立柱建物としてプランを想定できるものは認められない。平面形状は円形で直径0.2~0.5mを測る。

S P 32 調査区中央部で検出した円形を呈するピットである。長径0.25m、短径0.2m、深さ0.25mを測る。埋土の様相は断面図が作成されていないため不明である。遺物は弥生土器・土師器が出土している。

土坑 長径1.5m、短径0.6m程度を測るものが調査区全体で検出されている。平面形状は楕円形を呈するものが多い。遺構の長軸は東西方向を向くものと、南北方向を向くものとが認められるが、特に法則性は認められないようである。

S K 7 調査区中央部で検出した。長径1.5m、短径0.65m、深さ0.2mを測る。平面形状は楕円形を呈する。埋土は灰色粘質土と灰色砂質土の2層からなる。遺物は弥生土器が出土している。

S K 10 調査区西側で検出した。長径1.6m、短径0.95m、深さ0.2mを測る。平面形状は楕円形を呈する。埋土は黒褐色粘質土と褐色砂粒混じり灰黄褐色粘質土の2層からなる。遺物は弥生土器・土師器が出土している。

溝 規模は様々で、特に規格性は認められない。

井戸 S E 1は調査区西端で検出した。直径1.1m、深さ1.5mを測る。遺物は出土していない。井戸枠は検出されておらず、素掘りであったと考えられる。

竪穴建物跡1 調査区中央部で近接して検出した（調査時の名称はS I 1・2）。

竪穴建物跡1 北西辺2.5m、北東辺3.0mを検出した。3m四方程度の方形を呈

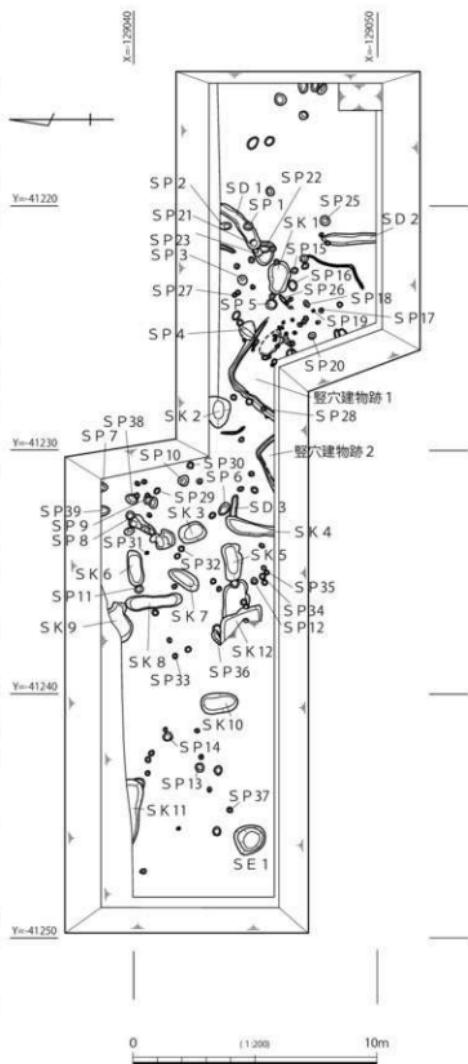


図51 06-1調査 第1面平面図

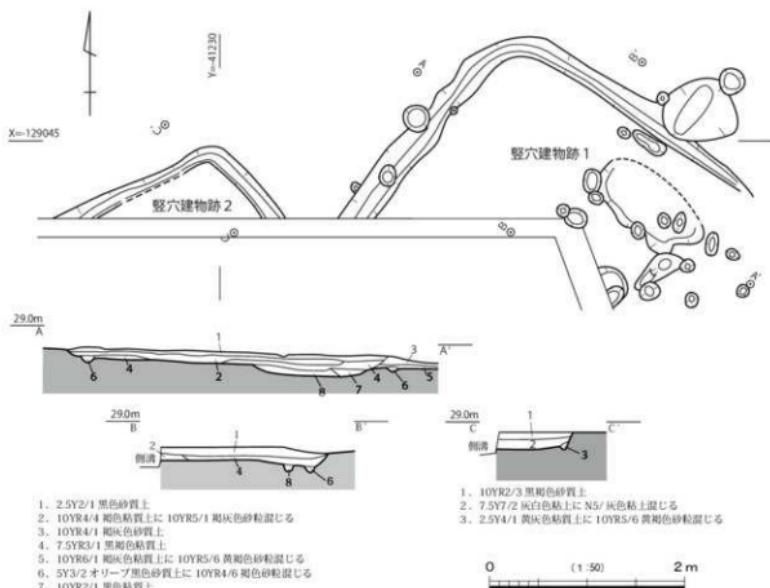


図 52 06-1 調査 縫穴建物跡 1・2 平面・断面図

する小型の縫穴建物跡と考えられる。深さ0.2mを測る。内側から複数のビットを検出しているが、主柱穴は不明である。遺物は弥生土器・土師器が出土している。

縫穴建物跡2 北西辺1.7m、北東辺1.0mを検出した。深さ0.2mを測る。検出部分が少ないため、内側の状況は定かではない。縫穴建物1と同様に方形を呈すると考えられる。遺物は土師器が出土している。共に古墳時代前期頃か。

調査区内では、切り合いは確認できなかったが、調査区外で重複していると考えられる。そのため、時期差は存在すると考えられるが、前後関係は不明である。

第2遺構面(図53) ビット83基、土坑10基、溝8条、自然流路1条を検出した。各遺構からは遺物が出土していない。そのため各遺構の時期は不明である。

第1遺構面は出土遺物の年代から弥生時代中期以降と考えられることから、第2遺構面はそれ以前と考えられる。

いずれの遺構も調査区内での規則性はつかむことができず、掘立柱建物などの考察には至らなかった。

(4) 出土遺物(図54)

包含層出土遺物(328~331)

328は土師器ないし弥生土器の甕である。口縁部は上方に摘み上げ、受口状を呈する。端部は面をもつ。東海系もしくは近江系の搬入遺物か。弥生時代後期~古墳時代前期である。

329~331は弥生土器の平底の底部である。体部は斜め上方に延びる。329は薄手の底部である。

330はやや厚手の底部である。331は内面にミガキを施す。

SK 7出土遺物（332～334） いずれも弥生土器である。332は甌である。直立する体部をもち、口縁部は直角に近い角度で屈曲し、端部は丸く收める。頸部にヘラ描直線文2条を施す。前期（摺津I様式）である。333・334は平底の底部である。いずれも体部は斜め上方に延びる。333は厚手である。334は外面にハケを施す。

SP 32出土遺物（335） 335は弥生土器である。平底の底部である。外面にハケを施す。体部は斜め上方に延びる。

竪穴建物跡1出土遺物（336） 336は弥生土器である。平底の底部である。体部が外側に開くため、壺と考えられる。

SK 10出土遺物（337） 337は弥生土器である。平底の底部である。体部は直立気味に立ち上がる。

（5）小結

当調査区では、2面の遺構面を検出した。特筆する遺構として、第1面で検出した竪穴建物跡1・2がある。共に一部の検出に留まっているが、平面形状が方形を呈する竪穴建物跡の一部と考えられる。近接していることから、調査区外で重複していると考えられる。

出土遺物で図化し得たのは弥生土器の底部のみである。出土遺物中には土師器も認められるが細片であるため、詳細な時期は判断し難い。少なくとも近畿地方で竪穴建物の平面形が方形を呈するようになる弥生時代後期以降と考えられる。

古墳時代前期であった場合は、400m西に位置する99-1調査（本書第6節）で検出した竪穴建物跡との関連も考えられる。両調査区の間に集落が広がってい

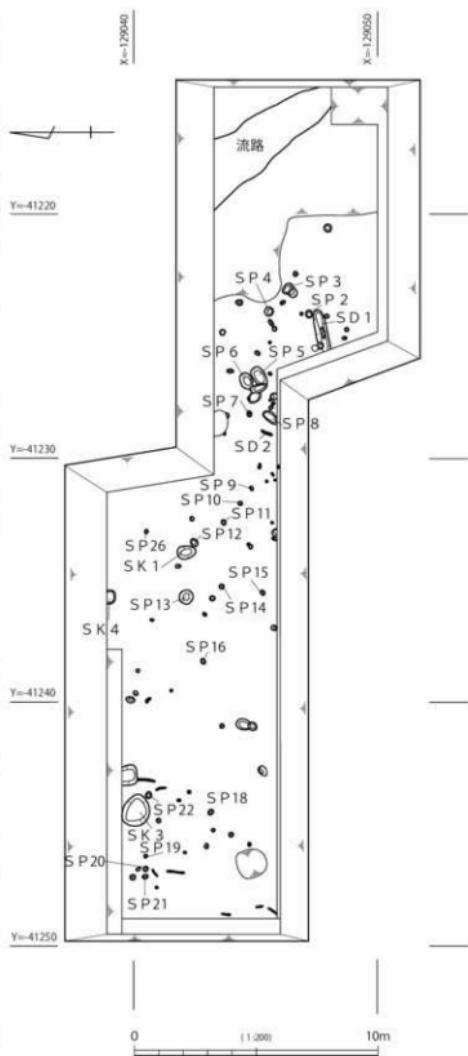


図53 06-1調査 第2面平面図

第Ⅲ章 調査の成果

表3 06-1調査 検出遺構一覧表

遺構 番号	遺構 番号	規模 (m)			出土遺物
		長さ	幅	深さ	
1	S P 1	0.4	0.35	0.1	土師器
1	S P 2	0.4以上	0.3	0.1	
1	S P 3	0.4	0.4	0.3	
1	S P 4	0.75	0.65	0.05	
1	S P 5	0.5	0.45	0.08	
1	S P 6	0.6	0.4	0.1	
1	S P 7	0.35	0.15以上	0.13	土師器
1	S P 8	0.4	0.35	0.22	土師器
1	S P 9	0.4	0.3	0.08	土師器
1	S P 10	0.5	0.45	0.13	
1	S P 11	0.35	0.35	0.3	
1	S P 12	0.25	0.25	0.15	
1	S P 13	0.4	0.35	0.1	
1	S P 14	0.35	0.35	0.08	
1	S P 15	0.25	0.25	0.1	土師器
1	S P 16	0.5	0.35	0.05	土師器
1	S P 17	0.2	0.15	0.08	土師器
1	S P 18	0.3	0.2	0.15	土師器
1	S P 19	0.1	0.1	0.3	土師器
1	S P 20	0.3	0.25	0.13	土師器
1	S P 21	0.55	0.4	0.22	土師器
1	S P 22	0.45	0.3	0.6	土師器
1	S P 23	0.45	0.4	0.15	土師器
1	S P 25	0.4	0.4	0.11	土師器
1	S P 26	0.5	0.15	0.06	土師器
1	S P 27	0.2	0.2	0.1	土師器
1	S P 28	0.2	0.15	0.15	土師器
1	S P 29	0.3	0.25	0.25	土師器
1	S P 30	0.25	0.25	0.13	土師器
1	S P 31	0.15	0.1	0.15	角生土器・土師器
1	S P 32	0.25	0.2	0.25	角生土器・土師器
1	S P 33	0.2	0.2	0.15	土師器
1	S P 34	0.25	0.25	0.25	土師器
1	S P 35	0.2	0.2	0.15	土師器
1	S P 36	0.5以上	0.3以上	0.15	土師器
1	S P 37	0.25	0.25	0.2	土師器
1	S P 38	0.55	0.4	0.14	
1	S P 39	0.4	0.2以上	0.3	
1	S D 1	2.3	0.5	0.1	土師器
1	S D 2	1.9以上	0.5	0.15	土師器
1	S D 3	1.0以上	0.25	0.1	
1	S K 1	1.3	0.95	0.14	
1	S K 2	1.35	0.62以上	0.4	土師器
1	S K 3	1.15	0.85	0.22	土師器
1	S K 4	2.0以上	0.65	0.1	角生土器・土師器
1	S K 5	1.6	0.8	0.1	土師器
1	S K 6	1.5	0.6	0.4	
1	S K 7	1.5	0.65	0.2	角生土器・土師器
1	S K 8	2.5	0.6	0.35	角生土器・土師器
1	S K 9	1.6	0.65	0.25	
1	S K 10	1.6	0.95	0.2	角生土器・土師器
1	S K 11	2.75	0.5以上	0.3	土師器
1	S K 12	1.65	0.6以上	0.15	
1	S E 1	1.3	1.2	1.5	
1	S I 1	3.5以上	2.5以上	0.2	角生土器・土師器
1	S I 2	1.8以上	1.2以上	0.2	土師器

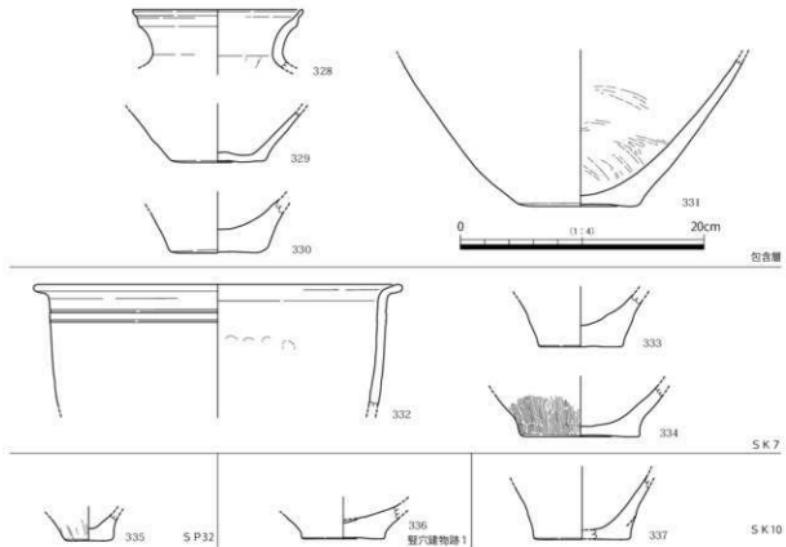


図 54 06-1 調査 出土遺物実測図

た可能性も考えられるが、現時点では調査例がないため、可能性を指摘するに留める。

また、SK7から弥生時代前期の甕が出土しているが、土器の残存状態が良好ではないため、これを持って遺構の時期を判断するのは躊躇する。しかし、前期の土器は他には、11-1調査（本書第9節）で包含層中から出土しているのみであり、宿久庄遺跡及び周辺地域における弥生時代の始まりを考える上で、重要な成果である。

第9節 11-1 調査

(1) はじめに

藤の里二丁目で計画された倉庫の新築に伴って行われた発掘調査である。南北に分割（北側をI区、南側をII区と呼称）して調査を行った。I区は2面、II区は1面の遺構面を対象として調査を行った（調査面積4,930m²）。

(2) 基本層序（図55・56）

調査区全体に分厚い盛土（層厚約1.5～3.0m）がなされている。盛土は南側に向かうにつれ分厚くなっている。これは後述するように棚田として造成されていたためであろう。I区内では3段の耕作面が確認されている。基本層序は、図55・56では細かく分層されているが、盛土以下で大別4層の層序を確認した。1. 旧耕作土（0.2m）、2. 遺物包含層（層厚0.2m）、3. 粗砂層（層厚0.5m・第1遺構面ベース層）、4. 細砂～粗砂を主体とする層（第2遺構面ベース層）である。

(3) 遺構

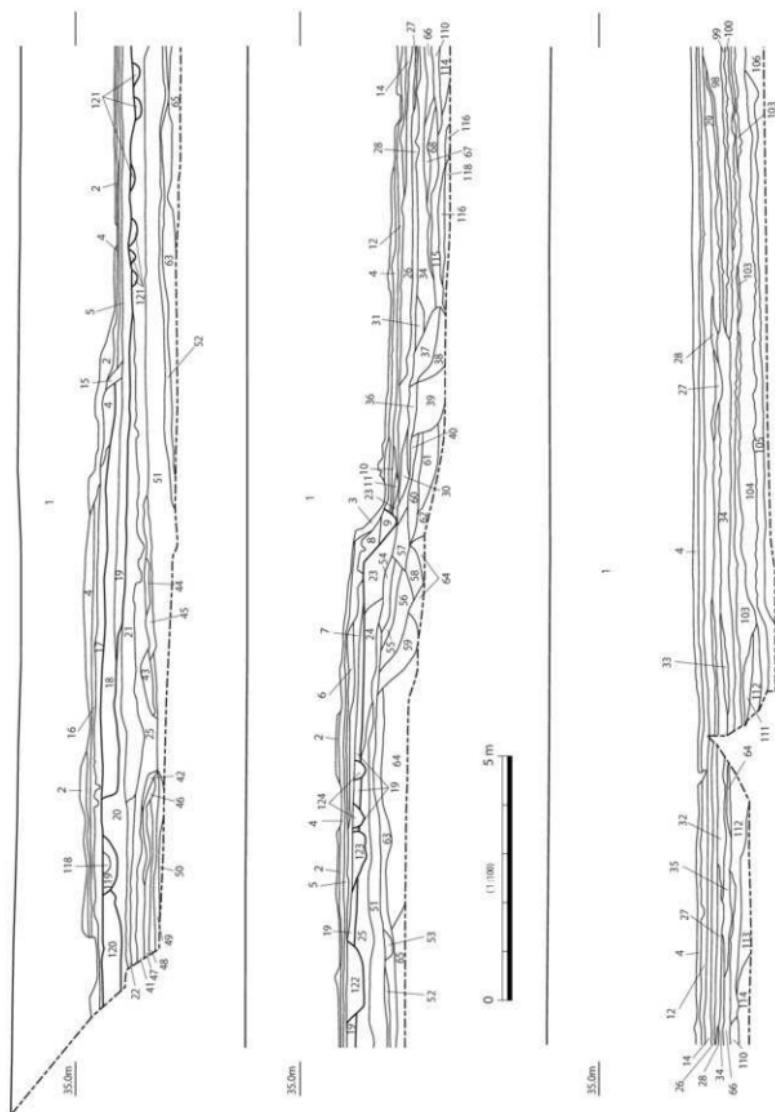


図 55 11-1 調査 東壁土層断面図（1）

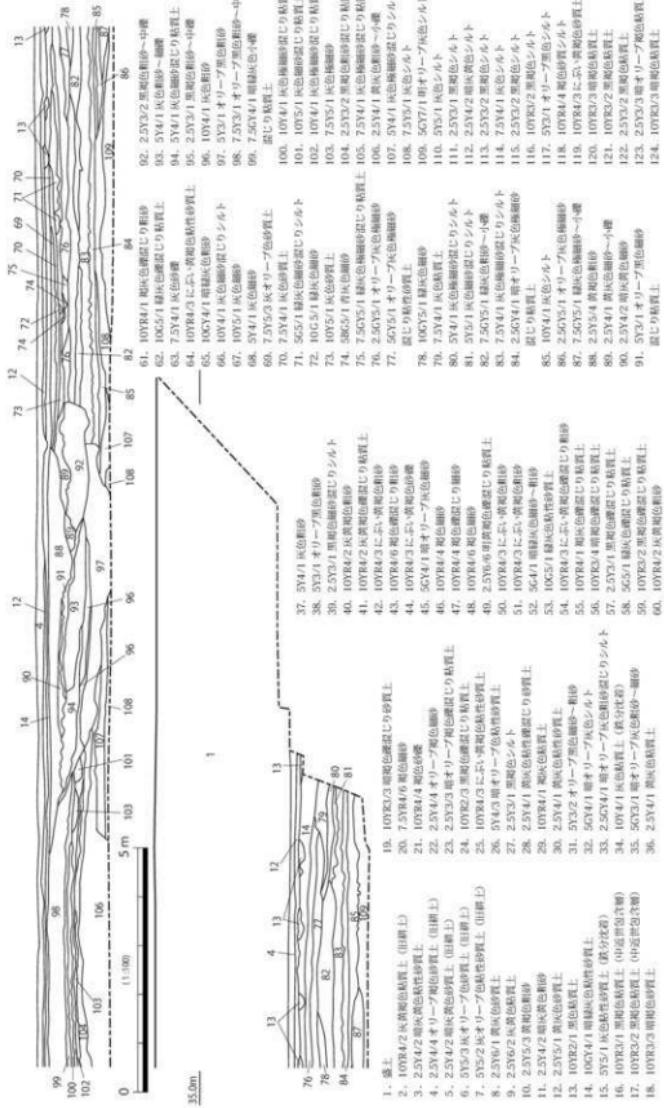


図 56 11-1 調査 東壁土層断面図 (2)

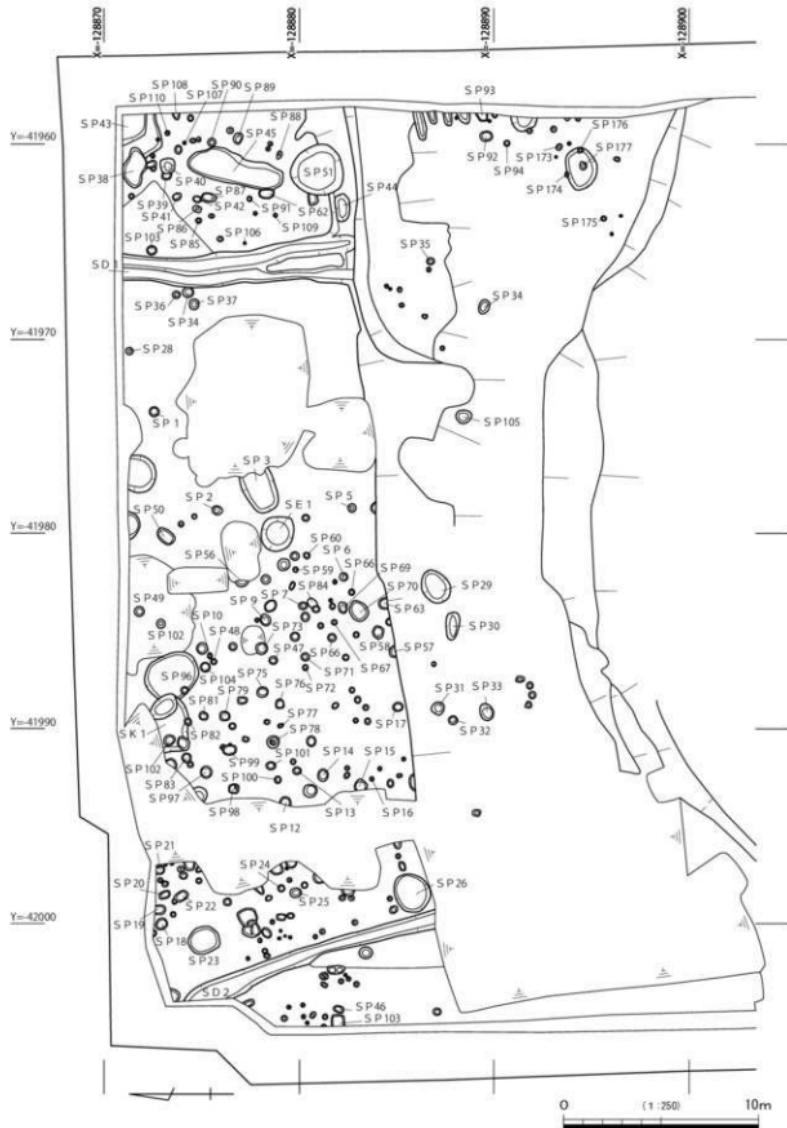


図 57 11-1 調査 第1面平面図

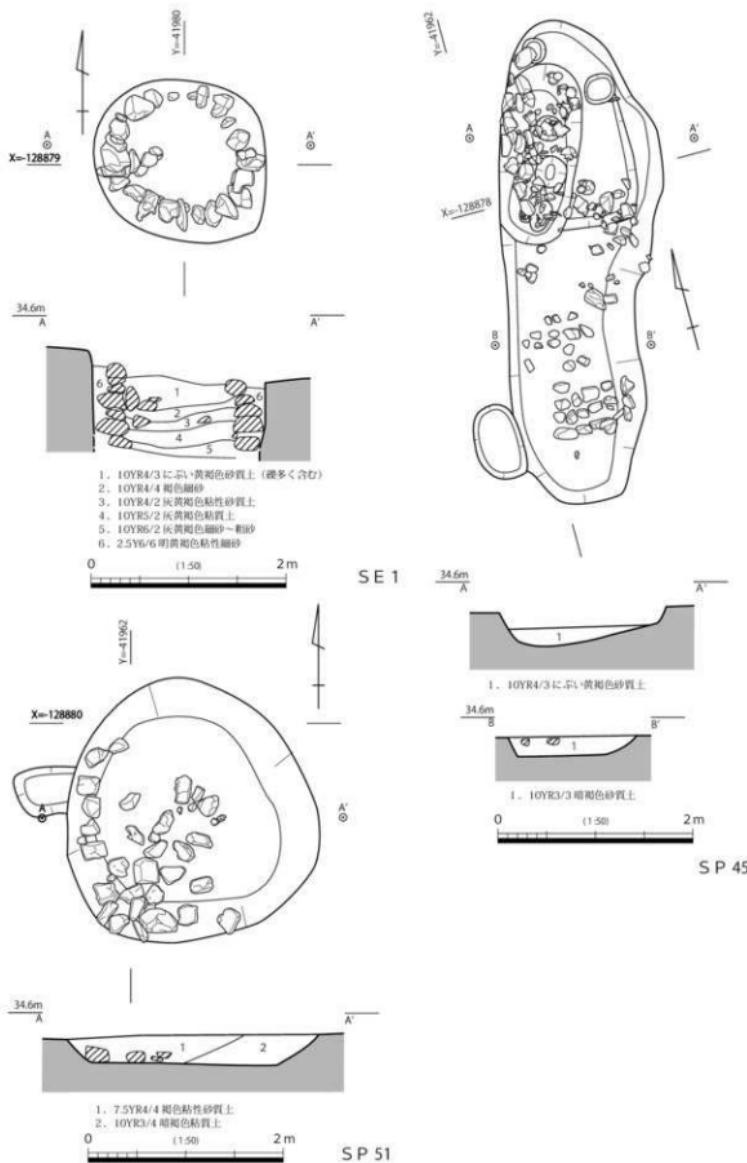


図 58 11-1調査 S E 1・S P 45・S P 51 平面・断面図

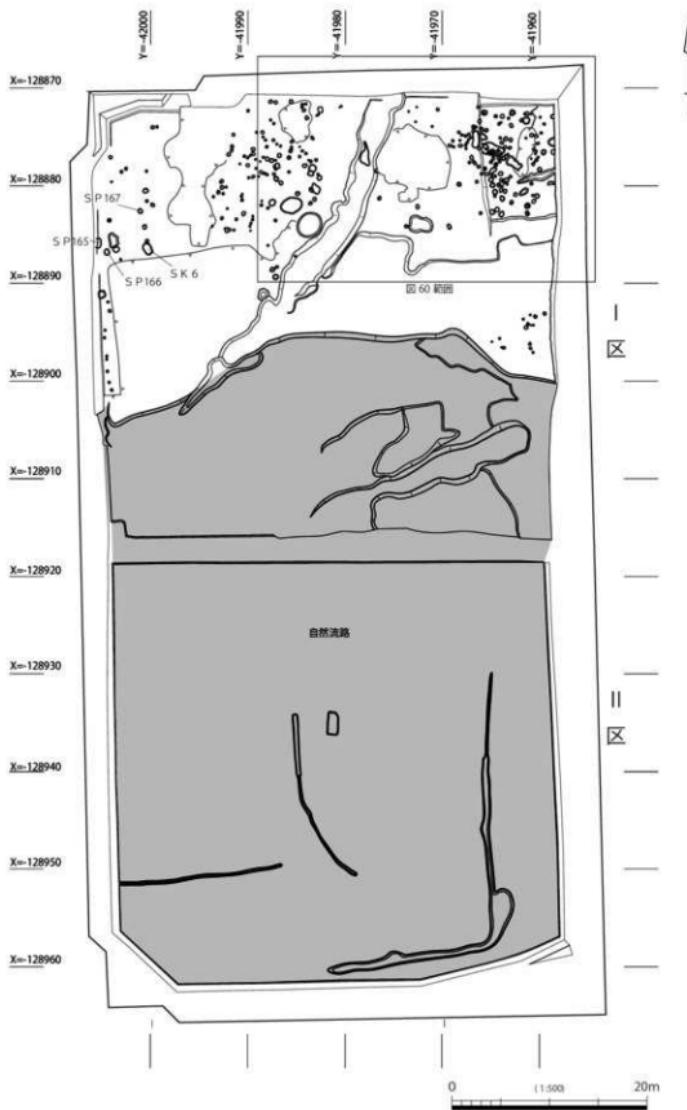


図 59 11-1 調査 第 2 面平面図

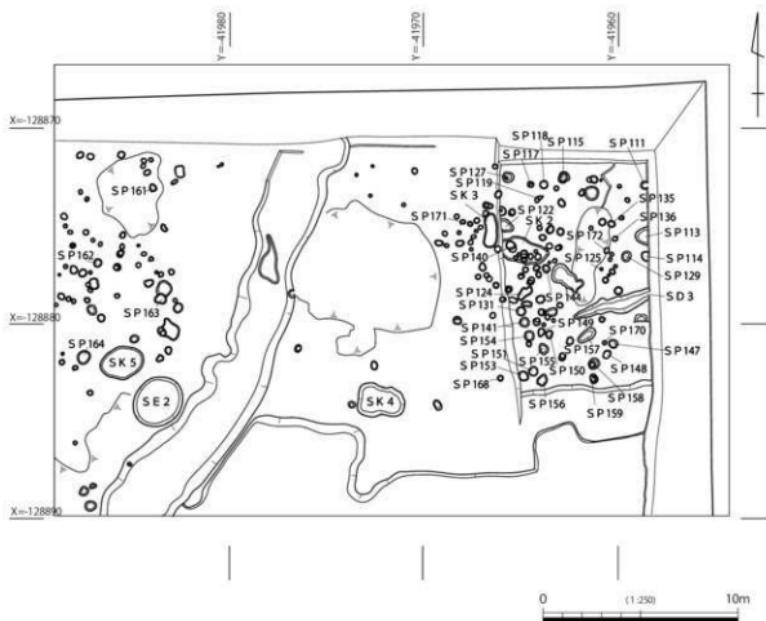


図 60 11-1 調査 1 区第 2 面北側平面図

I区内は盛土による造成で平坦となる以前には、3段の棚田が造成されていたようである。造成は遺構面の削平を伴っていたようで、南側に向かうにつれて遺構の残存状況が悪くなっている。また、I区の南からII区にかけては埋没した自然流路を検出した。それらの影響もあり、遺構の多くはI区北側での検出に限られている。

第1遺構面（図57） 第1遺構面では、ピット260基、土坑5基、溝2条、井戸1基を検出した。

なお、当調査区では、他の調査区で土坑とした規模の遺構にも「S P」の略号が付与されている。そのため、略号だけでは遺構の規模や形状を捉え難いが、後に遺物や記録と照合する際に混乱が生じないように調査段階で付与されたものを踏襲した。

検出した遺構で中心となる時期は12世紀～13世紀にかけてであるが、一部古墳時代中期の遺物のみが出土しているものもあり、この時期の遺構も存在するようである。

なお、柱穴と考えられるピットで掘立柱建物を復元できるものは認められなかつた。

古墳時代中期の遺構

S P 43 調査区北東隅で検出した。北及び東側は調査区外に延びる。東西1.5m、南北1.0mを検出した。深さ0.4mを測る。方形ないし円形を呈する土坑である。埋土は黒褐色粘性砂質土の単層である。遺物は古墳時代中期の十領器が出土している。

SK1 調査区北西部で検出した。北側を攢乱に切られる。東西3.0m、南北1.5m、深さ0.4mを測る。方形を呈する土坑である。遺物は古墳時代中期の須恵器が出土している。

中世の遺構

S P 45（図58） 調査区東部で検出した。南北5.0m、東西1.5m、深さ0.2mを測る。溝状を呈する土坑である。遺構の底面に炭化物層及び焼土層の存在を確認した。遺構の北側では底が西側に向かって下がっている。南側では上面に礫が検出され、意図的に方形に並べているようにも見受けられる。

おそらくこの礫の配置と炭化物層・焼土層の存在から調査段階で「中世墓」の可能性が考えられたようであり、一部の遺物ラベルには「中世墓」と記載されているものもある。しかし、墓坑となるような様子は認められず、出土遺物は図61に見るように日常雑器のみである。また、蔵骨器や副葬品と考えることができるような遺物は認められない。そのため、本書では墓としての認定は留保する。遺物は13世紀前半～中頃の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S P 51（図58） S P 45の南側で検出した。直径2.5m、深さ0.3mを測る。平面形状が円形を呈する土坑である。遺構の南西部で一辺0.2～0.4mを測る角礫が複数検出されている。遺物は13世紀中頃の土師器・須恵器・瓦器が出土している。

S P 56 調査区中央部で検出したピットである。東側を攪乱に切られる。直径0.4m、深さ0.14mを測る。埋土は暗褐色粘質土の單層である。遺物は13世紀中頃の瓦器が出土している。

S P 60 調査区中央部S E 1の南西側で検出したピットである。直径0.3m、深さ0.26mを測る。遺物は15世紀～16世紀の瓦質土器が出土している。

S P 70 調査区中央部の段際で検出した土坑である。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.26mを測る。埋土は褐色粘性砂質土の單層である。遺物は13世紀中頃の陶器が出土した。

S P 103 調査区西端で検出した。西側を側溝に切られる。一辺0.6m、深さ0.16mを測り、平面形は方形を呈するピットである。埋土は暗褐色粘性砂質土の單層である。遺物は11世紀中頃～後半の土師器・瓦器が出土している。

S E 1（図58） 調査区中央部で検出した円形の井戸である。直径0.2mを測る。深さは1.0mまで確認しているが、完掘には至っていない。埋土は砂層が主体である。一辺0.3m程度の礫を積み上げることで井戸側を構築する石組円形井戸である。遺物は12世紀後半の滑石製石鍋が出土している。

S D 1 調査区東側を南北方向に延びる溝である。北側は調査区外に延び、南側は棚田の段によって切られる。幅2.0m、深さ0.3mを測る。遺物は13世紀中頃の土師器・山茶碗が出土している。

S D 2 調査区西側を南北方向に延びる溝である。北側は調査区外に延び、南側は攪乱に切られている。幅1.0m、深さ0.3mを測る。遺物は土師器・瓦器が出土している。

第2遺構面（図59・60） 遺構は第1遺構面と同様、I区北側に集中して検査している。ピット265基、土坑3基、溝2条、井戸1基を検出した。I区中央部の棚田造成による削平とI区南半からII区にかけて検出した流路に削平されているためである。柱穴と考えられるピットで掘立柱建物を復元できるものはなかった。

S E 2 調査区中央部で検出した井戸である。直径2.5m、深さ0.6mを測る。井戸枠は認められず、素掘りであったと考えられる。遺物は須恵器が出土している。

自然流路 I区南側からII区全体に及ぶ。東西方向に流れていたと考えられる。99-4調査（第7節で報告）では勝尾寺川の旧流路と考えられる砂層の上に中世の遺構が構築されている。そのことから、当調査区の自然流路も勝尾寺川旧流路の一部と考えられる。遺物は縄文時代から中世の遺物が出土しており、中世に埋没し、それ以降に開発されていったと考えられる。

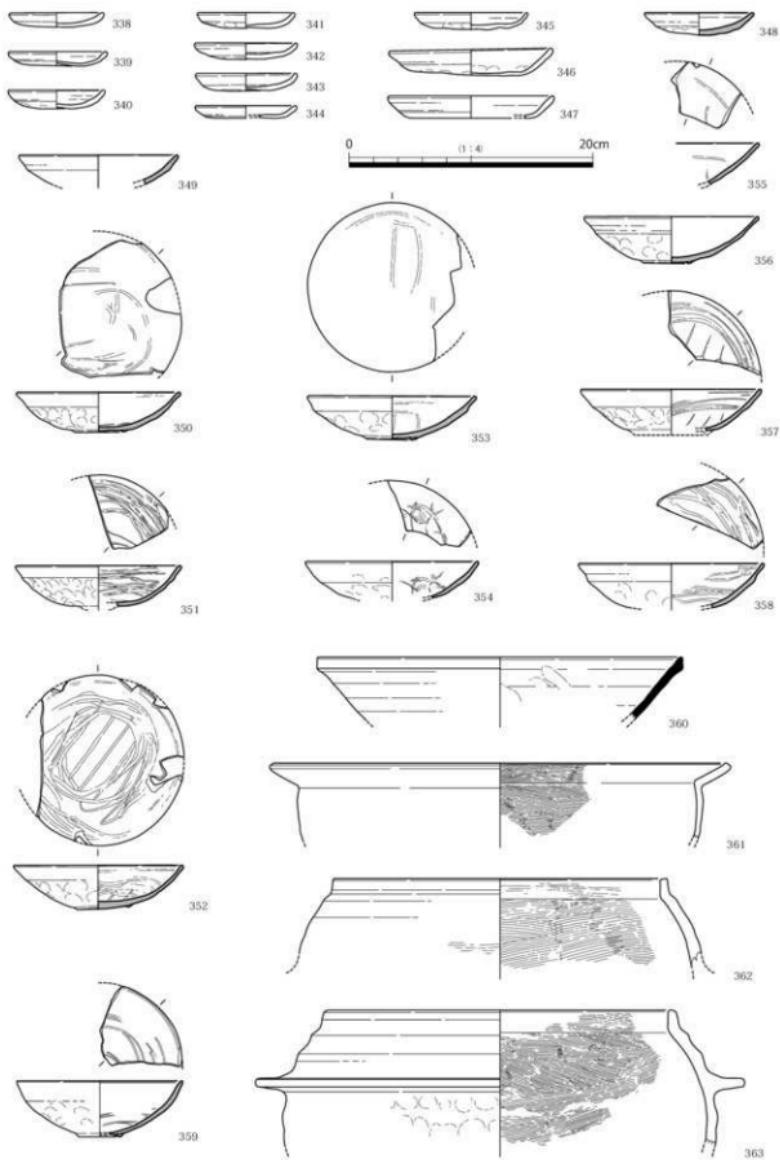


図 61 11-1調査 SP 45 出土遺物実測図

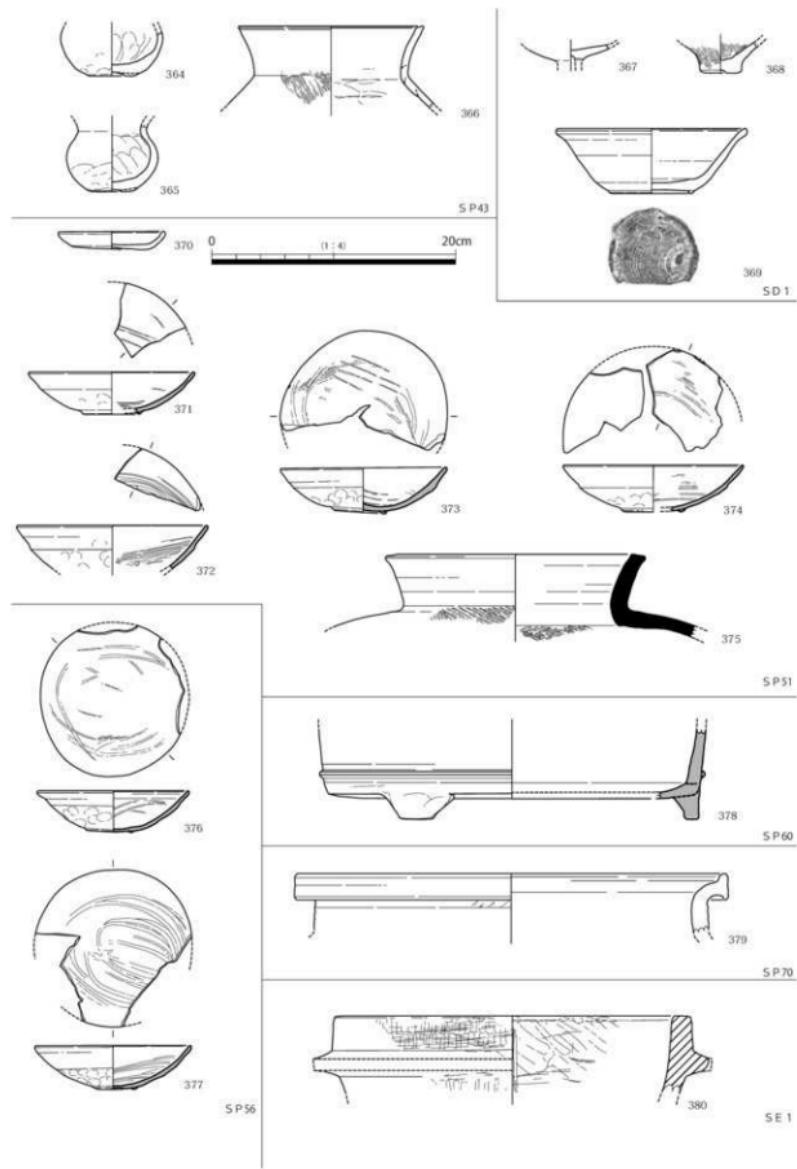


図62 11-1調査 各遺構出土遺物実測図（1）

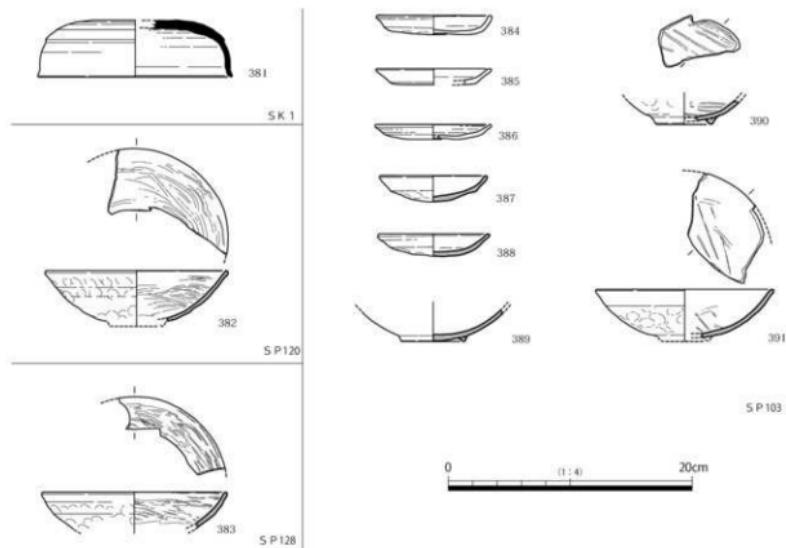


図 63 11-1 調査 各遺構出土遺物実測図 (2)

(4) 出土遺物 (図 61 ~ 70)

第1面出土遺物

S P 43出土遺物 (図62-364~366) 364・365は土師器小型壺である。共にやや平底気味を呈し、内外面にユビナデの痕跡が認められる。366は土師器壺である。口縁部はわずかに外反し、口縁部上端が面を成す。体部外面にハケ、内面に板ナデを施す。外面に煤が付着する。

S K 1出土遺物 (図63-381) 381は須恵器杯蓋である。天井部と後円部の境に稜をもつ。口縁端部はわずかに外反し、内側は面を成す。MT 15型式である。

S P 45出土遺物 (図61-338~363) 338~347は土師器皿である。338~345はいずれも口縁端部に面取りを施すが、かなり形骸化している。340・341は強いヨコナデのため口縁部に段が生じている。344は口縁端部を摘み上げる。

348は瓦器皿である。底部は丸みを帯びる。口縁端部は丸く收める。349~359は瓦器椀である。349~358は和泉型IV-1期である。350・352・353・356は粘土紐を貼り付けた低平な高台をもつ。それ以外は高台を欠く。いずれも外面に指頭圧痕のみ認められ、内面に350・353・354・355は粗いミガキ、351・352・357は比較的密なミガキ、見込みに352・353・355・357・358は平行線状暗文、350は螺旋状暗文を施す。350・351・354・356・357はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。359は断面三角形状の高台をもつ。口縁端部内面に沈線を施す。外面は指頭圧痕のみ認められ、内面は粗いミガキ、内面に円状の暗文を施す。いぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。樟葉型III-3期である。

360は東播系須恵器鉢である。口縁端部を上下に拡張し、端部は面を成す。口縁端部外面に軸の付

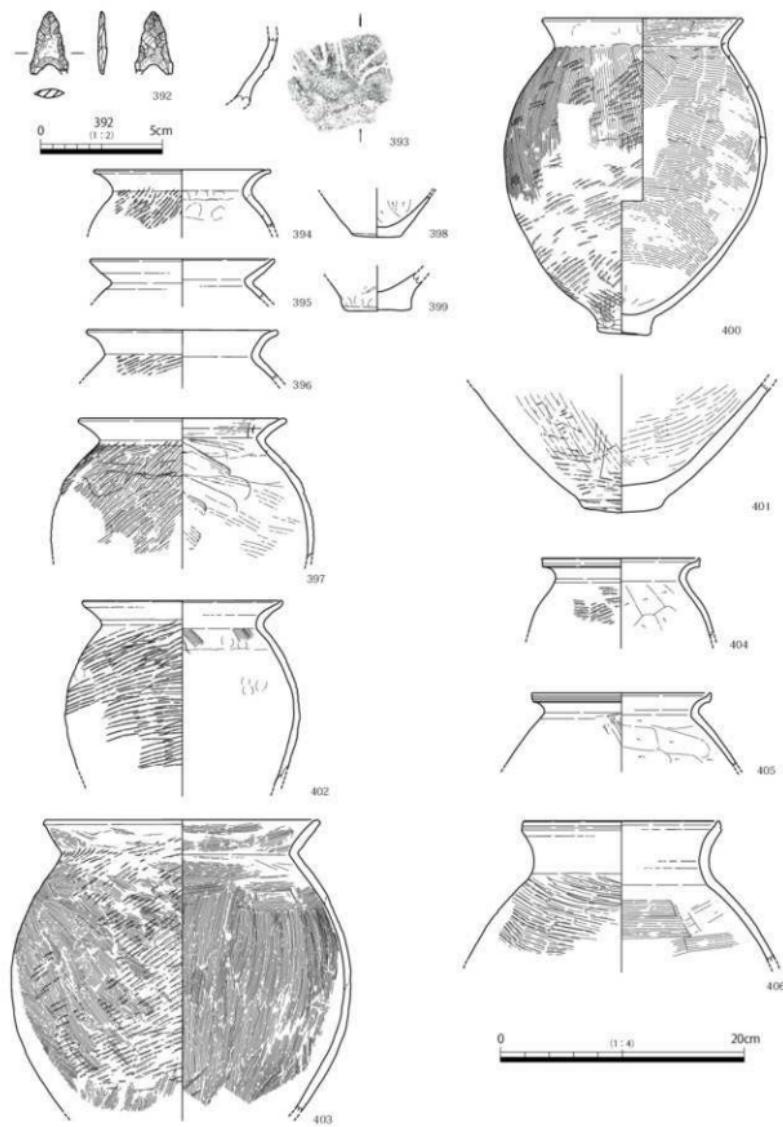


図 64 11-1 調査 自然流路出土遺物実測図 (1)

着が認められる。13世紀初頭である。

361は土師質土器鍋である。口縁部は外方へひろがり、口縁端部は面を成す。内面にハケを施す。外面に煤が付着する。362・363は土師質土器羽釜である。共に口縁部は内傾し、外面に段をもつ。口縁端部は直立し、上端は面を成す。外面に煤が付着する。362は内外面にハケを施す。363は内面にハケを施し、体部外面に指頭圧痕が認められる。鍔は水平に延び、端部は丸く收める。

S P 51出土遺物（図62-370～375） 370は土師器皿である。口縁端部に面取りを施す。

371～374は瓦器椀である。372以外は断面三角形状～半円状の高台をもつ。いずれも外面に指頭圧痕のみが認められる。372以外は内面に粗いミガキ、見込みに平行線状暗文を施す。372は内面に比較的密なミガキを施す。373・374はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。いずれも和泉型III-3～IV-1期である。

375は須恵器壺である。口縁部は外反して直立し、口縁上端は面を成す。体部外面に平行タタキ、体部内面に當て具痕跡が認められる。外面に自然釉が薄くかかる。平城宮VI期である。

S P 56出土遺物（図62-376・377） 376・377は瓦器椀である。共に外面に指頭圧痕のみが認められ、内面に粗いミガキ、見込みに渦巻き状暗文を施す。高台は粘土紐を貼り付けたものである。377は内面に煤が付着する。和泉型III-3～IV-1期である。

S P 60出土遺物（図62-378） 378は瓦質器鉢である。佐藤分類（佐藤1996）の深鉢形土器I類である。直線的な体部と平らな底部、台形の脚部をもつ。体部の最下部に突帯一条をもつ。15世紀中頃～16世紀である。

S P 70出土遺物（図62-379） 379は常滑焼陶器甕である。口縁端部は上下に拡張し面を成す。13世紀中頃である。

S D 1出土遺物（図62-367～369） 367は土師器椀形高杯である。杯底部片である。368は弥生土器の甕底部である。平底を呈し、外面の中央が僅かにくぼむ。内外面にハケを施す。

369は常滑焼陶器山茶碗である。断面三角形状の高台をもつ。口縁端部はわずかに外反し、端部は丸く收める。底部外面に回転糸切痕が認められる。13世紀中頃である。

S E 1出土遺物（図62-380） 380は滑石製石鍋である。口縁端部は上端が面を成す。断面が台形状を呈する鍔をもつ。内外面ともケズリが認められる。III類-aであり、12世紀後半である〔木戸1995〕。

S P 103出土遺物（図63-384～391） 384～386は土師器皿である。384は口縁端部が緩やかに立ち上がり、端部は丸く收める。385は強いヨコナデによりまっすぐ斜め上方に立ち上がる。386は口縁部がヨコナデにより斜めに延びる。口縁端部は上方に摘み上げる。

387・388は瓦器皿である。387は指頭圧痕により底部が丸くなっている。389～391は瓦器椀である。389・390は断面三角形状のしっかりとした高台をもつ。390・391は外面に指頭圧痕のみが認められる。内面見込みに平行線状暗文を施す。391はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。和泉型III-1期である。

第2面出土遺物

S P 120・128は位置が不明である。その他の120番台のS Pは第2面に認められるため、共に第2面の遺構と考えられる。

S P 120出土遺物（図63-382） 382は瓦器椀である。高台は欠損する。外面に指頭圧痕のみが認めら

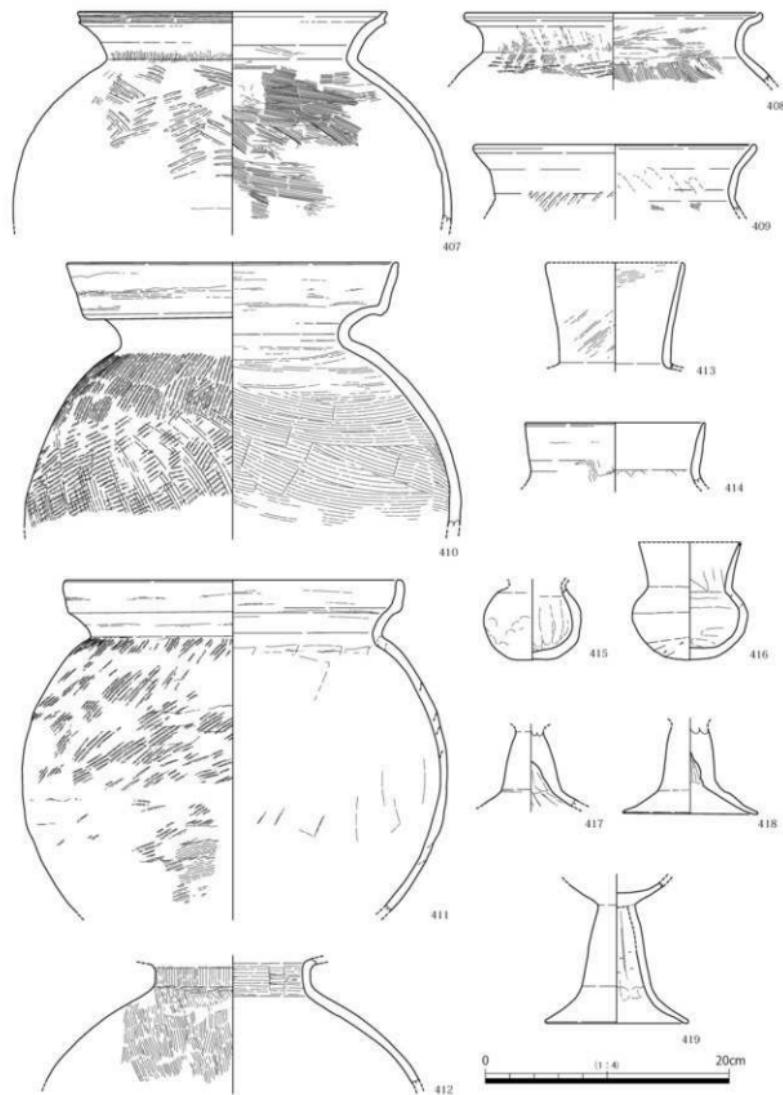


図 65 11-1 調査 自然流路出土遺物実測図 (2)

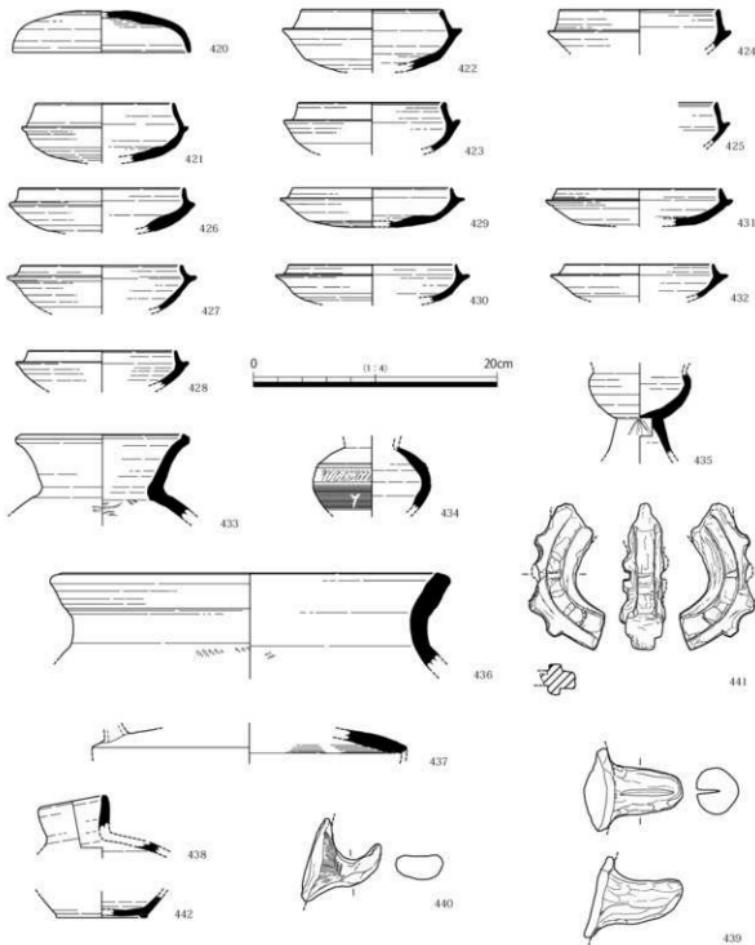


図 66 11-1 調査 自然流路出土遺物実測図（3）

れる。内面に密なミガキを施す。見込みの暗文は不明である。和泉型III-1期である。

S P 128出土遺物（図63-383） 383は瓦器椀である。底部は欠損する。外面に指頭圧痕のみが認められる。内面に密なミガキを施す。見込みの暗文は不明である。和泉型III-1期である。

自然流路出土遺物（図64~67-392~456） 繩文時代～中世にかけての遺物が出土している。

392は石鏃である。長さ 2.55cm、幅 1.55cm、厚さ 0.35cm を測る。重量は 1 g を量る。基部がくぼむ凹基式である。石材はサヌカイトである。393は繩文土器で、ほぼ底部付近の体部片である。外面上に複数の沈線を施す。繩文時代後期と思われるが、詳細な時期は不明である。

394～400は弥生土器甕である。いずれも後期である。394～397は口縁部が外側へひろがり、端部は丸く収める。体部外面に394・396・397はタタキを施す。体部内面に394は指頭圧痕が認められ、397はハケを施す。394・395・396は口縁部外面、397は口縁部外面及び体部に煤が付着する。398・399は平底の底部である。398は内面に板ナデを施し、399は外面に指頭圧痕が認められる。400は全体の形状が窓えるものである。口縁端部は面を成す。体部外面全体にタタキを施した後、体部中位から上半にかけてハケを施す。口縁部内面から体部内面にかけてハケ、体部下半に板ナデを施す。底部は突出する平底を呈する。体部外面に煤が付着し、底部内面に焦げ付きが認められる。

401～411は土師器甕である。401は平底の底部である。中央が丸みを帯びて突出する。外面にタタキ後ハケ、内面にハケを施す。402は口縁端部をわずかに上方に摘み上げる。体部外面にタタキ、内面に指頭圧痕が認められ、口縁部との接合部にハケを施す。403は口縁端部が面を成す。口縁部から体部外面にタタキ後、ハケを施す。内面は口縁部に横ハケ、体部にタテハケを施す。402・403は外面に煤が付着する。

404・405は口縁端部を上方に摘み出し、受口状を呈する。端部外面は面を成し、端面は四線状を呈する。共に近江系か。404は外面にタタキ、内面にケズリを施す。405は外面にハケ、内面にケズリを施す。406は口縁部の外方への広がりが弱い。口縁端部を上方に拡張して面を成す。端面は四線状を呈する。体部外面にタタキ、内面にハケを施す。外面に煤が付着する。407は口縁部を上方に摘み出し、受口状を呈する。端部外面は面を成し、端面は四線状を呈する。体部外面にタタキ、頸部にハケを施す。体部内面に指頭圧痕が認められ、ハケを施す。外面に煤が付着する。408は口縁部を上方に摘み上げる。端部は丸みを帯び、面は形成されない。体部外面にタタキ、口縁部外面から体部にかけてハケを施す。内面は口縁部に横ハケ、体部にタテハケを施す。409は頸部が途中で角度を変え、口縁部の外方への広がりは弱い。口縁端部は上方に摘み上げるが、面は形成しない。体部外面にタタキ、内面にハケを施す。頸部内面に指頭圧痕が認められる。口縁部外面に煤が付着する。

410・411は山陰系である。二重口縁をもつ。410は口縁部が外方へひろがる。体部外面にタタキ後ハケ、内面にハケを施す。外面に煤が付着する。411は二重口縁部がやや内巻気味に延びる。体部外面にタタキ、内面に板ナデを施す。

412は土師器二重口縁壺である。頸部から肩部が残存する。外面は頸部から肩部にかけてタテハケ、内面は頸部にヨコハケを施す。413は土師器直口壺である。内外面にハケを施す。414は土師器短頸壺である。口縁部は直立する。頸部外面にハケ、頸部内面にユビナデを施す。外面に煤が付着する。413・414は共に辻編年5段階頃か。

415・416は土師器小型丸底壺である。共にやや歪な球形を呈する体部をもつ。415は外面に指頭圧痕が認められ、内面にユビナデを施す。416は体部下半にケズリ、内面にナデを施す。

417～419は土師器高杯である。417は脚柱部である。上半部が中実で、裾部は「ハ」字状にひらく。内面にシボリ痕が認められる。418は脚柱部から裾部である。上半部が中実で、裾部は「ハ」字状にひらく。脚柱部内面にシボリ痕が認められる。杯部を欠くが、接合技法は中野分類のB類であろう。419は楕型高杯の杯底部から裾部である。脚柱部は中空である。裾部は緩やかにひろがる。内面にケズリを施し、一部指頭圧痕が認められる。いずれも辻編年5段階である。

420は須恵器杯蓋である。天井部から口縁部になだらかに延び、口縁端部内面に面をもつ。TK 43～TK 209型式である。421～432は須恵器杯身である。421～425はたちあがりが長く、内傾する。

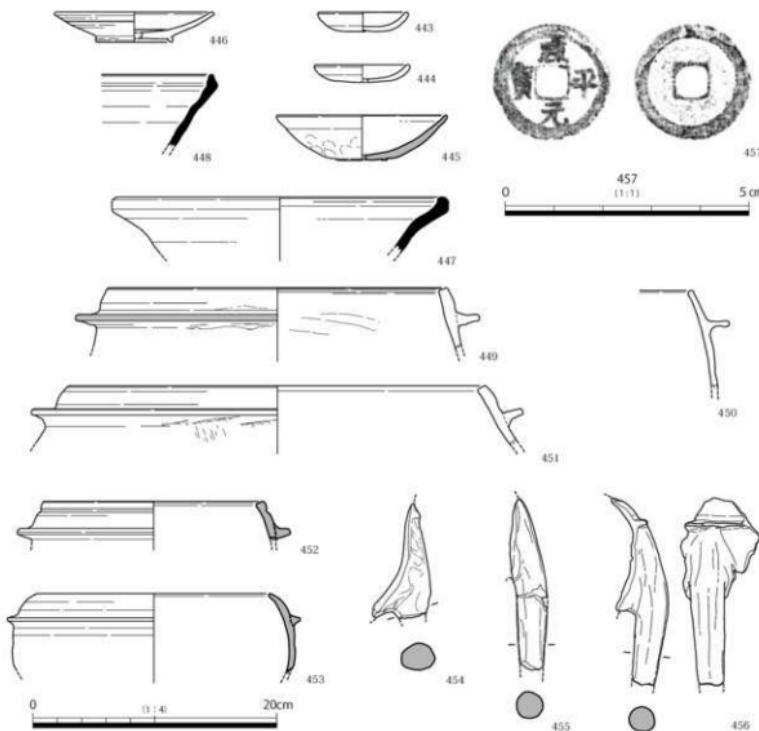


図 67 11-1 調査 自然流路出土遺物実測図 (4)

421は受け部が短い。口縁端部内側が面を成す。422～425は口縁端部内面が内傾する段を成す。421～425はMT 15型式である。426～428はたちあがりが内傾し、口縁端部は丸く收める。428は重ね焼きの影響か、体部外面は灰色、受け部上面から内面は灰白色を呈する。TK 10型式である。429～432はたちあがりが細く、内傾して立ち上がる。端部は丸く收める。431は外面に付着物が認められる。TK 209型式である。

433は須恵器壺である。口縁部は外側へひらき、口縁端部は上方へ摘み上げる。体部外面にタタキ、体部内面に同心円當て具痕が認められる。外面に自然釉がかかる。434は須恵器壺である。球形を呈する体部をもつ。外面は体部下半にカキメ、体部上半に沈線二条とその間に刺突文を施す。円孔は残存していない。外面に自然釉がかかる。TK 47型式である。435は須恵器台付壺である。丸底壺の底部に台部が付く。接合部にヘラによる線刻を施す。436は須恵器壺である。口縁部は外方へひらき、口縁端部は外側へ肥厚し、面を成す。体部外面にタタキを施す。

437・438は須恵器平瓶である。437は肩部分で、断面方形を呈する把手の剥離痕跡が残る。上面に自然釉がかかる。平城宮VI期である。438は口縁部分である。飛鳥II期か。

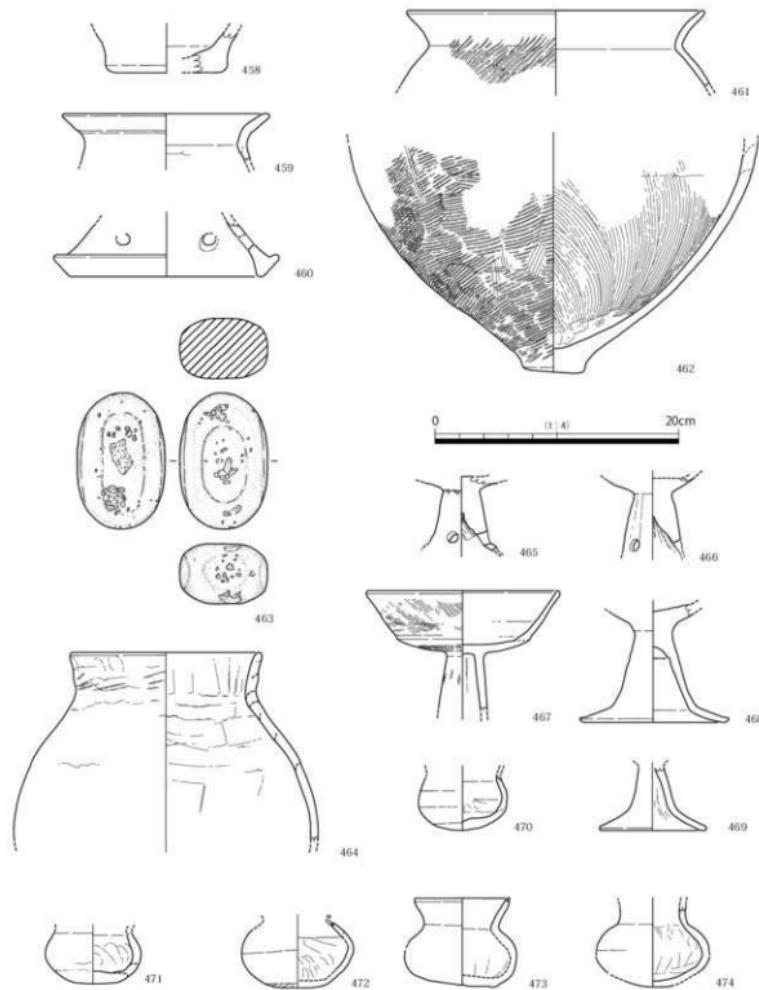


図 68 11-1 調査 包含層出土遺物実測図 (1)

439 は韓式系土器把手である。断面形状が円形を呈する。上面にヘラによる切込みを施す。体部外面に格子状タタキを施す。把手はユビナデによって整形する。T K 73 型式期（辻編年3段階）頃か。
440 は土師器把手である。断面形状が扁平な四角形を呈する。外面にハケを施す。T K 23 型式期（辻編年4段階）頃か。

441 は子持ち勾玉である。本体の断面形状は扁平な四角形状を呈する。頭部貫通孔が認められず、

頭側が欠損していると考えられる。腹側には子が無く、背部に5個、側面に4個の子が残存する。大平分類の突起連接式である。本体の頭尾両端を平面的に截り落としている。〔大平 1989〕の型式編年の判定方法に依拠すると、断面比率（本体の最大幅に対する本体断面の厚み）0.43、反りの比率（長軸の長さに対する短軸の長さ）4.5となり、VI型式B-I類に相当する。7世紀前半と推定される。残存重量は196 gを量る。

442は須恵器杯Bである。断面台形状の高台をもつ。内面は平滑になっている。平城宮VI期頃か。

443・444は土師器皿である。面取りは形骸化し、共に口縁端部は丸く収める。

445は瓦器椀である。断面半円状を呈するほぼ痕跡と化した高台をもつ。外面に指頭圧痕のみが認められる。上面にヘラによる切込みを施す。ユビナデによって整形する。いぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。和泉型IV-1期である。

446は灰釉陶器皿である。高台は幅の狭い台形状を呈し、内面は露胎である。9世紀初頭頃か。447は須恵器鉢である。口縁部は外方へ屈曲し、口縁端部は上方に摘み上げる。十瓶山窯産のこね鉢Aか〔片桐 1992〕。12世紀中頃から後半である。448は東播系須恵器鉢である。口縁端部は上方に拡張する。口縁端部外面に施釉する。12世紀初頭から13世紀初頭である。

449～451は土師質土器羽釜である。449・451は鍔が水平に延びる。口縁部は内傾し、上端が面を成す。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。451は鍔が斜めに付く。口縁端部上端は面を成す。菅原分類の摂津F型（13世紀代）である。452は瓦質土器羽釜である。鍔は水平に延びる。口縁部は内傾し、上端は面を成す。口縁部直下に凹線を施す。菅原分類の摂津E型（13世紀代）である。

453～456は瓦質土器三足釜である。455は口縁部が内彎し、端部は丸く収める。鍔は断面三角形状を呈する。454～456は体部から脚部にかけての部分である。脚はいずれも断面円形を呈する。454は外面に煤が付着する。456は脚の直上に短い鍔が認められる。

457は銅鏡である。998年初鋤の咸平元寶である。

包含層出土遺物（図68～70・458～526） 繩文時代から近世の遺物が出土している。

458は繩文土器である。平底の底部である。体部は直立気味に立ち上がる。

459～463は弥生時代の遺物である。459は壺である。口縁部は外方へ屈曲し、端部は丸く収める。頸部に段が認められる。摂津I様式である。460は高杯ないし台付土器の脚部である。端部は上方に拡張し、面を成す。円形透かし孔を4方向に穿つ。摂津IV様式である。

461は甕である。口縁端部は丸く収める。外面の頸部から体部にかけてタタキを施す。口縁部外面に煤が付着する。弥生時代後期である。

462は壺である。体部下半が残存する。球状を呈する体部をもつ。突出した平底を呈する。体部外面にタタキを施した後、部分的にナデ、内面にハケを施す。弥生時代後期である。

463は摺石である。長さ11.2cm、幅7.2cm、厚さ4.9cmを測り、重量618 gを量る。全面に敲打痕が認められる。表裏の2面に使用痕が認められ、平滑になっている。

464～474は土師器である。464は土師器甕である。口縁部が直立し、端部は丸く収める。口縁部に粘土紐接合痕が明瞭に認められ、粗雑な印象を受ける。内面にナデを施す。河田泰之氏、積山洋氏の分類されている斐形の製塙土器（D-3類・積山E類）と形態・調整方法などが似ていることから、製塙土器の可能性がある〔河田 1996・積山 2004〕。

465～469は高杯である。465・466は脚柱部内面にシボリ痕が認められる。円形透かし孔を3方

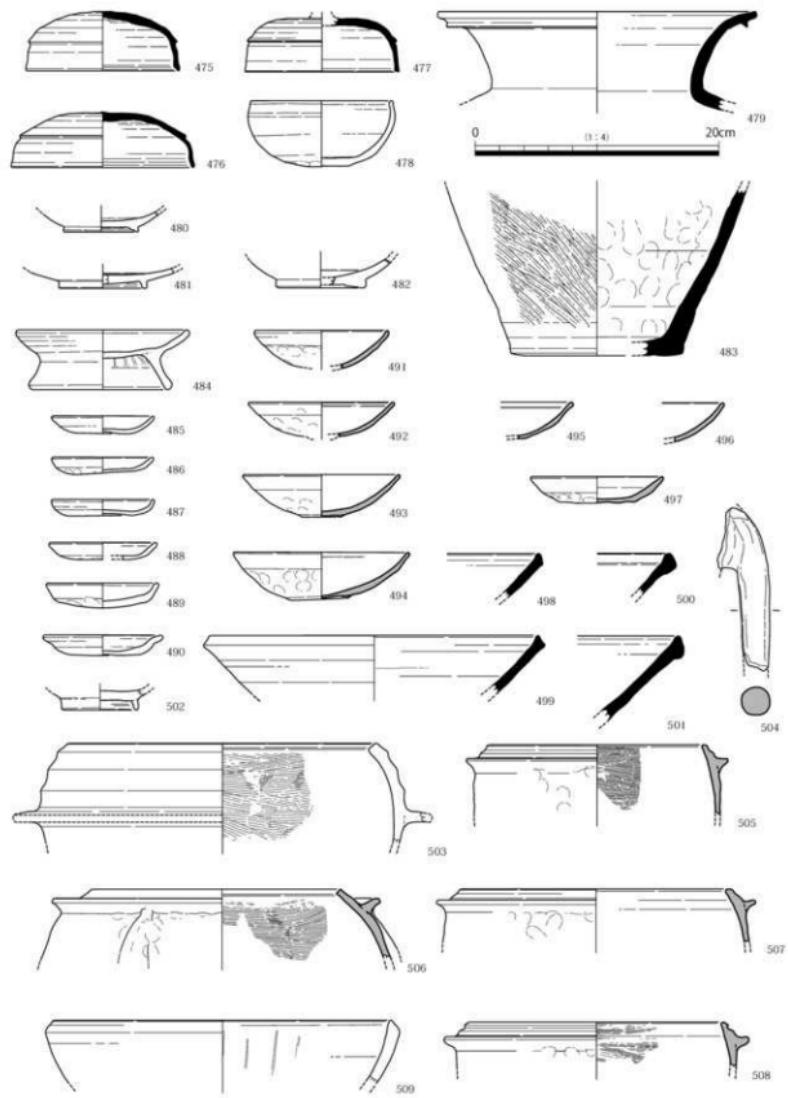


図 69 11-1 調査 包含層出土遺物実測図（2）

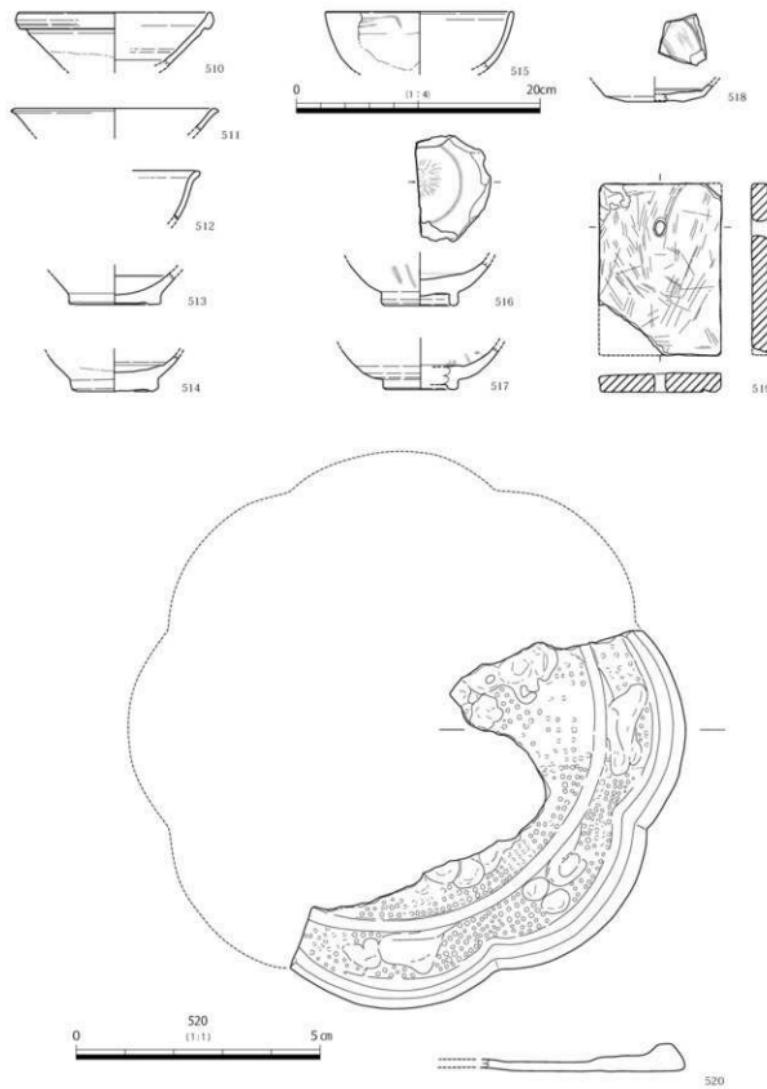


図 70 11-1 調査 包含層出土遺物実測図 (3)

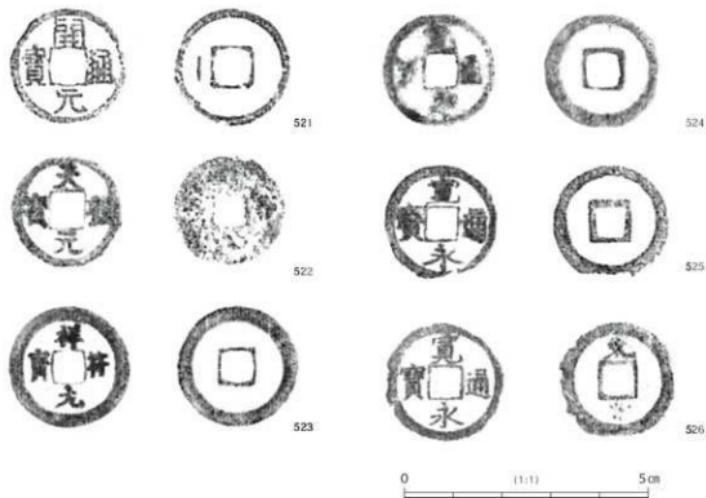


図 71 11-1 調査 包含層出土遺物実測図（4）

向に穿つ。接合技法は共に中野分類のB類である〔中野2008〕。465は杯部との接合部にハケを施す。468・469は中空の脚柱部と屈曲してひらく裾部をもつ。469は内面にシボリ痕が認められる。接合技法は、468は中野分類のB類、469は不明である。467は有稜小型高杯である。杯部外面にハケを施す。接合技法は中野分類のE類である。470～474は小型壺である。いずれも粗雑なつくりで、内面にユビナデを施す。474は外面に煤が付着する。

475・476は須恵器杯蓋である。475は天井部が丸みを帯びる。476は天井部がやや平らである。共に天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は内傾する段をもつ。TK 23～47型式である。477は有蓋高杯蓋である。天井部中央に紐の痕跡が残る。天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は内傾する段をもつ。TK 47型式である。

478は土師器杯である。内壇する口縁部をもつ。底部は平底を呈する。

479は須恵器甕である。口縁部は外側へひらき、口縁端部外面の下側に断面三角形状の突帯をもつ。

480～482は綠釉陶器碗である。いずれも底部で、削り出し高台をもつ。480は円盤状高台、481は輪高台、482は蛇の目高台である〔高橋1995〕。内外面とも釉がかかる。

483は須恵器壺である。平底の底部をもつ。体部外面にタタキ、最下端にヘラ削りを施す。体部内面に無文の円形を呈する当て具痕が認められる。内外面に自然釉がかかり、内面に溶着物が認められる。12世紀中頃から後半の十瓶山窯産甕Cである〔片桐1992〕。

484は台付き土師器皿である。皿の口縁部は斜め上方にまっすぐ延び、端部は面を成す。台部は「ハ」字状にひらく。内面に指頭圧痕が認められる。486～491は土師器皿である。487・489は口縁部が直立する。485・486・488は口縁端部に面取りを施す。490は口縁端部が外方へひらく。14世紀代と考えられる。

491～496は瓦器椀である。いずれも外面に指頭圧痕のみが認められる。内面は摩滅のため不明である。493・494は断面三角形～半円状の高台をもつ。491は高台をもたない和泉型IV-2～IV-3期の可能性がある。492～494は和泉型IV-1期、495・496は和泉型IV-1～IV-2期か。493・494はいぶしが不良で器表面に炭素が吸着していない。497は瓦器皿である。底部外面に指頭圧痕が認められる。平底を呈する。

498～501は東播系須恵器鉢である。498～499は口縁部を上方に拡張する。500は口縁外面を縁帶状にする。501は上下に拡張する。いずれも口縁端部外面に施釉する。501は内面に煤が付着する。498・499・501は13世紀初頭、500は13世紀中頃である。

502は陶器椀である。釉は認められない。503は土師器羽釜である。口縁部は内彎し、端部上端が面を成す。口縁部外面は段をもつ。鍔は水平に延びる。森島分類の河内G型である〔森島1990〕。15世紀後半～16世紀前半である。504～508は瓦質土器三足釜である。504は断面が円形を呈する脚の付け根である。505・507・508は短い鍔をもつ。口縁部は内傾して段をもつ。鍔の接合部に指頭圧痕が認められる。505・508は体部内面にハケを施す。506は鍔が斜め上方に延び、端部は面を成す。口縁部は内傾し、上端は面を成す。外面の鍔と脚部の接合部に指頭圧痕が認められる。体部内面にハケを施す。508は外面に煤が付着する。

509は陶器擂鉢である。端部は外傾する面を成す。内面にヘラによる摺目を施す。

510～514は白磁碗である。510は口縁端部が外側に肥厚し、玉縁をもつ。大宰府分類の白磁碗IV類である。11世紀後半～12世紀前半である。511は口縁端部がわずかに外反する。大宰府分類のVII類（12世紀中頃から後半）である。512は口縁端部が外方へ広がる。513・514は底部である。共に削り出し高台である。内面に團線を施す。大宰府分類の白磁碗IV類と考えられる。515～517は青磁碗である。515は口縁部外面に雷文を施す。516・517は底部である。516は外面に蓮弁文、内面見込みに花文スタンプと團線一条を施す。517は内面に櫛描文と團線一条を施す。共に高台の内面のみ露胎である。518は青磁皿である。底部は露胎である。内面に櫛描文を施す。

519は滑石製温石である。長さ14.1cm、幅10.55cm、厚さ1.55cmを測る。上部に直径1.2cmの円孔1個を穿つ。表面に加工時にいたと思われる細かい傷が多数認められる。重量は483gを量る。

520は銅鏡である。破損しており、周縁部のおよそ3分の1程度が残存する。復元径11.4cmを測る八花鏡と考えられる。外区と内区を團線で区画する。山本忠尚氏の八花鏡の鏡体分類では、「外縁をなす弧線が元の円周より径の小さいもの、弁間のえぐりが大きくなる」八花形II C式となる〔山本2011〕。外縁は断面台形状を呈する。

鏡背文様は、残存状況が悪いため定かではないが、杉山洋氏の分類によれば、八花鏡の形態をとるのは、双鳥文系ないし瑞花文系が上げられている〔杉山1999〕。鏡径は瑞花文系の方が大きいようであるため、双鳥文系の文様が描かれている可能性が高い。時期は飛鳥～奈良時代と考えられる。

521～526は銅錢である。521は開元通寶（621年初鑄）背面に線が一本認められる。522は天聖元寶（1023年初鑄）、523は祥符元寶（1008年初鑄）、524・525は寛永通寶（新寛永3期・1767年初鑄）、526は寛永通寶（新寛永2期（文銭）・1668年初鑄）である。

（5）小結

今回の調査では、調査区北側で古墳時代中期と中世の遺構を検出した。調査区の南側3分の2程度は勝尾寺川旧流路と考えられる自然河川のみを検出したが、縄文時代～中世の各時期の遺物が出土してい

る。以下、時代ごとに注目される事柄を列記する。

縄文時代～弥生時代後期にかけては、遺構は検出されなかったが、自然流路や包含層から遺物が出土している。

古墳時代前期では、自然流路から多くの土器が出土している。特に山陰系の土器の出土が注目される。この時期の人や情報の移動が広範囲に及んでいたことが窺える。また、製塙土器の可能性がある甕も包含層からではあるが出土している。

古墳時代中期では、これまで83-1調査で遺物が出土している程度であったが、本地点では、遺構を確認することができた。未調査区域である宿久庄遺跡の中央部に遺構が存在する可能性がある。

古墳時代後期～奈良時代にかけては、自然流路出土の子持ち勾玉と包含層出土の八花鏡が注目される。子持ち勾玉は7世紀前半、八花鏡は飛鳥～奈良時代の年代が考えられ、それぞれ何らかの祭祀に伴う遺物の可能性がある。

中世では、12世紀代の十瓶山窯産須恵器、13世紀代の常滑焼山茶碗、滑石製石鍋など多くの広域流通品が出土している。これらは、一般的な集落から出土するものでは無いため、宿久庄遺跡が山陽道に面した流通の拠点であったことを示していると考えられる。

ただし、13世紀後半以降はS P 60出土の瓦質土器（図62-378・15世紀代）・包含層出土の土師器羽釜（図69-503・15世紀後半～16世紀前半）を除くと顕著な遺物が確認できなくなり、商品流通や人の移動ルートが変化したことも考えられる。

第10節 11-2調査

（1）はじめに

宿久庄二丁目で計画された事務所の建築のための擁壁設置工事に伴って行われた発掘調査である。擁壁は敷地の南側と東側に設置されるため、調査区は「L」字状を呈している。調査は便宜的に1～3区に区分して行った。南辺東側が1区、西側が2区、東辺が3区である。調査区の規模は、1・2区が合わせて長さ67m、幅5m、3区が長さ24m、幅3m（調査面積304m²）である。

第1遺構面から第3遺構面までの調査を行ったが、3区は擁壁設置に伴う掘削深度が浅いため、第1遺構面のみ調査を行った。

当調査区は、以前の建物などで数ヶ所が攢乱を受けている。特に2区では、調査区の東西両端が大きく攢乱されていたため、遺構の検出を行うことができたのは中央部のみである。

（2）基本層序（図72・73）

基本層序は大別7層に分けられる。1. 盛土（層厚0.8m）、2. 旧耕土（層厚0.2m）、3. にぶい黄色粘質土（層厚0.3～0.4m）、4. 遺物包含層（層厚0.1～0.2m）、5. 灰黄褐色砂礫～粘質土（層厚0.5m）、6. 黒褐色粘質土～暗灰色粘質土（層厚0.4m）、7. 黄褐色粘土（地山）である。4層下面で第1遺構面、5層下面で第2遺構面、6層下面で第3遺構面を検出し、それぞれ調査を行った。結果、第3遺構面では、遺構は確認できなかった。

（3）遺構

第1遺構面（図74） 竪穴建物跡2棟、ピット22基、土坑6基、溝2条を検出した。

竪穴建物跡1・2（図75） 1区東側で2棟を検出した（調査時の名称はSH1・2）。2棟は切り

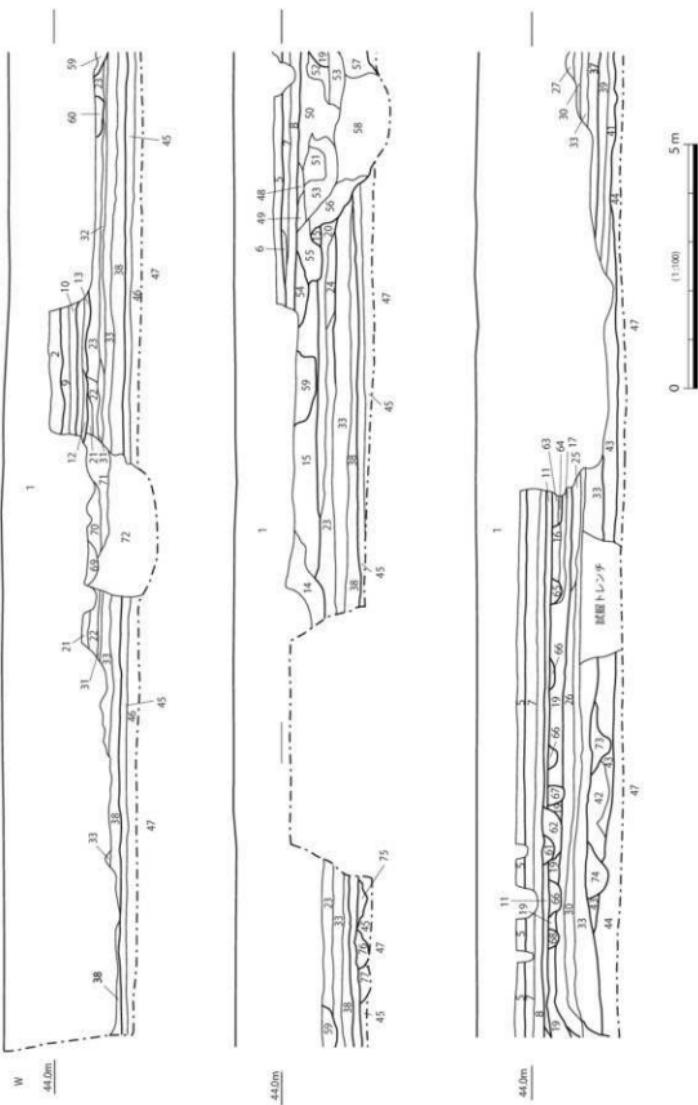


図 72 11-2 調査 1・2 区 北壁土層断面図

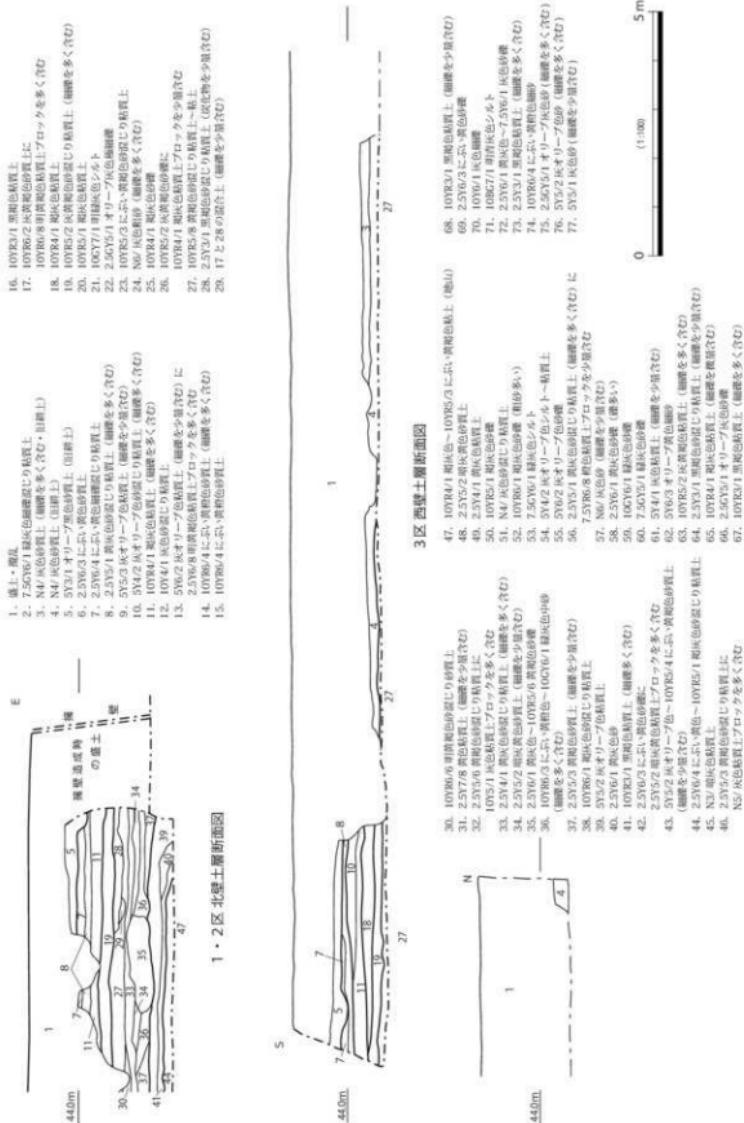


図 73 11-2 調査 北壁・西壁土層断面図

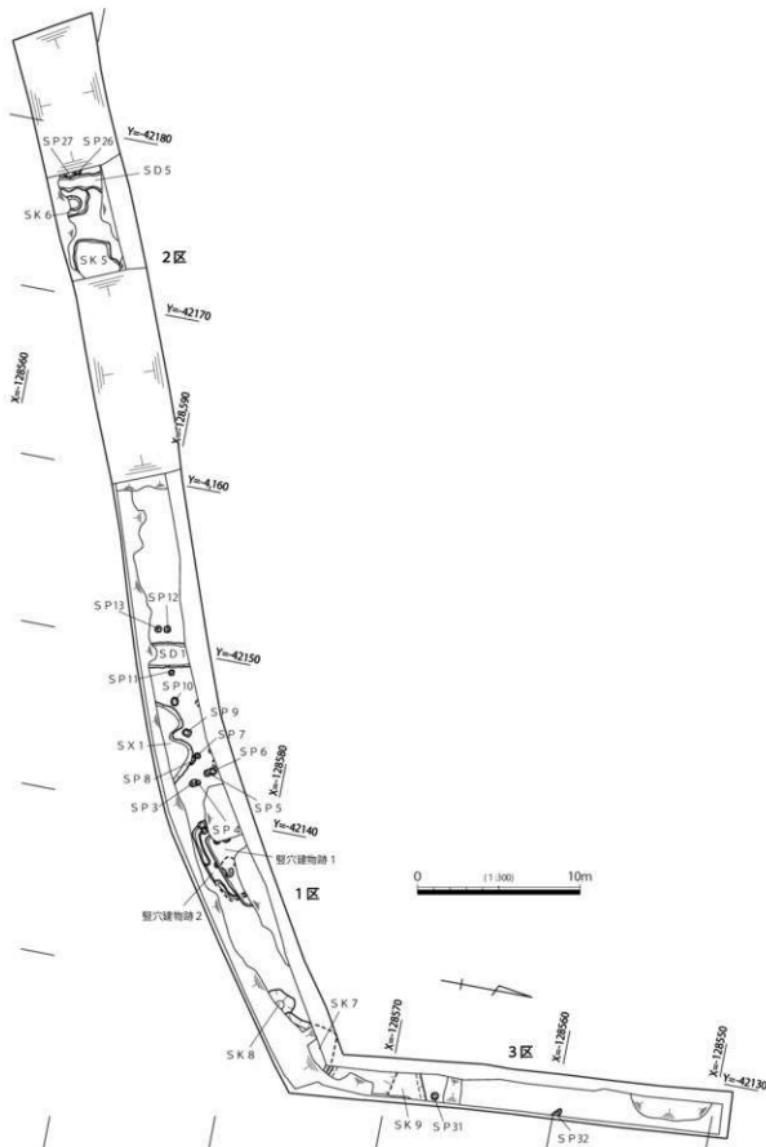


図 74 11-2調査 第1面平面図

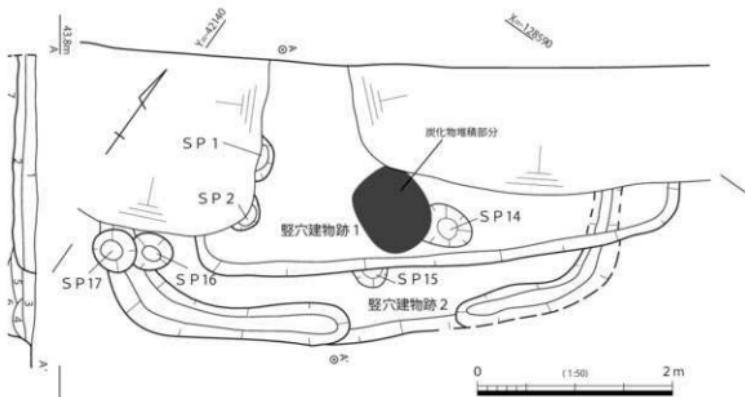


図 75 11-2 調査 穫穴建物跡 1・2 平面・断面図

合っているが、断面観察の結果、竪穴建物跡 1 が新しいことを確認した。北側は調査区外に延びる。主軸は共に N-40° -W を取る。

竪穴建物跡 1 東西5.1m、南北1.9m以上、深さ0.25mを測る。南辺沿いの中央部分で炭化物が薄く堆積していることを確認したが、その生成理由は不明である。遺物は土師器が出土している。竪穴建物跡 2 が出土遺物から7世紀前半と考えられるため、それ以降のものである。

竪穴建物跡 2 東西5.3m、南北2.6m以上、深さ0.35mを測る。貼床を伴い、壁際に周壁溝が巡る。遺物は土師器・須恵器が出土している。特に東側周壁溝からは、飛鳥 1 期の完形の須恵器杯（図77-527）が出土しており、この須恵器の年代から7世紀前半と考えられる。

土坑 SK 7 1区東端で検出した。大部分を攪乱に破壊されているため、詳細は不明である。検出長4.0m、検出幅2.0m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は土師器・須恵器が出土している。平面形状は方形を呈する可能性がある。

SK 8 SK 7 の西側で検出した。一部を SK 7 に切られ、南側は攪乱に破壊されている。平面形状は長楕円形を呈する。検出長1.8m、検出幅0.9m、深さ0.4mを測る。遺物は須恵器が出土している。

SK 9 3区南端で検出した。SK 7 の北側に位置する。南北5.8mを測る。東側は攪乱に破壊されている。遺構の深度が工事の掘削深度を超えるため、完掘には至っていない。埋土は灰色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。

ピット 22基を検出したが、調査区の幅が5.0mと限られているため、掘立柱建物跡として把握できるものは確認できなかった。概ね直径0.4m程度、深さ0.1～0.2mを測る。埋土は黄灰色粘質シルトや褐色粘質シルトである。遺物は土師器・須恵器などが出土している。

溝 SD 5 は2区で検出した南北方向に延びる溝である。検出長2.6m、幅1.1m、深さ0.2mを測る。埋土は緑灰色砂礫の単層である。第1遺構面で検出しているが、時期の下がる遺構である。遺物は土師

器・須恵器・石仏が出土している。

第2遺構面(図76)

1・2区のみで調査を行った。ピット8基、土坑1基、流路3条、溝2条を検出した。

流路 SR1 1区西側で検出した南北方向に延びる流路である。検出長2.9m、幅2.2m、深さ0.78mを測る。埋土は黄灰色砂礫層である。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SR2 2区で検出した南北方向に延びる流路である。検出長2.9m、幅3.1m、深さ1.0mを測る。埋土は黄灰色砂礫層である。遺物は出土していない。

S R 1・2 共に北から南へ向かって延び、地山層より深い深度に及ぶ。埋土が砂礫層で、斜面を抉った土砂が流入した痕跡の可能性が考えられる。

溝 SD2・3 共に1区中央部で検出した溝であり、遺物は出土していない。SD2は検出長3.7m、幅1.3m、深さ0.26mを測る。埋土は黒褐色礫混じり粘質土の単層である。SD3は検出長2.5m、幅1.1m、深さ0.5mを測る。埋土はにぶい黄橙色砂礫の単層である。

土坑 SK3 1区東側で検出した土坑である。検出長2.1m、幅3.1m、深さ0.16mを測る。埋土は灰黄褐色砂質土と黄褐色砂礫である。遺物は須恵器が出土している。

第3遺構面 地山直上の黒褐色粘質土～暗灰色粘質土が遺物包含層である可能性があったため、地山面まで掘削し、遺構検出を行った。しかし、遺構・遺物共に確認されなかった。

(4) 出土遺物(図77)

竪穴建物跡2出土遺物(527) 527は須恵器杯蓋である。天井部は丸みを帯び、口縁部は内側が面を成す。飛鳥Ⅰ期である。

SK9出土遺物(528・529) 528は須恵器蓋のつまみ部分である。扁平な円形を呈する。529は須恵器蓋である。内側に断面三角形状のかえりをもつ。飛鳥Ⅲ期である。

SK8出土遺物(530) 530は須恵器杯身である。たちあがりは内傾し、端部は丸く收める。TK

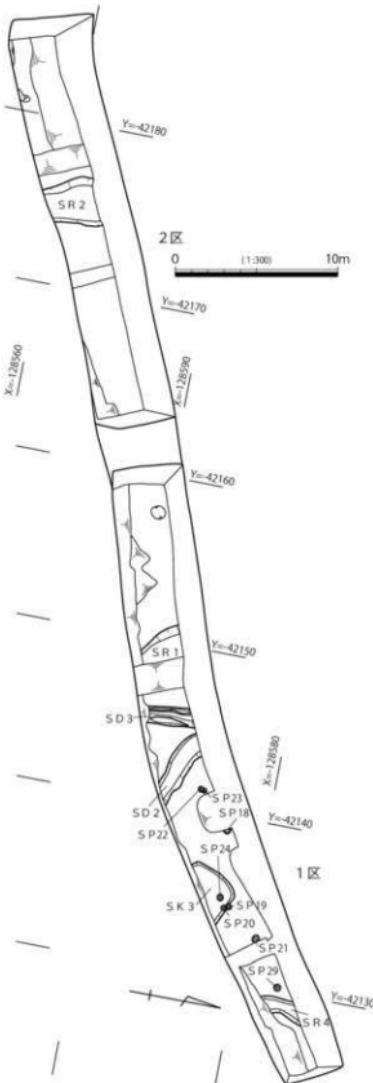


図76 11-2調査 第2面平面図

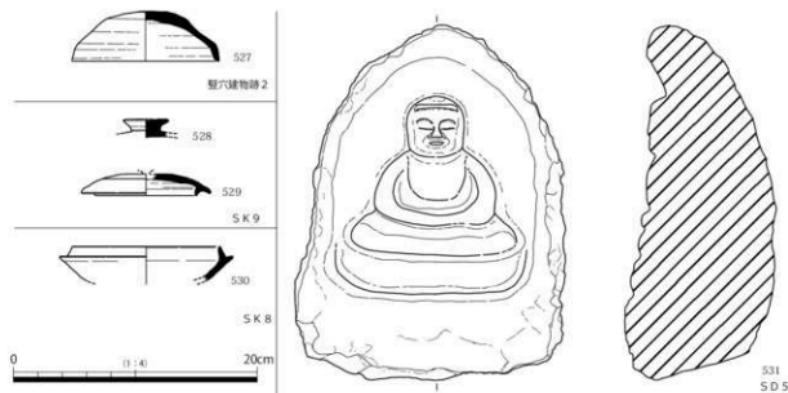


図 77 11-2 調査 出土遺物実測図

209型式である。

S D 5 出土遺物（531） 531は花崗岩製の石仏である。以下、石仏の分類・計測部位などは『栗栖山南墳墓群』による。高さ29.0cm、最大幅22.0cm、頂部から加工面までの高さ2.8cm、加工面の幅19.0cm、最大厚13.4cmをそれぞれ測る。光背形石仏である。

自然石的一面に石仏を彫り込んでおり、下端は土中に埋置することを前提としているため、未加工である。光背の形態は頂部を尖らせている（I類）。像容彫り込み面の形態は瘤状に彫り込んでいる。（d類）。像容は阿弥陀如来坐像であり、台座を含めて坐像を表現している（3類）。頭髪部は肉髻の表現がない（b類）。顔部は細部まで表現されている。腕部は左右の区別なく一本で表現している（b類）。左腕肘の外側輪郭線がなく、未加工部分や左膝にかけて連結している。袈裟の垂れ下がった状態を表現していると考えられている。以上のような分析を佐保栗栖山南墳墓群での結果と比較すると、15世紀から16世紀の範疇に収まるものと考えられる。

（5）小結

今回の調査では、擁壁工事という幅の限られた調査ではあったが、7世紀前半～中頃の竪穴建物跡を検出することができた。周辺は宿久庄遺跡内でも既往の調査が少ない地域であるが、当該期の集落が広がっていた可能性がある。宿久庄遺跡内ではこの時期の竪穴建物跡は認められていないが、西側800mに位置する宿久庄西遺跡15-1調査や北東1.3kmに位置する西福井遺跡において飛鳥時代の竪穴建物跡が検出されており、小規模な集落が散在する地域であったのかもしれない。

S D 5 から出土した石仏は、周辺に石仏を伴う墓地が存在した可能性を示唆するものである。南側50mに位置する82-2調査（本書第1節）においても石仏が出土していることから、その関係性が窺われる。

第IV章 総括

第1節 はじめに

本書においては、主に宿久庄遺跡の東側に位置する調査について記述してきた。まず、本書で取り上げた調査成果を時代順にまとめ、最後に『宿久庄遺跡1』の内容も含めて遺跡内の動態をまとめることとする。

第2節 各時代の成果

縄文時代 晩期の土器1点（94-4調査）、石器及び後期の土器1点（11-1調査）がそれぞれ出土している。

弥生時代 前期の土器（06-1・11-1）、中期の土器（1987年度・11-1）、後期の土器（1987年度・06-1・11-1）がそれぞれ出土している。06-1調査では遺構内から前期の土器が出土しているが、土師器も出土しているため、後代の遺構に混入している可能性が高く、弥生時代の遺構として確實なものは未だ確認されていない。

古墳時代 99-1調査で前期の竪穴建物跡を検出している。住居の埋土からは山陰系の土器が出土している。竪穴建物跡は06-1調査でも検出しているが、06-1調査では時期を確定する判断材料が不足しており、同時期の可能性もあることを指摘するに留める。

その他に、11-1調査で検出した自然流路から古墳時代前期の土師器が多く出土しており、この中には山陰系の特徴をもつ土師器を含むことが挙げられる。古墳時代前期は各地との交流が活発な時期であり、山陰との交流があったことを窺わせる。

古墳時代中期には11-1調査で遺構・遺物を確認している。古墳時代後期～飛鳥時代にかけては遺物量が少ない。ただし、11-1調査で出土した子持ち勾玉は7世紀前半の可能性があり、銅鏡は飛鳥～奈良時代と考えられ、何らかの祭祀が近辺で行われていたのかもしれない。

古代 奈良時代の遺物はほとんど認められないが、99-1調査で10世紀後半の掘立柱建物跡1棟を確認した。

中世 本書での報告分では、12世紀代～13世紀代の遺構・遺物が確認されている。12世紀代の遺物は多くは無いが、11-1調査で出土した十瓶山窯須恵器（こね鉢・甕）は周辺の遺跡も含め、確認例が少ないものであり、この時期から既に流通拠点であった可能性もある。また、99-4調査では、檜物座の活動範囲との関連が指摘されている狭域流通品である豊島型足鍋が出土しており、それぞれの品物において広域・狭域双方の流通網が複雑に関連している可能性がある。

特に宿久庄遺跡を中心となっているのが、13世紀代の遺構・遺物である。滑石製石鍋や輸入磁器、東播系須恵器などの広域流通品も多く認められ、「山陽道」に近接した流通拠点であった様子を窺うことができる。

近世 99-4調査において、耕作地の区画と考えられる大畦畔を検出した。同時に検出した近世の溝も耕作地の区画と関係があると考えられる。

第3節 宿久庄遺跡の動態

2冊にわたって報告した既往の宿久庄遺跡の調査では、縄文時代から近世に至る時期の調査成果を確認することができた。以下、前節と一部重複するが、各時代の様相をまとめると共に、遺跡内での変遷

を追うこととする。

縄文時代 活動の痕跡を窺えるのは、後期以降である。78-1（『宿久庄遺跡1』以下、『1』と表記する）第III章第2節（以下、第III章略）、04-1調査区（『1』第13節）で後期中葉の土器が出土している。両調査区の周辺では遺物の出土は確認されておらず、明確な遺構は確認できていないが、この辺りに集落が存在したのであろう。遺跡東側では、11-1（本書第III章第9節。以下、第III章略）で後期の土器と時期不明の底部片が出土しているが、1点ずつであるため後世に流入したものと考えられる。
弥生時代 量は少ないが、前期から後期の土器が出土している。現時点で弥生時代の遺構は確認できておらず、1987年度確認調査（本書第4節）で中期・後期の土器と共に、遺構の可能性のある層位が確認されており、未だ本発掘調査例のない遺跡北東部に弥生時代の遺構が存在する可能性がある。

また、06-1調査（本書第8節）において弥生時代前期の土器が出土している。茨木市西部では確認例の少ない時期であり、周辺の遺跡動態を考える上でも重要な成果である。

古墳時代 前期の竪穴建物跡が99-1調査（本書第6節）で検出されている。竪穴建物自体は一部の検出に留まつたが、埋土より山陰系の土器が出土している。山陰系の土器は、11-1調査（本書第9節）においても出土しており、山陰地方との交流を窺うことができる。茨木市内には、多量の外来系土器が出土した溝呂遺跡が所在する。溝呂遺跡は河内湖北岸に位置する水上交通による流通拠点と考えられている遺跡である。今回、宿久庄遺跡での出土した山陰系の土器は、いずれも在地の胎土であり、土器自体が持ち込まれたものではない。山陰地方と近畿地方とのルートは〔岩橋2011〕において瀬戸内海に出た後に淀川を遡るルートが示されている。ただし、全てを海上ルートに限定する必要もないと思われ、内陸部に位置する宿久庄遺跡では、陸上ルートの存在も考慮する必要があろうか。

また、古墳時代前期で注目されるものとして、01-1調査（『1』第12節）、11-1調査（本書第9節）で出土した製塩土器の可能性が考えられる糞がある。宿久庄遺跡は内陸の遺跡であり、塩を製造する環境にはないことから、これらは塩を運ぶ容器として使用されたものであり、古墳時代前期における物の

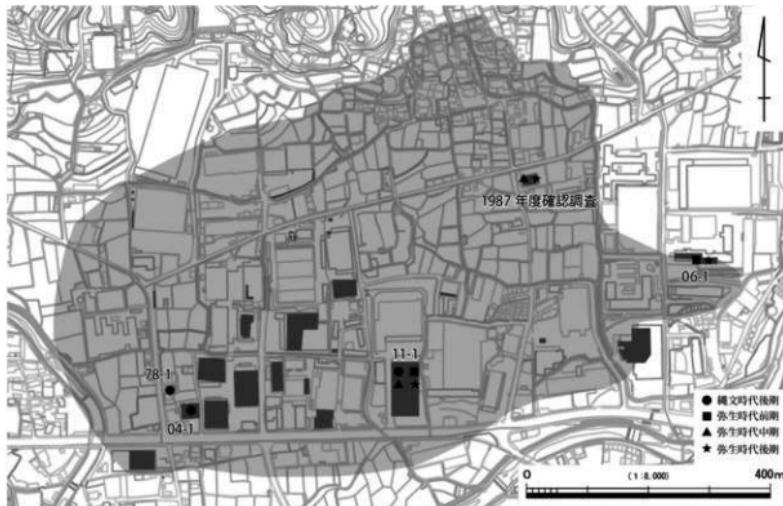


図 78 宿久庄遺跡内各時期遺物出土地点（1）

移動を考える上で重要な成果である。

古墳時代中期には、83-1調査（『1』第5節）で須恵器の器台などの大形器種が出土している。推測にすぎないが、同時期の蓋杯類はほとんど出土していないことから、古墳祭祀で用いるための土器であったのかもしれない。

後期には、遺跡の西部で多くの遺物が出土している。後期後半から飛鳥時代初頭にかけての遺物が多い。11-2調査（本書第10節）では竪穴建物跡を検出している。西側1.0kmの宿久庄西遺跡、北東1.0kmの西福井遺跡においても竪穴建物を検出しており後の「山陽道」沿いに集落が存在したと考えられる。

古代の項で記述するべきかもしれないが、11-1調査（本書第9節）で出土した子持ち勾玉（7世紀前半頃）・銅鏡（八花鏡・飛鳥～奈良時代）は、稀少なもので、これらを用いた祭祀が行われていた可能性がある。

古代 遺物が散発的に出土する程度で、顯著な遺構は認められない。遺跡内の未調査区域に移動したのか、宿久庄遺跡から離れている可能性がある。11世紀には文献上に中宮職領宿久御園や仁和寺領宿久庄が登場するが、発掘調査の結果では、91-1調査（本書第5節）で10世紀代の掘立柱建物1棟を検出している程度で不明な点が多い。

中世 91-1（本書第5節）、99-4（本書第7節）、99-5（『1』第11節）、01-1（『1』第12節）、11-1（本書第9節）の各調査区で多くの遺構・遺物を確認している。掘立柱建物や井戸など集落に関連する遺構も確認されており、宿久庄遺跡の中央部から南側には集落が営まれていたことが確認できる。出土遺物では、12世紀代の十瓶山窯産のこね鉢・甕や13世紀代の滑石製石鍋、亀山焼甕、常滑焼山茶碗など広域流通品ではあるが、一般的な集落では出土しない遺物が確認されており、山陽道沿いの流通拠点集落として位置付けることができよう。

なお、宿久庄遺跡で出土する瓦器挽は、ほぼすべてが和泉型である（佐藤2011・森島2005）。内面

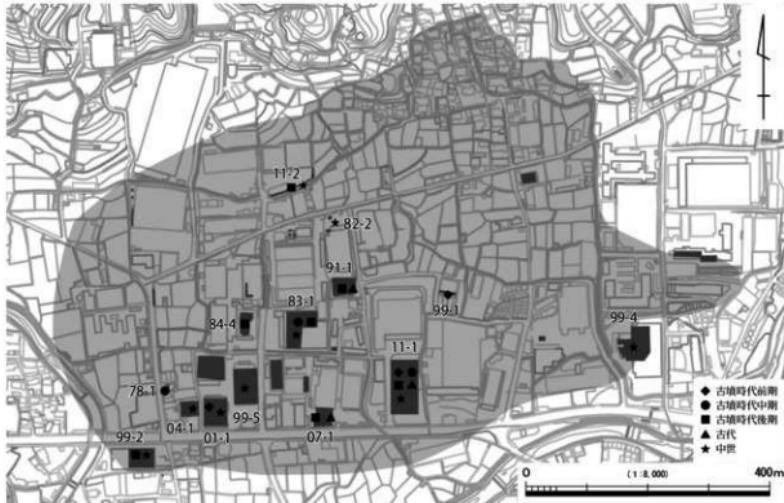


図79 宿久庄遺跡内各時期遺物出土地点（2）

見込みの暗文はほぼ平行線状暗文を施す。一部ではあるが（99-4調査・206・209など）渦巻き状暗文が認められるものも存在する。また、棹葉型瓦器椀が3点出土している。83-1調査（『1』第5節80）、99-4調査（本書第7節-175）、11-1調査（本書第9節-359）である。共に棹葉型III-3期頃のものである。

遺物量が豊富なのは、13世紀後半までで、それ以降はほとんど確認できなくなる。11-1調査（本書第9節）で出土した瓦質土器の深鉢（15世紀代）がほぼ唯一といつてもよいくらいである。西側1.5kmに位置する栗生間谷遺跡も軌を一にして集落が小規模になっており、この時期に流通網が変化したのかかもしれない。

なお、文献に表れる宿久庄周辺で活動したと考えられる「宿久氏」や、周辺に所在したと考えられる「宿久城」については、現時点ではその痕跡を確認できていない。

以上、各時代の様子をまとめてきた。現時点においては、古墳時代後期から飛鳥時代にかけてと、中世（12世紀～13世紀にかけて）が遺跡の中心となる時期といえる。ただし、宿久庄遺跡の調査は包蔵地範囲の南部に偏っており、遺跡の中央部から北部にかけては、ほぼ手付かずの状態である。今後の調査によっては、また異なった姿を現してくるのかもしれない。

参考文献

第Ⅱ章

- 石本倫子 2009 「戦国期摂津における国人領主と地域—摂津国人一揆の再検討を通して—」『ヒストリア』第213号
大阪歴史学会
- 市村 宏（全訳註）2011『風姿花伝』講談社
- 茨木市 2012『新修 茨木市史』第一巻 通史Ⅰ
- 茨木市 2013『新修 茨木市史』第四巻 資料編 古代中世
- 茨木市 2014『新修 茨木市史』第七巻 資料編 考古
- 茨木市 2016『新修 茨木市史』第二巻 通史Ⅱ
- 茨木市教育委員会 2016『国史跡 郡山宿本陣一椿の本陣ー』
- 茨木市教育委員会 2016『宿久庄西遺跡1』
- 茨木市教育委員会 2017『宿久庄西遺跡2』
- 茨木市教育委員会 2022『宿久庄遺跡1』
- 大阪府教育委員会 2003『福井遺跡』
- 大阪府教育委員会 2006『福井遺跡Ⅱ』
- 大阪府教育委員会 2009『福井遺跡Ⅲ』
- 岡田 賢 2018「西福井遺跡の発掘調査について一府立福井高等学校建設に伴う発掘調査の概要ー』『茨木市立文化財資料館報』第3号 茨木市立文化財資料館
- 河音能平 1977「中世前期北摂武士団の動向」『高槻市史』一(のち 2011『中世畿内の村落と都市』図書出版文理閣 所収)
- 木下 良 2013「六 大道・大路その他の道路関係地名」『日本古代道路の復元的研究』吉川弘文館
- 木庭元晴 2012「第一章 基盤地質」『新修 茨木市史』第1巻
- 京都大学大学院文学研究科考古学研究室 2007『紫金山古墳の研究』
- 黒崎 直 1980「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集VI』奈良国立文化財研究所
- 国書刊行会 1915『言譙卿記』第4巻
- 小林義孝・海道博史「古代火葬墓の典型的形態」『太子町立竹内街道歴史資料館 館報』第6号 太子町立竹内街道歴史資料館
- 財団法人 大阪府文化財調査研究センター 1999 a『庄田遺跡』
- 財団法人 大阪府文化財調査研究センター 1999 b『徳大寺遺跡』
- 財団法人 大阪府文化財調査研究センター 2000 a『佐保栗柄山古跡』
- 財団法人 大阪府文化財調査研究センター 2000 b『栗柄山南墳墓群』
- 財団法人 大阪府文化財センター 2002『宿久庄西遺跡』
- 財団法人 大阪府文化財センター 2003 a『粟生間谷遺跡』旧石器・縄紋時代編
- 財団法人 大阪府文化財センター 2003 b『粟生間谷遺跡』古代・中世編
- 財団法人 大阪府文化財センター 2003 c『豊川遺跡』
- 財団法人 大阪府文化財センター 2005『福井遺跡』
- 白井忠雄 1974「茨木市宿久庄出土の藏骨容器」『古代文化』3 元興寺仏教民俗資料研究所考古学研究室
続群書類從完成会 1923『続群書類從・第二輯下 神祇部』
- 続群書類從完成会 1929『群書類從・第一輯 神祇部』『神宮雜例集卷第一』
- 続群書類從完成会 1930『続群書類從・補遺二 看聞御記(下)』
- 真宗史料刊行会 2017『大系真宗史料 文書記録編9 天文日記II』法藏館
- 竹内理三 1964『平安遺文』古文書編 第二巻

- 辻本充彦 1977 「三島地方採集の石器」『大阪文化誌』第3巻第2号 財団法人 大阪文化財センター
- 天坊幸彦 1947 「攝津三島郡の條里」『上代浪華の歴史地理的研究』大八州出版
- 東京大学史料編纂所 1922 『大日本史料』 第十編之十九
- 東京大学史料編纂所 1938 『大日本史料』 第十編之六
- 東京大学史料編纂所 1969 『大日本古記録 小右記』五
- 東京大学史料編纂所 1988 『大日本古記録 岡屋闇白記』岩波書店
- 戸田芳実 1992 「古代中世の北摂山陽道」『歴史と古道—歩いて学ぶ中世史一』人文書院
- 虎尾俊哉 2000 『延喜式』上 集英社
- 中西裕樹 2019 『戦国摂津の下克上 高山右近と中川清秀』戎光祥出版
- 名古屋市立博物館 1992 『和名類聚抄』名古屋市立博物館資料叢書二
- 服部昌之 1983 『律令国家の歴史地理学的研究—古代の空間構成』大明堂
- 馬部隆弘 2016 「第一節 織豊期の茨木」『新修 茨木市史』第二巻 通史II
- 福留照尚 2008 「茨木の条里について」『新修 茨木市史年報』第7号 茨木市
- 福留照尚 2012 「第三節 宿久の猿楽」『新修 茨木市史』第一巻 通史I
- 箕面市役所 1968 『箕面市史』史料編一 箕面市役所
- 箕面市役所 1972 『箕面市史』史料編二 箕面市役所
- 森田克之 2006 『今城塚と三島古墳群』同成社
- 大和郡山市教育委員会 1984 『大和郡山市西方寺所蔵一切経調査報告書』

第三章

宿久遺跡既刊概報（本書掲載調査分）

茨木市教育委員会 1986 『昭和60年度発掘調査概報』

茨木市教育委員会 1992 『平成3年度発掘調査概報』

茨木市教育委員会 2000 『平成11年度発掘調査概報』

茨木市教育委員会 2001 『平成12年度発掘調査概報』

茨木市教育委員会 2008 『平成19年度発掘調査概報』

縄文土器

玉田芳秀・岡田憲一 2010 「5. 近畿」『西日本の縄文土器 後期』真陽社

弥生土器

森田克行 1990 「摂津地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編II 木耳社

土師器

市村慎太郎 1999 「久宝寺遺跡出土鼓形器台の意義」『河内平野遺跡群の動態』VII 大阪府教育委員会・¹⁰大阪府文化財調査研究センター

岩橋孝典 2011 「山陰から畿内への道（1）～弥生時代後期末～古墳時代中期の山陰系土器からのアプローチ～」『古代出雲の多面的交流の研究』島根県古代文化センター

河田泰之 1996 「大阪湾岸を中心とした土器製造活動の展開」『下田遺跡』¹⁰大阪府文化財調査研究センター

京嶋 覚 1992 「古墳時代後半期における土師器の器種構成」『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』III ¹⁰大阪市文化財協会

合田幸美 2000 「溝町遺跡出土の外來系土器について」『溝町遺跡1・2』¹⁰大阪府文化財調査研究センター

稲山 洋 2004 「大阪湾沿岸の古墳時代土器製造」『季刊考古学・別冊14 畿内の巨大古墳とその時代』雄山閣

辻 美紀 1999 「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室・大阪大学

考古学友の会

- 中野 咲 2008 「接合技法からみた古墳時代中・後期の土師器高环—いわゆる刺突法とその周辺—」『韓式系土器研究』
X 韩式系土器研究会
- 米田敏幸 2003 「畿内出土の山陰系土器群について」『邪馬台国時代の出雲と大和』香芝市教育委員会
- 米田敏幸 2003 「畿内における山陰系土器群の動向について」『初期古墳と大和の考古学』
- 豊穴建物
- 石野博信 1975 「考古学からみた古代日本の住居」『家』社会思想社 (石野博信 1990 『日本原始・古代住居の研究』に「第1章 古代日本の住居」として所収)
- 合田茂伸・合田幸美 2003 「近畿地方中・西部における庄内式期前後の豊穴住居について」『初期古墳と大和の考古学』
雄山閣
- 古代の土器
- 古代の土器研究会 1992 『古代の土器Ⅰ 都城の土器集成』
- 古代の土器研究会 1993 『古代の土器Ⅱ 都城の土器集成Ⅱ』
- 子持ち勾玉
- 大平茂 1989 「子持ち勾玉年代考」『古文化談叢』第21集 九州古文化研究会 (大平茂 2008 『祭祀考古学の研究』雄山閣
所収)
- 新海正博 2002 「3A・5B調査区出土の子持ち勾玉について」『大阪城跡発掘調査報告1』(大阪府文化財センター
鏡)
- 杉山 洋 1999 「古代の鏡」日本の美術第393号 至文堂
- 山本忠尚 2011 「人物故事鏡に関する覚書き」『古事』天理大学考古学・民俗学研究室紀要第15冊 天理大学考古学・
民俗学研究室
- 木鍾(ツチノコ)
- 渡辺 誠 1981 「もじり編み木製鍾の考古資料について」『考古学雑誌』第66卷第4号 日本考古學會
- 貝塚市教育委員会 1993 「加治神前當中遺跡発掘調査概要」
- 財團法人 東大阪市文化財協会 1999 「鬼塚遺跡第13次(遺物編)・15次発掘調査報告書」
- 南あわじ市教育委員会 2020 「九歳遺跡1」
- 中世の遺物
- 伊野近富 2019 「平安京左京内膳町の土師器皿」『中近世土器の基礎研究』27 日本中世土器研究会
- 荻野繁春 1993 「中世西日本における貯蔵容器の生産」『考古学雑誌』第78卷第3号 日本考古學會
- 財團法人 大阪府文化財調査研究センター 1998 「玉櫛遺跡」
- 尾上 実 1983 「南河内の瓦器窯」『古文化論叢』藤沢一夫先生古稀記念論集
- 片桐孝浩 1992 「讃岐国十瓶山窯製品の流通について」『中近世土器の基礎研究』VII 日本中世土器研究会
- 木戸雅寿 1995 「石鍋」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社
- 小森俊寛・上村憲章 1996 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要第3号』(京都都市埋蔵文化財研
究所)
- 佐藤亜聖 1996 「大和における瓦質土器の展開と画期」『中近世土器の基礎研究』X I 日本中世土器研究会
- 太宰府市教育委員会 2000 「大宰府条坊跡」X V
- 佐藤亜聖 2011 「大阪府下における和泉型瓦器窯の地域相抽出とその意義」『中近世土器の基礎研究』23 日本中世土器
研究会
- 高橋照彦 1995 「縁軸陶器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社
- 中世土器研究会事務局 2015 「東播系須恵器鉢の分類と編年」『中近世土器の基礎研究』26 日本中世土器研究会
- 橋本久和 2004 「土器が語る中世の流通」『中世西日本の流通と交通—行き交うヒトとモノ』高志書院

- 森島康雄 1990 「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究』VI 日本中世土器研究会
- 森島康雄 2005 「瓦器－編年と技術伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術と編年～」実行委員会
- 森 隆 1990・1991 「西日本の黒色土器生産」(上・中・下)『考古学研究』第37巻2～4号 考古学研究会
出土銭
- 兵庫埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧 1996 年度版』
- 石仏
- 森屋美佐子・市本芳三 2000 「五輪塔・石仏の分析」『栗柄山南墳墓群』(大阪府文化財調査研究センター)

表4 出土遺物觀察表（1）

遺物 次第	標 記 番 号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考
82-2	1	-	A区 SD1	土師器	皿 口径：(7.8) 高さ：1.3	1/4 口縁・ 底部1/4 底部1/8	外・内：2.5Y6/2 灰黄	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	
	2	-	A区 SD1	土師器	皿 口径：(7.95) 高さ：1.5	口縁・ 底部1/4 底部1/8	外・内：10YR6/3 にふい・黄褐	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	
	3	20	A区 SD1	土師器	皿 口径：(8.0) 高さ：1.55	1/2	外・内：10YR6/3 にふい・黄褐	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	
	4	-	A区 SD1	土師器	皿 口径：(8.2) 高さ：1.2	口縁・ 底部5/16 底部1/4	外・内：10YR6/3 にふい・黄褐	赤 (雲母を含む)	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	
	5	20	A区 SD1	土師器	皿 口径：8.6 高さ：1.5	ほぼ完形	外・内：10YR6/3 にふい・黄褐	赤 (φ0.5mm以下のチャート、 長石、石英を含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	口縫部歪み
	6	20	A区 SD1	土師器	皿 口径：(8.8) 高さ：1.4	1/2	外・内：2.5Y6/3 にふい・黄	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	
	7	-	A区 SD1	土師器	皿 口径：(10.8) 高さ：1.85	口縁・ 底部3/16 底部1/8	外・内：10YR6/2 灰黄褐	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	
	8	20	A区 SD1	土師器	皿 口径：(13.15) 高さ：1.95	口縁・ 底部1/4 底部1/3	外・断・内： 10YR6/2灰黄褐	φ1mm程度のチャート、 長石を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	
	9	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(13.2) 高さ：3.3 高台径：(5.6)	1/4 にふい・黄褐 底部1/8	外：10YR7/-7/3 にふい・黄褐 内：10YR7/1灰白 10YR7/2灰黄褐 10YR8/1灰白	赤 (φ1mm程度の石粒を微 量に含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 断面後平行線状暗 文	和泉型IV-1
	10	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(13.6) 高さ：4.0 高台径：(3.4)	1/3	外：2.5Y7/3灰褐 2.5Y7/1灰白 内：2.5Y7/3灰褐 2.5Y5/1灰黄	赤 (φ3mm程度の石粒を微 量に含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型IV-1
	11	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(13.75) 高さ：4.0 高台径：4.05	口縫部1/6 底部1/4 底部1/8	外：10YR8/2灰黄褐 N4/灰 内：2.5Y7/2灰黄 N4/灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型IV-1
	12	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(13.8) 高さ：3.05 高台径：5.65	1/2	外：2.5Y5/1灰黄 2.5Y7/1~8/1灰 内：N8/灰白 N5/4/灰	赤 (φ1mm程度の石粒を微 量に含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型IV-1
	13	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：(13.9) 高さ：3.05 高台径：4.1	1/2	外：10YR8/2灰黄褐 N4/灰 内：2.5Y7/1灰白 2.5Y4/1灰黄	赤 (φ1mm程度の石粒を微 量含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-3
	14	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(14.0) 高さ：3.7 高台径：4.65	1/3	外：N5/~4/灰 内：10YR8/1灰白 N4/灰 内：N3/暗赤	赤 (φ2mm程度の石粒を微 量に含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 断面後平行線状暗 文	和泉型IV-1
	15	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：(14.0) 高さ：3.8 高台径：3.6	3/4 口縫部1/4 底部3/8 底部3/5	外：N4/灰、 内：10YR8/1灰白 N4/灰 内：2.5Y6/1 灰黄	赤 (φ1mm程度の石粒を微 量に含む)	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-3 口縫部歪み
	16	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(14.15) 高さ：4.0 高台径：4.6	口縫部1/3 底部3/8 底部3/5	外：N3/暗赤 内：2.5Y7/2灰 内：N4/灰 内：2.5Y7/2 灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-3 口縫部歪み
	17	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：(14.15) 高さ：4.5 高台径：5.1	ほぼ完形	外：2.5Y7/1灰白 N3/暗赤 内：2.5Y7/1灰白 N4/灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-3 口縫部歪み
	18	-	A区 SD1	瓦器	板 口径：(14.25) 高さ：3.8 高台径：(6.1)	口縫部1/4 底部1/2	外・内：10YR5/2~ 4/2灰黄褐 内：10YR4/2灰黄褐	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 断面後平行線状暗 文	和泉型III-3
	19	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：14.55 高さ：3.9 高台径：4.1	口縫部1/2 底部5/8 底部完 形	外・内：N4/灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-3 口縫部歪み
	20	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：14.7 高さ：4.3 高台径：5.4	ほぼ完形	外・内：2.5Y7/1灰 白、N3/暗赤	φ2mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-2 重ね 燒成痕、口 縫部歪み
	21	20	A区 SD1	瓦器	板 口径：14.8 高さ：4.2 高台径：4.05	口縫・ 底部5/8 底部完 形	外：N4/灰、 内：10YR7/2にふい 灰白 内：N4/灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ 平行線状暗文	和泉型III-2

表4 出土遺物観察表（2）

調査 次数	持 番 号	回収 番号	出土地	器種	形態	法量 (cm)	残存	色 調	胎 土	調 査	備 考
82-2	22	20	A区 SD1	瓦器	楕	口径: 14.8 器高: 4.2 高台径: 3.45	完形	外: 2.5Y8/1~7/1 灰白, 2.5Y6/1灰黄 内: 2.5Y7/4灰黄 10YR4/2灰黄 外: 2.5Y7/4灰黄	密 (φ 1mm程度の砂粒を少 量含む)	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, 平行線状文 内面: ナデ	和泉型Ⅱ, 2 口縁部歪み 平行線状文
1987 年度	23	21	茶褐色 粘質砂礫	旁生 土器	壺	口径: △6.5	体部片	外: 黄褐: 10YR4/3 内: 10YR4/1灰灰	φ 3 mm程度の砂粒を中量含 む	外面: 植根直線 文, 粘質砂礫 内面: ナデ	
	24	21	茶褐色 粘質砂礫	旁生 土器	壺	口径: △3.35 底径: △3.8	底部1/2	外: 7.5Y5/2灰灰 内: 2.5Y7/4灰赤 断: 10YR4/2灰黄 内: 7.5YR7/4に灰 黄	φ 4 mm程度の砂粒を中量含 む	外面: タキ 内面: ナデ	底面に線刻 あり
	25	21	茶褐色 粘質砂礫	旁生 土器	鉢	口径: (8.80 底径: 5.95 高台: 3.0)	1/3	外: 黑: 10YR6/6暗 内: 5YR6/6暗	φ 5 mm程度の砂粒を中量含 む	外面: ナデ, タキ 内面: 工具による ナデ	
	26	21	獨立柱 建物 1	瓦器	皿	口径: 8.2 器高: 1.75	完形	外: 内: N4/灰 2.5Y6/1灰黄	φ 0.5mm程度の砂粒を少量含 む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, 平行線状文	概報: 国版 21-C
91-1	27	21	獨立柱 建物 1	土師器	皿	口径: 8.3 器高: 1.35	ほぼ完形	外: 内: 10YR7/4 内: 5YR6/6灰黄 断: 10YR6/6灰黄	φ 1 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	概報: 国版 21-B
	28	21	獨立柱 建物 1	土師器	皿	口径: 8.5 器高: 1.4	ほぼ完形	外: 内: 10YR7/4 内: 5YR6/6灰黄	φ 1 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	29	21	S P 4	土師器	皿	口径: (7.7) 器高: 1.35	3/8	外: 内: 2.5Y7/4 灰黄 断: 10YR7/6明灰 内: 2.5Y7/4	φ 2 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	30	-	S P 5	土師器	皿	口径: (7.75) 器高: 1.4	1/4	外: 2.5Y6/2灰 2.5Y6/1灰黄 内: 2.5Y7/3 灰黄	φ 2 mm程度のチャート, 長 石, 玄母を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	31	21	S P 4	土師器	皿	口径: (14.0) 器高: 2.2	口縁部1/9 体一部 1/5	外: 10YR7/6明灰 内: 5YR6/6灰 断: 10YR7/6明灰	φ 2 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫, 玄母を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	32	21	S P 190	瓦器	楕	口径: (15.55) 器高: 4.0 高台径: 4.5	1/4	外: N4/灰 内: 2.5Y7/2灰黄 内: N5/灰	φ 2 mm程度の砂粒を少量含 む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ, 平行線状文	和泉型Ⅳ-1 口縁部歪み 概報: 1
	33	22	S P 102	土師器	皿	口径: 8.3 器高: 1.3	口縫、 (体部3/8 底部1/2)	外: 10YR8/3灰黄 内: 5YR8/3灰黄	φ 1 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫, 石英, 玄母 を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	概報: 4
	34	22	S P 124	土師器	皿	口径: (8.5) 器高: 1.3	1/3	外: 内: 10YR7/4 内: 5YR7/3に灰 黄	φ 1.5 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫, 石英を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	35	24	S P 123	瓦器	楕	口径: 13.2 器高: 3.75 高台径: (4.1)	1/2	外: N6/灰, 2.5Y8/1 内: 2.5Y7/2灰黄 内: 3Y5/1灰 2.5Y7/1灰E	φ 1 mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ, 二方半	和泉型Ⅳ-1 概報: 3
	36	22	S P 53	黑色 土器	楕	口径: (8.0) 器高: △1.3	高台部 3/8	外: 7.5YR6/4 内: 5Y7-1 内: 2.5Y2/1黑	φ 0.5 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, ヨコナデ, ナデ, マガホ 内面: ナデ	A類
	37	22	S K 6	土師器	皿	口径: (7.65) 器高: 1.3	5/12	外: 断: 10YR7/4に灰 黄	φ 2 mm程度のチャート, 長 石, カサリ礫を含む	外面: ヨコナデ, ナデ, コビオサエ, ナデ, ヨコナデ, ナデ	
	38	23	S D 1	須恵器	壺	口径: (15.0) 器高: △10.6	口縁部 3/16 底径1/4	外: 10YR5/1灰黄 内: 10YR6/1灰 10YR6/1灰黄	φ 1.5 mm程度の砂粒を少量含 む	外面: ヨコナデ, 四 脚, 疣状文 内面: ナデ	T K 10~ T K 43 内面: 自然 糊
	39	23	S D 1	須恵器	壺	口径: (21.4) 器高: 44.1	口縁部 1/2 体一部 はぼり出	外: 2.5Y7/1灰E 2.5Y5/1灰黄 N7/ 灰白, N6/・5/ N7/ 灰白, N6/・ 3/灰 内: N7/灰白, N6/灰	密 (φ 1 mm程度の砂粒を概 ねに含む)	外面: ヨコナデ, カヌメ, ヨコナデ タキ後部的にカ ヌメ 内面: ヨコナデ, 同心円状当て痕	T K 10~ T K 43 概報: 国版 21-D
	40	23	落込み	須恵器	壺	口径: (12.75) 器高: 16.8	口縁部 1/2 体一部 はぼり出	外: N6/・5/ 灰 内: N7/灰白	φ 1 mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ, カヌメ, ナデ, 回 転文 内面: 回転ナ デ, ヨコナデ	T K 43 内面: 自然 糊 概報: 26
	41	23	落込み	須恵器	壺	口径: 13.5 器高: 17.5	口縁部2/3 第1脚~底部 完形	外: N7/灰白, N6/ 灰 内: N7/灰E	φ 2 mm程度の砂粒を含む	外面: 10YR7/4 2.5Y8/1灰E 内面: ヨコナデ, カヌメ, ナデ	T K 43 内面: 自然 糊 概報: 25
	42	22	3層	灰釉 陶器	壺	口径: △2.4	口縁部 片	9.5/ 断: 2.5Y8/1灰白 内: 2.5Y8/1灰白	密	外: 内面: 回転ナ デ, ヨコナデ	
	43	22	3層	灰釉 陶器	壺	高台径: (6.1) 器高: △2.05	高台 1/2	外: N5/ 断: 2.5Y8/1灰白 内: 2.5Y8/1灰白	φ 3 mm程度の砂粒を含む	外: 内面: 回転ナ デ, ヨコナデ	概報: 9
	44	22	3層	白磁	壺	器高: △3.6	体部片	9.5Y7/2灰白 外: 黑: 2.5Y8/1 灰白	密	外: 内面: 施釉	概報: 国版 20-A

表4 出土遺物観察表（3）

遺物 次番 順位	遺物 記号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調査	備考
	45 22	3層	白磁	皿	口径：(10.0) 高さ：△2.6	1/7	外・内：10Y8/1 灰白、2.5Y8/1灰白 断：5Y8/1灰白	黒	外・内面：施釉	V類 概報：7
	46 22	3層	白磁	皿	口径：(16.0) 高さ：△3.5	1/8	外・内：7.5Y7/1 灰白 断：2.5Y8/1灰白	黒	外・内面：施釉	V類 概報：6
	47 22	3層	土師器	皿	口径：8.0 高さ：△3	1/2	外・内：10Y7/4 にぶい黄褐 断：7.5Y8/6灰	φ 1mm程度のチャート、長 石、カリ輝を含む	外：ヨコナデ、 ナデ、ヨコサエ、 内：ヨコナデ、 ナデ	
	48 24	3層	土師器	皿	口径：8.45 高さ：△5.5 底径3/8 高台部4/5	外・内・内： 口縁部 底径3/8 高台部4/5 10Y7/4にぶい黄褐	φ 1.5mm程度のチャート、長 石、カリ輝を含む	外・内：ヨコナデ、 ナデ		
	49 24	3層	瓦器	板	口径：(15.65) 底径：4.0 高台径：△4.0 高台部2/3	口縁部 9/16 底径3/4 高台部2/3	外・内：N6/灰、 2.5Y7/2灰黄	φ 0.5mm程度の石英、長石、 カリ輝を含む	外：ヨコナデ、 ナデ、ヨコサエ、 内：ヨコナデ、 ナデ	和泉型IV-1 概報：2
	50 22	3層	須恵器	鉢	口径：(23.0) 高さ：△5.5	1/12	外：N6/灰、N3/灰灰 内・内：N6/灰	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：回転ナデ、 ナデ	東播系 概報：5
	51 -	3層	黒色 土器	碗	口径：△4.0	1/12	外：N2/黑、 7.5Y8/6灰 断・内：N2/黑	黒	外：ヘラタガニ 内：沈曜・ヘラ 三刀半	A類 概報：8
	52 24	4層	土師器	甕	口径：(21.8) 高さ：△9.4	口縁～ 底径1/2	口縁部 7.5Y8/6灰 内・内：7.5Y8/6灰 7.5Y8/7/4にぶい	φ 0.3mm程度の石英、長石 を少量含む	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ハ ケ、ヨコサエ後 ナデ	概報：國版 21-E
	53 24	4層	須恵器	短縄壺	口径：12.7 高さ：16.7	ほぼ完形	外・内：2.5Y6/1灰 灰	φ 1mm程度の砂粒を含む	外：回転ナデ、 内：自然 釉	飛鳥 I 概報：24
	54 23	4層	須恵器	杯酒	口径：(16.1) 高さ：△4.4	口縁部1/8 底径1/2 天井部1/4	外・内・内：N6/灰	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：ヨコナデ、 ナデ、ヨコサエ、 内：ヨコナデ、 ナデ	T K 10 概報：13
	55 23	4層	須恵器	杯酒	口径：(13.6) 高さ：△3.8	1/4	外・内・内： 2.5Y7/1灰白	φ 2mm程度の砂粒を含む	外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ、 ナデ	T K 43 概報：12
	56 24	4層	須恵器	杯酒	口径：14.55 高さ：△3.8	口縁部1/3 底・天井 部完	外：2.5Y7/1、8/1灰 内：2.5Y7/2灰黃	φ 2mm程度の砂粒を含む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 43 概報：11
	57 24	4層	須恵器	有蓋 高杯蓋	口径：(15.5) 高さ：△4.5	口縁部3/8 底・天井 部2/3	外：N4/灰 内：N6/灰	φ 1mm程度の砂粒を含む	外：回転ナデ、 内：カキメ	T K 43～ T K 209 概報：10
	58 23	4層	須恵器	杯身	口径：(11.85) 高さ：△4.4	口縁部1/4 底5/6	外・内・内：N6/灰	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 10 概報：22
	59 -	4層	須恵器	杯身	口径：(11.6) 高さ：△4.7 底径：△6.8	1/12	外・内・内： NB/灰白	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 10 概報：23
	60 23	4層	須恵器	杯身	口径：12.6 高さ：△3.4	1/3	外・内：N6/灰 内：N5/灰	黒 (φ 1mm程度の砂粒を微 量に含む)	外：回転ナデ、 内：ヨコナデ、 ナデ	T K 43 概報：19
	61 23	4層	須恵器	杯身	口径：(12.7) 高さ：△3.55	口縁 底部1/8 天井部1/4	外・内：N6/灰 断：7.5Y8/2灰黃	φ 1mm程度の砂粒を含む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 209 概報：20
	62 23	4層	須恵器	杯身	口径：(12.75) 高さ：△3.65	3/8	外・内・内：N6/灰	φ 4mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 209 概報：18
	63 23	4層	須恵器	杯身	口径：(12.85) 高さ：△3.63	1/6	外：N7/灰白、N6/灰 断・内：N7/灰白	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	T K 209 概報：15
	64 -	4層	須恵器	杯身	口径：(12.3) 高さ：△3.4 底径：△4.2	1/12	外・内：N5/灰 内：N7/灰白	φ 1mm程度の砂粒を少量含 む	外：回転ナデ、 内：ヨコナデ、 ナデ	T K 209 概報：17
	65 23	4層	須恵器	杯身	口径：(14.05) 高さ：△4.03	1/4	外・内：N6/灰	φ 1mm程度の砂粒、黑色粒 を含む	外：回転ナデ、 内：ヨコナデ、 ナデ	T K 209 概報：14
	66 24	4層	須恵器	杯身	口径：9.35 高さ：△6.9	ほぼ完形	外・内：5Y5/1灰、 5Y7/2灰白	φ 2mm程度の砂粒を含む	外：回転ナデ、 内：ヘラタグナ リ、ヨコサエ	飛鳥 I 概報：21
99-1	67 -	S K 2	施釉 陶器	碗	高台径：4.3 底径：△1.8	高台部 完形	外・内：10Y5/1灰 内：2.5Y5/6灰黃	黒	内面：修打 1mm 内面：追跡	内面：修打 1mm 内面：追跡
	68 -	-	弥生 土器	有孔鉢	口径：△3.4 底径：△4.0	底部完形	外：7.5Y8/7灰 内：7.5Y8/4灰黃 内：10Y6/4にぶい 高台	φ 2mm程度のチャート、長 石、カリ輝、石英を含む	平行タキ 内面：ヨコナデ、 ナデ	底部斜面削 穿孔
	69 -	-	弥生 土器	高杯	口径：△6.9	脚柱部 ほぼ完形	外・内：7.5Y8/8/6灰黃	φ 2mm程度のチャート、長 石、カリ輝、石英、雲母 を含む	タテハケ 内面：ナデ	円形透かし 孔3方向

表4 出土遺物観察表（4）

測定次数	測定番号	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
99-1	70	-	3 手	須恵器	甕 器高:△4.1	口縁部 1/12	外・内:7.5Y7/1 灰白 断:SY7/1灰白	φ 2 mm程度の黒色砂粒、長 石を含む	外面:四線。タ ナ・カミエ 内面:回転ナデ	概報: 26	
	71	25	堅穴建物 跡 1	土師器	小型 丸底壺	口径:△(2.8) 器高:△9.1	口縁部 1/6 体~底部 1/4	外: 5YR5/6灰赤褐 内: 7.5YR6/6灰	φ 3 mm程度の長石を僅かに 含む	外面:ヨコナデ, ハケ、ラミガキ 内面:ナデ、ヘラ ミズリ、ヘラミガ キ	概報: 1
	72	25	堅穴建物 跡 1	土師器	小型 鉢	口径:△(12.0) 器高:△6.75	1/3	外・断・内: 7.5YR8/6灰黄褐	φ 3 mm程度の長石を少量含 む	外・内面:ヨコナ デ、ヘラミガキ	概報: 2
	73	25	堅穴建物 跡 1	土師器	小型 壺	口径:△(2.6) 器高:△2.7	口縁部 1/6	外・断・内: 10YR7/6明黄褐	φ 1 mm程度の長石を含む	外面:ナデ、ヘラ ミガキ、輪刻文 内面:ナデ、ヘラ ミガキ	概報: 3
	74	25	堅穴建物 跡 1	土師器	甕 器高:△3.4	口縁部 1/6	外・断・内: 7.5YR6/4赤い褐	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英を含む	外面:ナデ。タ ナ・カミエ 内面:ナデ	概報: 4	
	75	25	堅穴建物 跡 1	土師器	甕 器高:△3.1	底部完形	外: 7.5YR5/6灰赤 内: 5YR5/6灰白	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英を含む	外面:タキ 内面:ハケ	概報: 5	
	76	25	堅穴建物 跡 1	土師器	發那 鋤付	器高:△4.2	1/6	外・断・内: 7.5YR7/4赤い褐	φ 1 mm程度の長石、石英を 含む	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラ ミズリ	山陰系 概報: 6
	77	25	堅穴建物 跡 1	土師器	有孔鉢	器高:△5.6	底部完形 にふくらむ	外: 5YR7/6相 内: 10YR7/4	φ 2 mm程度の長石を含む	外面:タキ、ケ ヌリ 内面:ナデ	瓶厚乳 概報: 7
	78	24	SK 3	土師器	有柄輪 形高杯	口径:△(3.7) 器高:△19.7	口縁部 1/4	外・断・内: 7.5YR8/6浅黃褐	φ 1 mm程度の長石、石英を 含む	外面:ヨコナデ 内面:ヨビオサエ ナデ	辻編 4 ~ 概報: 21
	79	-	SK 3	土師器	甕 器高:△2.3	口縁部 1/12	外・断・内: 7.5YR6/6相	φ 1 mm程度の長石、石英、 金青色を含む	外・内面:ナデ	注釈 4 ~ 概報: 18	
	80	-	SK 3	土師器	甕 器高:△2.9	口縁部 1/12	外・断・内: 7.5YR6/6相	φ 1 mm程度の長石を含む	外・内面:ナデ	辻編 4 ~ 概報: 17	
	81	-	SK 3	須恵器	杯蓋	口径:△(6.5) 器高:△3.7	1/12	外: 5Y5/1灰 内: 2.5Y6/2灰 黄	φ 1 mm程度の英を含む	外・内面:回転ナ デ	T.K.10 ~ T.K.43 概報: 10
	82	-	SK 3	須恵器	短筒蓋	口径:△(11.8) 器高:△3.0	口縁部 1/6	外・断・内: 2.5Y6/2灰黄	φ 1 mm程度の長石を僅かに 含む	外・内面:回転ナ デ	T.K.10 ~ T.K.43 概報: 9
	83	-	SK 3	須恵器	短筒蓋	口径:△(11.4) 器高:△3.2	1/4	外・断・内: 2.5Y6/1灰黃	φ 2 mm程度の長石、石英、 黑色砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ヘラケヌリ 内面:回転ナデ、 ナデ	T.K.10 ~ T.K.43 概報: 8
	84	24	SK 3	須恵器	甕 器高:△6.3	体~底 部完形	外・断・内: 10Y6/1灰	φ 2 mm程度の長石を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ 内面:ナデ	T.K.43 概報: 22	
	85	25	SK 3	土師器	楕	器高:△2.6	口縁部 1/12	外・断・内: 7.5YR7/4赤い褐	φ 1 mm程度の長石、石英を 含む	外・内面:ナデ	平城宮 概報: 15
	86	25	SK 3	土師器	楕	口径:△(12.5) 器高:△3.1	口縁部 1/12	外・断・内: 5YR6/6相	φ 2 mm程度の長石を少量含 む	外・内面:ナデ	平城宮 概報: 24
	87	25	SK 3	土師器	楕	口径:△(15.8) 器高:△2.9	1/12	外・断・内: 5YR6/6相	φ 1 mm程度の長石、石英を 含む	外・内面:ナデ	平城宮 概報: 14
	88	25	SK 3	土師器	杯 A	口径:△(5.4) 器高:△4.5	口縁部 1/12	外・断・内: 5YR6/6相	φ 3 mm以下の長石、石英を 含む	外面:ナデ、ヘラ ミズリ 内面:ナデ	平城宮 概報: 16
	89	25	SK 3	須恵器	杯 B	口径:△(4.15) 器高:△2.9	口縁部 1/6	外・断・内: 2.5Y6/1灰黃	φ 2 mm程度の砂粒を含む	外・内面:回転ナ デ	平城宮 概報: 13
	90	25	SK 3	須恵器	杯 B	口径:△(4.3) 器高:△4.2	1/4	外・断・内: 2.5Y6/1灰黃	φ 2 mm程度の長石を含む	外・内面:回転ナ デ、ナデ	平城宮 概報: 12
	91	25	SK 3	須恵器	杯 B	器高:△(3.0) 高台径:△4.2	1/4	外・断・内: 7.5Y6/1灰	φ 1 mm程度の長石を含む	外・内面:回転ナ デ	平城宮 概報: 11
	92	25	SK 3	須恵器	杯 B	器高:△1.8 高台径:△1.0	高台部 1/6	外・断・内: 7.5Y6/1灰	φ 1 mm程度の長石を僅かに 含む	外・内面:回転ナ デ	平城宮 概報: 23
	93	24	SK 4	土師器	甕 器高:△7.7 底径:△2.9	底部 1/4	外・内: 7.5Y7/6相 内: 2.5Y7/6相、 5YR6/6相	φ 2 mm程度の長石、チャ ート、カツリ縫を含む	外面:タハケ、 ナデ、ヨビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	蒸気、4個 残存 概報: 25	
99-4	94	27	S P72	土師器	甕	口径: 8.2 器高: 1.2	完形	外・内: 2.5Y7/2 灰黃	密	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	概報: 28
	95	27	S P72	土師器	甕	口径: 7.95 器高: 1.9	完形	外・内: 2.5Y7/2 灰黃	直径 1 mm以内のチャート、 長石、雲母、石英、クサリ 縫を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ヨビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	口縁部歪み 概報: 54
	96	27	S P72	土師器	甕	口径: 8.2 器高: 1.4	ほぼ完形	外・断・内: 2.5Y7/3灰黃	密	外面:ヨコナデ、 ナデ、ヨビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	概報: 18
	97	27	S P72	瓦器	甕	口径: 12.8 器高: 3.05 高台径: 3.2	ほぼ完形	外・内: NS6/灰 5YR6/灰白 内: 5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ヨビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	和泉型IV-2 概報: 103
	98	26	S P2	瓦器	甕	口径: △(11.7) 器高: △3.05 高台径: △3.2	口縁部 1/2 体部 5/8	外・内: 2.5Y8/1 灰白、2.5Y7/3灰黃 内: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ヨビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ、清き状狀文	和泉型IV-2 概報: 81

表4 出土遺物觀察表（5）

遺物 次番	遺物 記号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
	99	S P 2	瓦質 土器	羽釜	口径：(17.5) 腰径：(23.5) 高台径：(4.5)	口縁部～ 底部1/4	外・内：N4/灰、 N3/褐灰 断：2.5YR/1灰白	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ハケ 内面：ヨコナデ、 ハケ	掛津玉 外南二 保付西 概報：170	
	100	S P 3	瓦器	縦	口径：(12.2) 腰径：(3.4) 高台径：(4.7)	1/4	外・内：N4/灰、 N3/褐灰 断：2.5YR/1灰白	密	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ、暗文	和泉型N-2 概報：82	
	101	S P 3	土師質 土器	羽釜	口径：(19.15) 腰径：(24.65) 高台径：△14.5	口縁部 底部1/4	外・内：10YR7/3にぶい 黄褐 断：10YR4/3にぶい 黄褐 内：2.5YR/1灰白	φ 5mm以下のチャート、長 石、石英、クリヤリ礫を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ハケ	掛津玉 外南二 保付西 概報：178	
	102	S P 11	瓦器	縦	口径：(14.7) 腰径：(4.4) 高台径：(4.6)	口縁部～ 底部1/4 底部1/3	外・内：N5/灰、 2.5YR/1灰白 内：2.5YR/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型N-2 概報：142	
	103	S P 10	土師器	皿	口径：8.2 腰高：1.25	2/3	外・内：10YR7/3 にぶい黄褐	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：50	
	104	S P 10	瓦器	皿	口径：(8.8) 腰高：2.1	1/2	外・内：N3/褐灰 断：N7/灰白	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ	概報：78	
	105	S P 12	土師器	羽釜	口径：(24.8) 腰径：(36.9) 高台径：△5.8	口縁部 1/6	外・内：N2/灰褐 10YR6/灰褐	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ハケ	概報：175	
	106	S P 14	土師器	皿	口径：8.4 腰高：1.2	4/5	外・内： 2.5YR/2灰黄	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：58	
	107	S P 14	土師器	皿	口径：8.9 腰高：1.2	4/5	外・内： 5YR7/3にぶい 黄褐	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：60	
	108	S P 16	瓦器	縦	口径：(13.0) 腰径：3.3 高台径：(4.3)	口縁部3/3 底部2/3	外：5YR1/灰 2.5YR/1灰白 内：6.5YR/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ、暗文	和泉型N-2 概報：104	
	109	S P 25	青磁	縦	腰高：△4.45 高台径：5.2	底部充形	釉：5GY6/1オリーブ 灰 外・内：10YR7/1 灰白	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：無地、スタ ンプ	鹿児島II-c 概報：156	
	110	S P 26	石製品	石鍋	口径：(16.4) 腰高：△3.4	底部 1/6	一	滑石	外曲：ケズリ	外南 保付西 概報：184	
99-4	111	S P 33	青磁	縦	口径：(16.8) 腰高：△4.15	口縁部 1/8	外・内：7.5YR6/3 にぶい黄褐 断：7.5YR7/1灰白	密	外曲：ヨコナ デ	鹿児島II-b 概報：152	
	112	S P 51	土師器	皿	口径：8.4 腰高：1.4	ほぼ完形	外・内： 10YR7/3にぶい 黄褐	φ 2mm以下のチャート、長 石、雲母、石英を含む	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ	口縁部充み 概報：49	
	113	S P 51	土師器	皿	口径：8.7 腰高：1.3	完形	外・内： 10YR8/2灰白	φ 1.5mm以下のチャート、長 石、雲母、石英を含む	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ	概報：64	
	114	-	S P 52	瓦器	皿	口径：(9.0) 腰高：1.2	2/5	外・内：N4/灰～ N6/灰 断：N7/灰白	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：76
	115	-	S P 60	土師器	皿	口径：8.2 腰高：1.3	1/2	外・内： 10YR7/2にぶい 黄褐	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：33
	116	-	S P 71	土師器	皿	口径：(9.0) 腰高：1.4	1/3	外・内： 10YR8/3 灰黄褐	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：62
	117	26	S P 55	土師器	皿	口径：(29.6) 腰高：△6.2	口縁部 1/8	外：7.5YR8/3灰黄褐 内：10YR8/4 灰黄褐	密	外曲：諸國のため 不明 内面：ヨコナデ、 ナデ	島原型足踏 概報：181
	118	28	S D 1	土師器	皿	口径：8.4 腰高：1.4	4/5	外・内： 10YR7/2 にぶい黄褐	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：39
	119	28	S D 1	瓦器	縦	口径：(14.0) 腰高：△1.5 高台径：(4.0)	口縁部1/2 底部1/3	外：N4/灰、2.5YR/1 灰白 断：2.5YR/1灰白 内：2.5YR/1黄褐	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉型N-3 概報：111
	120	28	S D 2	白磁	縦	腰高：△3.45	体部断	釉：5YR7/2灰白 5YR/1灰白	密	外・内：胎輪	
	121	-	S D 3	瓦器	皿	口径：8.4 腰高：1.4	1/4	外・内：N4/灰 断：N8/灰白	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：19
	122	-	S D 3	瓦器	皿	口径：(8.4) 腰高：2.0	1/3	外・内：N5/灰 断：N7/灰白	密	外・内：ヨコナ デ、ナデ	概報：80
	123	28	S D 3	瓦器	縦	口径：(14.2) 腰高：4.0 高台径：(4.4)	口縁部1/2 底部3/4	外：N4/灰、2.5YR/2 灰白 断：2.5YR/2灰黄 内：N5/灰	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ、ミガキ	概報：109
	124	28	S D 3	瓦器	縦	口径：(14.2) 腰高：3.5 高台径：(4.8)	口縁部1/8 底部1/4 底部3/5	外：5YR5/1灰 2.5YR/2灰黄 内：2.5YR/2灰黄 内：N5/灰	密	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉型N-3 -N-1 概報：110
	125	28	S D 3	瓦器	縦	口径：(14.3) 腰高：4.3 高台径：(4.8)	口縁部3/8 底部1/2 底部1/3	外：N4/灰、2.5YR/1 灰白 断：2.5YR/1灰白 内：2.5YR/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外曲：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ 内面：ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型N-3 -N-1 概報：141

表4 出土遺物観察表（6）

測定次数	測定番号	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	126 27	S D 3	瓦器	楕	口径:14.3 高径:3.4 高台径:4.2	ほぼ完形	外:5Y8/1灰白、 内:5Y8/1灰白	密	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1
	127 28	S D 9	須恵器	鉢	口径:(6.4) 器高:1.5.9	口縁部 1/16	外・無・内:N6/灰	外・内・断:ヨコナデ	口縁部歪み 機械:140	東播系
	128 28	S D 10	須恵器	甕	口径:9.0 器高:1.5	口縁部 1/6	外・内・断:N7/ 灰白	外・内・断:ヨコナデ	内面:ヨコナデ	東播系
	129 28	S D 16	土師器	甕	口径:8.2 器高:1.4	1/3	外・内:10VR7/3 にぶい黄柾	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 63
	130 28	S D 17	土師器	甕	口径:8.2 器高:1.4	1/2	外・内・内:5YR7/3 にぶい柾	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 52
	131 27	S D 17	土師器	甕	口径:11.7 器高:2.45	ほぼ完形	外・内・内:10YR8/3にぶい黄柾	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ	概報: 67
	132 27	S D 17	土師器	甕	口径:11.6 器高:2.3	2/3	外・内・内: 2.5Y7/4灰柾	φ1.5mm程度の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 69
	133 28	S D 18	土師器	甕	口径:8.6 器高:1.3	2/5	外・内・内:10YR8/3にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 63
	134 28	S D 11	土師器	甕	口径:8.0 器高:1.4	4/5	外・内:10YR7/3 にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 53
	135 28	S D 11	土師器	甕	口径:8.0 器高:1.2	2/5	外・内・内: 10YR7/3にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 9
	136 27	S D 11	土師器	甕	口径:8.8 器高:1.5	ほぼ完形	外・内:7.5YR8/3 浅黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 43
	137 27	S D 11	土師器	甕	口径:8.4 器高:1.45	完形	外・内:2.5YB/3 黄柾	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 48
	138 28	S D 11	瓦器	楕	口径:(3.7) 高径:3.85 高台径:(4.1)	口縁部1/4 底座部1/3	外:N4/灰、7.5YB/1 内:N3/灰柾	φ2 mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-1 概報: 113
99-4	139 27	S D 11	瓦器	楕	口径:(12.7) 高径:3.3 高台径:(4.3)	完形	外・内:N3/灰柾、 2.5Y8/1灰白	φ1.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-1 概報: 93
	140 29	S E 2	土師器	甕	口径:7.6 器高:1.4	1/3	外・内:10YR7/2 にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 3
	141 29	S E 2	土師器	甕	口径:9.3 器高:1.45	1/2	外・内: 2.5Y6/4灰柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 44
	142 29	S E 2	土師器	甕	口径:8.6 器高:1.3	2/5	外・内・内: 10YR7/4にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 55
	143 30	S E 2	瓦器	楕	口径:12.8 器高:3.4 高台径:4.7	ほぼ完形	外・内:N3/灰柾、 2.5Y6/1灰黄 内:2.5Y8/1灰白	φ1.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-2 概報: 101
	144 30	S E 2	瓦器	楕	口径:13.8 器高:3.5 高台径:3.8	完形	外・内:N4/灰、7.5YB/1 内:N3/暗灰	密	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-2 概報: 108
	145 29	S E 2	瓦器	楕	口径:(13.0) 器高:3.15 高台径:3.7	口縁部1/4 底座部完形	外・内:N4/灰、 2.5Y7/1灰白 内:2.5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-2 概報: 102
	146 29	S E 2	瓦器	楕	口径:13.05 器高:3.8 高台径:4.4	口縁部1/5 底座部4/5	外・内:N6/灰、 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-2 概報: 94
	147 29	S E 2	瓦器	楕	口径:(14.0) 器高:4.3 高台径:(4.1)	口縁部3/8 底座部1/2	外・内:N4/灰、 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型Ⅳ-3 概報: 95
	148 30	S E 2	瓦質土器	羽翼	口径:(30.2) 器高:(40.8) 高台径:37.3	「脚」~ 「脚部」/16	外・内:5Y4/1灰 内:5Y8/1灰	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	照付E 外・内:保付
	149 30	S E 2	瓦質土器	羽翼	口径:(44.0) 器高:(51.8) 高台径:44.7	脚部~ 「脚部」/16	外・内:5Y4/1灰 内:5Y8/1灰	φ2 mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ	照付E 外・内:保付
	150 29	S E 2	木製品	チフ	長さ:11.95 最高径:3.65	ほぼ完形	—	—	—	—
	151 29	S K 1	須恵器	鉢	口径:32.8 器高:1.5.7	口縁部 1/16	外・断・内:N6/灰	外・内:ヨコナデ、 ナデ	東播系	概報: 163
	152 一	S K 4	土師器	甕	口径:8.0 器高:1.6	3/5	外・無・内: 10YR7/4にぶい黄柾	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 23	—
	153 29	S K 4	瓦器	楕	口径:(14.2) 器高:4.0 高台径:(4.9)	2/5	外・断・内: 10YR8/4にぶい黄柾	外・内:ヨコナデ、 ナデ	和泉型Ⅲ-3 概報: 143	—
	154 29	S K 8	土師器	甕	口径:7.9 器高:1.5	1/2	外・無・内: 10YR7/4灰白	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 75	—
	155 30	S K 8	土師器	甕	口径:8.2 器高:1.5	ほぼ完形	外・内:2.5YB/3 黄柾	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 26	—
	156 30	S K 8	土師器	甕	口径:8.0 器高:1.5	完形	外・内:7.5Y5/1灰	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 31
	157 30	S K 8	土師器	甕	口径:8.2 器高:1.5	4/5	外・内:10VR7/3 にぶい黄柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 14
	158 29	S K 8	土師器	甕	口径:(8.4) 器高:1.3	1/3	外・無・内: 7.5YR8/3にぶい柾	密	外・内:ヨコナデ、 ナデ	概報: 57

表4 出土遺物觀察表（7）

遺物 次第	記号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	159 29	S K 8	土師器	皿	口径：(9.0) 盤高：1.3	1/3	外・断・内： 7.5YR7/2灰褐色	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：59
	160 29	S K 8	土師器	皿	口径：(12.7) 盤高：2.45	1/3	外・断・内： 10YR7/3にぶい黄褐	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ	概報：71
	161 -	S K 8	瓦器	縁	口径：(14.2) 盤高：3.6 高台径：(5.3)	口縁部1/4 底部1/2	外・内： N4/灰 断：2.5Y7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉型Ⅲ-3
	162 29	S K 11	瓦器	縁	口径：(1.38) 盤高：(5.1)	口縁部1/3 底部1/2	外：5Y4/灰 5Y7/1灰 断：5Y7/1灰白 内：2.5Y8/1灰白	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉型Ⅲ-3 概報：114
	163 29	S K 11	瓦器	縁	口径：(14.4) 盤高：4.4 高台径：(5.3)	口縁部1/6 底部1/4	外：2.5Y7/1灰白 5Y7/1灰白 断：2.5Y7/1灰白 内：N4/灰	赤	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉型Ⅲ-3 ~IV-1 概報：115
	164 29	S K 11	石製品	砥石	長さ：3.7 幅：3.6 厚さ：2.1	-	-	砂岩	-	概報：180
	165 31	S K 9	浮生土器	甕	盤高：△3.5 横径：4.6	底部完形	外・内： 10YR8/2灰白	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	
	166 31	S K 9	浮生土器	甕	盤高：△3.3 横径：4.9	底部完形	外：2.5YR7/2灰赤褐色 断：10YR8/2灰白	φ1.5mm程度のチャート、長 舌、クサリ跡、石英を含む	外・内面：ナデ	
	167 31	S K 9	須恵器	耳壺	器高：△4.25	口縁部1/2	外：2.5Y5/1灰黃 2.5Y7/1灰白 断：N5灰	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	耳孔径4mm
	168 -	S K 9	土師器	皿	口径：8.09 盤高：1.3	1/5	外・内：2.5Y7/3灰 断：N5灰	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：38
	169 30	S K 9	土師器	皿	口径：8.1 盤高：1.3	2/3	外・内：7.5YR8/3灰 黄褐	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：36
	170 30	S K 9	土師器	皿	口径：8.3 盤高：1.6	完形	外・内：10YR8/2灰 白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：13
	171 -	S K 9	土師器	皿	口径：8.2 盤高：1.3	4/5	外・内：2.5Y7/3灰 黄	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：8
99-4	172 31	S K 9	土師器	皿	口径：8.2 盤高：1.5	1/3	外：10YR8/4にぶい 黄褐 断・内：10YR7/3に ぶい黄褐	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：37
	173 30	S K 9	土師器	皿	口径：9.9 盤高：1.7	ほぼ完形	外・内：5YR6/6相	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：65
	174 -	S K 9	土師器	皿	口径：(12.0) 盤高：1.6	1/5	外・内：7.5YR7/4に ぶい黄褐	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	概報：70
	175 31	S K 9	瓦器	縁	口径：(12.7) 盤高：3.5 高台径：5.1	1/4	外・内：2.5Y7/2灰 N4/灰 2.5Y7/4灰黃	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、沈殿、ヨコ ナデ	極限Ⅲ- ~IV-1 概報：97
	176 30	S K 9	瓦器	縁	口径：12.5 盤高：3.5 高台径：3.4	2/3	外・内：N4/灰、 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉IV-1~ IV-2 概報：105
	177 31	S K 9	瓦器	縁	口径：13.2 盤高：3.8 高台径：(3.9)	2/3	外・内・断： 2.5Y8/1灰白	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉IV-1~ IV-2 概報：96
	178 31	S K 9	瓦器	縁	口径：(13.3) 盤高：3.5 高台径：3.7	1/2	外・内：7.5YR8/2灰 白、10YR8/2灰褐色 断：10YR7/2にぶい 黄褐	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉IV-1~ IV-2 概報：146
	179 31	S K 9	瓦器	縁	口径：(11.6) 盤高：4.3 高台径：4.3	口縁部1/4完形	外・内：2.5Y6/1黄 白、2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ、 ナデ、ヨコナサエ、 内面：ヨコナデ、 ナデ、平行線状暗文	和泉IV-1~ IV-2 概報：92
	180 31	S K 9	瓦器	皿	口径：(8.2) 盤高：1.6	1/2	外・内：2.5Y7/1灰 白、2.5Y7/1灰白 断：2.5Y7/1灰白	φ 1.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	津津E 概報：74
	181 31	S K 9	土師質土器	羽釜	口径：(21.8) 横径：(20.0) 盤高：△4.4	口縁部1/2	外・内：7.5YR7/3にぶい 赤	φ 1.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	津津E 概報：169
	182 31	S K 9	瓦質土器	羽釜	口径：(26.0) 横径：(25.0) 盤高：△6.3	口縁部1/10	外：N4/灰 断：N7/灰白 内：N2/灰	赤	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	津津F 概報：172
	183 31	S K 9	瓦質土器	羽釜	口径：(27.0) 横径：(26.0) 盤高：△6.9	口縁部1/3	外・内：N5/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	津津F 概報：174
	184 31	S K 9	瓦質土器	羽釜	口径：(26.0) 横径：(25.0) 盤高：△6.9	口縁部1/10	外・内：N5/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 3mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	津津F 概報：173
	185 31	S K 9	土師質土器	鍋	口径：(33.5) 盤高：△6.4	口縁1/10	外・断：10YR7/3灰 白、10YR7/3にぶい 黄褐	φ 1mm程度のチャート、長 舌、クサリ跡、石英を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナデ	
	186 31	S K 9	青磁	皿	盤高：△4.3	体部Ⅳ	外・内：5GY6/1オリ ーク灰 断：2.5GY8/1灰白	赤	外面：蓮弁	鹿児窯II-b

表4 出土遺物観察表（8）

測定 次数	測定 番号	出土地	器種	断面	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
	187	S X 9	青磁	碗	器高：2.3 高台径：5.0	高台部 完形	外・内：7.5Y4/2 底オーバー 断：7.5Y6/1灰	密	外面：無押	地質図：c 概観：157	
	188	S X 1	土師器	皿	口径：7.1 器高：1.2	完形	外・内：10YR8/3 浅黄褐	φ 1mm程度の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ナガ デ	Cタイプ 概観：6	
	189	S X 1	土師器	皿	口径：7.7 器高：1.5	完形	外・内：2.5Y7/3 浅黄	φ 1mm程度のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ナガ デ	概観：1	
	190	S X 1	土師器	皿	口径：8.3 器高：1.5	ほぼ完形 底白	外・内：10YR8/2 底白	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ユビオ サエ	概観：46	
	191	-	S X 1	土師器	皿	口径：8.2 器高：1.6	1/2	外・内・内：5Y7/4 底白	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ナガ デ	概観：11
	192	-	S X 1	土師器	皿	口径：8.2 器高：1.2	1/3	外・内・内：5Y7/2 底白	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：16
	193	32	S X 1	土師器	皿	口径：8.0 器高：1.5	ほぼ完形 底黄	外・内：2.5Y6/2灰黄 内・内：2.5Y7/2灰 黄	φ 0.5mm程度のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ユビオ サエ	概観：21
	194	-	S X 1	土師器	皿	口径：8.4 器高：1.1	1/3	外・内：5Y7/2灰白	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：56
	195	-	S X 1	土師器	皿	口径：(8.45) 器高：1.15	1/2	外・内：2.5Y7/2 底黄 断：10YR6/3にぶい 底相	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、カシラ穂、雲母を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	
	196	32	S X 1	土師器	皿	口径：8.6 器高：1.45	口縁部 3/4	外・内：10YR7/3 にぶい、底相	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：41
	197	32	S X 1	土師器	皿	口径：8.6 器高：1.2	完形 底黄	外・内：10YR7/4 底相	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：51
	198	-	S X 1	土師器	皿	口径：(11.2) 器高：2.3	口縁部1/4 底部1/4	外・内・内：5Y7/2灰白 10YR8/2灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：66
	199	-	S X 1	土師器	皿	口径：(12.3) 器高：1.9	1/4	外・内・内： 10YR8/2灰白	φ 0.5mm程度のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ、ユビオ サエ	
	200	-	S X 1	土師器	皿	口径：(13.2) 器高：2.25	1/4	外・内：2.5Y7/3 浅黄	密	外・内面：ヨコナ デ、ナガ デ	概観：68
99-4	201	32	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.3) 器高：3.45 高台径：4.0	口縁部1/4 底部1/2	外・内：N4/灰 断：5Y8/1灰白 内：N4/灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：98
	202	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.3) 器高：3.5 高台径：4.0	口縁部1/4 底部1/2	外・内：N4/灰 断：2.5Y7/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：89
	203	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.4) 器高：3.4 高台径：(3.9)	口縁部1/4 底部はぼ 元形	外・内：5Y6/1灰 内：N4/灰	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：100
	204	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.4) 器高：3.5 高台径：(3.1)	口縁部1/2	外・内：N4/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：88
	205	33	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.7) 器高：3.2 高台径：4.15	口縁部1/2 底部はぼ 元形	外・内・N2/灰 断：2.5Y6/2灰	密	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：90
	206	32	S X 1	瓦器	楕	口径：12.7 器高：4.0 高台径：3.9	ほぼ完形 底白	外・内：N3/灰 断：2.5Y7/1灰白	密	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 消きき彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：87
	207	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.7) 器高：3.5 高台径：(3.8)	1/2	外・内：N4/灰 断：10YR7/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：99
	208	33	S X 1	瓦器	楕	口径：(12.9) 器高：3.2 高台径：3.3	2/3	外・内：2.5Y4/1 底灰	密	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：84
	209	32	S X 1	瓦器	楕	口径：(13.2) 器高：4.0 高台径：(4.4)	口縁部1/2 底部1/3	外・内：N4/灰 断：5Y7/1灰白	密	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 消きき彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：83
	210	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(13.2) 器高：4.0 高台径：5.0	口縁部 1/16 底部1/4	外・内：N4/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ ミガキ	和泉型Ⅲ- IV-1
	211	33	S X 1	瓦器	楕	口径：(13.2) 器高：4.4 高台径：(3.5)	口縁部1/2 底部1/8	外・断：10YR7/1灰 内：N3/灰	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：112
	212	-	S X 1	瓦器	楕	口径：(13.0) 器高：3.5 高台径：3.8	口縁部1/3 底部元形	外・内：N4/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 1.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：120
	213	32	S X 1	瓦器	楕	口径：13.3 器高：4.0 高台径：3.8	ほぼ完形 底白	外・内：N3/灰 断：2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 消きき彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：118
	214	32	S X 1	瓦器	楕	口径：(13.3) 器高：3.8 高台径：(3.8)	1/2	外・内：N3/灰 断：2.5Y8/1灰白	密	外面：ヨコナデ ナデ、ユビオサエ 内面：ヨコナデ 平行線彫文	和泉型Ⅲ- IV-1 概観：85

表4 出土遺物観察表（9）

遺物 次第	標 記 番 号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
99-4	215 32	S X I	瓦器	楕	口径:(13.4) 腹高:3.7 高台径:4.7	ほぼ完形 外:7/1灰白 内:5Y8/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:128	
	216 32	S X I	瓦器	楕	口径:(13.5) 腹高:4.2 高台径:3.7	口縁部3/4 底部完形 外:N4/灰 内:5Y7/1灰白 内:N5/灰	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:91	
	217 32	S X I	瓦器	楕	口径:(13.6) 腹高:3.8 高台径:(4.1)	ほぼ完形 外:N3/灰 内:SYB/1灰白 内:N4/灰	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:123	
	218 33	S X I	瓦器	楕	口径:(13.7) 腹高:3.95 高台径:3.8	口縁部1/3 底部完形 外:斯・内: 2.5Y7/1灰白	赤	Φ 1.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:129	
	219 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.4) 腹高:3.6 高台径:(3.3)	2/3 外:N3/灰 内:SYB/1灰白 内:N4/灰	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:119	
	220 33	S X I	瓦器	楕	口径:(13.7) 腹高:3.8 高台径:4.6	口縁部1/2 底部完形 外:N4/灰 内:2.5Y7/1灰白 内:5Y7/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:127	
	221 32	S X I	瓦器	楕	口径:(13.6) 腹高:4.1 高台径:4.15	口縁部3/4 底部完形 外:内:N2/黒 内:2.5Y8/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:125	
	222 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.7) 腹高:4.2 高台径:(4.9)	1/3 外:斯・内: 2.5Y7/1灰白	赤	Φ 1mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1	
	223 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.9) 腹高:3.9 高台径:(3.4)	1/4 外:内:N4/灰 内:2.5Y7/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:122	
	224 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.9) 腹高:3.9 高台径:(3.4)	1/2 外:斯・内: 2.5Y8/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:131	
	225 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.8) 腹高:3.9 高台径:(4.7)	口縁部3/8 底部1/3 外:斯・内: 2.5Y8/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:130	
	226 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.0) 腹高:3.7 高台径:4.8	1/3 外:斯・内: 5Y7/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1	
	227 33	S X I	瓦器	楕	口径:(13.9) 腹高:3.85 高台径:(5.0)	1/2 外:内:N4/灰 内:2.5Y7/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:124	
	228 32	S X I	瓦器	楕	口径:(13.8) 腹高:3.8 高台径:4.5	4/5 外:斯・内: 2.5Y7/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:130	
	229 33	S X I	瓦器	楕	口径:(13.9) 腹高:4.35 高台径:5.2	2/3 外:内:N4/灰 内:2.5Y8/1灰白	赤	Φ 1mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:138	
	230 32	S X I	瓦器	楕	口径:(14.2) 腹高:3.9 高台径:4.3	口縁部1/4 底部完形 外:内:N3/灰 内:5Y8/1灰白	赤	Φ 1mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:139	
	231 -	S X I	瓦器	楕	口径:(13.8) 腹高:4.15 高台径:(5.2)	口縁部1/8 底部1/4 外:N3/灰 内:5Y7/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:126	
	232 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.0) 腹高:4.15 高台径:(5.2)	口縁部1/8 底部1/4 外:2.5Y5/1灰 内:2.5Y7/1灰白 内:N5/灰	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:136	
	233 32	S X I	瓦器	楕	口径:(14.1) 腹高:4.45 高台径:4.3	ほぼ完形 外:N3/灰 内:5Y7/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:134	
	234 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.1) 腹高:4.15 高台径:4.1	口縁部1/12 底部1/6 外:斯・内: 5Y7/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:137	
	235 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.2) 腹高:4.1 高台径:(4.4)	1/4 外:内:N4/灰 内:10YR7/1灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:121	
	236 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.5) 腹高:4.6 高台径:(5.0)	口縁部1/4 底部1/8 外:内:N3/灰 内:2.5Y7/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:116	
	237 -	S X I	瓦器	楕	口径:(14.5) 腹高:4.6 高台径:(5.0)	口縁部1/2 底部1/3 外:内:N3/灰 内:8N8/1灰白	赤	Φ 0.5mm以下の砂粒を含む 外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面:ヨコナデ、 平行線状暗文	和泉型Ⅲ- ~IV-1 概報:135	

表4 出土遺物觀察表（10）

発見 次数	地番 番号	出土地	器種	形態	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考		
99-4	238	-	S X 1	瓦器	楕	口径: (14.3) 器高: △3.1	1/6	外・内: N3/褐色 断: 10YR7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和良型Ⅲ-3 ～IV-1	
	239	-	S X 1	瓦器	楕	口径: (14.4) 器高: 4.0 高台径: (4.9)	口縁部 1/12 底部1/3	外・内: N3/褐色 断: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和良型Ⅲ-3 ～IV-1 概観: 133	
	240	-	S X 1	瓦器	楕	口径: (14.8) 器高: △3.7	口縁部1/4 底部1/8	外・内: N3/褐色 断: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和良型Ⅲ-3 ～IV-1	
	241	33	S X 1	瓦器	楕	口径: (14.9) 器高: 4.2 高台径: (4.7)	口縁部1/2 底部2/3	外・内: N4/灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和良型Ⅲ-3 ～IV-1 内面: 着 概観: 132	
	242	-	S X 1	瓦器	楕	口径: (14.9) 器高: 4.0 高台径: 4.35	口縁部1/8 底部1/4	外・内・断: 5YR7/3	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	和良型Ⅲ-3 ～IV-1 概観: 117	
	243	34	S X 1	青磁	碗	口径: (6.6) 器高: △5.0	口縁部 1/10	物: 2.5GY6/1オリー 断: 10YR7/1灰白	密	外面: 遷并	鹿児空II-b 概観: 153	
	244	34	S X 1	白磁	壺	瓶部径: (7.7) 器高: △3.8	瓶部 1/4	物: 5Y6/2灰オリー 断: 5Y7/1灰白	密	外・内面: 施釉	Ⅲ類	
	245	34	S X 1	須恵器	鉢	口径: (24.6) 器高: △3.6	口縁部 1/6	外・内: N4/灰 断: 2.5Y6/1灰灰	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	東播系 重ね引き彫 跡	概観: 160	
	246	34	S X 1	須恵器	鉢	口径: (26.3) 器高: △3.2	口縁部 1/10	外・内・断: N7/ 灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ	東播系 束縛	概観: 161
	247	-	S X 1	須恵器	鉢	口径: (34.0) 器高: △3.6	口縁部 1/20	外: 2.5Y5/1褐色 内: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 内面: 調理のため 不明	東播系 口沿落輪 概観: 164	
	248	34	S X 1	須恵器	甕	口径: (22.6) 器高: △5.5	口縁部 1/6	外・内: N2/黑 断: N6/灰	密	外面: ヨコナデ、 ナデ、タキナ 内面: ヨコナデ、 ナデ	東播系 概観: 187	
	249	37	S X 1	須恵器	甕	口径: 27.8 器高: △10.2	口縁部 3/4	外: 7.5YR5/1褐色 断: 7.5YR7/1明褐色 内: 7.5YR6/2灰灰	φ 3mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、タキナ 内面: ヨコナデ、 ナデ	龜山 外面: 線刻 概観: 189	
	250	34	S X 1	陶器	甕	器高: △6.8	口縁部片	外: 10YR5/1褐色 断: 10YR7/1灰白 内: 7.5YR5/2灰灰	φ 2mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、施釉	概観: 190	
	251	34	S X 1	瓦質土器	甕	口径: (25.0) 器高: △5.9	口縁部 1/6	外・内: 7.5Y2/1黑 断: 2.5Y4/1灰灰	密	外面: ヨコナデ、 ナデ、タキナ 内面: ヨコナデ、 ナデ	概観: 188	
	252	34	S X 1	瓦質土器	甕	器高: △7.9	口縁部片	外: 2.5Y2/1黑 断: 2.5Y5/2 灰灰	密	外面: ヨコナデ、 内面: ヨコナデ、 ハケ	概観: 183	
	253	34	S X 1	瓦質土器	羽釜	口径: (15.0) 器高: (20.4) 高台径: △8.3	口縁部～ 体部1/4	外・内: N1/5/黒 断: 10YR6/3に 黄褐	φ 1mm以下のチャート、長 石を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	西津E 外・内面: 付置 概観: 168	
	254	34	S X 1	瓦質土器	三足釜	口径: (15.0) 器高: △11.5	口縁部～ 体部1/4	外: N2/黒 断: 10YR7/1灰白 内: N3/褐色	密	外面: ヨコナデ、 ナデ、タキナ 内面: ヨコナデ、 ハケ	外・内面: 付置 概観: 177	
	255	34	S X 1	土師質土器	羽釜	口径: (39.7) 器高: △4.5	口縁部 跨部1/4	外・内: 10YR8/1灰白 内: 10YR8/2灰黃褐	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	押津E 概観: 171	
	256	34	S X 1	土師質土器	羽釜	口径: (43.1) 器高: △9.8	体部 1/2	外・内: 10YR8/2灰黃褐	φ 1mm以下のチャート、長 石、石英、芸母を含む	外面: ヨコナデ、 ハケ 内面: ハケ	押津E 内面: 付置	
	257	34	S X 1	石製品	石磚	底径: (20.7) 器高: △4.3	底部 1/6	外・内: N2/灰 断: 7.5Y6/1 内面: 滑石	滑石	—	外面: 付置	
	258	35	S X 3	土師器	皿	口径: (7.1) 器高: 1.5	3/8	外・内: 2.5Y7/2灰黃	φ 1mm以下のチャート、長 石、芸母を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	外・内面: 付置	
	259	35	S X 3	土師器	皿	口径: (7.8) 器高: 1.5	2/5	外・内: 10YR8/3淡黃褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概観: 2	
	260	37	S X 3	土師器	皿	口径: 8.1 器高: 1.4	完形	外・内: 2.5Y8/3	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概観: 27	
	261	-	S X 3	土師器	皿	口径: (7.8) 器高: 1.5	1/3	外・内: 10YR7/3に 混じる黄褐	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、芸母、石英を含む	外・内面: ヨコナ デ	概観: 2	
	262	37	S X 3	土師器	皿	口径: (8.0) 器高: 1.7	ほぼ完形	外・内: 10YR8/2灰白	φ 1.5mm以下のチャート、長 石、芸母を含む	外・内面: ヨコナ デ	概観: 32	
	263	37	S X 3	土師器	皿	口径: 8.2 器高: 1.3	完形	外・内: 10YR8/3	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概観: 17	
	264	35	S X 3	土師器	皿	口径: 7.8 器高: 1.45	1/2	外・内: 10YR8/2灰白	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概観: 22	

表4 出土遺物觀察表（11）

遺物 次数	標 識 番 号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎 土	調 整	備 考
	265 35	S X 3	土師器	皿	口径:(7.75) 高さ:1.6	1/2	外・断・内: 10YR7/3にぶい黄褐	φ0.5mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	266 35	S X 3	土師器	皿	口径:8.0 高さ:1.35	1/2	外・内:10YR8/3 浅鉢形	赤	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	概報:47
	267 35	S X 3	土師器	皿	口径:(8.0) 高さ:1.2	3/8	外・内:7.5YR7/3 にぶい黄	φ0.5mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	268 35	S X 3	土師器	皿	口径:(8.2) 高さ:1.25	1/2	外・断・内: 10YR7/3Lにぶい黄褐	φ0.5mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	269 35	S X 3	土師器	皿	口径:(8.2) 高さ:1.45	2/5	外・断・内: 10YR8/3浅鉢形	赤	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	概報: 7
	270 -	S X 3	土師器	皿	口径:(8.6) 高さ:1.65	1/3	外・断・内: 2.5YR7/3灰黄	φ0.5mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	271 37	S X 3	土師器	皿	口径:8.6 高さ:1.4	完形	外・内:10YR7/2 にぶい黄褐	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	概報: 42
	272 -	S X 3	土師器	皿	口径:8.9 高さ:1.55	1/4	外・断・内: 10YR7/3Lにぶい黄褐	φ1mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	
	273 -	S X 3	土師器	皿	口径:(9.0) 高さ:1.4	1/4	外・断・内: 10YR7/3Lにぶい黄褐	φ0.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	274 -	S X 3	土師器	皿	口径:(12.0) 高さ:2.35	口縁部1/4 底盤1/4 灰黄	外・内:2.5Y7/3 灰黄	φ0.5mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	275 35	S X 3	土師器	皿	口径:(14.4) 高さ:2.55	1/5	外・断・内: 10YR8/3浅鉢形	赤	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	概報: 73
	276 35	S X 3	瓦器	皿	口径:(8.2) 高さ:1.75	1/2	外・内:N5灰 断:5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	277 35	S X 3	瓦器	皿	口径:8.3 高さ:1.85	1/2	外:N3/暗灰 断:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y5/1灰黄	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	概報: 12
	278 37	S X 3	瓦器	皿	口径:8.7 高さ:1.75	ほぼ完形	外・内:N4/灰 断:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 平行線状明文	概報: 77
99-4	279 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(13.55) 高さ:3.9 高台径:(5.4)	1/4	外・断・内: 2.5Y8/1灰白	φ 3mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	
	280 -	S X 3	瓦器	楕	口径:(13.7) 高さ:4.3 高台径:(4.0)	口縁部1/8 底盤2/5	外・内:2.5Y5/1 灰灰 断:2.5Y7/1灰白	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 高台状状明文	和泉型Ⅲ-3
	281 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.0) 高さ:4.3 高台径:(4.5)	1/6	外・内:2.5Y5/1 灰灰 断:2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	
	282 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.0) 高さ:4.3 高台径:(4.6)	口縁部1/8 底盤2/3	外・断・内: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 平行線状明文	和泉型Ⅲ-3
	283 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.4) 高さ:3.5	1/4	外・断・内: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	
	284 -	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.2) 高さ:3.9 高台径:(5.2)	口縁部1/6 底盤1/3	外: 2.5Y7/2灰灰 内: 2.5Y8/1灰白 断: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	概報: 145
	285 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.3) 高さ:3.1	1/4	外・内:N4/灰 断:10YR7/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	
	286 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.7) 高さ:4.1 高台径:4.7	1/3	外:N3/暗灰 断: N7/灰白	赤	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	概報: 144
	287 35	S X 3	瓦器	楕	口径:(14.9) 高さ:3.8	1/4	外・断:2.5Y7/1 灰白 内:2.5Y6/1灰黄	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビナサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 和泉型Ⅲ-3	
	288 36	S X 3	須恵器	鉢	器高:△3.0	片口部分	外・断・内:N6/灰	φ 2.5mm以下の砂粒を含む	外・内:ヨコナ デ、ナデ	東播系
	289 36	S X 3	須恵器	鉢	口径:(24.9) 高さ:△3.1	口縁部 1/8	外・断・内: N6/灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、 ナデ	東播系 概報: 165
	290 36	S X 3	須恵器	鉢	口径:(25.8) 高さ:△6.6	口縁部 1/6	外・断・内: N6/灰	φ 3mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、 ナデ	東播系 口縁部施釉 概報: 158
	291 36	S X 3	須恵器	鉢	口径:(26.8) 高さ:△6.15	口縁部 1/8	外:N5/灰 断: N7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、 ナデ	東播系 概報: 159

表4 出土遺物観察表(12)

調査 次数	発見 場所	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考	
	292	36 SX3	須恵器	鉢	口径: (27.3) 器高: △6.3	口縁部 1/10	外・断・内: N6/灰	φ3mm以下の砂粒を含む	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ、 ナデ	東播系	
	293	36 SX3	須恵器	鉢	口径: (27.8) 器高: △7.0	口縁部 1/10	外・断・内: N6/灰	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ、 ナデ	東播系 概報: 166	
	294	36 SX3	須恵器	鉢	口径: (31.6) 器高: △6.6	口縁部 1/10 全体部/8	外・断・内: 2.5Y6/1黄灰	φ4mm以下の砂粒を含む	外・内面: 回転ナ デ	東播系 概報: 162	
	295	36 SX3	青磁	碗	器高: △1.45	口縁部片 1/10	動: 5Y6/2灰オリー 断: 5Y7/1灰白	密	外・内面: 施釉	概報: 148	
	296	36 SX3	青磁	碗	器高: △3.2	口縁部片 1/10	動: 5Y5/2灰オリー 断: 2.5Y7/1白	密	外・内面: 施釉	概報: 155	
	297	36 SX3	土師質 土器	罐	口径: (36.05) 器高: △8.9	口縁部 1/16 全体部/8	外: 10YR5/3に△△ 内: 10YR6/1灰灰 内: 2.5Y7/2灰	φ1mm以下のチャート、長 石、石英、菱鉄、クサリ縫 を含む	外・内面: ヨコナ デ、ハケ	概報: 182	
	298	36 SX3	石製品	石鏡	器高: △2.8 底径: △3.0	底部 1/12	外: 7.5Y6/1灰 内: N6/灰	滑石	—	概報: 186	
	299	—	包含層	土師器	口径: (27.0) 器高: △2	1/3	外・内: 10YR7/4 に△△黄褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ		
99-4	300	37	包含層	土師器	口径: △8.0 器高: △3	ほぼ完形 灰白	外・内: 10YR8/2	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 34	
	301	36	包含層	土師器	口径: △7.8 器高: △1.2	3/4	外・内: 2.5Y8/2 灰白	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 4	
	302	36	包含層	土師器	口径: △8.0 器高: △1	3/4	外・内: 7.5Y8R/2	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 5	
	303	37	包含層	土師器	口径: △8.0 器高: △2	ほぼ完形	外・内: 5Y8R/3淡褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 29	
	304	37	包含層	土師器	口径: △8.1 器高: △1	ほぼ完形	外・内: 5Y8R/3淡褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 10	
	305	37	包含層	土師器	口径: △8.3 器高: △1.6	ほぼ完形 浅黄褐	外・内: 10YR8/3 浅黄褐	φ1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 20	
	306	37	包含層	土師器	口径: △8.2 器高: △1.4	ほぼ完形 浅黄褐	外・内: 10YR8/3 浅黄褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 15	
	307	37	包含層	土師器	口径: △8.1 器高: △2	ほぼ完形 灰白	外・内: 2.5Y8/2	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 25	
	308	—	包含層	土師器	口径: △8.2 器高: △3	1/4	外・内: 7.5Y8R/2	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 35	
	309	36	包含層	土師器	口径: △8.0 器高: △1	1/2	外・内: 10YR8/2	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 30	
	310	—	包含層	土師器	口径: △8.3 器高: △1.5	1/2	外・内: △△黄褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 24	
	311	—	包含層	土師器	口径: △8.4 器高: △1.0	1/2	外・内: 7.5Y8R/2 灰白	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 40	
	312	—	包含層	土師器	口径: △8.2 器高: △1.3	1/4	外・内: 2.5Y6/3 に△△黄	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 61	
	313	—	包含層	土師器	口径: (12.0) 器高: △1.9	1/5	外・内: 10YR7/3 に△△黄褐	密	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	概報: 72	
	314	36	包含層	瓦器	椀	口径: (12.2) 器高: △1.1 高台径: (3.5)	1/2	外・断・内: 10YR7/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ ナデ、ビオラサエ 内面: ヨコナデ、 ナデ、暗文	和室型IV-1 概報: 107
	315	36	包含層	瓦器	椀	口径: (13.8) 器高: △3.4 高台径: (4.2)	1/2	外: N3/暗灰 内: N4/灰	密	外面: ヨコナデ ナデ、ビオラサエ 内面: ヨコナデ、 ナデ、暗文	和室型IV-1 概報: 106
	316	38	包含層	陶器	小杯	口径: △5.8 器高: △2.1	2/5	外・内: 7.5Y6/2 灰オリーブ灰 内: N7/灰白	密	外・内面: 施釉	古漁庄 後二期 概報: 147
	317	38	包含層	青磁	小碗	口径: (10.8) 器高: △2.9	口縁部 1/5	外・内: 2.5G6Y/1 オリーブ灰 内: N7/灰白	密	外面: 蓋弁	龍泉窯I-b 概報: 149
	318	38	包含層	青磁	碗	器高: △4.4	口縁部片 1/10	動: 5Y5/2灰オリー 断: 2.5Y8/1灰白	密	外面: 蓋弁	龍泉窯II 概報: 150
	319	38	包含層	青磁	碗	口径: (14.8) 器高: △5.3	口縁部 1/5	外・内: 2.5G5Y/1 オリーブ灰 内: N7/灰白	密	外・内面: 施釉	三類 概報: 151
	320	38	包含層	青磁	碗	口径: △8.0 器高: △3.6	口縁部 1/15	動: 5Y6/2灰オリー 断: 2.5Y7/1灰白	密	外・内面: 施釉	IV類 概報: 154
	321	38	包含層	白磁	碗	口径: (10.45) 器高: △1.25	口縁部 1/6	動: 5Y6/2灰オリー 断: 2.5Y7/1灰白	密	外面: 蓋弁	龍泉窯II-b
	322	38	包含層	白磁	碗	口径: (16.25) 器高: △2.5	口縁部 1/12	動: 2.5N7/2灰 内: 2.5Y8/1灰白	密	外面: 蓋弁	龍泉窯II-b
	323	36	包含層	土師器	罐	口径: (29.3) 器高: △6.1	口縁部 1/10	外・断・内: 10YR5/2灰黄褐	φ0.5mm以下のチャート、長 石、石英。クサリ縫を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ビオラサエ、ハケ	
	324	36	包含層	瓦質土器	羽釜	口径: (16.1) 器高: (21.35)	口縁部 1/6	外・内: 2.5Y4/1 黄灰 内: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	揖津F
	325	36	包含層	瓦質土器	三足釜	器高: △9.2	脚部	外・断・内: 10YR5/2灰黄褐	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面: ナデ	

表4 出土遺物観察表（13）

遺物 次第	標 記 番 号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	調 整	備 考	
99-4	326	包含層	土師質 土器	羽釜	口径:(45.2) 高さ:8.0	部 1/6	外:10YR7/4に似 内:10YR5/1褐色 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 1 mm以下のチャート、長 石、雲母、クサリ礫を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ハケ 内面:ナデ、ハケ	担津F	
	327	包含層	石製品	砥石	大きさ:△6.3 厚さ:10.7	—	—	—	—	概報:179	
06-1	328	包含層	陶生 土器	甕	口径:(13.8) 高さ:△3.8	口縁部 1/12	外:内・断:10YR6/2灰い黄相 内:10YR7/3灰い黄相	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:ヨコナ デ		
	329	包含層	陶生 土器	甕	口径:△4.2 底径:7.65	底部完形	外:7.5YR7/6(褐) 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
	330	包含層	陶生 土器	甕	口径:△4.4 底径:6.5	底部 ほぼ完形	外:5YR7/4Eに似 内:10YR5/2灰褐色 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
	331	包含層	陶生 土器	甕	口径:△12.2 底径:10.0	底部完形	外:7.5YR7/6(褐) 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外:磨滅のため 不明 内面:ミガキ		
	332	S K 7	陶生 土器	甕	口径:(29.2) 高さ:10.1	口縁部 1/24 全体1/12	外:断:2.5Y7/3 内:2.5Y7/2灰黄 内:2.5Y8/2灰白	φ 4 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外:直線文 内面:磨滅のため 不明	担津J式	
	333	S K 7	陶生 土器	甕	口径:△4.3 底径:6.8	底部 2/3	外:7.5YR7/4Eに似 内:10YR6/2灰褐色 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 3 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
	334	S K 7	陶生 土器	甕	口径:△4.3 底径:9.7	底部 ほぼ完形	外:10YR5/3に似 内:7.5YR7/4Eに似 青褐色 内:10YR7/4に似 青褐色	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外面:ハケ、ナデ 内面:磨滅のため 不明		
	335	S P 32	陶生 土器	甕	口径:△2.2 底径:3.6	底部 ほぼ完形	外:断:5YR6/6(褐) 内:10YR3/1黒褐色	φ 1 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
	336	假穴建物 跡1	陶生 土器	甕	口径:△2.9 底径:6.7	底部 1/2	外:5YR6/4Cに似 内:7.5YR7/4Eに似 青褐色 内:2.5Y7/1灰 内:10YR7/3に似 青褐色	φ 2 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
	337	S K 10	陶生 土器	甕	口径:△5.3 底径:7.8	底部 1/3	外:断:2.5mm程度のチャート、長 内:10YR7/3に似 青褐色	φ 2.5 mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明		
11-1	338	S P 45	土師器	甕	口径:(7.55) 高さ:1.2	1/2	外・断:内: 10YR7/3Lに似 青褐色	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ		
	339	40	S P 45	土師器	甕	口径:7.9 高さ:1.0	ほぼ完形	外・断:内: 10YR8/4灰褐色	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ	
	340	39	S P 45	土師器	甕	口径:(7.8) 高さ:1.6	口縁部 3/8	外・断:内: 2.5Y7/3浅黃	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	341	40	S P 45	土師器	甕	口径:7.7 高さ:1.3	ほぼ完形	外・断:内: 2.5Y7/2灰黃	φ 2 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	342	40	S P 45	土師器	甕	口径:8.25 高さ:1.35	3/4	外・断:内: 10YR7/3Lに似 青褐色	φ 1 mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	343	40	S P 45	土師器	甕	口径:8.0 高さ:1.5	ほぼ完形	外・断:内: 10YR7/4Lに似 青褐色	φ 1.5 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	344	—	S P 45	土師器	甕	口径:(8.15) 高さ:1.0	口縁部 1/3	外・断:内: 10YR7/4Lに似 青褐色	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ礫、雲母 を含む	外面:ヨコナ デ、ナデ	
	345	39	S P 45	土師器	甕	口径:(9.2) 高さ:1.5	口縁部 1/5	外・断:内: 10YR7/3Lに似 青褐色	φ 1 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナ デ	
	346	40	S P 45	土師器	甕	口径:13.1 高さ:2.2	口縁部 3/4	外・断:内: 10YR8/3浅黃	φ 2 mm以下の石英、長石、 チャートを含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	347	39	S P 45	土師器	甕	口径:(13.4) 高さ:1.85	口縁部 1/4	外・断:内: 10YR7/3Lに似 青褐色	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、雲母を含む	外面:ヨコナ デ、ナデ	
	348	39	S P 45	瓦器	甕	口径:8.7 高さ:1.9	1/3	外・内:5Y5/1灰白 内:5Y7/1灰白	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ	
	349	—	S P 45	瓦器	甕	口径:(12.8) 高さ:2.45	1/4	外:5Y4/1灰 内:2.5Y8/2灰白 内:2.5Y7/2灰黃	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	
	350	39	S P 45	瓦器	甕	口径:(13.2) 高さ:3.3 高台径:(4.3)	2/3	外・断:内: 2.5Y7/2灰黃	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面:ヨコナデ、 ナデ 内を引き取る文	和泉型IV-1

表4 出土遺物観察表(14)

調査 次数	検出 機器番号	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
11-1	351	39 S P45	瓦器	楕	口径: (13.0) 器高: △3.4	1/6	外・断・内: 2.5Y6/2灰黄	φ1.5mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	352	40 S P45	瓦器	楕	口径: 13.7 器高: 3.65 高台径: 4.5	2/3	外・内: 10YR8/1 灰白、7.5Y6/1灰 断: 10YR8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	353	40 S P45	瓦器	楕	口径: 13.5 器高: 3.65 高台径: 4.1	3/4	外: 2.5Y6/2灰黄 断: 内: 2.5Y7/1 灰白	φ 2 mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	354	39 S P45	瓦器	楕	口径: (14.0) 器高: △3.0	口縁部1/4 全体1/8	外・断・内: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	355	- S P45	瓦器	楕	器高: △3.45	口縁部断片	外: 2.5Y6/1 灰白、NA- 断: 2.5Y8/1灰白	密	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	356	40 S P45	瓦器	楕	口径: 14.2 器高: 3.95 高台径: 4.0	口縁部2/3 底盤完形	外: 2.5Y5/1黄灰 断: 内: 2.5Y8/1 灰白	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナガキ	和泉型IV-I
	357	39 S P45	瓦器	楕	口径: (14.6) 器高: △3.5	1/4	外・断・内: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	358	39 S P45	瓦器	楕	口径: (16.0) 器高: △3.7	1/8	外・内: N4/灰 断: 5Y8/1灰白	φ0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉型IV-I
	359	39 S P45	瓦	楕	口径: (13.4) 器高: 4.75 高台径: (3.3)	1/4	外: 10YR7/2灰 断: 内: 10YR7/3 に△灰相	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナガキ	袖葉III
	360	39 S P45	須恵器	鉢	口径: (29.7) 器高: △5.2	1/6	外・断・内: 7.5Y6/1灰	φ 3 mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 内面: 回転ナデ、 ナデ	東播系
	361	39 S P45	土師質 土器	鍋	口径: (36.9) 器高: △6.2	口縁部 1/8	外・内: 7.5Y6/4灰 断: 7.5Y8/4灰 内: 10YR7/3灰 黄相	φ 2 mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 内面: ハケ	外面: 焼付着
	362	39 S P45	土師質 土器	羽釜	口径: (27.2) 器高: △7.35	口縁部 1/6	外・内・断: 10YR7/4に△灰相	φ 2 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内面: ヨコナ デ、ナガキ、ハケ	外面: 焼付着
	363	39 S P45	土師質 土器	羽釜	口径: (27.9) 器高: (40.2) 器高: △11.2	口縁部 全体1/6	外・内・断: 10YR8/4灰 黄相	φ 1.5 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内面: ヨコナ デ、ナガキ	外面: 焼付着
	364	41 S P43	土師器	小型壺	器高: △3.75	全体1/2	10YR8/3灰 黄相	φ 3 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内・断: 10YR8/3灰 黄相	外・内面: ヨビオ サエ、ナデ
	365	40 S P43	土師器	小型壺	器高: △5.6	底盤部1/2	10YR8/3灰 黄相	φ 2.5 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内・断: 10YR8/3灰 黄相	外・内面: ヨビオ サエ、ナデ
	366	41 S P43	土師器	壺	口径: (15.1) 器高: △6.8	口縁部1/8 全体1/6	外・内・断: 10YR7/3に△灰 黄相	φ 1.5 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内面: ヨコナ デ、ナガキ	外・内面: 焼付着
	367	41 S D 1	土師器	橢瓶	器高: △1.3	杯断片	外・内・断: 7.5YR7/6灰	φ 0.5 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内面: 磨滅の ため不明	
	368	41 S D 1	弥生 土器	甕	器高: △2.26 底盤完形	外・内: 7.5YR6/6相 同: 5YR6/6相	φ 3 mm以下のチャート、長 石、石英、クリソロを含む	外・内面: ハケ		
	369	40 S D 1	陶器	山茶碗	口径: (4.3) 器高: (9.8)	1/2	1: 2.5Y7/1灰 断: 10YR6/1灰 内: 10YR7/1灰白	密	外・内面: 回転ナ デ、ナデ	常滑
	370	41 S P51	土師器	皿	口径: 8.5 器高: 1.5	3/4	外・内・断: 10YR7/4に△灰 黄相	φ 2 mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナガキ	
	371	41 S P51	瓦器	楕	口径: (3.4) 器高: 3.7 高台径: (4.2)	1/7	外・内・断: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉III- IV-I
	372	41 S P51	瓦器	楕	口径: (15.5) 器高: △5.6	1/8	外・内・断: 2.5Y7/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉III- IV-I
	373	41 S P51	瓦器	楕	口径: (3.5) 器高: 3.7 高台径: 4.4	1/2	外・内: 5Y6/1灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉III- IV-I
	374	41 S P51	瓦器	楕	口径: (4.0) 器高: 3.9 高台径: (4.4)	1/4	外・内・断: 7.5YR8/2灰白	φ 1 mm以下のチャート、長 石、石英、玉母を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ニビオサエ、 内面: ヨコナデ、 平行線彫文	和泉III- IV-I
	375	41 S P51	須恵器	甕	口径: (9.1) 器高: △6.9	口縁部 1/8	外・内・断: 2.5Y5/1灰黄	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナガキ、タキ 内面: 回転ナデ、 同心円で当て具痕	平城宮VI

表4 出土遺物觀察表（15）

遺物 次第	標 記 番 号	出土地	器種	器形	法量 (cm)	残存	色調	胎 土	調整	備 考
	376 40	S P56	瓦器	楕	口径: 12.3 腰高: 3.5 高台径: 5.8	口縁部2/3 底部1/3 充填	外・内: 2.5Y7/1 灰白、2.5Y8/1灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 溝巻き状跡文	和泉Ⅲ-3~ IV-1
	377 40	S P56	瓦器	楕	口径: 12.6 腰高: 3.6 高台径: 3.5	口縁部1/2 底部1/2 充填	外・内: 2.5Y5/1灰 断: 2.5Y8/1灰白 内: NS/灰	密	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 溝巻き状跡文	和泉Ⅲ-3~ IV-1
	378 41	S P60	瓦器	楕	腰高: △7.5	底部 1/6	外・内: NS/灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ	深鉢 I
	379 41	S P70	陶器	甕	口径: 35.0 腰高: △4.9	口縁部 1/6	外・内: 7.5VR5/3 にぶい 黄 断: 5Y5/1灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ	常滑
	380 41	S E 1	石製品	網	口径: (26.7) 腰高: △6.6	口縁部 1/6	—	滑石	—	Ⅲ類 a
	381 41	S K 1	須恵器	杯盃	口径: (15.8) 腰高: 4.7	1/4	外・断・内: 2.5VS/1灰黄	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: 回転ナデ、 回転ヘラタケナリ、 内面: 回転ナデ、 ナデ	MT 15
	382 42	S P120	瓦器	楕	口径: (14.8) 腰高: △4.1	1/4	外・内: 5Y7/1灰白 断: 2.5Y7/2灰黄	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ミギナデ	和泉Ⅲ-1
	383 42	S P128	瓦器	楕	口径: (14.9) 腰高: △3.0	1/4	外・内: 5Y5/1灰 断: 2.5Y7/2灰黄	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ミギナデ	和泉Ⅲ-1
	384 42	S P103	土師器	皿	口径: 9.25 腰高: 1.6	ほぼ完形	10YR8/4灰黄相 外・断・内:	φ 3mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	
	385 42	S P103	土師器	皿	口径: (9.3) 腰高: 1.3	1/4	外・断・内: 2.5Y7/2灰黄	φ 1mm以下のチャート、石 英を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
	386 42	S P103	土師器	皿	口径: (9.3) 腰高: 1.25	1/4	外・断・内: 10YR7/4Cにぶい 黄相 外・断・内:	φ 3mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
	387 42	S P103	瓦器	皿	口径: 8.7 腰高: 2.15	完形	2.5Y3/1黒褐 外・断・内:	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	
	388 42	S P103	瓦器	皿	口径: 9.0 腰高: 1.9	1/2	外・内: 2.5Y4/1 灰黄 断: 5Y7/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	
11-1	389 42	S P103	瓦器	楕	腰高: △2.7 高台径: (5.3)	底部 1/2	外・内: 5Y5/1灰 断: 5Y8/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: 廉減のため 不明	和泉Ⅲ-1
	390 42	S P103	瓦器	楕	腰高: △2.1 高台径: (4.8)	底部 1/2	外・内: 2.5Y6/1 灰黄 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉Ⅲ-1
	391 42	S P103	瓦器	楕	口径: (14.4) 腰高: △4.0	口縁部1/8 体部1/4	外・断・内: 2.5Y7/2灰黄	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ、 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉Ⅲ-1
	392 44	自然流路	石製品	石礫	長さ: 2.55 幅: 1.55 厚さ: 0.35	ほぼ完形	—	サヌカイト	—	重量: 1 g
	393 42	自然流路	繩文土器	深鉢	腰高: △5.45	体部1/2	外: 2.5Y7/2灰黄 断: 2.5W6/3 にぶい 黄	φ 3mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ナデ後沈 内面: 廉減のため 不明	
	394 42	自然流路	弥生土器	甕	口径: (14.2) 腰高: △4.8	口縁部 1/6	外・内: 10YR7/3にぶい 黄相 断: 10YR7/3 にぶい 黄相	φ 5mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ	外面: 1/4縁 部に焼付着
	395 42	自然流路	弥生土器	甕	口径: (14.8) 腰高: △5.3	口縁部 1/6	外・内: 10YR7/2 にぶい 黄相 断: 10YR7/3 にぶい 黄相	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、角閃石を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ	
	396 42	自然流路	弥生土器	甕	口径: (15.5) 腰高: △4.1	口縁部 1/8	外・内: 10YR7/3Cにぶい 黄相 断: 10YR7/3C にぶい 黄相	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ	
	397 43	自然流路	弥生土器	甕	口径: (16.5) 腰高: △11.6	口縁部1/2 体部1/4	外・内: 2.5Y7/3 灰黄 断: 7.5YR7/4にぶい 黄相	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、角閃石を含む	外面: タタキ、ナ ダ、ケズリ	外面: 口縁 部に焼付着
	398 42	自然流路	弥生土器	甕	腰高: △3.4 底径: 5.65	底部完形	外: 2.5Y6/4Cにぶい 黄相 内: 2.5Y7/2灰黄	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面: 廉減のため 不明 内面: ケズリ	
	399 42	自然流路	弥生土器	甕	腰高: △3.1 底径: 5.05	底部完形	外・内: 断: 2.5Y7/2灰黄	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面: ユビオサエ 後タタキ、タタキ 後ハケ 内面: ハケ	
	400 44	自然流路	弥生土器	甕	口径: (15.0) 腰高: 26.0 底径: 4.4	口縁部1/2 底部完形	外・内: 10YR7/4Cにぶい 黄相 内: 2.5Y6/2灰黄	φ 3mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵、雲母 を含む	外面: タタキ後ハ ケ 内面: ヨコナデ、 ナデ	
	401 42	自然流路	土師器	甕	腰高: △10.6 底径: 6.2	底部完形	外・断: 10YR6/3 にぶい 黄相 内: 2.5Y6/2灰黄	φ 3mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵、雲母 を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ	

表4 出土遺物觀察表(16)

箇号 次数	出所 番号	出土地	器種	形態	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
11-1	402 43	自然流路	土師器	甕	口径:(16.2) 器高:△15.2	口縁部1/3	外:10YR8/1灰白 内:2.5Y7/3浅黄	φ 2 mm程度の石英、長石を含む	外面:ナデ。タタキ後 内面:ナデ。ハケ	外面: 焼付着
	403 44	自然流路	土師器	甕	口径:(22.2) 器高:△23.9	口縁部 完形 全体1/3	外:2.5Y6/3に赤い 黄相 内:10YR6/3 に5Y3オーリブ 相	φ 3 mm程度の石英、長石を含む	外面:ヨコナデ。 タタキハケ 内面:ハケ	外面: 焼付着
	404 43	自然流路	土師器	甕	口径:(12.8) 器高:△9.6	口縁部1/2	外:10YR7/4に赤い 黄相 内:2.5Y7/1灰白 相	φ 2.5mm以下のチャート、長石、雲母、ケサリ礫を含む	外面:ヨコナデ。 タタキ 内面:ヨコナデ。 ケズリ	近江系か 瀬戸系 焼付着
	405 43	自然流路	土師器	甕	口径:(14.6) 器高:△6.1	口縁部1/4	外:10YR7/4に赤い 黄相 内:10YR7/3に赤い 黄相	φ 2 mm以下のチャート、長石、雲母、ケサリ礫を含む	外面:ヨコナデ。 タタキ 内面:ヨコナデ。 ケズリ	近江系か
	406 43	自然流路	土師器	甕	口径:(16.0) 器高:△11.6	口縁部1/8	外:10YR8/2灰白 内:10YR7/3に赤い 黄相	φ 4 mm程度の長石、石英を含む	外面:ナデ。タタキ 内面:ナデ。ハケ	
	407 43	自然流路	土師器	甕	口径:(25.2) 器高:△17.4	口縁部1/3	外・内:2.5Y7/2 灰黄 内:2.5Y4/1灰黄	φ 4 mm程度の長石、石英を含む	外面:ヨコナデ。 ハケ。タタキ後ナ デ 内面:ヨコナデ。 ハケ	近江系か
	408 43	自然流路	土師器	甕	口径:(24.2) 器高:△5.8	口縁部1/8	外・無:10YR6/3 に赤い 黄相 内:10YR7/2に赤い 黄相	φ 2 mm以下のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外面:ハケ後ヨコ ナデ。タタキ 内面:ヨコナデ。 ハケ	外面:焼付 着
	409 43	自然流路	土師器	甕	口径:(22.8) 器高:△5.45	口縁部1/8	外・無・内: 10YR7/3に赤い 黄相	φ 1 mm以下のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外面:ヨコナデ。 タタキ 内面:ヨコナデ。 ハケ	外面:焼付 着
	410 44	自然流路	土師器	甕	口径:(26.8) 器高:△21.7	口縁部2/3	外:10YR6/3に赤い 黄相 内:2.5Y7/2灰黄 内:10YR6/3に赤い 黄相	φ 4 mm以下のチャート、長石、ケサリ礫を含む	外面:ヨコハ タタキ後ハ 内面:ハケ後ヨコ ナデ	山陰系 内外付:保 付着
	411 44	自然流路	土師器	甕	口径:(26.9) 器高:△27.2	口縁部 完形	外:10YR6/2灰黄 内:2.5Y7/3浅黄	φ 3 mm以下のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外面:ヨコナデ。 タタキ後ナ デ 内面:ヨコハケ後 ヨコナデ。乾ナ デ	山陰系
	412 43	自然流路	土師器	二重甕 口縁部	頭径部: (13.0) 器高:△10.3	頭部 1/4	外:10YR7/2に赤い 黄相 内:10YR8/2灰白 相	φ 5 mm程度の長石、石英を含む	外面:ナデ。ハケ 内面:ミガキ。ナ デ	
	413 43	自然流路	土師器	直口甕	口径:(11.0) 器高:△8.7	口縁部 1/1	外・無・内: 10YR7/3に赤い 黄相 内:2.5Y8/3浅黄	φ 2 mm程度のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外・内:ハケ。 ナデ	辻編年5
	414 45	自然流路	土師器	短直口	口径:(14.6) 器高:△5.1	口縁部 1/3	外:10YR5/3に赤い 黄相 内:2.5Y7/3浅黄	φ 1.5 mm程度のチャート、長石、雲母、ケサリ礫を含む	外面:ヨコナデ。 ハケ 内面:ヨコナデ	辻編年5 外面: 焼付着
	415 44	自然流路	土師器	小型甕	器高:△5.9 底径:7.9	体部 完形	外・無・内: 2.5Y7/3浅黄	φ 1 mm以下のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外:ナデ。ケズ リ 内:ナデ。ユ ビナデ	外面:黒斑
	416 44	自然流路	土師器	小型甕	器高:△9.55	体部 完形	外:2.5Y8/3浅黄 内:10YR8/3灰黄 内:2.5Y7/2灰黄	φ 2 mm程度の長石、石英を含む	外面:ナデ。ケズ リ 内:ナデ。ユ ビナデ	
	417 45	自然流路	土師器	高杯	器高:△6.2	脚柱部 2/2	外・無:2.5Y8/2 内:2.5Y7/2灰黄	φ 1 mm程度のチャート、長石、石英、ケサリ礫を含む	外・内面:ナデ	辻編年5
	418 45	自然流路	土師器	高杯	器高:△7.4 脚柱部 ほぼ完形	脚柱部 1/1	外:2.5YR7/6灰 内:10YR8/3 内:2.5Y7/2灰黄	φ 3 mm程度の長石、石英を含む	外面:ナデ 内面:シボリ痕	辻編年5
	419 45	自然流路	土師器	橢形 高杯	器高:△11.9 脚柱部 (11.4)	脚柱部 ほぼ完形	外:2.5YR7/4に赤い 黄相 内:10YR7/3 に赤い 黄相	φ 2 mm程度のチャート、長石、石英を含む	外面:磨滅のため 不明 内面:シボリ痕	辻編年5
	420 45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(14.4) 器高:△3.4	口縁部 1/8	外:5Y6/1灰 内:2.5Y7/1灰白 内:5Y6/1灰	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ。 回転ハケズリ 内面:回転ナ デ。ナ デ	T.K43~ T.K209
	421 45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(11.4) 器高:△5.1	体部 1/4	外:5Y6/1灰 内:2.5Y7/1灰白 内:5Y6/1灰	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ。 回転ハケズリ 内面:回転ナ デ。ナ デ	M.T15
	422 45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(11.4) 器高:△4.1	底部 1/3	外・無・内:N6/灰 内:N6/灰	φ 1 mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ。 回転ハケズリ 内面:回転ナ デ。ナ デ	M.T15 体部古みあり
	423 45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(11.8) 器高:△4.1	体部 1/4	外:N7/灰白 内:N6/灰	φ 0.5mm程度の砂粒、黒色粒を含む	外面:回転ナデ。 回転ハケズリ 内面:回転ナ デ。ナ デ	M.T15
	424 一	自然流路	須恵器	杯身	口径:(13.0) 器高:△3.1	口縁部 1/7	外:N5/灰 内:5Y5/2灰白 内:N7/灰白	φ 1 mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ 内面:回転ナ デ	M.T15

表4 出土遺物観察表(17)

遺物 次第	器物 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	種類	色調	胎土	調査	備考	
11-1	425	—	自然流路	須恵器	杯身	高さ:△3.3 器高:△3.55	口縁部 1/8	外・内:N6/灰 斯:2.5Y5/1灰黄	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	MT 15
	426	45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(13.5) 器高:△3.55	体部 1/3	外:2.5Y7/1灰白 内:2.5Y7/2 灰黄	φ 2mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ、 ナデ	TK 10
	427	—	自然流路	須恵器	杯身	口径:(13.0) 器高:△3.7	体部 1/4	外:N5/灰 斯:2.5Y7/1灰白	φ 2mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	TK 10
	428	—	自然流路	須恵器	杯身	口径:(12.0) 器高:△3.0	口縁部 1/8	外:N4/灰 斯:内:2.5Y8/1 灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: 回転ナデ	TK 10
	429	45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(12.9) 器高:△3.2	1/4	外:N5/灰 斯:内: N7/灰白	φ 1.5mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ、 ナデ	TK 209
	430	45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(13.7) 器高:△3.1	1/4	外・斯:内: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	TK 209
	431	45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(13.3) 器高:△3.05	1/4	外:2.5Y7/1灰白 内: N7/灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	TK 209
	432	45	自然流路	須恵器	杯身	口径:(12.1) 器高:△2.8	口縁部 1/4	外:N4/灰 内:2.5Y7/1 灰白	φ 0.5mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	TK 209
	433	46	自然流路	須恵器	盃	口径:(13.3) 器高:△6.6	口縁部 1/5	外・内:2.5Y5/1 灰黄 斯:2.5Y7/1灰白	φ 1mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 平行タキシ 内面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ	自然釉
	434	46	自然流路	須恵器	盃	高さ:△5.2	体部 1/6	外・斯:内: N5/灰	φ 1mm程度の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 虎模様と朱、病突 内面:ヨコナデ	TK 47 外面: 自然釉
	435	46	自然流路	須恵器	台付盃	口径:△6.7	体部 2/3	外・斯:内: 2.5Y6/1灰黄	φ 1mm程度の砂粒を含む	外面:回転ナデ、 回転ヘラケグリ、 内面:回転ナデ	外曲による 傾斜 内面: 自然釉
	436	46	自然流路	須恵器	盃	口径:(30.8) 器高:△8.0	口縁部 1/8	外・内:N6/灰 斯:10YR7/1灰白	φ 2mm程度の砂粒を含む	外・内面: 回転ナデ、 タキシ	外曲: 部分的に自然釉
	437	46	自然流路	須恵器	平瓶	高さ:△2.0	肩部 1/6	外・内:2.5Y7/1 灰白 斯:2.5Y8/1灰白	φ 2mm程度の砂粒を含む	外・内面: 回転ナデ	平城宮VI
	438	46	自然流路	須恵器	平瓶	口径:(5.2) 器高:△4.8	口縁部 1/3	外・内: 5Y7/1灰白 内: N5/灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面:ヨコナ デ	飛鳥Ⅱか 外曲: 自然釉
	439	46	自然流路	韓式系 土器	把手	器高:△7.0	把手部	外・内: 10YR7/3 にふい柄 斯: 2.5Y8/2灰白	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ纏、雲母 を含む	外面:ユビナデ、 椅子目タキシ	辯編年3
	440	46	自然流路	土師器	把手	器高:△7.2	把手部	外・内: 7.5Y7/4 にふい柄	φ 3mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ纏、雲母 を含む	外面:ハケ、ユビ 椅子目ナデ	辯編年4
	441	44	自然流路	石製品	子持ち 耳	寸法:△12.0 幅:△5.5 厚さ:△2.5	2/3	10YR5/2灰黄～ 5Y8/2灰白	滑石	—	ML-B-1 重量:196 g
	442	46	自然流路	須恵器	杯B	高さ:△1.8 高台径:△7.4	高台部 1/4	外・斯:内: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面:回転ナ デ、ナデ	平城宮VI
	443	46	自然流路	土師器	皿	口径:(7.1) 器高:△1.6	1/2	外・斯:内: 10YR7/3にふい柄	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	飛鳥Ⅱか 外曲: 自然釉
	444	46	自然流路	土師器	皿	口径:(7.5) 器高:△1.45	1/3	外・斯:内: 10YR7/3にふい柄	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	辯編年4
	445	46	自然流路	瓦器	碗	口径:(13.8) 器高:△3.8 高台径:△4.2	1/3	外・斯:内: 2.5Y8/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 内面:ヨコナデ、 病滅のため 不明	和泉F-1
	446	46	自然流路	灰釉 陶器	皿	口径:(12.7) 器高:△2.5 高台径:△6.4	1/4	外・斯:内: 2.5Y7/1灰白	密	外・内面:回転ナ デ	内面:施釉
	447	46	自然流路	須恵器	鉢	口径:(26.5) 器高:△4.7	口縁部 1/8	外・斯:内: 10YR7/1灰白	φ 2mm以下の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 ナデ	十輪山窯 こね跡A
	448	46	自然流路	須恵器	鉢	高さ:△5.9	口縁部	外・斯:内: 2.5Y8/1灰白	φ 1.5mm以下の砂粒を含む	外・内面:回転ナ デ	東播系
	449	47	自然流路	土師質 土器	羽釜	口径:(27.0) 器高:(4.0) 高台径:△4.9	口縁部 1/8	外・斯:内: 10YR7/3にふい柄	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母を含む	外・内面:ヨコナ デ、ナデ	相津E
	450	47	自然流路	土師質 土器	羽釜	高さ:△8.1	口縁部	外・内: 10YR7/4に ふい柄 斯: 10YR7/1灰白	φ 1.5mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ纏を含む	外・内面:磨滅の ため不明	相津E
	451	47	自然流路	土師質 土器	羽釜	口径:(34.0) 器高:(40.3) 高台径:△4.9	口縁部 1/12	外・内: 10YR7/2 にふい柄 斯: 2.5Y5/1灰黄	φ 1mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ纏を含む	外面:ヨコナデ、 ハケ	相津E
	452	47	自然流路	瓦質 土器	羽釜	口径:(17.8) 器高:(22.4) 高台径:△3.25	1/4	外・内: 5Y5/1灰 斯: 5Y8/1灰白	φ 0.5mm程度の砂粒を含む	外面:ヨコナデ、 内面:磨滅のため 不明	相津E

表4 出土遺物観察表（18）

層位 次数	標印 記号	出土地	器種	断面	法量 (cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	453	47	自然流路 瓦質土器	三星釜	口径:(19.3) 脚径:(24.1) 壁高:△6.6	口縁部 1/8	外・内:2.5Y5/1 黄灰 断:2.5Y7/1灰白	約2mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外・内面:ヨコナ デ	
	454	47	自然流路 瓦質土器	三星釜	長さ:△9.4 脚部径:△2.7	脚部断 片	外・内:2.5Y6/1 黄灰 断:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外画:ヨコオサ エ、ナデ 内面:磨滅のため 不明	
	455	47	自然流路 瓦質土器	三星釜	長さ:△14.05 脚部径:△2.0	脚部断 片	外・内:断: 2.5Y6/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外・内面:ナデ	
	456	47	自然流路 瓦質土器	三星釜	長さ:△15.3 脚部径:△2.2	脚部断 片	外・内:2.5Y6/1 黄灰 断:2.5Y8/1灰白	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外・内面:ナデ	
	457	51	自然流路 鉢質 瓦質	直筒 丸底	直径: △2.45 厚さ:△0.1	完形	—	—	—	初鉢年: 998年
	458	47	包含層 磚文 土器	深鉢	壁高:△3.45 底径:△8.0	底部 1/4	外:10YR6/1灰灰 内:10YR8/3灰黄相 内:10YR7/3にぶい 黄灰	φ3mm以下の砂粒を多く含 む	外・内面:ナデ	
	459	47	包含層 尊生 土器	壺	口径:(16.0) 脚部 壁高:△4.1	口縁部 1/8	外:10YR8/2灰白 内:10YR8/3灰黄相 内:7.5Y8/2灰相	φ3mm程度の長石、石英を 含む	外・内面:ヨコナ デ 押津I様式	
	460	47	包含層 尊生 土器	脚部	高さ:△4.6 脚部径: (15.6)	脚部 1/8	外:10YR8/4灰黄相 内:10YR7/4にぶい 黄相	φ2mm程度の長石、石英を 含む	外・内面:ナデ 押津IV様式 穿孔4方向	
	461	47	包含層 尊生 土器	壺	口径:(24.0) 壁高:△6.3	口縁部 1/6	外:10YR6/3にぶい 黄相 内:10YR6/2 灰灰	φ1mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外画:ヨコナデ, タタキ 内面:ヨコナデ,	
	462	48	包含層 尊生 土器	壺	壁高:△18.6 底底完形	体部1/3 底底完形	外:△5Y7/3灰灰 内:△5Y8/7灰黄相 内:△5Y4/1灰白	φ5mm以下のチャート、長 石を含む	外画:タタキ後ハ ケナデ 内面:ハケ	
	463	47	包含層 石製品 磨石	磨石	長さ:△1.2 幅:△7.2 厚さ:△4.9	完形	—	—	—	重量: 618 g
	464	48	包含層 土師器	壺	口径:(15.4) 壁高:△15.6	口縁部 1/3	外:10YR6/3にぶい 黄相 内:10YR6/4 にぶい黄相	φ1.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母、クサリ礫 を含む	外画:ヨコナデ, ナデ 内面:ヨコ方向の 擦痕ナデ	製造上置か 全体に擦付 層
11-1	465	—	包含層 土師器	高杯	壁高:△6.1 脚柱部 ほぼ完形	脚柱部 1/2	外:10YR8/4灰黄相 内:△7.5Y8/4 灰灰	φ1mm程度の長石、石英を 含む	外画:ハケ、ナデ 内面:シボリ痕	穿孔3方向
	466	—	包含層 土師器	高杯	壁高:△6.1	脚柱部 1/2	外:10YR8/4灰黄相 内:△7.5Y8/4 灰灰	φ5mm程度の長石、石英を 含む	外画:ナデ 内面:シボリ痕	穿孔3方向
	467	48	包含層 土師器	有柄 高杯	口径:(15.6) 壁高:△9.8	口縁部1/2 体部2/3	外:△5Y7/3灰灰 内:△7.5Y8/4にぶい 黄相	φ1mm以下の中チャート、長 石、クサリ礫を含む	外画:ハケ、ヨコ ナデ 内面:ヨコナデ, ケズリ	
	468	—	包含層 土師器	高杯	壁高:△9.65 脚柱部 (11.6)	脚柱部 3/4	外:△7.5Y8/4灰黄相 内:△7.5Y7/6相	φ4mm程度の長石、石英を 含む	外・内面:磨滅の ため不明	
	469	—	包含層 土師器	高杯	壁高:△5.15 脚柱部 (8.75)	脚柱部 ほぼ完形	外・内:△5Y6/8 灰灰	φ0.5mm以下のチャート、長 石、クサリ礫を含む	外・内面:磨滅の ため不明	
	470	—	包含層 土師器	小型壺	壁高:△4.5 ほぼ完形	体部 1/3	外・内:△10YR8/4 灰灰	φ2mm以下の石英、長石を 含む	外画:ナデ 内画:ナデ、ユビ ナデ	
	471	48	包含層 土師器	小型壺	壁高:△4.2	体部 1/3	外:△5Y7/7 内:△2.5Y7/4灰灰	φ0.5mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ礫を含む	外画:ナデ 内画:ナデ、ユビ ナデ	
	472	—	包含層 土師器	小型壺	壁高:△5.35 ほぼ完形	体部 1/3	外:△5Y7/4 内:△10YR8/4灰黄相	φ1mm以下の石英、長石を 含む	外画:ナデ、ケズ リ 内画:ヨコナデ	
	473	48	包含層 土師器	小型壺	口径:△7.55 壁高:△3.7	3/4	外:△10YR6/3灰黄相 内:△10YR7/6相	φ2mm以下の石英、長石を 含む	外画:ナデ 内画:ナデ、ケズ リ	
	474	48	包含層 土師器	小型壺	壁高:△6.6 ほぼ完形	1/2	外:△10YR7/3 内:△10YR5/1灰灰	φ2mm以下の石英、長石を 含む	外画:ナデ 内画:ナデ、ユビ ナデ	
	475	48	包含層 須恵器	杯蓋	口径:(12.4) 壁高:△4.85	3/5	外:△2.5Y6/3 内:△2.5Y5/1黄灰	φ0.5mm程度の砂粒を含む	外画:10輪ナデ, 回転ハケケズリ 内画:ナデ、ナデ ナデ	T K23~ T K47
	476	49	包含層 須恵器	杯蓋	口径:(14.9) 壁高:△4.6	2/3	外・内:△5Y6/1 灰	φ1.5mm程度の砂粒を含む	外画:初期ナデ, 回転ハケケズリ 内画:初期ナデ, ナデ	T K23~ T K47
	477	49	包含層 須恵器	有蓋 高杯蓋	口径:(12.5) 壁高:△4.5	1/2	外・内:△2.5Y6/3に ぶい黄 断:△10YR5/2灰黄相	φ1mm以下の砂粒を含む	外画:初期ナデ, 回転ハケケズリ 内画:初期ナデ, ナデ	T K47
	478	48	包含層 土師器	杯	口径:△11.5 壁高:△5.4	ほぼ完形	外:△10YR8/4灰黄相 内:△7.5Y7/4にぶい 黄相	φ3mm程度の石英、長石を 含む	外画:ナデ、ユビ イサエ 内画:ナデ	

表4 出土遺物観察表（19）

遺物 次番	標 記 番 号	出土地	器種	图形	法量 (cm)	残 存	色 調	地 土	調 整	備 考
479	49	包含層	須恵器	甕	口径: (26.0) 器高: △8.05	口縁部 1/5	外・内: 2.5Y5/1 灰白断: 2.5Y7/1 灰白	φ 1mm程度の砂粒を含む	外・内面: 回転ナ デ、ナデ	
480	49	包含層	縁輪 陶器	甕	甕高: △1.7 高台径: 6.1	高台部 完形	釉: 7.5Y5/3灰オリ ーブ 断: 7.5Y7/1灰白	赤	外・内面: 施釉	
481	49	包含層	縁輪 陶器	甕	甕高: △1.7 高台径: 7.2	高台部 1/8	釉: 7.5Y6/2灰オリ ーブ 断: 5Y7/1灰白	赤	外・内面: 施釉	
482	49	包含層	縁輪 陶器	甕	甕高: △2.5 高台径: 7.3	高台部 1/3	釉: 5Y6/2灰オリ ーブ 断: 5Y7/1灰白	赤	外・内面: 施釉	
483	50	包含層	須恵器	甕	甕高: △13.6 底径: (14.0)	底部1/4	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y7/2 灰黄	φ 1mm以下の砂粒を含む	外: ヨコナデ、ナ デ、タマナデ 内面: ナデ、円形 状況で貝殻	内外面: 自 然施 底部に付着
484	48	包含層	土師器	台付罐	口径: (13.7) 器高: 49 高台径: 11.75	1/4	外・内: 10YR7/4に 5-5灰黄 断: 7.5YR6/6橙	φ 2.5mm以下のチャート、長 石、赤母を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
485	52	包含層	土師器	甕	口径: 8.15 器高: 1.5	2/3	外・内: 10YR7/4に 5-5灰黄 断: 7.5YR6/6橙	φ 1mm以下のチャート、長 石、クリソロを含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
486	52	包含層	土師器	甕	口径: 8.1 器高: 1.45	完形	外・内: 10YR8/3 灰黄	φ 2.5mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	
487	50	包含層	土師器	甕	口径: 8.2 器高: 1.4	3/4	外・内: 10YR7/4に 5-5灰黄 断: 7.5YR6/6橙	φ 1mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
488	-	包含層	土師器	甕	口径: (8.8) 器高: 1.45	1/4	外・内: 10YR7/3に 5-5灰黄 内: 7.5Y4/1灰	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、石英、雲母、クサリ鐵 を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	
489	50	包含層	土師器	甕	口径: (8.95) 器高: 2.0	1/2	外・内: 2.5Y7/2灰黄	φ 4mm程度のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	
490	52	包含層	土師器	甕	口径: 9.5 器高: 1.7	完形	外・内: 10YR8/3灰黄	φ 0.5mm以下のチャート、長 石、クサリ鐵を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	
491	52	包含層	瓦器	縫	口径: (10.8) 器高: △3.2	口縁部 2/3	外・内: 2.5Y7/2灰黄	φ 1mm以下の砂粒を含む	外側: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内側: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-2 ～V-3
492	-	包含層	瓦器	縫	口径: (11.6) 器高: △2.8	1/4	外・内: N5/灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外側: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内側: 磨擦のため 小凹	和泉IV-1
493	50	包含層	瓦器	縫	口径: (12.2) 器高: 3.5 高台径: (1.2)	口縁部1/4 体部1/2	外・内: 2.5Y7/2灰黄	φ 1.5mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-1
494	-	包含層	瓦器	縫	口径: 14.3 器高: 4.0 高台径: (4.5)	1/2	外・内: N5/灰 断: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-1
495	-	包含層	瓦器	縫	器高: △3.0	口縁部 1/8	外: 3Y6/1灰 内: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-1 ～V-2
496	-	包含層	瓦器	縫	器高: △3.3	1/12	外・内: 10YR8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-1 ～V-2
497	-	包含層	瓦器	甕	口径: (10.7) 器高: 2.2	1/4	外・内: 2.5Y8/2灰白	φ 1mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ヨコナデ、 ナデ	和泉IV-1 ～V-2
498	50	包含層	須恵器	鉢	器高: △3.6	口縁部片	外・内: 2.5Y7/1灰白	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	東播磨
499	50	包含層	須恵器	鉢	口径: (26.8) 器高: △4.75	1/4	外・内: 5Y6/1 灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	東播磨、重ね 焼き痕跡
500	-	包含層	須恵器	鉢	器高: △3.4	口縁部片	外・内: 2.5Y8/2灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	東播磨
501	50	包含層	須恵器	鉢	器高: △7.05	口縁部片	外・内: 5Y6/1灰 内: 3Y4/灰	φ 1mm以下の砂粒を含む	外・内面: ヨコナ デ、ナデ	東播磨
502	49	包含層	須恵器	鉢	器高: △1.7 高台径: 6.3	高台部 完形	外・内: 2.5Y8/1灰 内: 2.5Y7/1灰白	φ 3mm以下の砂粒を含む	外・内面: 回転ナ デ	
503	50	包含層	土師質 土器	羽釜	口径: (25.0) 器高: △8.2	口縁部 1/12	外・内: 10YR7/4に5-5 灰黄	φ 2.5mm以下のチャート、長 石、石英を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ナデ、ハケ	河内G
504	50	包含層	瓦質 土器	三足釜	器高: △1.3	脚部分	外・内: 2.5Y8/1灰白	φ 2mm以下のチャート、長 石、石英、クサリ鐵を含む	外・内面: ナデ	螺付器
505	50	包含層	瓦質 土器	三足釜	口径: (17.3) 器高: (21.5) 器高: △5.85	口縁部 1/12	外・内: N4/灰 断: 2.5Y8/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ヨコナデ 内面: ナデ、ハケ	

表4 出土遺物観察表(20)

調査 次数	検出 番号	回版 番号	出土地	器種	器形	法量(cm)	残存	色調	胎土	調整	備考
	506	50	包含層 瓦質 土器	三足釜	口径: (20.4) 底径: (26.9) 高さ: (3.6)	口縁部 1/8	外・内: 2.5Y6/2灰 断面: 2.5Y7/1灰白	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面: ヨコナデ、 ハケ		
	507	50	包含層 瓦質 土器	三足釜	口径: (21.4) 底径: (26.2) 高さ: (4.5)	口縁部 1/8	外・内: N4/灰 内: 5YR1/灰白	φ 4mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面: ヨコナデ、 ハケ		
	508	50	包含層 瓦質 土器	三足釜	口径: (20.6) 底径: (25.0) 高さ: (3.9)	口縁部 1/12	外・内: 5Y4/1灰 内: 2.5Y6/2灰黄	φ 0.5mm以下の砂粒を含む	外面: ヨコナデ、 ナデ、ユビオサエ 内面: ヨコナデ、 ハケ		
	509	49	包含層	陶器	擂鉢	口径: (27.6) 底径: (35.2)	口縁部 1/12	外: 5YR6/1灰 内: 7.5YR7/4灰 断面: 5.5YR7/4灰	φ 2mm以下のチート、長 柱、クサリ縫を含む	外・内面: ヨコナ デ	
	510	51	包含層	白磁	碗	口径: (15.6) 底径: (24.55)	口縁部 1/4	釉: 5Y7/2灰白	密	外・内面: 脱釉	IV類
	511	51	包含層	白磁	碗	口径: (16.35) 底径: (21.9)	口縁部 1/8	釉: 5Y7/2灰白 断: 2.5Y8/1灰白	密	外・内面: 脱釉	
	512	51	包含層	白磁	碗	高さ: △4.05	口縁部 断: 5Y7/1灰白	釉: 10Y6/2オーリー ^b 断: 5Y7/1灰白	密	外・内面: 脱釉	
	513	51	包含層	白磁	碗	高さ: △2.8 高台径: (7.5)	高台部 1/4	釉: 5Y7/2灰白 外: 5Y7/1灰白	密	外・内面: 脱釉	
	514	51	包含層	白磁	碗	高さ: △2.9 高台径: (7.0)	高台部 完形	釉: 2.5Y7/2灰黄 外: 5Y7/2灰白	密	外・内面: 脱釉	
	515	51	包含層	青磁	碗	口径: (15.0) 底径: △4.85	口縁部 1/8	釉: 10Y6/2オーリー ^b 断: 7.5Y7/1灰白	密	外・内面: 脱釉	
11-1	516	51	包含層	青磁	碗	高さ: △3.7 高台径: (6.4)	底部1/2	釉: 2.5GY6/1オーリー ^b 断: 2.5Y8/1灰白	密	外・内面: 脱釉	
	517	51	包含層	青磁	碗	高さ: △3.5 高台径: (6.1)	高台部 1/4	釉: 2.5Y5/3灰 断: 2.5Y7/3灰黄	密	外・内面: 脱釉	
	518	51	包含層	青磁	皿	高さ: △1.5 底径: (4.7)	底部1/5	釉: 5Y6/2灰オーリー ^b 外: 2.5Y7/7灰	密	外: ケズリ 内: 脱釉	
	519	49	包含層	石製品	墨石	長さ: 14.1 幅: 10.55 厚さ: 1.55	一部欠損	—	滑石	—	重量: 483g
	520	52	包含層	銅製品	八花鏡	長さ: 2.81 幅: 1.75 厚さ: 0.55	1/3	—	—	—	八花鏡II c
	521	51	包含層	銅質	開元 通寶	直径: 2.4 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 621年
	522	51	包含層	銅質	天聖 通寶	直径: 2.4 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 1023年
	523	51	包含層	銅質	祥符 元寶	直径: 2.5 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 1008年
	524	51	包含層	銅質	聖宋 通寶	直径: 2.4 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 1067年
	525	51	包含層	銅質	聖宋 通寶	直径: 2.4 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 1067年
	526	51	包含層	銅質	聖宋 通寶	直径: 2.4 厚さ: 0.1	完形	—	—	—	初期年: 1068年
11-2	527	52	壁穴建物 跡2	須恵器	杯蓋	口径: 11.6 底径: 4.1	完形	外: 5Y6/1灰 断: 2.5Y6/1黄灰 内: 2.5Y5/2灰黄	φ 4mm程度の砂粒を中量含む	外: ヨコナデ、 回転ヘラジタリ 内: ヨコナデ	飛鳥I
	528	52	S K 9	須恵器	蓋	瓶内径: 3.7 底径: △1.5	瓶内部 完形	外・内: 2.5Y7/1灰 断: 2.5Y8/1灰白	精良	外・内面: 回転ナ デ	
	529	52	S K 9	須恵器	蓋	口径: (10.4) 底径: △1.75	1/4	外・内: 7.5Y6/1灰 断: 7.5YR5/2灰白	精良	外・内面: 回転ナ デ	飛鳥Ⅱ
	530	52	S K 8	須恵器	杯身	口径: (12.0) 底径: △2.8	1/5	外・内・内: N7/灰 白	φ 1mm程度の砂粒を少量含む	外・内面: 回転ナ デ	T K 209
	531	52	S D 5	石製品	石仏	高さ: 29.0 最大幅: 22.0 厚さ: 13.4	完形	—	花崗岩	—	阿弥陀如来 坐像

写 真 図 版



82
—
2
85
—
1

調査

査

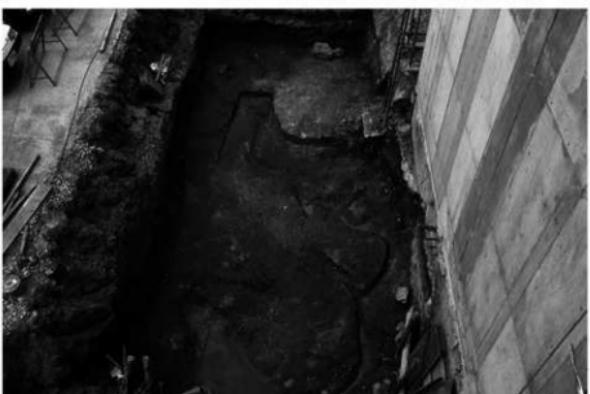
1. 82-2 調査

A 区完掘状況（南から）



2. 82-2 調査

B 区完掘状況（南から）



3. 85-1 調査

完掘状況（西から）





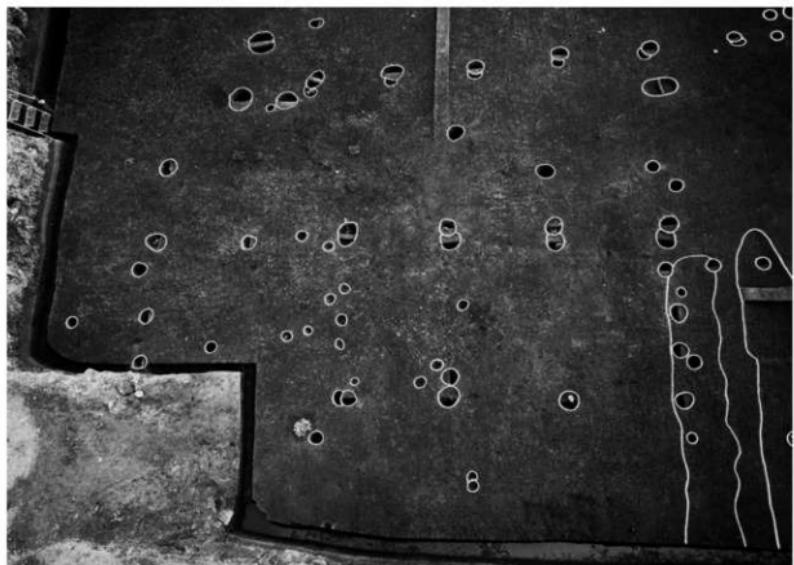
1. 85-2 調査
A区完掘状況



2. 85-2 調査
B区完掘状況



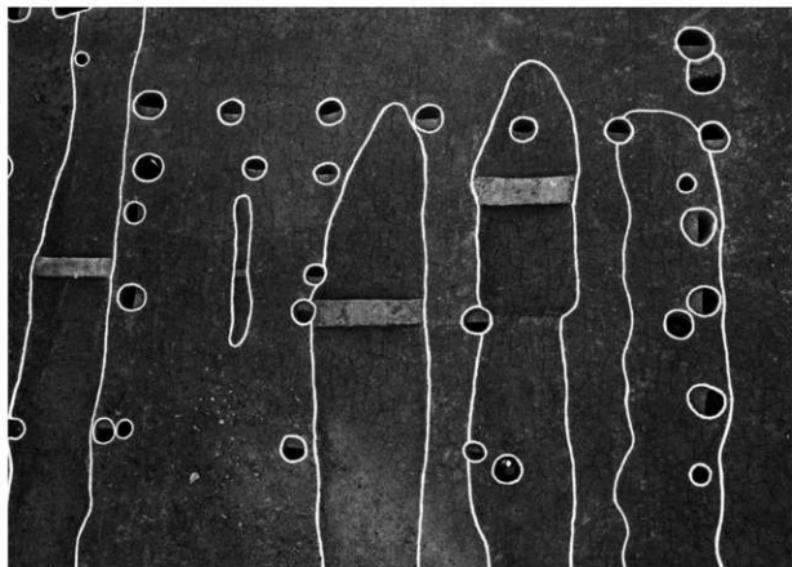
3. 85-2 調査
C区完掘状況



1. 第1遺構面 挖立柱建物5完掘状況（北から）



2. 第1遺構面 挖立柱建物2・3・4完掘状況（北から）

91
1調査
構造

1. 第1遺構面 掘立柱建物4完掘状況（北から）



2. 第1遺構面 掘立柱建物1完掘状況（東から）



1. 第2遺構面 完掘状況（北から）



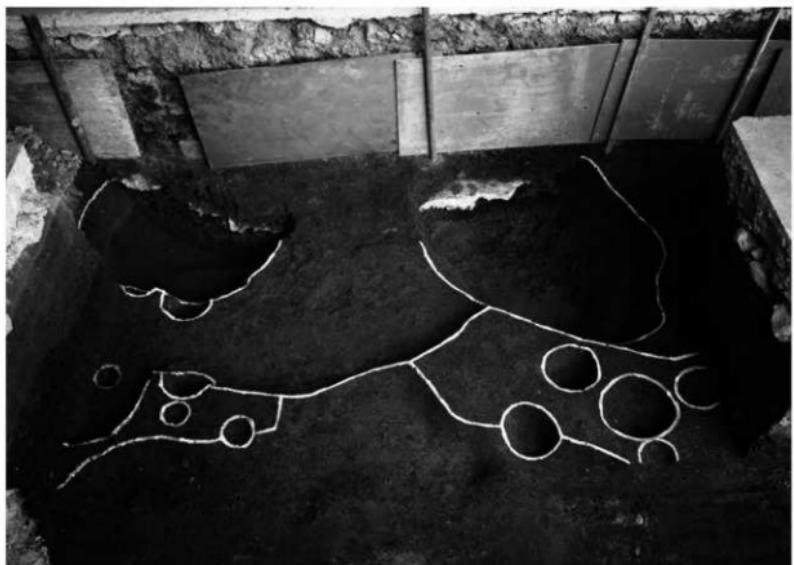
2. 第2遺構面 SD 1遺物出土状況（東から）



1. 第1遺構面 東側調査区完掘状況（北から）



2. 第1遺構面 西側調査区完掘状況（東から）



1. 第2遺構面 東側調査区完掘状況（南から）



2. 第2遺構面 西側調査区完掘状況（東から）



1. 第1調査区完掘状況（南から）



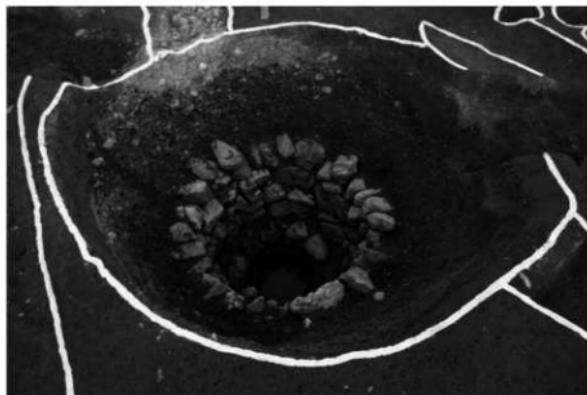
2. 第1・2調査区完掘状況（南東から）



1. 第3調査区完掘状況（西から）



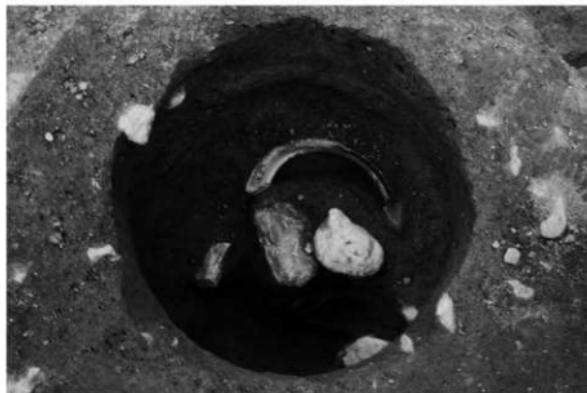
2. 第2調査区S X 1完掘状況（西から）



1. SE 2 完掘状況
(西から)



2. SE 2 断面状況
(南から)



3. SP 3 遺物出土状況
(北から)



1. 第1遺構面 東側完掘状況（南から）



2. 第1遺構面 西側完掘状況（東から）



1. 第2遺構面 東側完掘状況（北から）



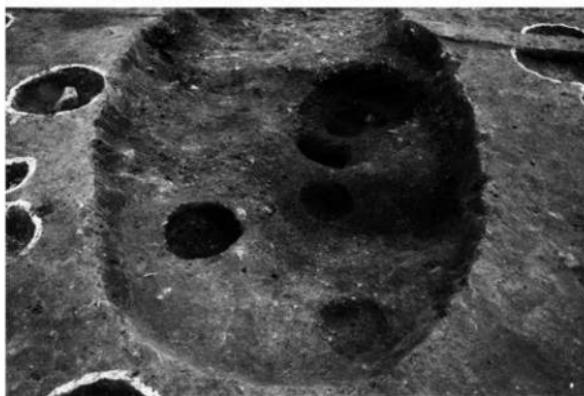
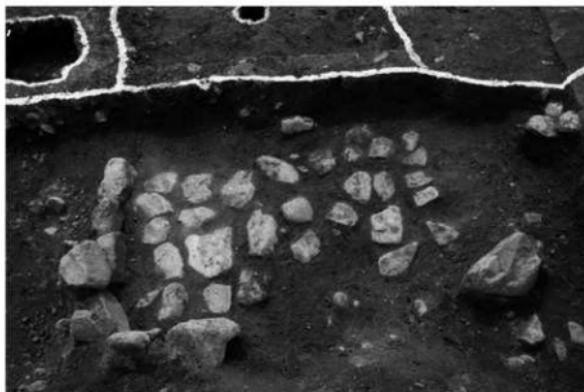
2. 第2遺構面 西側完掘状況（東から）



1. I区第1遺構面 東側完掘状況（北から）



2. I区第1遺構面 西側完掘状況（北から）





1. SE 1 完掘状況（南から）



2. II区第2遺構面 完掘状況（南から）



1. I区第2遺構面 東側完掘状況（北から）



2. I区第2遺構面 西側完掘状況（北から）



1. 1区第1遺構面 完掘状況（東から）



2. 1区第1遺構面 竪穴建物1・2完掘状況（東から）



1. 2区第1遺構面 完掘状況（東から）



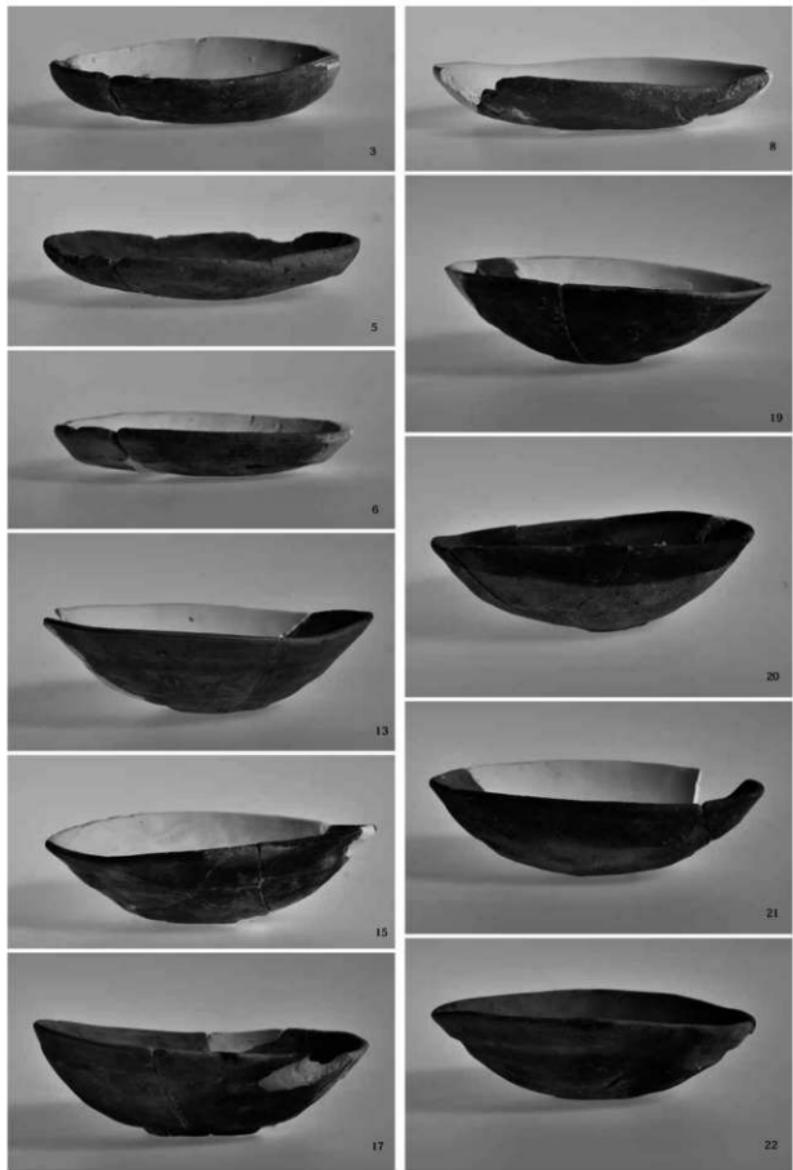
2. 3区第1遺構面 完掘状況（南から）



1. 1区第2遺構面 完掘状況（東から）

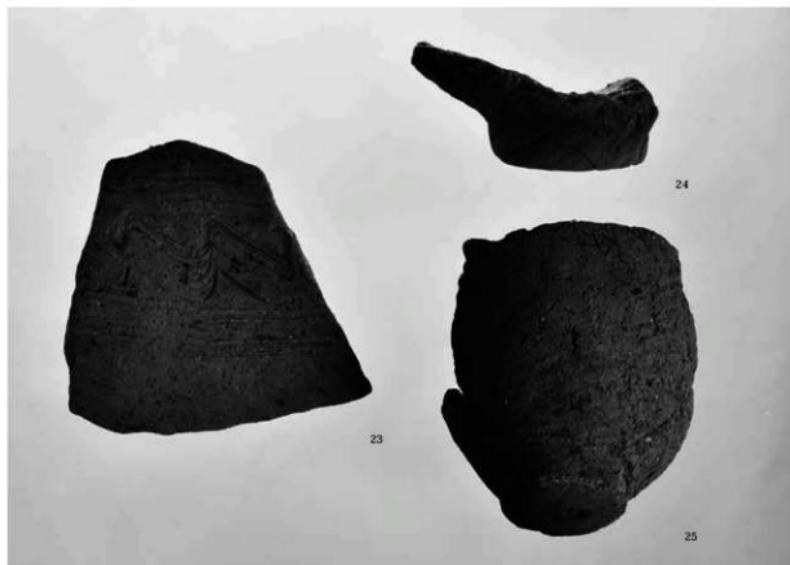


2. 2区第2遺構面 完掘状況（東から）

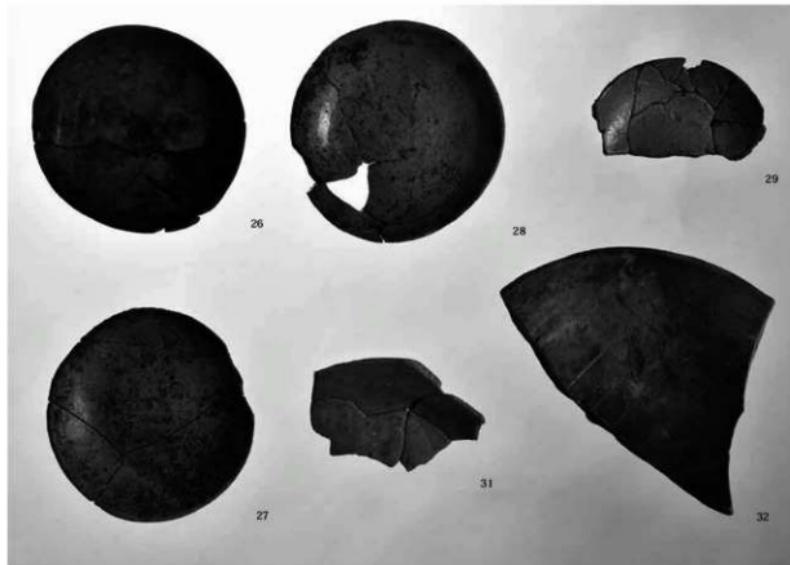


1. SD 1 出土遺物

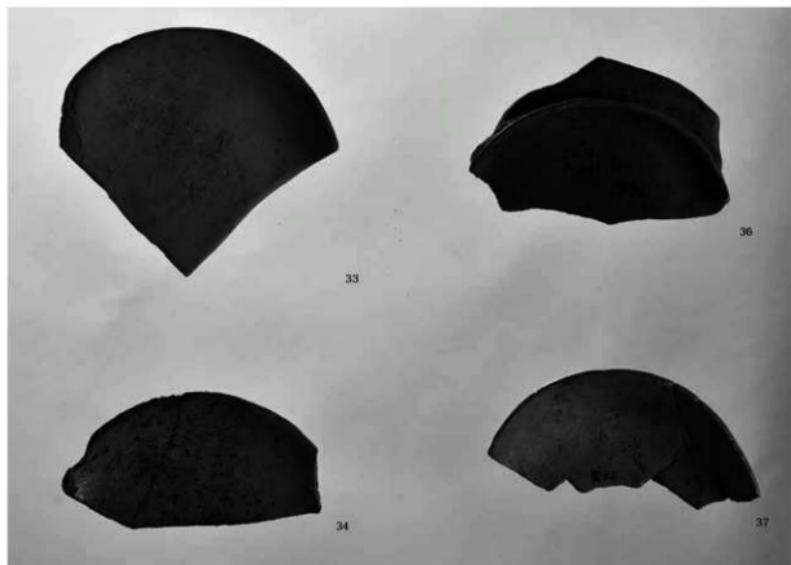
1987
年度
確
91-認
調遺物
調查



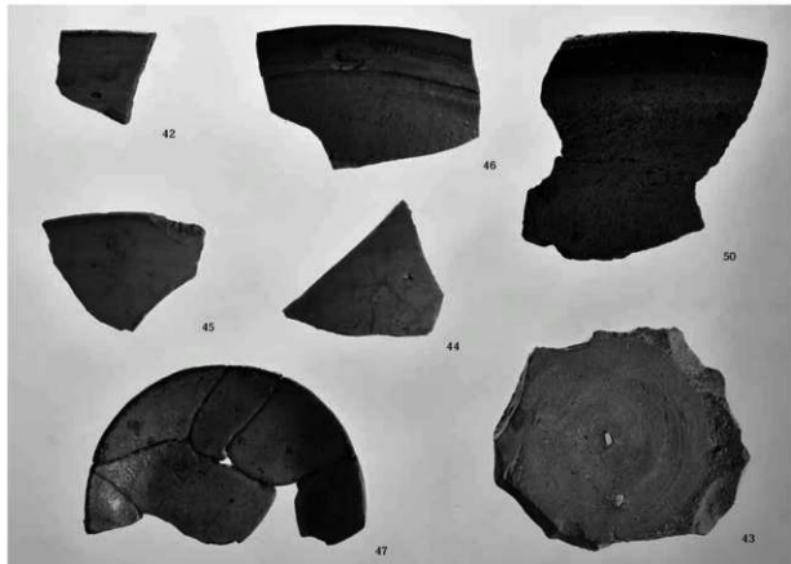
1. 1987 年度確認調查 出土遺物



2. 91-1 調査 挖立柱建物 1 出土遺物



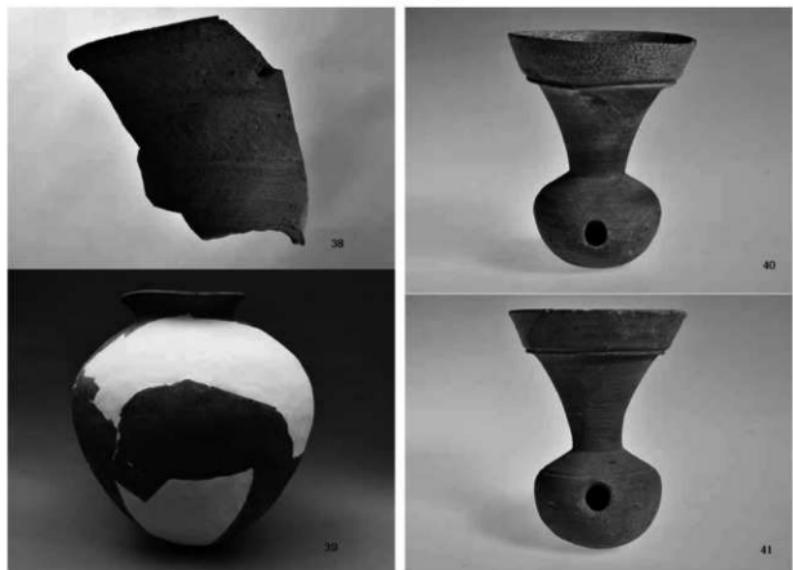
1. 据立柱建物・土坑出土遺物



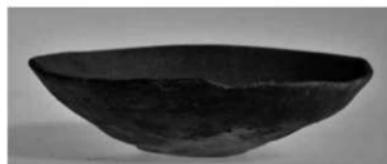
2. 3層出土遺物

91
—
1調遺物
査

1. 4 層出土遺物



2. SD 1・落ち込み出土遺物

91
—
1調
99
—
1查
調
遺
物查
•

33



48



49



52



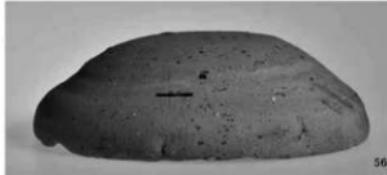
57



93



53



56



66

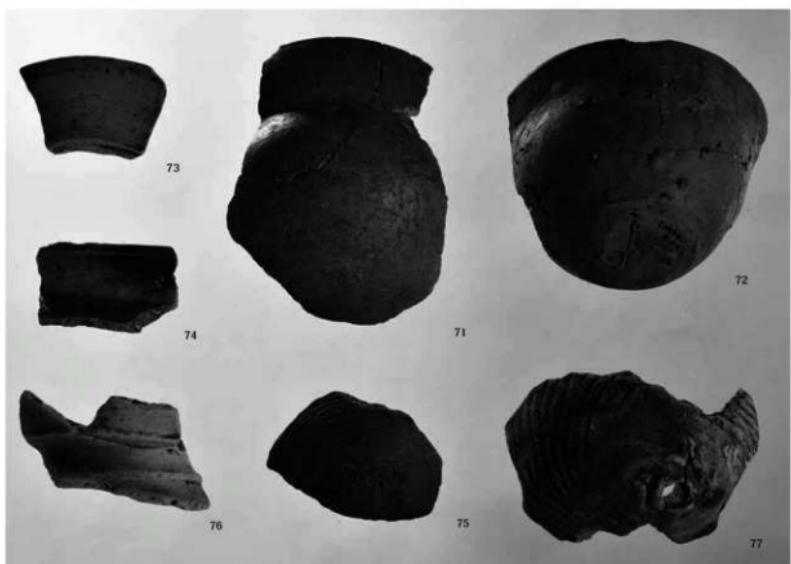


84

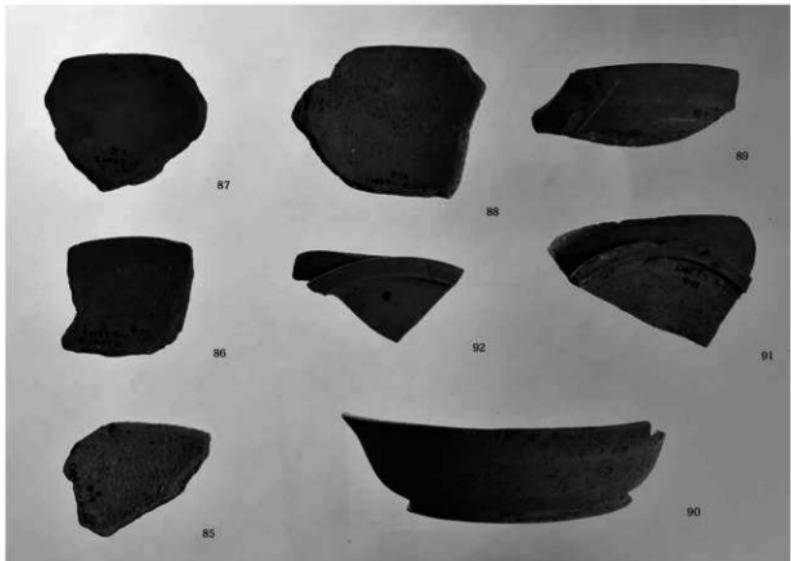


78

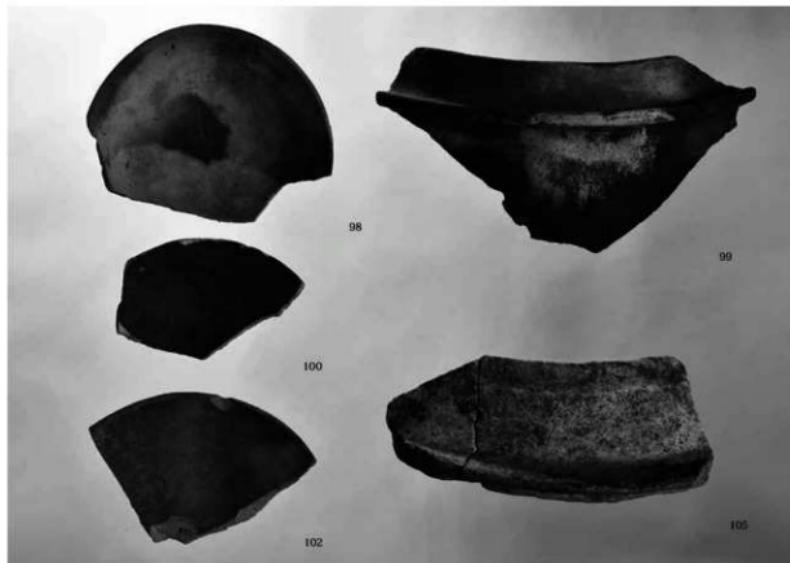
1. 91-1 調査出土遺物、99-1 調査出土遺物



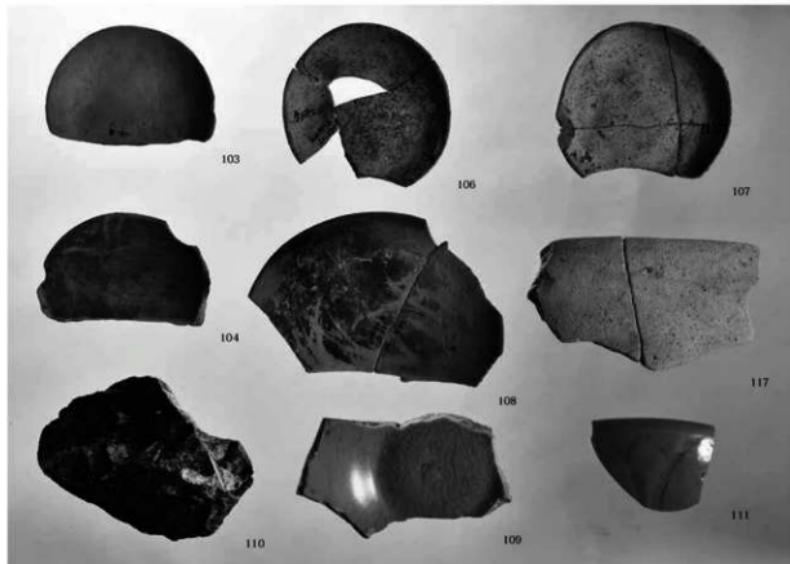
1. 積穴建物跡 1 出土遺物



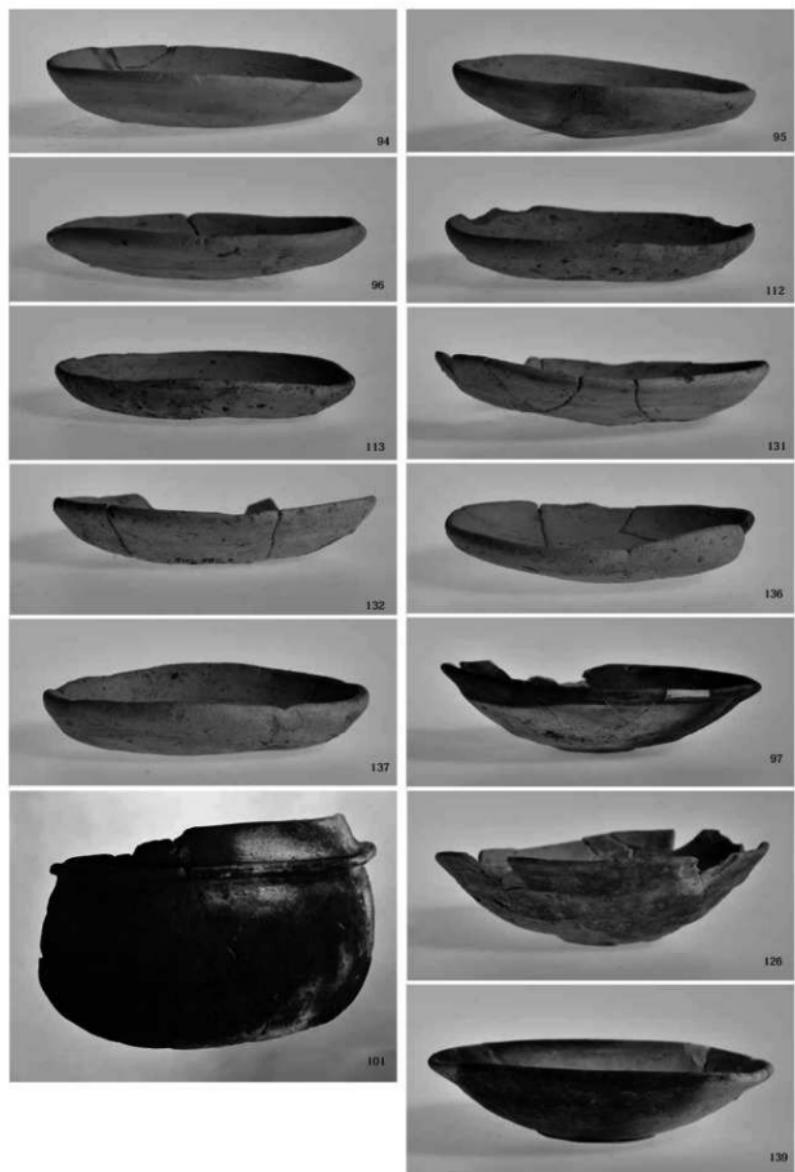
2. SK 3 出土遺物

99
—
4調遺物
査

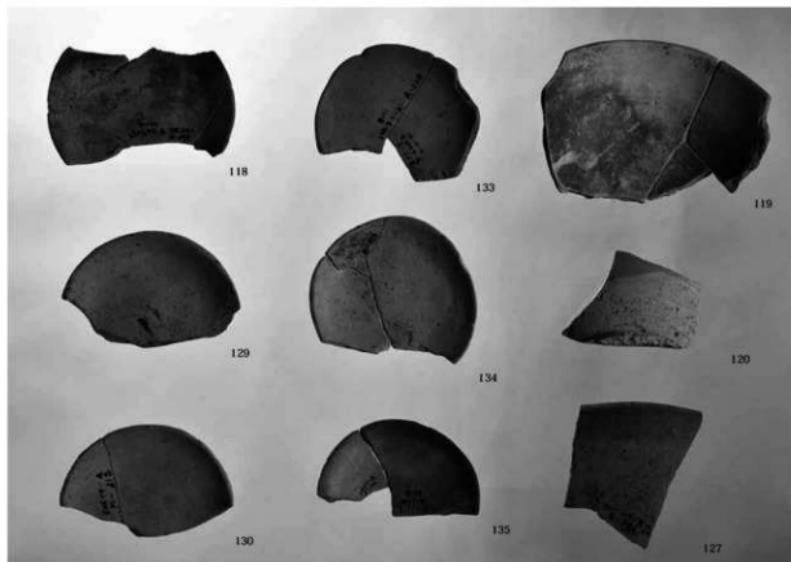
1. ピット出土遺物



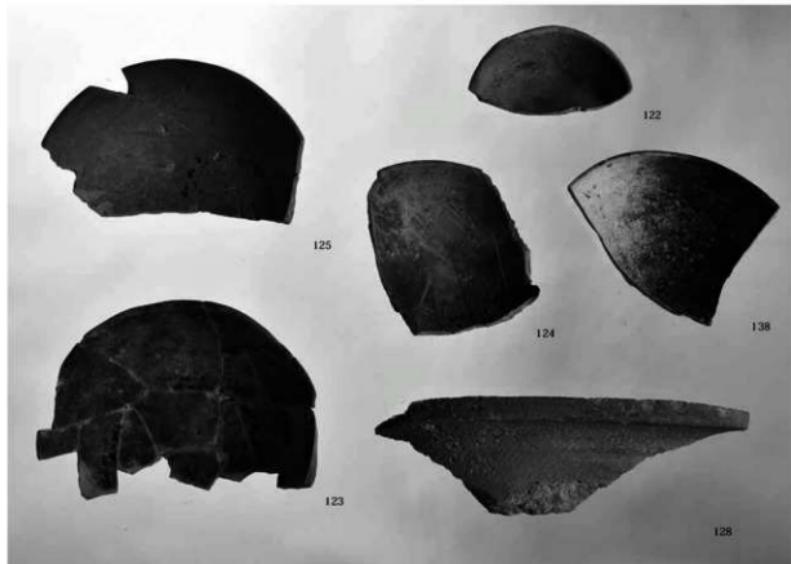
2. ピット出土遺物



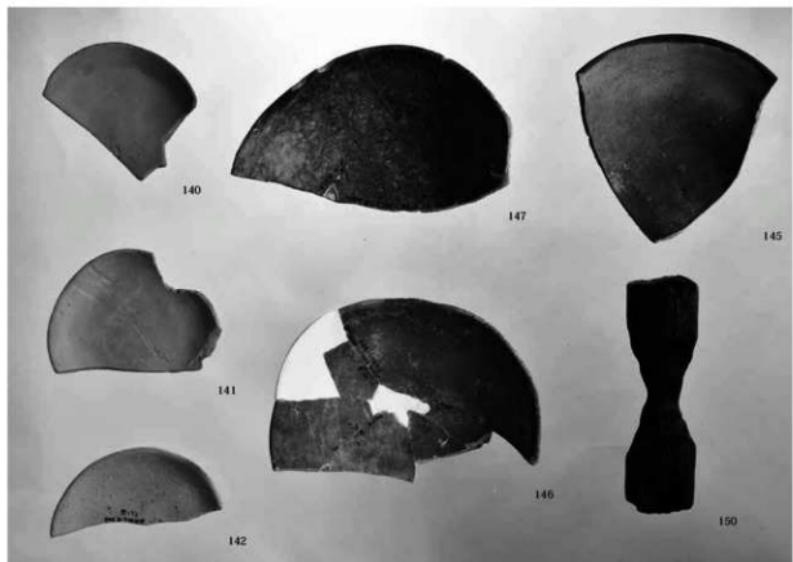
1. ピット・満出土遺物



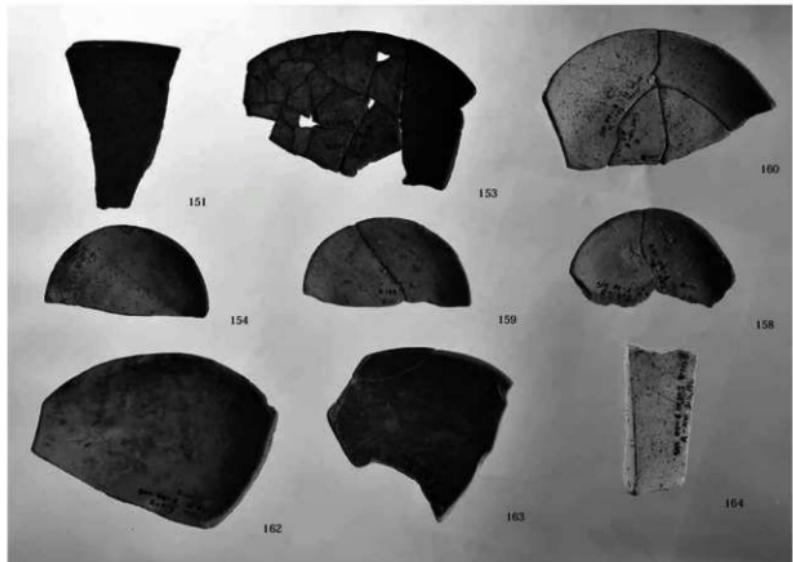
1. 溝出土遺物



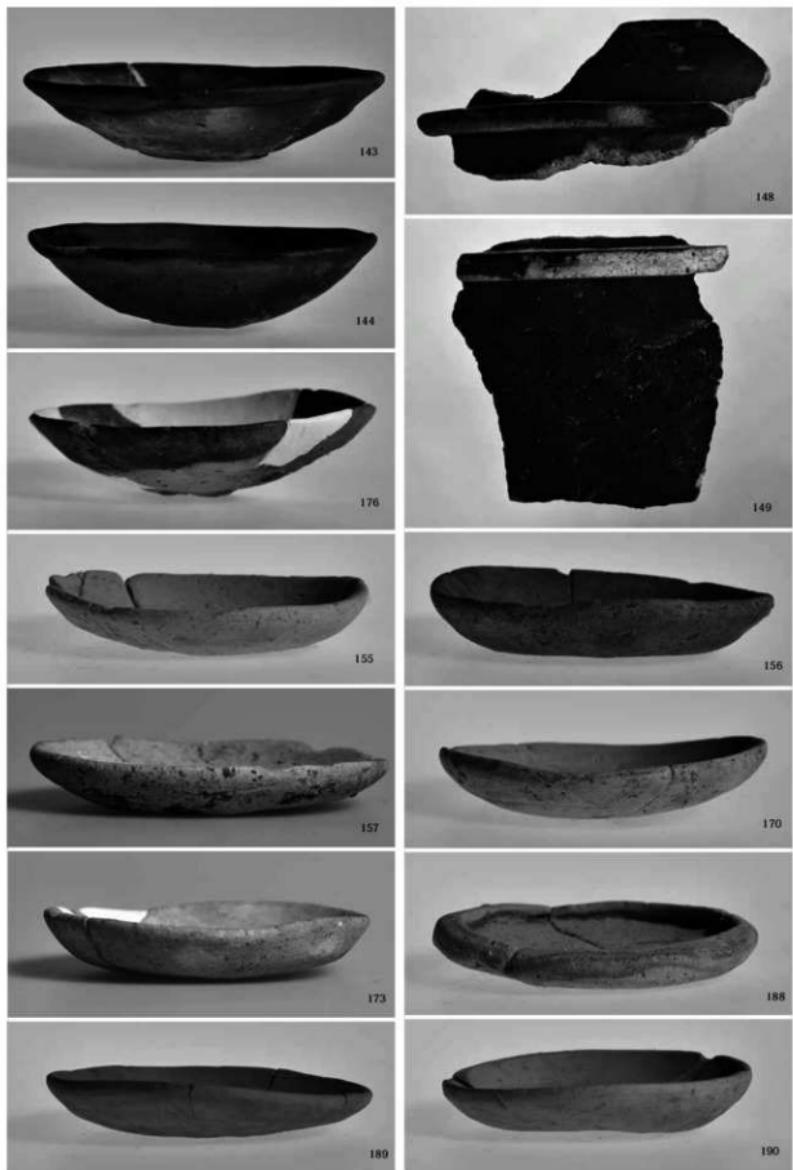
2. 溝出土遺物

99
—
4調遺物
查

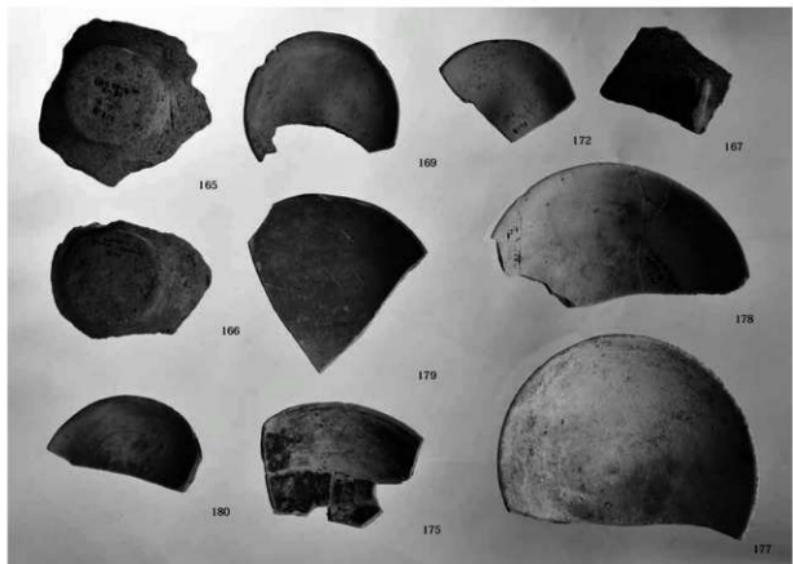
1. S E 3 出土遺物



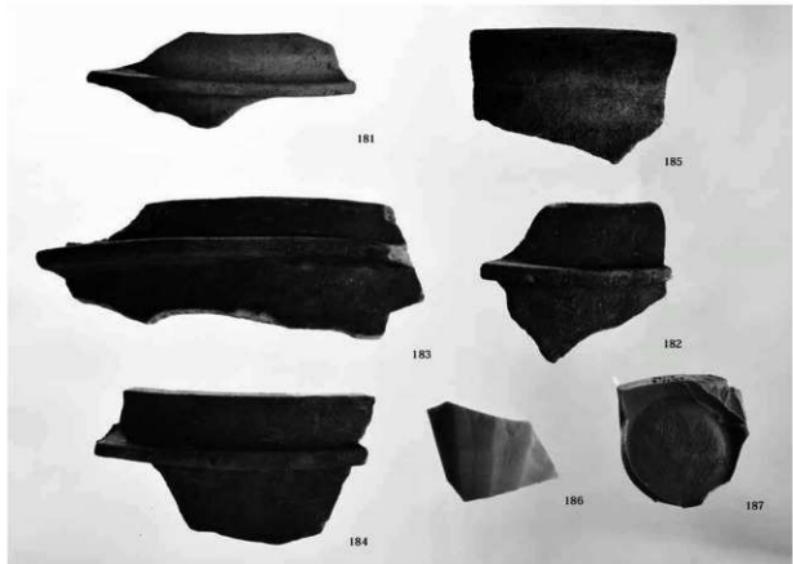
2. 土坑出土遺物

99
—
4調遺物
查

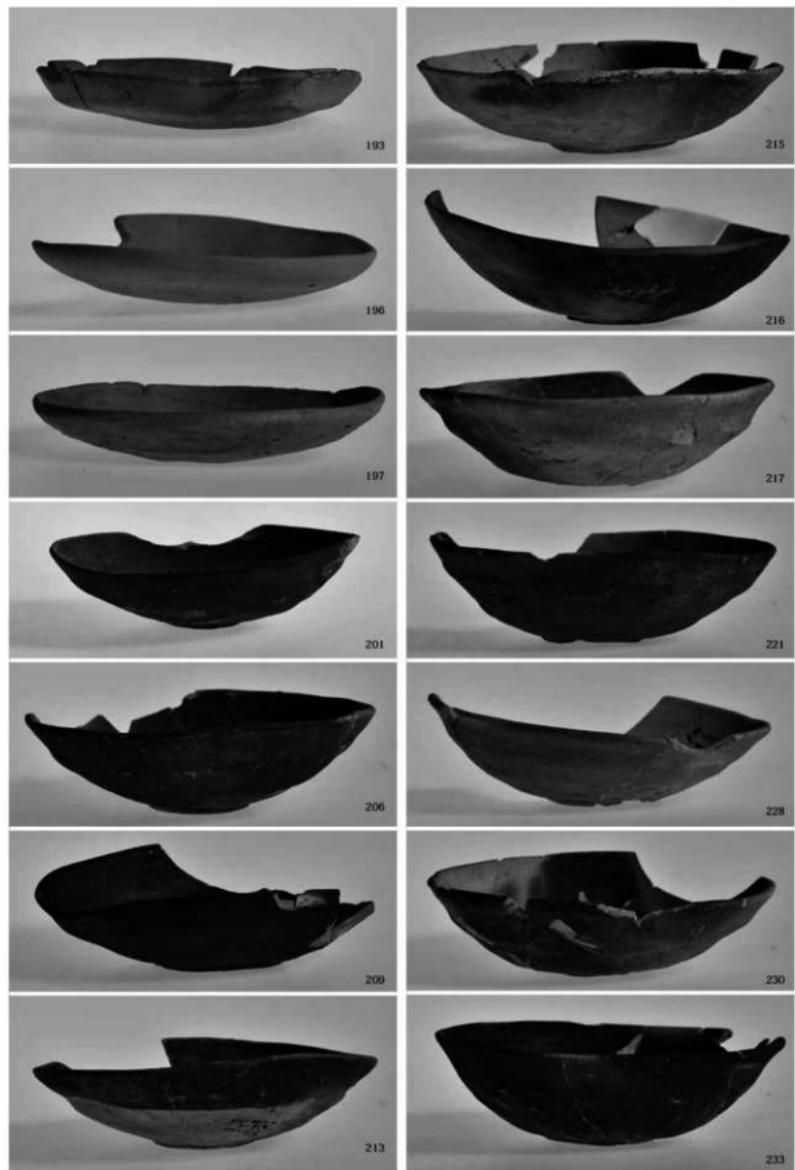
1. SE2・SK8・SK9・SX1出土遺物



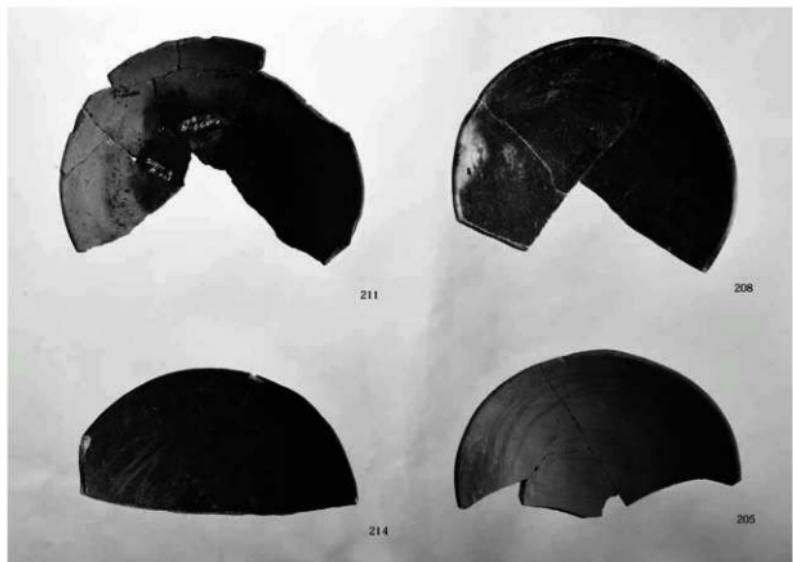
1. SK 9 出土遺物



2. SK 9 出土遺物

99
—
4調遺物
查

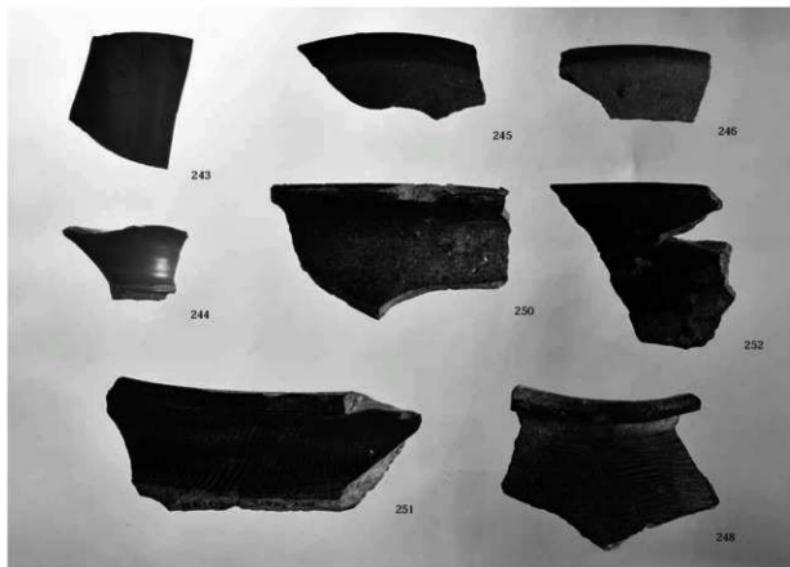
1. SX1 出土遺物



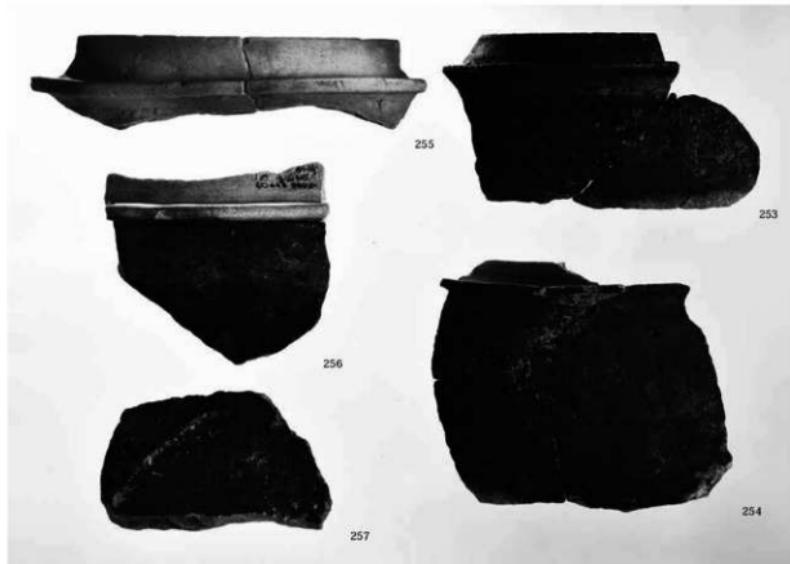
1. SX1 出土遺物



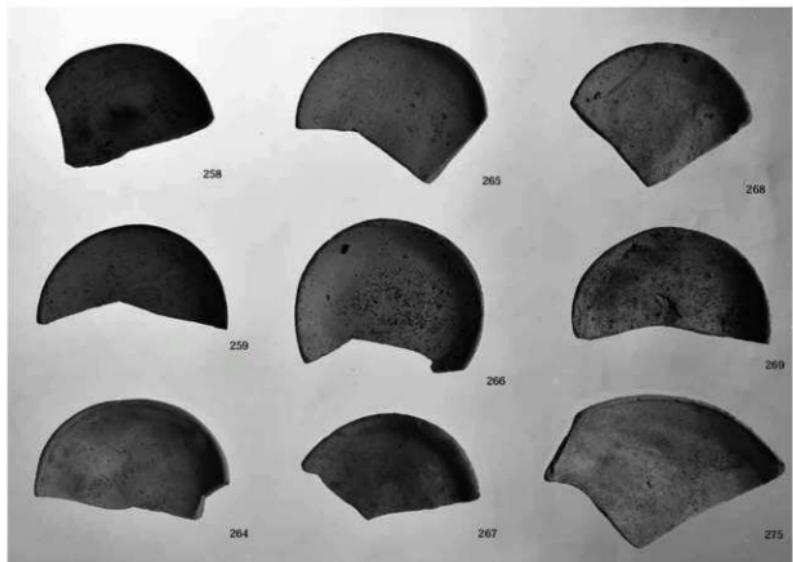
2. SX1 出土遺物



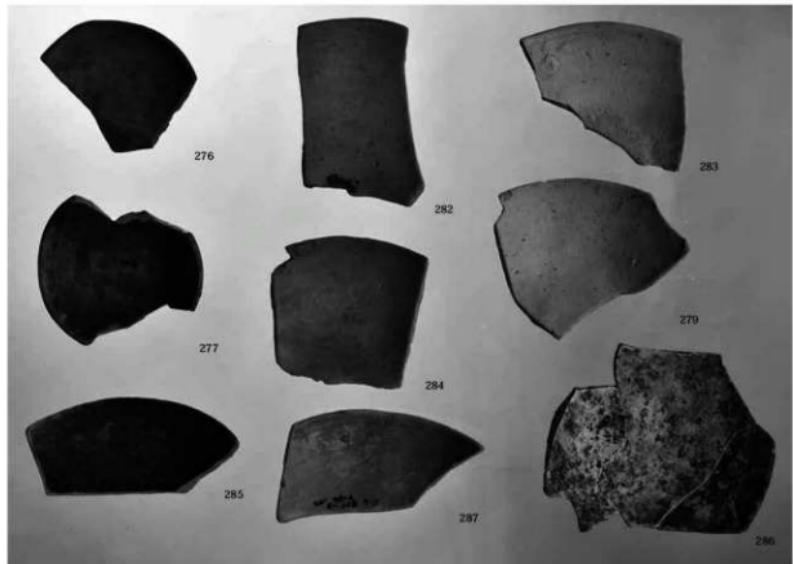
1. SX1 出土遺物



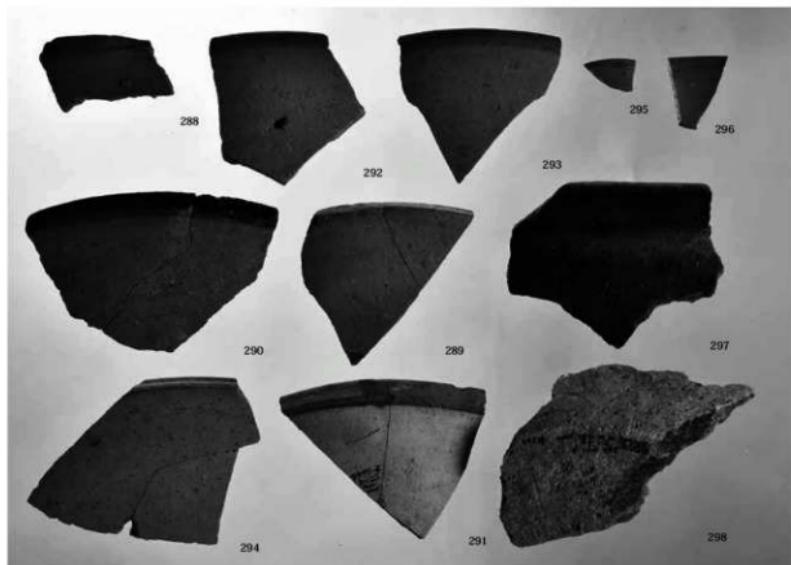
2. SX1 出土遺物



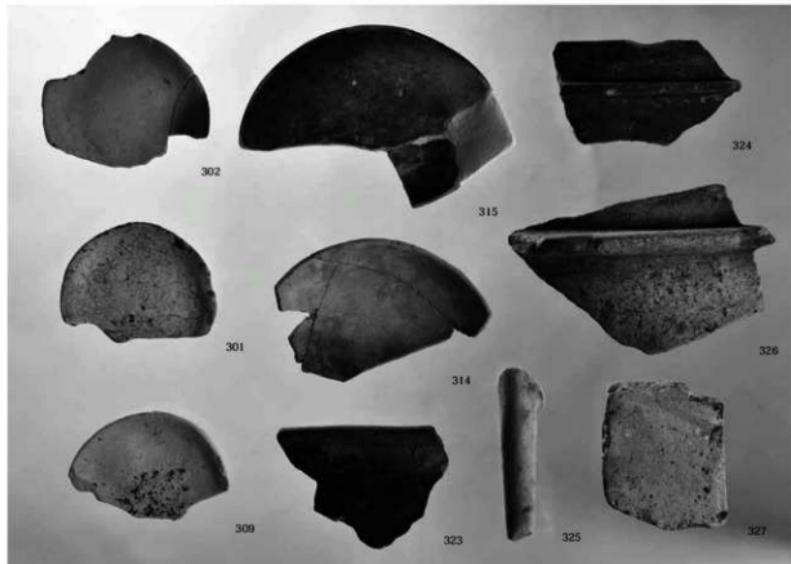
1. S X 3出土遺物



2. S X 3出土遺物



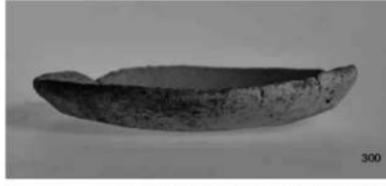
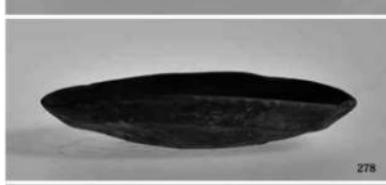
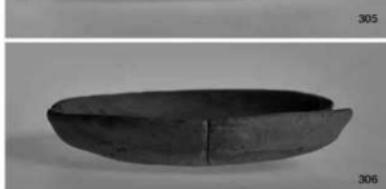
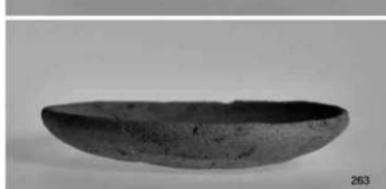
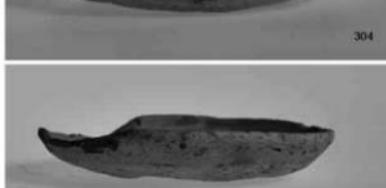
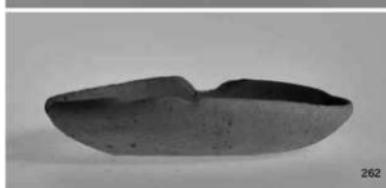
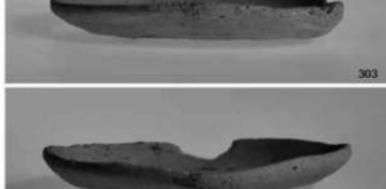
1. SX3 出土遺物



2. 包含層出土遺物

99
—
4調
06
—
1査
調
遺
物

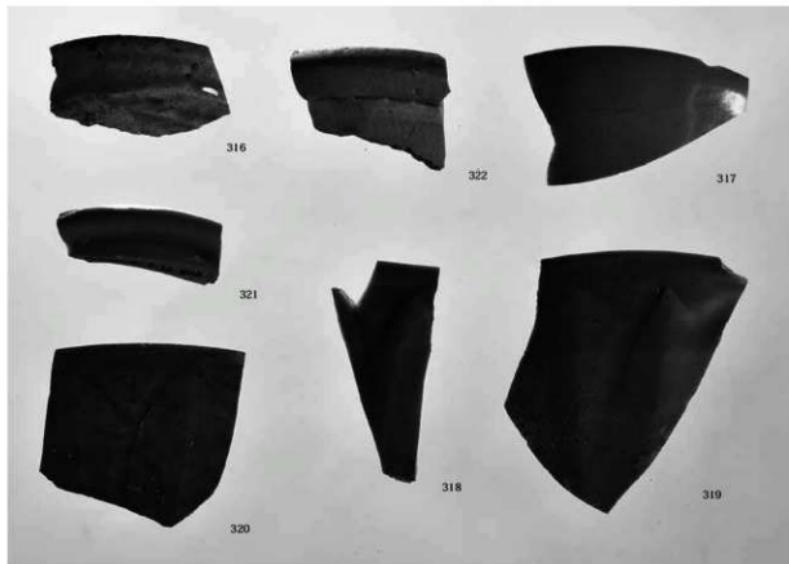
査



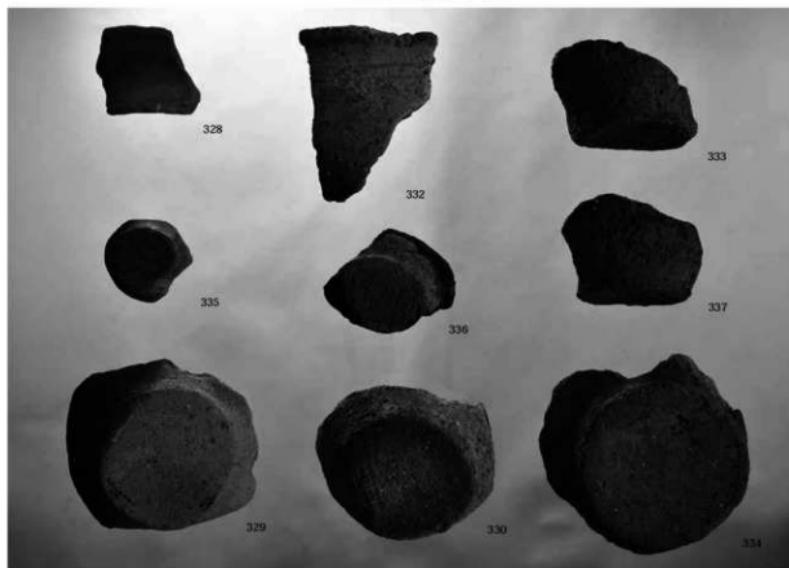
1. 99-4 調査 SX1・SX3・包含層出土遺物、06-1 調査 包含層出土遺物

99
—
4調
06
—
1遺
物

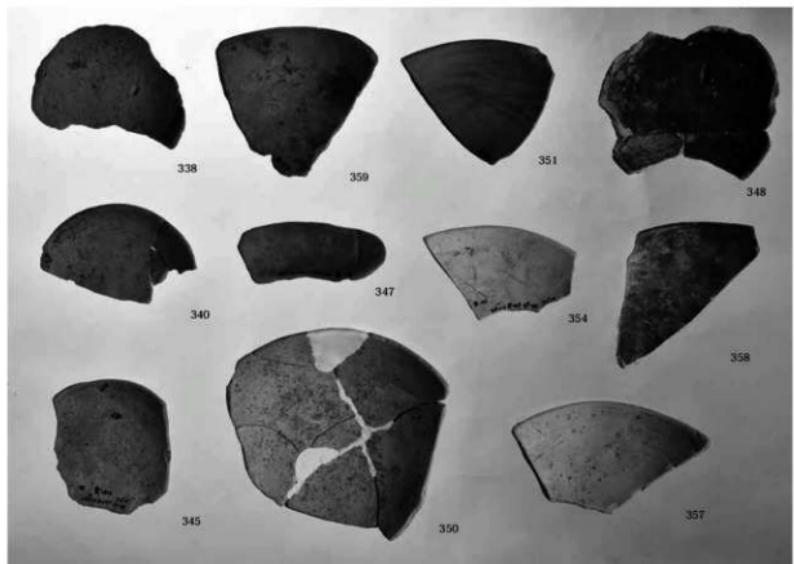
查



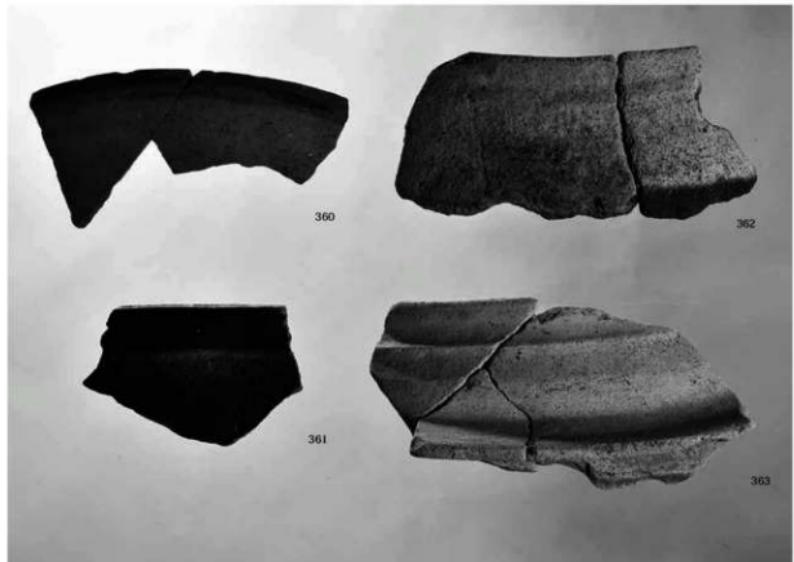
1. 99-4 調査 包含層出土遺物



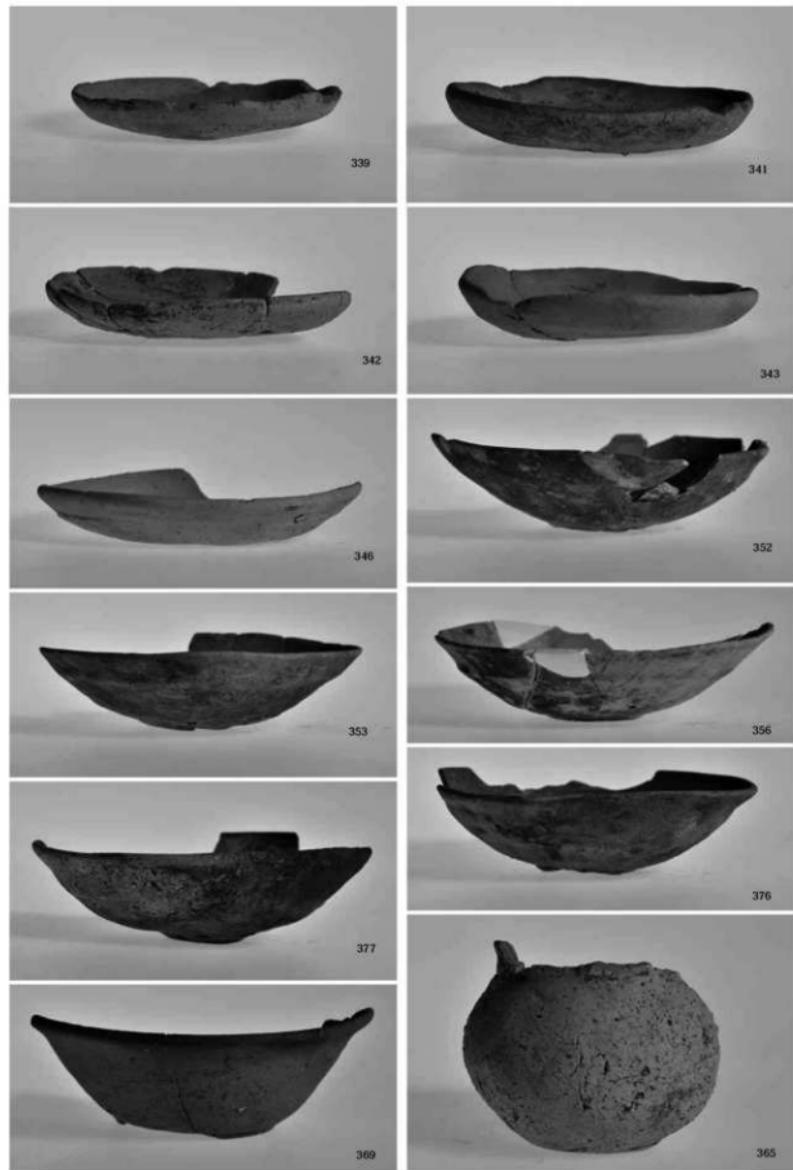
2. 06-1 調査 出土遺物



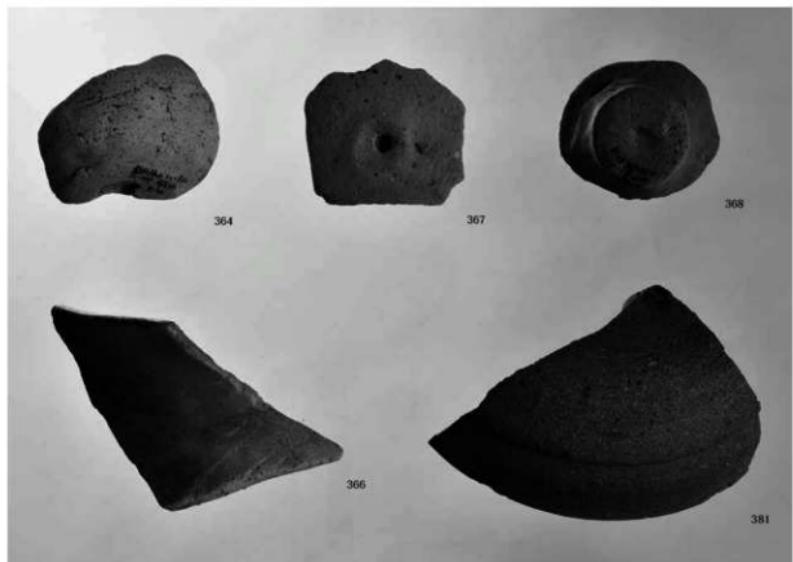
1. S P 45 出土遺物



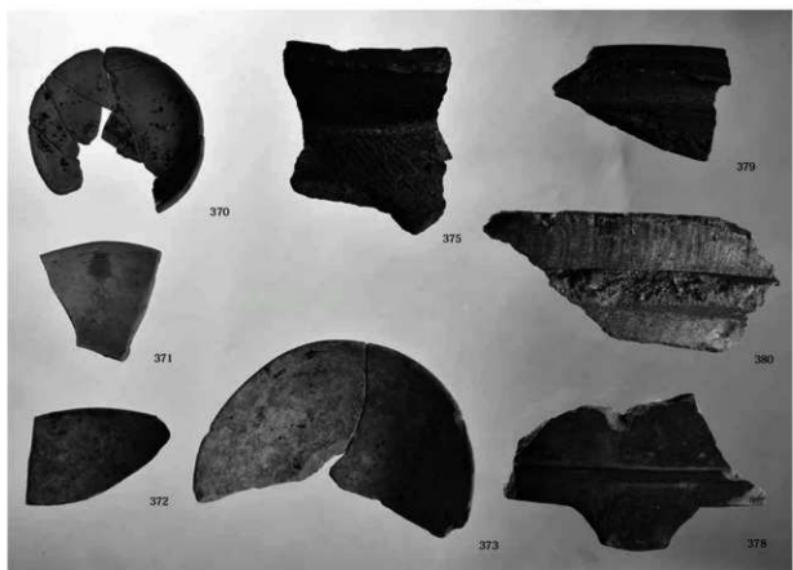
2. S P 45 出土遺物

11
1調遺物
查

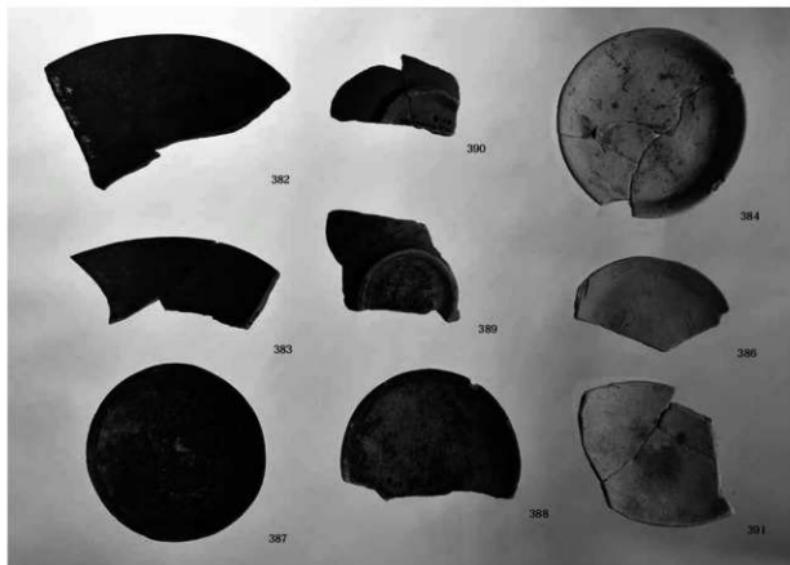
1. S P 43・45・56、S D 1 出土遺物



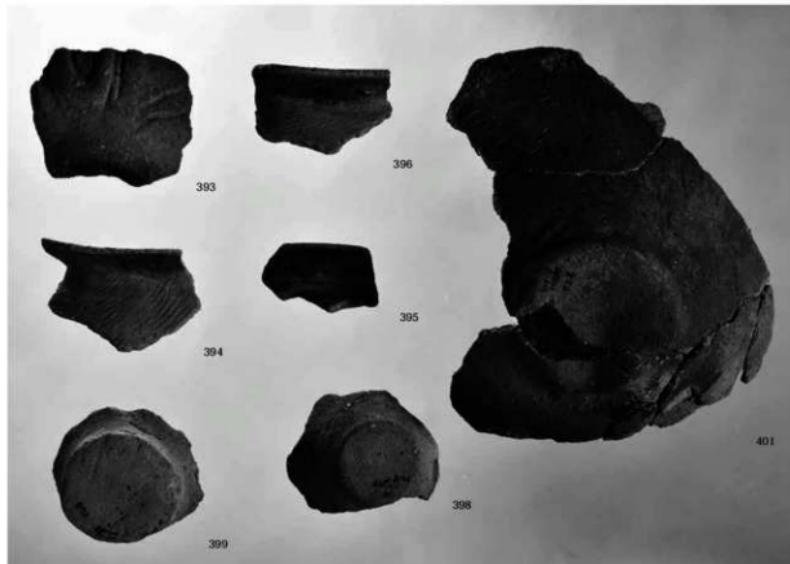
1. SP 43、SD 1、SK 1出土遺物



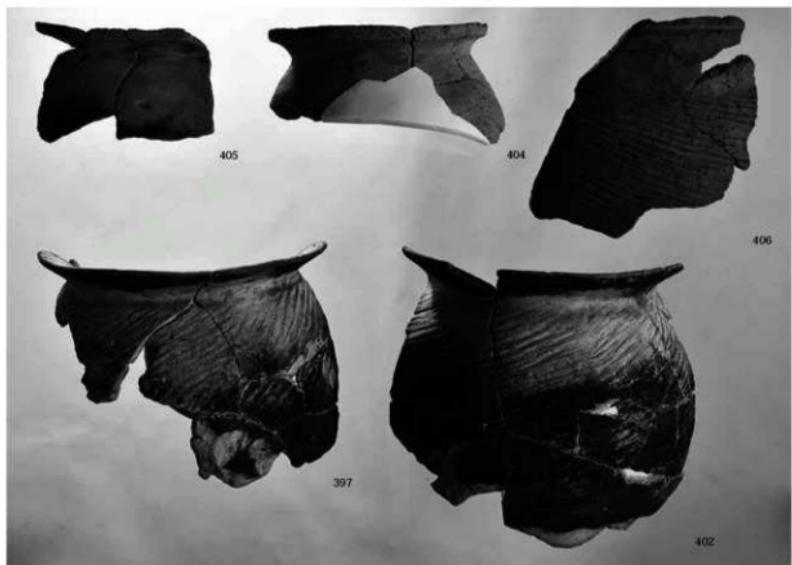
2. SP 51・60・70、SE 1出土遺物



1. S P 103・120・128 出土遺物



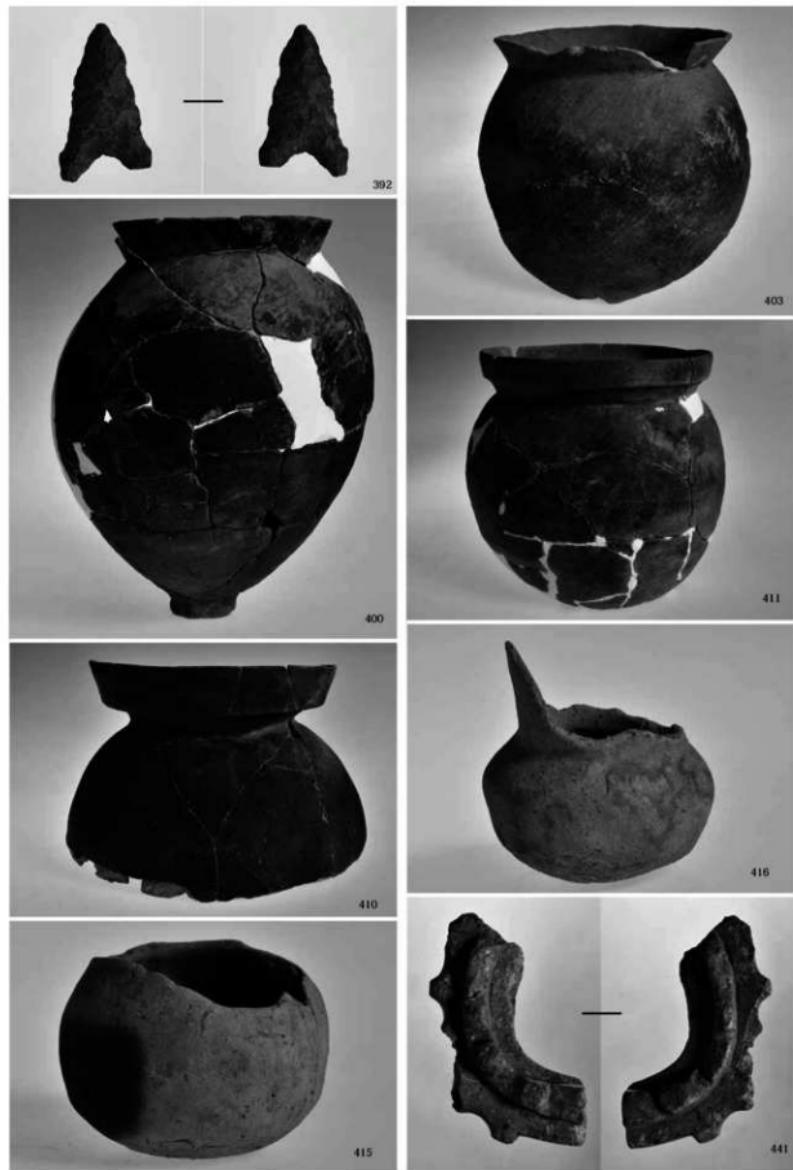
2. 自然流路出土遺物



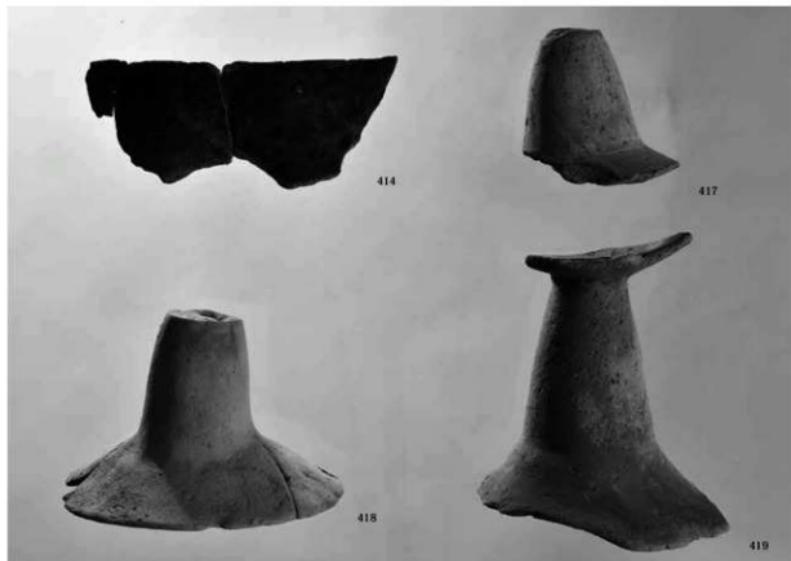
1. 自然流路出土遺物



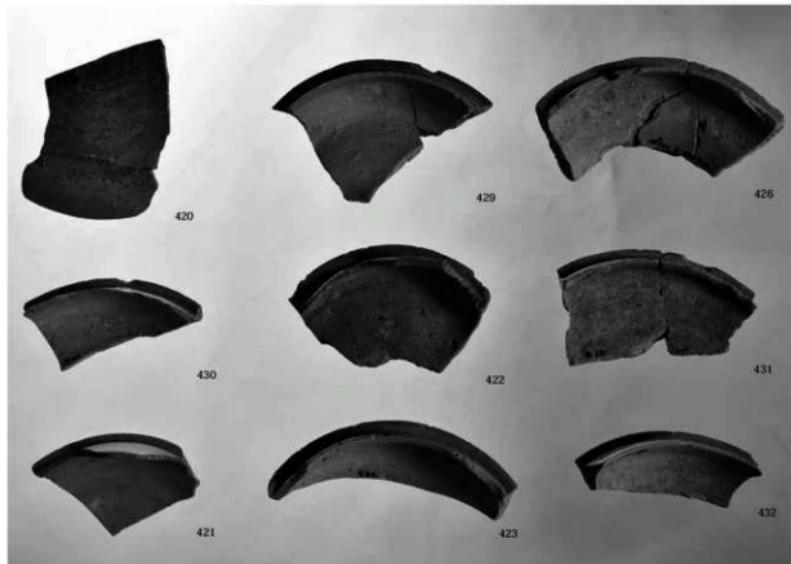
2. 自然流路出土遺物



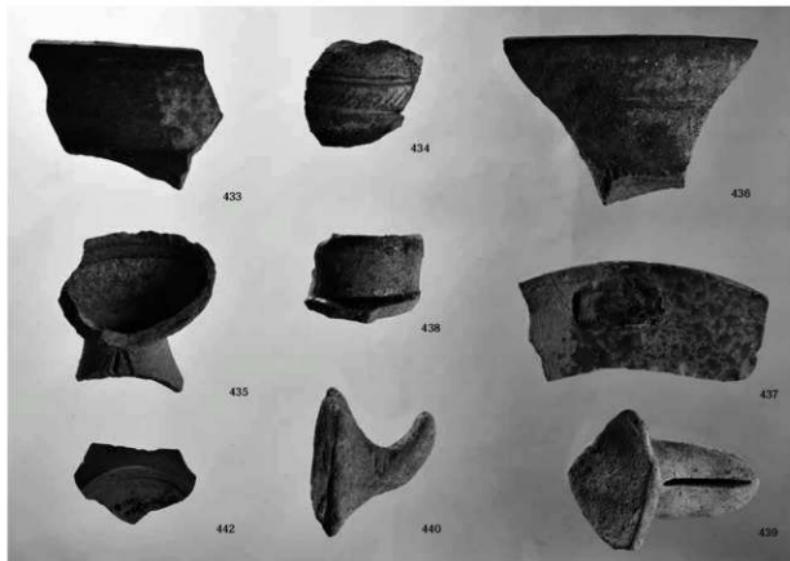
1. 自然流路出土遺物



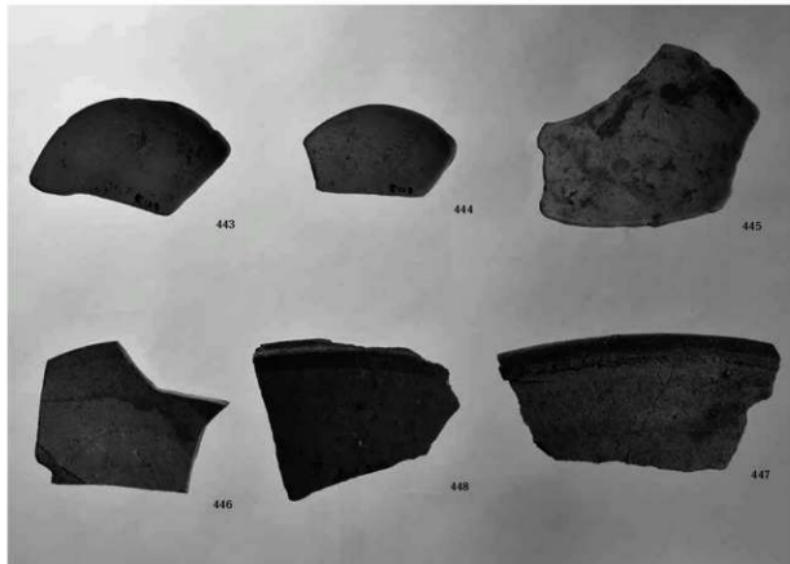
1. 自然流路出土遺物



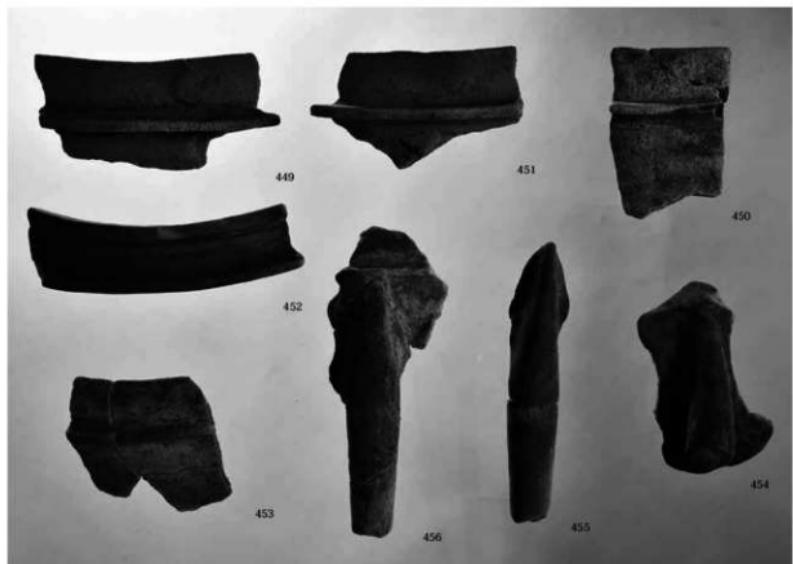
2. 自然流路出土遺物



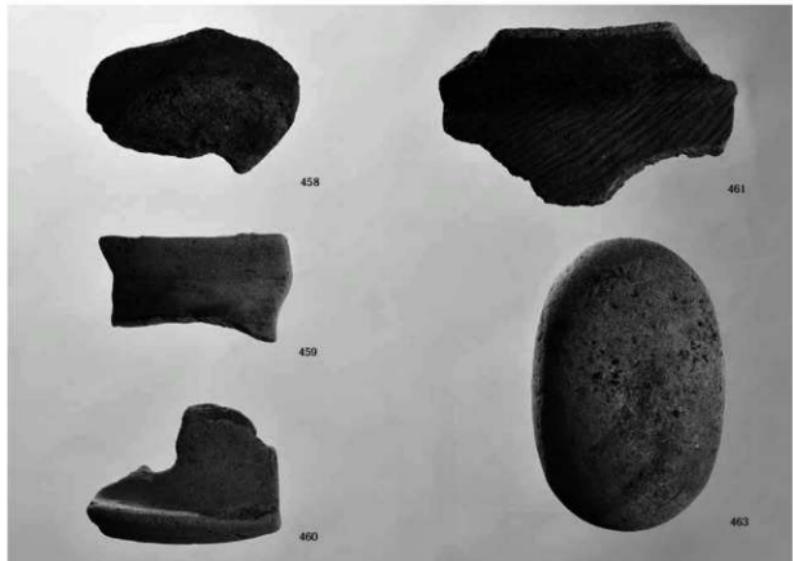
1. 自然流路出土遺物



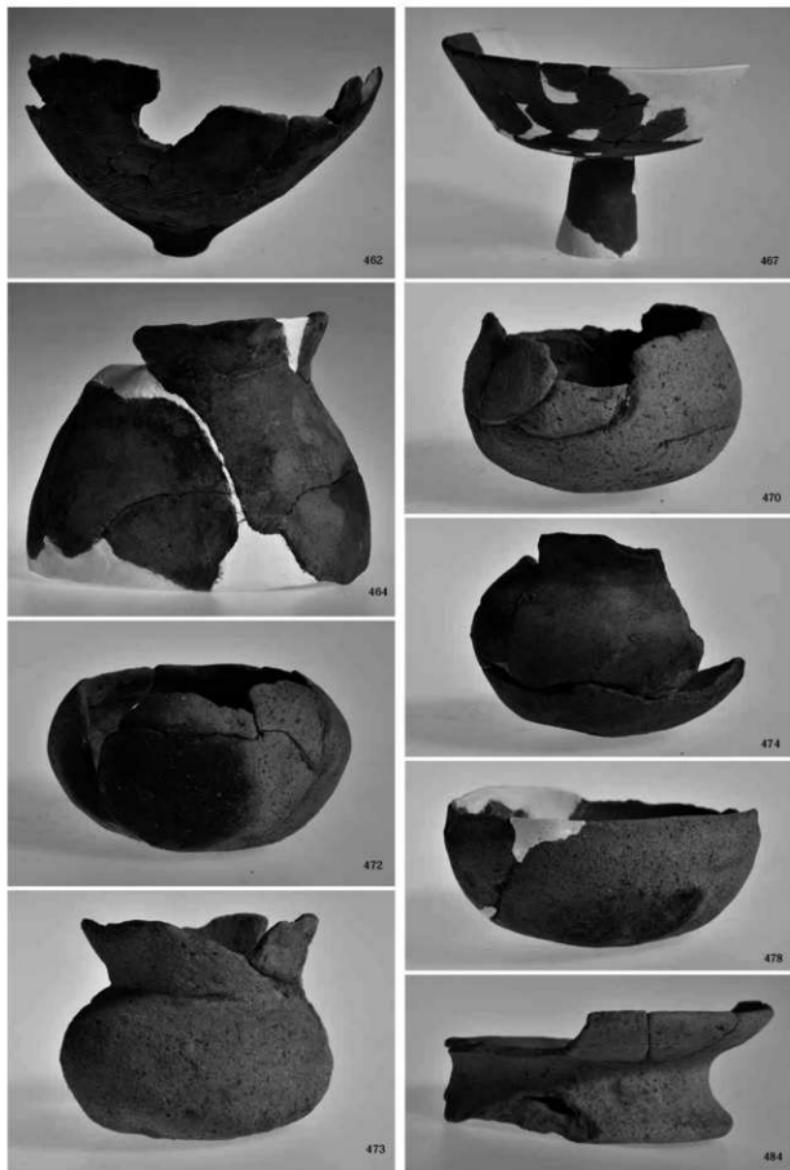
2. 自然流路出土遺物



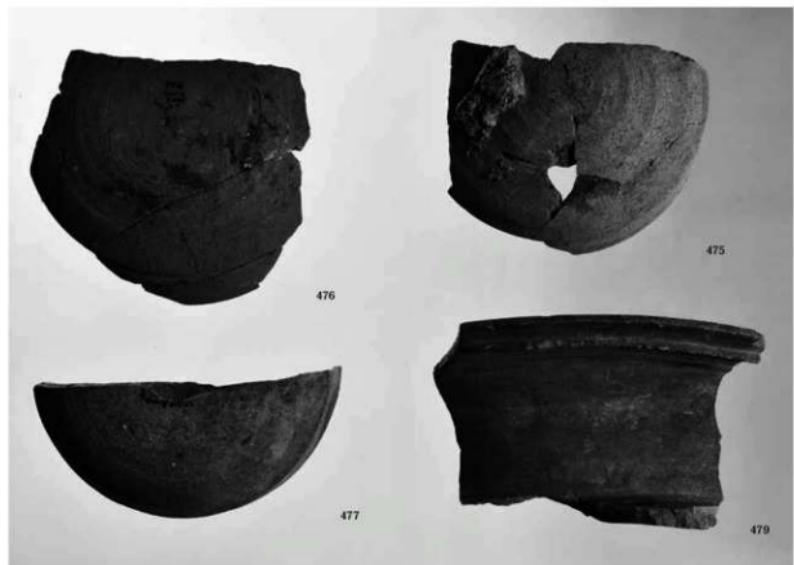
1. 自然流路出土遺物



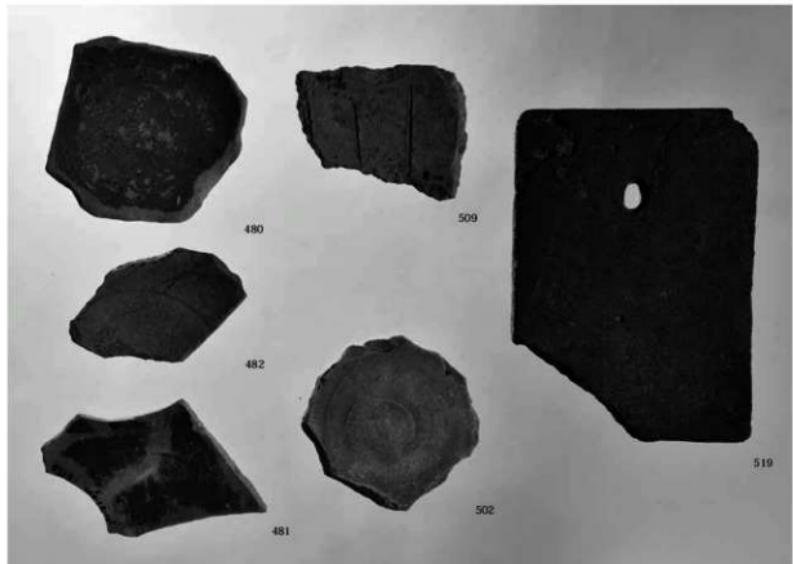
2. 包含層出土遺物



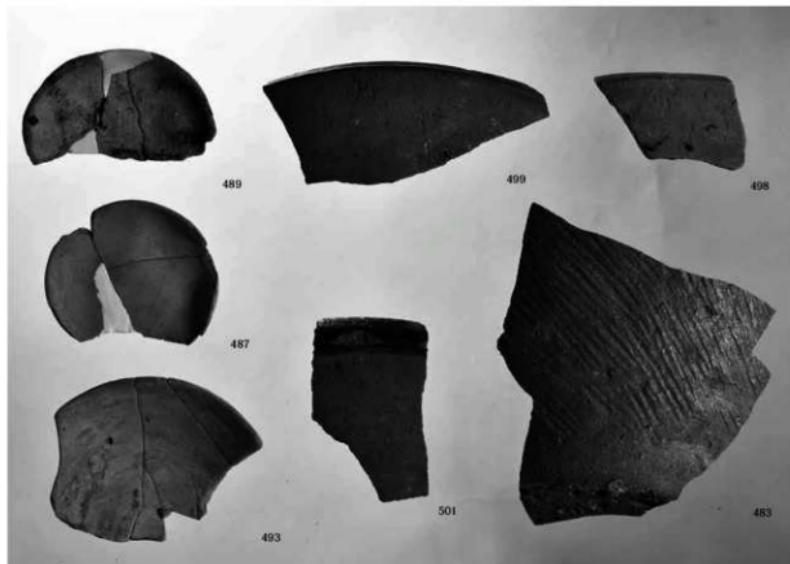
1. 包含層出土遺物



1. 包含層出土遺物



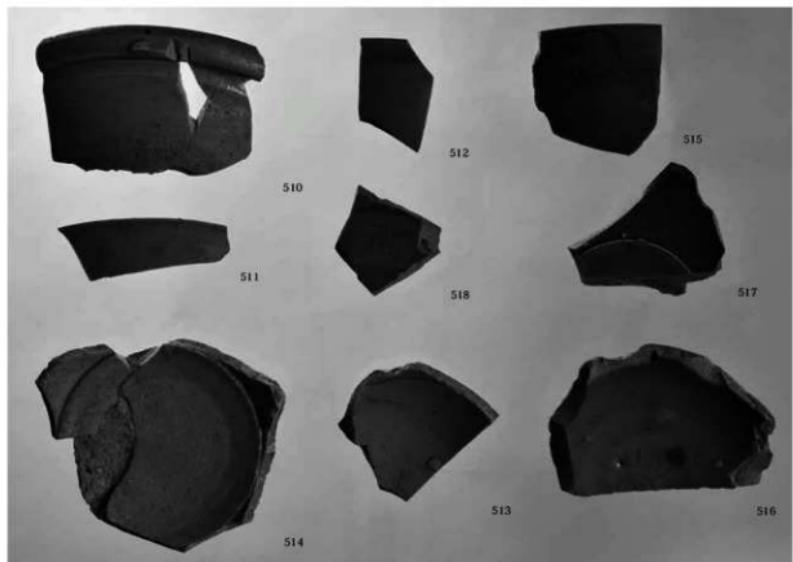
2. 包含層出土遺物



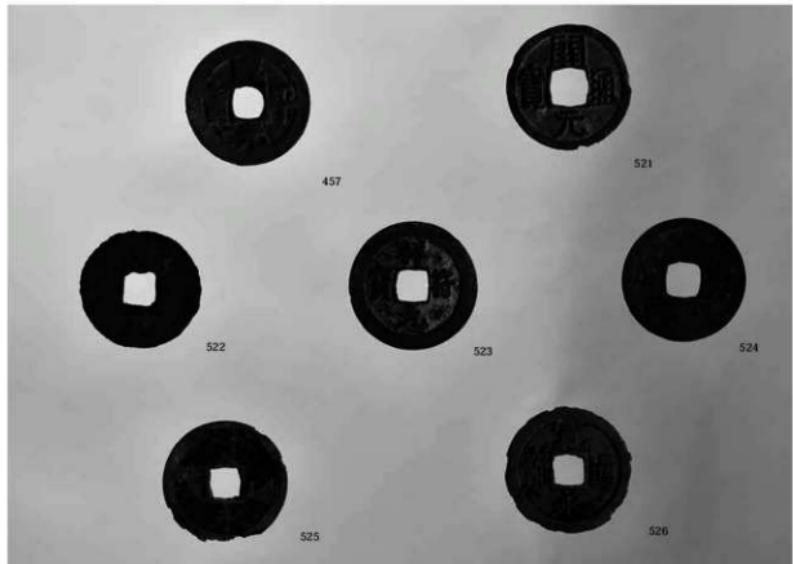
1. 包含層出土遺物



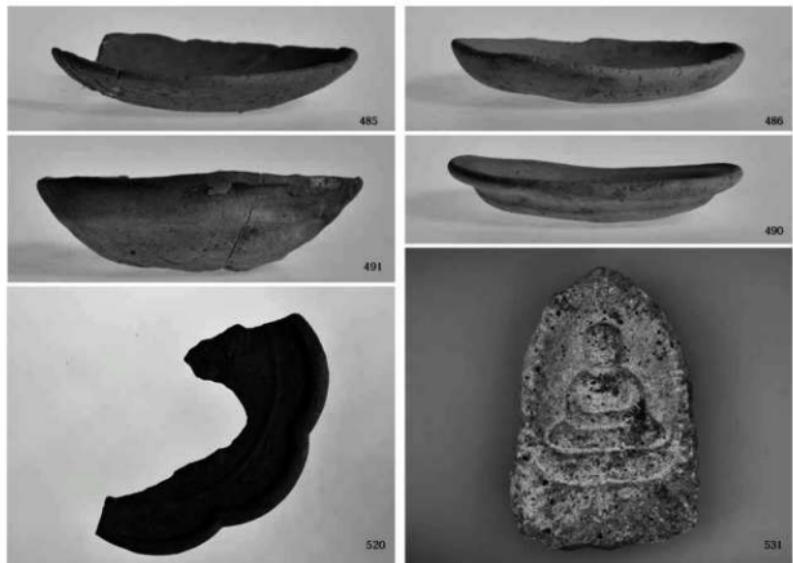
2. 包含層出土遺物



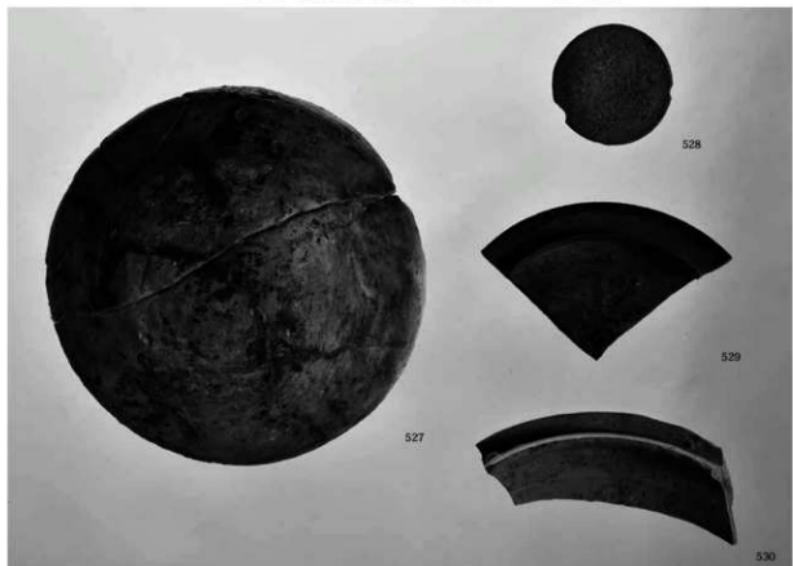
1. 包含層出土遺物



2. 自然流路・包含層出土遺物

11
1調
11
2查
遺
物查
•

1. 11-1 調査 包含層出土遺物、11-2 調査 SD 5 出土遺物



2. 11-2 調査 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しゅくのしよういせきに						
書名	宿久庄遺跡2						
副書名							
巻次名							
シリーズ名	茨木市文化財資料集						
シリーズ番号	第83集						
編著者名	川村和子 木村健明 坂田典彦 富田卓見						
編集機関	茨木市教育委員会						
所在地	〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号 電話(072)622-8121(代表)						
発行年月日	令和5年(2023年)3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村					
大阪府茨木市 藤の里二丁目			34° 50' 22"	135° 32' 10"	1982.8.4~ 9.2	102	倉庫建築
大阪府茨木市 藤の里一丁目			34° 50' 15"	135° 32' 36"	1985.11.1~ 11.10	68	配送センター建設
大阪府茨木市 藤の里二丁目			34° 50' 15"	135° 32' 20"	1985.12.9~ 12.28	50.4	倉庫建築
大阪府茨木市 藤の里一丁目			34° 50' 24"	135° 32' 35"	1987.1.12	—	事務所建設
大阪府茨木市 藤の里二丁目			34° 50' 18"	135° 32' 23"	1991.5.10~ 7.1	542	倉庫建設
大阪府茨木市 藤の里一丁目			34° 50' 18"	135° 32' 30"	1999.5.28~ 6.7	120	倉庫増築
大阪府茨木市 豊原町			34° 50' 15"	135° 32' 42"	1999.10.14~ 12.18	2,100	商業施設建設
大阪府茨木市 豊原町			34° 50' 20"	135° 32' 45"	2006.12.18~ 2007.2.1	330	共同住宅建設
大阪府茨木市 藤の里二丁目			34° 50' 13"	135° 32' 27"	2011.4.4~ 9.20	4,930	倉庫建設

宿久庄遺跡	大阪府茨木市 宿久庄二丁目		34° 50' 23'	135° 32' 19'	2011.5.9～ 6.7	304	掩壁建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宿久庄遺跡	集落	古墳時代 ・中世	ピット 土坑 溝 掘立柱建物	繩文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・ 瓦器・磁器			
要約	<p>主として古墳時代前期及び古代～中世の遺構を確認した。</p> <p>具体的には、古墳時代前期及び飛鳥時代の竪穴建物や古代～中世の掘立柱建物などを検出した。遺物においては、山陰地方の特徴をもつ古墳時代前期の土器が認められ、活発な交流が行われていたことが窺える。また、中世においても多様な流通品の存在が認められる。「山陽道」に近接した交通の要衝に立地した集落と考えられる。</p>						

茨木市文化財資料集 第 83 集

宿久庄遺跡 2

発行日 令和5年（2023年）3月31日

編 集 茨木市教育委員会

〒 567－8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

電話 (072) 622－8121 (代表)

発 行 茨木市教育委員会

印 刷 株式会社 明新社